

FUJITSU Server PRIMERGY TX1330 M2

アップグレード&メンテナンスマニュアル

DIN EN ISO 9001:2008 に準拠した 認証を取得

高い品質とお客様の使いやすさが常に確保されるように、
このマニュアルは、DIN EN ISO 9001:2008
基準の要件に準拠した品質管理システムの規定を
満たすように作成されました。

cognitas. Gesellschaft für Technik-Dokumentation mbH
www.cognitas.de

著作権および商標

Copyright © 2015 Fujitsu Technology Solutions GmbH.

All rights reserved.

お届けまでの日数は在庫状況によって異なります。技術的修正の権利を有します。

使用されているハードウェア名およびソフトウェア名は、各社の商標です。

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。

Microsoft、Windows、Windows Server、および Hyper V は、米国およびその他の国における Microsoft Corporation の商標または登録商標です。

Intel、インテルおよび Xeon は、米国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

本書には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。

本製品をお使いになる前に、本書を熟読してください。特に、添付の『安全上のご注意』をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。また、『安全上のご注意』および当マニュアルは、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

電波障害対策について

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

アルミ電解コンデンサについて

本製品のプリント板ユニットやマウス、キーボードに使用しているアルミ電解コンデンサは寿命部品であり、寿命が尽きた状態で使用し続けると、電解液の漏れや枯渇が生じ、異臭の発生や発煙の原因になる場合があります。

目安として、通常のオフィス環境（25℃）で使用された場合には、保守サポート期間内（5年）には寿命に至らないものと想定していますが、高温環境下での稼働等、お客様のご使用環境によっては、より短期間で寿命に至る場合があります。寿命を超えた部品について、交換が可能な場合は、有償にて対応させていただきます。なお、上記はあくまで目安であり、保守サポート期間内に故障しないことをお約束するものではありません。

ハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的な用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療器具、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

瞬時電圧低下対策について

本製品は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

(社団法人電子情報技術産業協会 (JEITA) のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

外国為替及び外国貿易法に基づく特定技術について

当社のドキュメントには「外国為替及び外国貿易法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

高調波電流規格について

本製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品です。

日本市場のみ：SATA ハードディスクドライブについて

このサーバの SATA バージョンは、SATA/BC-SATA ストレージインタフェースを搭載したハードディスクドライブをサポートしています。ご使用のハードディスクドライブのタイプによって使用方法と動作条件が異なりますので、ご注意ください。

使用できるタイプのハードディスクドライブの使用方法と動作条件の詳細は、以下の Web サイトを参照してください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/harddisk/>

バージョン履歴

版番号	アップデート理由
1.0 / 2015 年 11 月	初版リリース

目次

1	はじめに	25
1.1	表記規定	26
2	始める前に	27
2.1	作業手順の分類	29
2.1.1	お客様による交換可能部品 (CRU)	29
2.1.2	ユニットのアップグレードおよび修理 (URU)	30
2.1.3	フィールド交換可能ユニット (FRU)	31
2.2	平均作業時間	32
2.3	必要な工具	32
2.4	必要なマニュアル	35
3	注意事項	39
3.1	安全について	39
3.2	ENERGY STAR	47
3.3	CE 準拠	47
3.4	FCC クラス A 適合性宣言	48
3.5	環境保護	49
4	基本的なハードウェア手順	51
4.1	診断情報の使用	51
4.1.1	故障したサーバの特定	51
4.1.2	エラー クラスの判定	52
4.1.2.1	保守ランプ	52
4.1.2.2	Customer Self Service (CSS) 表示ランプ	52
4.1.3	故障した部品の特定	53
4.1.3.1	フロントのローカル診断表示ランプ	53
4.1.3.2	システムボードのローカル診断表示ランプ	53
4.2	サーバのシャットダウン	54

4.3	主電源からサーバの取り外し	55
4.4	ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し	56
4.4.1	サーバをラックから引き出す	56
4.4.2	ラックからのサーバの取り外し	58
4.5	サーバを開ける	60
4.5.1	ラックサーバ	60
4.5.1.1	トップカバーの取り外し	60
4.5.1.2	ID カードの取り外し	61
4.5.1.3	ラックフロントカバーの取り外し	62
4.5.2	タワーサーバ	64
4.5.2.1	サーバロックの解除	64
4.5.2.2	サイドカバーの取り外し	65
4.5.2.3	アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り外し	66
4.5.2.4	ID カードの取り外し	67
4.5.2.5	フロントカバーの取り外し	68
4.6	サーバを閉じる	69
4.6.1	ラックモデル	69
4.6.1.1	ラックフロントカバーの取り付け	69
4.6.1.2	ID カードの取り付け	70
4.6.1.3	トップカバーの取り付け	71
4.6.2	タワーサーバ	72
4.6.2.1	フロントカバーの取り付け	72
4.6.2.2	ID カードの取り付け	73
4.6.2.3	アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り付け	73
4.6.2.4	サイドカバーの取り付け	75
4.6.2.5	サーバのロック	76
4.7	ラックへのサーバの取り付け	77
4.7.1	ラックレールへのサーバの取り付け	77
4.7.2	ラックにサーバを格納する	79
4.8	主電源へのサーバの接続	80
4.9	サーバの電源投入	82
4.10	システムファンモジュールの取り扱い	83
4.10.1	標準システムファンモジュールの取り外し	83
4.10.2	冗長システムファンモジュールの取り外し	84
4.10.3	標準システムファンモジュールの取り付け	85
4.10.4	冗長システムファンモジュールの取り付け	87

目次

4.11	アクセス可能なドライブペイの取り扱い	89
4.11.1	アクセス可能なドライブのロックを開く	89
4.11.1.1	タワーサーバ	89
4.11.1.2	ラックサーバ	90
4.11.2	アクセス可能なドライブのロックを閉じる	91
4.11.2.1	タワーサーバ	91
4.11.2.2	ラックサーバ	92
4.11.3	アクセス可能なドライブのフィラーカバー	93
4.11.3.1	アクセス可能なドライブのフィラーカバーの取り外し	93
4.11.3.2	アクセス可能なドライブフィラーカバーの取り付け	94
4.11.4	アクセス可能なドライブのカバー	95
4.11.4.1	アクセス可能なドライブのカバーの取り外し	95
4.11.4.2	アクセス可能なドライブカバーの取り付け	96
4.12	フットスタンドの取り扱い	97
4.12.1	フットスタンドの取り付け	97
4.12.2	フットスタンドの取り外し	98
5	基本的なソフトウェア手順	99
5.1	保守作業の開始	99
5.1.1	BitLocker 機能の中断	99
5.1.2	SVOM Boot Watchdog 機能の無効化	100
5.1.2.1	Boot watchdog 設定の表示	100
5.1.2.2	Boot watchdog 設定の指定	101
5.1.3	バックアップおよび光ディスクメディアの取り出し	102
5.1.4	バックアップソフトウェアソリューションの検証と設定	103
5.1.5	マルチパス I/O 環境でのサーバ保守の注意事項	103
5.1.6	ID ランプの点灯	106
5.2	保守作業の完了	107
5.2.1	システムボード BIOS と iRMC のアップデートまたはリカバリ	107
5.2.1.1	システムボード BIOS のアップデートまたはリカバリ	107
5.2.1.2	iRMC のアップデートまたはリカバリ	107
5.2.2	システム情報のバックアップ / 復元の確認	109
5.2.3	RAID コントローラファームウェアのアップデート	110
5.2.4	Option ROM Scan の有効化	111
5.2.5	バックアップソフトウェアソリューションの検証と設定	112
5.2.6	Boot Retry Counter のリセット	113
5.2.6.1	Boot Retry Counter の表示	113
5.2.6.2	Boot Retry Counter のリセット	113

目次

5.2.7	メモリモジュールまたはプロセッサの交換後のエラーステータスのリセット	115
5.2.7.1	メモリモジュール	115
5.2.7.2	プロセッサ	116
5.2.8	ファンテストの実施	118
5.2.9	SVOM Boot Watchdog 機能の有効化	119
5.2.10	交換した部品のシステム BIOS での有効化	120
5.2.11	メモリモードの確認	120
5.2.12	システム時刻設定の確認	121
5.2.13	システムイベントログ (SEL) の表示と消去	122
5.2.13.1	SEL を表示する	122
5.2.13.2	SEL をクリアする	123
5.2.14	Linux 環境での NIC 構成ファイルのアップデート	124
5.2.15	BitLocker 機能の再開	125
5.2.16	RAID アレイのリビルドの実行	126
5.2.17	変更された MAC/WWN アドレスの検索	127
5.2.17.1	MAC アドレスの検索	127
5.2.17.2	WWN アドレスの検索	127
5.2.18	シャーシ ID Prom Tool の使用	128
5.2.19	LAN チーミングの設定	129
5.2.19.1	LAN コントローラを交換またはアップグレードした後	130
5.2.19.2	システムボードの交換後	130
5.2.20	ID ランプの消灯	130
5.2.21	シャーシモデルの指定	131
6	電源ユニット	133
6.1	基本情報	133
6.2	標準電源	134
6.2.1	標準電源ユニットの交換	134
6.2.1.1	準備手順	134
6.2.1.2	故障した標準電源ユニットの取り外し	135
6.2.1.3	新しい標準電源ユニットの取り付け	138
6.2.1.4	終了手順	140
6.3	冗長電源ユニット	140
6.3.1	PSU モジュールの取り付け	140
6.3.1.1	準備手順	140
6.3.1.2	PSU ダミーカバーの取り外し	141
6.3.1.3	PSU モジュールの取り付け	142
6.3.1.4	終了手順	142

目次

6.3.2	PSU モジュールの取り外し	143
6.3.2.1	準備手順	143
6.3.2.2	PSU モジュールの取り外し	144
6.3.2.3	PSU のダミーカバーの取り付け	145
6.3.3	PSU モジュールの交換	146
6.3.3.1	準備手順	146
6.3.3.2	故障した PSU モジュールの取り外し	147
6.3.3.3	新しい PSU モジュールの取り付け	147
6.3.3.4	終了手順	147
6.3.4	配電ボードの交換	147
6.3.4.1	準備手順	147
6.3.4.2	PSU モジュールの取り外し	148
6.3.4.3	故障した配電ボードの交換	148
6.3.4.4	ホットプラグ電源ユニットの取り付け	149
6.3.4.5	終了手順	150
6.4	Fujitsu バッテリーユニット (FJBU)	150
6.4.1	FJBU の取り付け	150
6.4.1.1	準備手順	150
6.4.1.2	PSU ダミーカバーの取り外し	151
6.4.1.3	FJBU の取り付け	152
6.4.1.4	終了手順	152
6.4.2	FJBU の取り外し	153
6.4.2.1	準備手順	153
6.4.2.2	FJBU の取り外し	154
6.4.2.3	PSU のダミーカバーの取り付け	155
6.4.3	FJBU の交換	156
6.4.3.1	準備手順	156
6.4.3.2	故障した FJBU の取り外し	156
6.4.3.3	新しい FJBU の取り付け	156
6.4.3.4	終了手順	156
6.5	標準の電源ユニットから冗長電源ユニットへの変更	157
6.5.1	準備手順	157
6.5.2	標準電源ユニットの取り外し	158
6.5.3	アップグレードキットの取り付け	158
6.5.4	終了手順	160

7	ハードディスクドライブ/SSD (Solid State Drive)	161
7.1	基本情報	162
7.2	2.5 インチ HDD/SSD 構成	164
7.2.1	2.5 インチ HDD/SSD ベイの取り付け	164
7.2.2	バックプレーンの概要	164
7.2.3	最大 8 つの HDD/SSD モジュールでの構成 (バックプレーン x 1)	165
7.2.4	最大 8 つの HDD/SSD モジュールでの構成 (バックプレーン x 2)	166
7.2.5	最大 24 台の HDD/SSD モジュールでの構成 (バックプレーン x 3)	168
7.2.6	2.5 インチ HDD/SSD モジュールおよび 3.5 インチ HDD モジュール (バックプレーン x 3) での混在構成	170
7.2.7	2.5 インチの HDD/SSD モジュールの取り付け	172
7.2.7.1	準備手順	172
7.2.7.2	2.5 インチ HDD/SSD ダミーモジュールの取り外し	172
7.2.7.3	2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り付け	173
7.2.7.4	終了手順	173
7.2.8	2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り外し	174
7.2.8.1	準備手順	174
7.2.8.2	2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り外し	175
7.2.8.3	2.5 インチ HDD/SSD ダミーモジュールの取り付け	176
7.2.8.4	終了手順	176
7.2.9	2.5 インチ HDD/SSD モジュールの交換	177
7.2.9.1	準備手順	177
7.2.9.2	2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り外し	178
7.2.9.3	2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り付け	178
7.2.9.4	終了手順	178
7.2.10	2.5 インチ HDD SAS バックプレーン (8 HDD) の交換	178
7.2.10.1	準備手順	178
7.2.10.2	2.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り外し	179
7.2.10.3	2.5 インチ HDD /SSD SAS バックプレーンの取り外し	182
7.2.10.4	2.5 インチ HDD/SSD SAS バックプレーンの取り付け	184
7.2.10.5	2.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り付け	185
7.2.10.6	バックプレーン 1 へのケーブルの接続	188
7.2.10.7	終了手順	189
7.2.11	8 から 16 x 2.5 インチ HDD/SSD 構成へのアップグレード	189
7.2.11.1	準備手順	189
7.2.11.2	8 x 2.5 インチ HDD フロントパネルの取り外し	190
7.2.11.3	2.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り外し	190

目次

7.2.11.4	2 つ目の 2.5 インチ HDD/SSD SAS バックプレーンの取り付け	191
7.2.11.5	2.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り付け	191
7.2.11.6	16 x 2.5 インチ HDD フロントパネルの取り付け	191
7.2.11.7	SAS バックプレーン 2 へのケーブルの接続	192
7.2.11.8	エクスパンダボードの取り付け	193
7.2.11.9	終了手順	193
7.3	3.5 インチ HDD 構成	194
7.3.1	3.5 インチ HDD ベイの取り付け	194
7.3.2	バックプレーンの概要	194
7.3.3	最大 4 つの HDD モジュールでの構成 (バックプレーン x 1)	195
7.3.4	最大 8 台の HDD モジュールでの構成 (バックプレーン x 2)	196
7.3.5	最大 12 台の HDD モジュールでの構成 (バックプレーン x 3)	198
7.3.6	3.5 インチ HDD モジュールおよび 2.5 インチ HDD/SSD モジュール (バックプレーン x 3) での混在構成	200
7.3.7	3.5 インチの HDD モジュールの取り付け	202
7.3.7.1	準備手順	202
7.3.7.2	3.5 インチ HDD ダミーモジュールの取り外し	202
7.3.7.3	3.5 インチ HDD モジュールの取り付け	203
7.3.7.4	終了手順	204
7.3.8	3.5 インチ HDD モジュールの取り外し	204
7.3.8.1	準備手順	204
7.3.8.2	3.5 インチ HDD モジュールの取り外し	205
7.3.8.3	3.5 インチ HDD ダミーモジュールの取り付け	205
7.3.8.4	終了手順	206
7.3.9	3.5 インチ HDD モジュールの交換	206
7.3.9.1	準備手順	207
7.3.9.2	3.5 インチ HDD モジュールの取り外し	207
7.3.9.3	3.5 インチ HDD モジュールの取り付け	207
7.3.9.4	終了手順	207
7.3.10	3.5 インチ HDD SAS バックプレーンの交換	208
7.3.10.1	準備手順	208
7.3.10.2	3.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り外し	208
7.3.10.3	3.5 インチ HDD SAS バックプレーンの取り外し	212
7.3.10.4	3.5 インチ HDD SAS バックプレーンの取り付け	213
7.3.10.5	3.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り付け	215
7.3.10.6	SAS バックプレーン 1 へのケーブルの接続	217
7.3.10.7	終了手順	217

目次

7.3.11	8 x 3.5 インチ HDD 構成へのアップグレード	218
7.3.11.1	準備手順	218
7.3.11.2	3.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り外し	218
7.3.11.3	4x 3.5 インチの HDD フロントパネルの取り外し	219
7.3.11.4	2 つ目の 3.5 インチ HDD SAS バックプレーンの取り付け	220
7.3.11.5	8x 3.5 インチ HDD フロントパネルの取り付け	221
7.3.11.6	3.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り付け	221
7.3.11.7	SAS バックプレーン 2 へのケーブルの接続	222
7.3.11.8	終了手順	223
7.4	HDD 拡張ボックス	223
7.4.1	HDD 拡張ボックスの概要	223
7.4.1.1	8 x 2.5 インチ HDD 拡張ボックス	223
7.4.1.2	4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックス	224
7.4.2	8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け	224
7.4.2.1	準備手順	224
7.4.2.2	アクセス可能なドライブのダミーカバーの取り外し	225
7.4.2.3	HDD/SSD バックプレーンの取り付け	225
7.4.2.4	8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け	225
7.4.2.5	8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの線図	227
7.4.2.6	8 x 2.5 インチ HDD 拡張ボックスへの HDD の取り付け	228
7.4.2.7	終了手順	228
7.4.3	8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し	228
7.4.3.1	準備手順	228
7.4.3.2	8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し	229
7.4.3.3	アクセス可能なドライブのダミーカバーの取り付け	230
7.4.3.4	終了手順	230
7.4.4	8x 2.5 インチ HDD 拡張ボックスの HDD/SSD バックプレーンの交換	230
7.4.4.1	準備手順	230
7.4.4.2	故障した HDD/SSD バックプレーンの取り外し	231
7.4.4.3	新しい HDD/SSD バックプレーンの取り付け	232
7.4.4.4	終了手順	233
7.4.5	4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け	233
7.4.5.1	準備手順	233
7.4.5.2	アクセス可能なドライブのダミーカバーの取り外し	234
7.4.5.3	ウルトラスリム ODD の HDD 拡張ボックスへの取り付け	234
7.4.5.4	HDD バックプレーンの取り付け	234
7.4.5.5	4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け	235
7.4.5.6	4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの配線	237
7.4.5.7	4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスに交換 HDD モジュールの取り付け	238

目次

7.4.5.8	終了手順	238
7.4.6	4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し	238
7.4.6.1	準備手順	238
7.4.6.2	4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し	239
7.4.6.3	アクセス可能なドライブのダミーカバーの取り付け	240
7.4.6.4	終了手順	240
7.4.7	4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスの HDD バックプレーンの交換	240
7.4.7.1	準備手順	240
7.4.7.2	故障した HDD バックプレーンの取り外し	241
7.4.7.3	新しい HDD バックプレーンの取り付け	243
7.4.7.4	終了手順	244
7.5	SAS エクスパンダボード	245
7.5.1	SAS エクスパンダボードの取り付け	245
7.5.1.1	準備手順	245
7.5.1.2	SAS エクスパンダボードの取り付け	245
7.5.1.3	ケーブルのエクスパンダボードへの接続	246
7.5.1.4	エクスパンダホルダーの取り付け	250
7.5.1.5	終了手順	251
7.5.2	SAS エクスパンダボードの取り外し	252
7.5.2.1	準備手順	252
7.5.2.2	エクスパンダホルダーの取り外し	252
7.5.2.3	SAS エクスパンダボードの取り外し	253
7.5.2.4	終了手順	253
7.5.3	SAS エクスパンダボードの交換	254
7.5.3.1	準備手順	254
7.5.3.2	故障した SAS エクスパンダボードの取り外し	254
7.5.3.3	新しい SAS エクスパンダボード取り付け	254
7.5.3.4	終了手順	254
8	システムファン	255
8.1	基本情報	255
8.1.1	標準システムファンモジュール	256
8.1.2	冗長システムファンモジュール	257
8.2	システムファンの交換	258
8.2.1	準備手順	258
8.2.2	システムファンの取り外し	259
8.2.2.1	ファンケーブルの取り外し	259
8.2.2.2	故障したシステムファンの取り外し	261

目次

8.2.3	システムファンの取り付け	263
8.2.3.1	新しいシステムファンの取り付け	263
8.2.3.2	ケーブルの配線	263
8.2.4	終了手順	264
9	拡張カードとバックアップユニット	265
9.1	基本情報	266
9.1.1	拡張カードの取り付け順序	267
9.2	スロットブラケットの取り扱い	268
9.2.1	スロットブラケットの取り付け	268
9.2.2	スロットブラケットの取り外し	269
9.3	拡張カードとライザーカード	270
9.3.1	標準スロットの拡張カードの取り付け	270
9.3.1.1	準備手順	270
9.3.1.2	スロットカバーの取り外し	271
9.3.1.3	拡張カードの取り付け	272
9.3.1.4	終了手順	273
9.3.2	標準スロットからの拡張カードの取り外し	274
9.3.2.1	準備手順	274
9.3.2.2	拡張カードの取り外し	275
9.3.2.3	スロットカバーの取り付け	276
9.3.2.4	終了手順	276
9.3.3	拡張カードの交換	277
9.3.3.1	準備手順	277
9.3.3.2	故障のある拡張カードの取り外し	278
9.3.3.3	新しい拡張カードの取り付け	278
9.3.3.4	終了手順	278
9.3.4	ライザーカードの交換	279
9.3.4.1	準備手順	279
9.3.4.2	故障したライザーカードの取り外し	280
9.3.4.3	新しいライザーカードの取り付け	281
9.3.4.4	終了手順	282
9.4	バックアップユニット	283
9.4.1	基本情報	283
9.4.2	FBU の取り付け	283
9.4.2.1	準備手順	283
9.4.2.2	TFM の取り付け	284
9.4.2.3	FBU の準備	286
9.4.2.4	FBU の取り付け	288

目次

9.4.2.5	終了手順	289
9.4.3	FBU の取り外し	290
9.4.3.1	準備手順	290
9.4.3.2	FBU の取り外し	291
9.4.3.3	終了手順	292
9.4.4	FBU の交換	293
9.4.4.1	準備手順	293
9.4.4.2	故障した FBU の取り外し	293
9.4.4.3	FBU を FBU ホルダーから取り外す	294
9.4.4.4	新しい FBU の取り付け	294
9.4.4.5	終了手順	294
9.4.5	TFM の交換	295
9.4.5.1	準備手順	295
9.4.5.2	TFM の取り外し	296
9.4.5.3	新しい TFM の取り付け	297
9.4.5.4	終了手順	297

10 メインメモリ 299

10.1	基本情報 299
10.1.1	メモリの取り付け順序 300
10.1.2	動作モード 301
10.2	メモリモジュールの取り外し 301
10.2.1	準備手順 301
10.2.2	メモリモジュールの取り外し 302
10.2.3	終了手順 302
10.3	メモリモジュールの取り付け 303
10.3.1	準備手順 303
10.3.2	メモリモジュールを取り付ける 304
10.3.3	終了手順 304
10.4	メモリモジュールの交換 305
10.4.1	準備手順 305
10.4.2	故障したメモリモジュールの取り外し 306
10.4.3	新しいメモリモジュールの取り付け 306
10.4.4	終了手順 306

目次

11	プロセッサ	307
11.1	基本情報	308
11.1.1	サポートするプロセッサ	308
11.2	プロセッサのアップグレードまたは交換	308
11.2.1	準備手順	308
11.2.2	プロセッサヒートシンクの取り外し	309
11.2.3	プロセッサの取り外し	310
11.2.4	プロセッサを取り付ける	312
11.2.5	サーマルペーストの塗布	315
11.2.6	プロセッサヒートシンクの取り付け	317
11.2.7	終了手順	318
11.3	プロセッサヒートシンクの交換	319
11.3.1	準備手順	319
11.3.2	プロセッサヒートシンクの交換	319
11.3.3	終了手順	319
12	アクセス可能なドライブ	321
12.1	基本情報	322
12.2	アクセス可能なドライブの取り付け	324
12.2.1	準備手順	324
12.2.2	アクセス可能なドライブのダミーカバーの取り外し	325
12.2.3	RDX バックアップドライブへの取り付けブラケット の取り付け	325
12.2.4	アクセス可能なドライブの取り付け	327
12.2.4.1	RDX ドライブのケーブル配線	329
12.2.5	終了手順	329
12.3	アクセス可能なドライブの取り外し	330
12.3.1	準備手順	330
12.3.2	アクセス可能なドライブの取り外し	330
12.3.3	アクセス可能なドライブのダミーカバーの取り付け	331
12.3.4	終了手順	331
12.4	アクセス可能なドライブの交換	332
12.4.1	準備手順	332
12.4.2	故障のあるアクセス可能なドライブの取り外し	333
12.4.3	新しいアクセス可能なドライブの取り付け	333
12.4.4	終了手順	333

目次

12.5	マルチベイボックスの薄型 ODD と LSD	334
12.5.1	薄型 ODD または LSD の取り付け	334
12.5.1.1	準備手順	334
12.5.1.2	薄型 ODD のマルチベイボックスへの取り付け	334
12.5.1.3	LSD モジュールのマルチベイボックスへの取り付け	337
12.5.1.4	アクセス可能なドライブのダミーカバーの取り外し	338
12.5.1.5	マルチベイボックスの取り付け	338
12.5.1.6	終了手順	339
12.5.2	薄型 ODD または LSD の取り外し	340
12.5.2.1	準備手順	340
12.5.2.2	マルチベイボックスの取り外し	341
12.5.2.3	薄型 ODD のマルチベイボックスからの取り外し	342
12.5.2.4	LSD モジュールのマルチベイボックスからの取り外し	343
12.5.2.5	マルチベイボックスの取り付け	345
12.5.2.6	終了手順	345
12.5.3	薄型 ODD または LSD の交換	345
12.5.3.1	準備手順	345
12.5.3.2	故障した薄型 ODD の取り外し	346
12.5.3.3	故障した LSD モジュールの取り外し	346
12.5.3.4	新しい薄型 ODD の取り付け	346
12.5.3.5	新しい LSD モジュールの取り付け	346
12.5.3.6	終了手順	346
12.6	4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスのウルTRASリム ODD	347
12.6.1	ウルTRASリム ODD の取り付け	347
12.6.1.1	準備手順	347
12.6.1.2	ウルTRASリム ODD の HDD 拡張ボックスへの取り付け	348
12.6.1.3	4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け	351
12.6.1.4	終了手順	351
12.6.2	ウルTRASリム ODD の取り外し	352
12.6.2.1	準備手順	352
12.6.2.2	4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し	352
12.6.2.3	ウルTRASリム ODD の拡張ボックスからの取り外し	352
12.6.2.4	4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け	354
12.6.2.5	終了手順	354
12.6.3	ウルTRASリム ODD の交換	354
12.6.3.1	準備手順	354
12.6.3.2	故障したウルTRASリム ODD の取り外し	355
12.6.3.3	新しいウルTRASリム ODD の取り付け	355
12.6.3.4	終了手順	355
12.7	ウルTRASリム ODD アダプタの中のウルTRASリム ODD	356
12.7.1	ウルTRASリム ODD の取り付け	356

目次

12.7.1.1	準備手順	356
12.7.1.2	ウルTRASリム ODD のウルTRASリム ODD アダプタへの取り付け	357
12.7.1.3	ウルTRASリム ODD アダプタの取り付け	358
12.7.1.4	終了手順	358
12.7.2	ウルTRASリム ODD の取り外し	359
12.7.2.1	準備手順	359
12.7.2.2	ウルTRASリム ODD アダプタの取り外し	359
12.7.2.3	ウルTRASリム ODD のウルTRASリム ODD アダプタからの取り外し	359
12.7.2.4	ウルTRASリム ODD アダプタの取り付け	360
12.7.2.5	終了手順	360
12.7.3	ウルTRASリム ODD の交換	361
12.7.3.1	準備手順	361
12.7.3.2	故障したウルTRASリム ODD の取り外し	361
12.7.3.3	新しいウルTRASリム ODD の取り付け	361
12.7.3.4	終了手順	362
13	フロントパネルモジュール	363
13.1	フロントパネルモジュールの交換	364
13.1.1	準備手順	364
13.1.2	故障したフロントパネルモジュールの取り外し	365
13.1.3	フロントパネルモジュールからのケーブルの取り外し	367
13.1.4	フロントパネルモジュールへのケーブルの接続	367
13.1.5	フロントパネルモジュールの取り付け	368
13.1.6	終了手順	369
14	システムボードとコンポーネント	371
14.1	基本情報	371
14.2	CMOS バッテリー	372
14.2.1	CMOS バッテリーの交換	372
14.2.1.1	準備手順	373
14.2.1.2	故障した CMOS バッテリーの交換	373
14.2.1.3	終了手順	374
14.3	USB Flash Module (UFM)	374
14.3.1	UFM の取り付け	374
14.3.1.1	準備手順	374

目次

14.3.1.2	UFM の取り付け	375
14.3.1.3	終了手順	377
14.3.1.4	ソフトウェアの構成	377
14.3.2	UFM の取り外し	378
14.3.2.1	準備手順	378
14.3.2.2	UFM の取り外し	379
14.3.2.3	終了手順	381
14.3.3	UFM の交換	382
14.3.3.1	準備手順	382
14.3.3.2	故障した UFM の取り外し	382
14.3.3.3	新しい UFM の取り付け	383
14.3.3.4	終了手順	384
14.3.3.5	ソフトウェアの構成	384
14.4	Trusted Platform Module (TPM)	385
14.4.1	TPM の取り付け	385
14.4.1.1	準備手順	385
14.4.1.2	TPM の取り付け	386
14.4.1.3	終了手順	388
14.4.2	TPM の取り外し	389
14.4.2.1	準備手順	390
14.4.2.2	TPM ボードの取り外し	391
14.4.2.3	終了手順	393
14.4.3	TPM の交換	394
14.4.3.1	準備手順	394
14.4.3.2	故障した TPM の取り外し	395
14.4.3.3	新しい TPM の取り付け	395
14.4.3.4	終了手順	395
14.5	SATA DOM	396
14.5.1	SATA DOM の取り付け	396
14.5.1.1	準備手順	396
14.5.1.2	SATA DOM の取り付け	397
14.5.1.3	終了手順	398
14.5.2	SATA DOM の取り外し	399
14.5.2.1	準備手順	399
14.5.2.2	SATA DOM の取り外し	400
14.5.2.3	終了手順	400
14.5.3	SATA DOM ケーブル の交換	401
14.5.3.1	準備手順	401
14.5.3.2	SATA DOM ケーブル の交換	401
14.5.3.3	終了手順	401

目次

14.6	iRMC microSD カード	402
14.6.1	iRMC microSD カードの取り付け	402
14.6.1.1	準備手順	402
14.6.1.2	iRMC microSD カードの取り付け	403
14.6.1.3	終了手順	403
14.6.2	iRMC microSD カードの取り外し	404
14.6.2.1	準備手順	404
14.6.2.2	iRMC microSD カードの取り外し	405
14.6.2.3	終了手順	405
14.6.3	iRMC microSD カードの交換	406
14.6.3.1	準備手順	406
14.6.3.2	iRMC microSD カードの交換	406
14.6.3.3	終了手順	407
14.7	システムボード	408
14.7.1	システムボードの交換	408
14.7.1.1	準備手順	410
14.7.1.2	故障したシステムボードの取り外し	411
14.7.1.3	新しいシステムボードの取り付け	414
14.7.1.4	終了手順	416
15	タワーモデルをラックモデルに変換する	419
15.1	準備手順	419
15.2	タワーモデルをラックモデルに変換する	420
15.3	終了手順	432
16	ケーブル配線	433
16.1	使用ケーブルのリスト	434
16.2	ケーブル図	436
16.2.1	基本的なケーブル配線	436
16.2.2	電源ケーブル配線	438
16.2.3	HDD サブシステムのケーブル配線	441
16.2.4	オプションのケーブル配線	449
16.3	イントリュージョンスイッチケーブルの交換	452
16.3.1	準備手順	452
16.3.2	イントリュージョンスイッチケーブルの取り外し	453
16.3.3	イントリュージョンスイッチケーブルの取り外し	456

目次

16.3.4	終了手順	460
17	付録	461
17.1	装置概観	461
17.1.1	サーバ前面	461
17.1.2	サーバ背面	463
17.1.3	サーバ内部	464
17.2	コネクタと表示ランプ	466
17.2.1	システムボードのコネクタと表示ランプ	466
17.2.1.1	オンボードのコネクタ	466
17.2.1.2	オンボード表示ランプおよびコントロール	468
17.2.1.3	I/O パネルコネクタ	471
17.2.1.4	I/O パネルの表示ランプ	472
17.2.1.5	PSU 表示ランプ (ホットプラグ PSU のみ)	474
17.2.1.6	FJBU 表示ランプ (FJBU M2)	475
17.2.2	フロントパネルのコネクタと表示ランプ	476
17.2.2.1	フロントパネルのコントロールと表示ランプ	476
17.2.3	アクセス可能なドライブの表示ランプ / コンポーネント	478
17.3	ジャンパ設定	480
17.4	最小起動構成	481

1 はじめに

FUJITSU Server PRIMERGY TX1330 M2 は、最大レベルの性能、拡張性、可用性を備えた、妥協のないタワーサーバです。



機能の詳細、およびサーバの設置、セットアップ、運用方法については、該当するオペレーティングマニュアルを参照してください。

本マニュアルのコンセプト

この『アップグレード&メンテナンスマニュアル』では、次の作業を行う手順を示しています。

- オプションのハードウェア部品を追加してサーバ構成をアップグレードする
- 既存のハードウェア部品を交換してサーバ構成をアップグレードする
- 故障したハードウェア部品を交換する

このマニュアルでは、オンサイトの保守作業について説明します。各作業の割り当ては、『ServerView Suite Local Service Concept - LSC』マニュアルに示すリモート診断手順に従って準備することが推奨されます。[35 ページの「必要なマニュアル」](#)を参照してください。








注意！

このマニュアルには、さまざまな難易度の作業手順が含まれます。作業を割り当てる前に、作業に必要な技能レベルを確認してください。始める前に、[29 ページの「作業手順の分類」](#)をよくお読みください。

1.1 表記規定

このマニュアルでは、以下の表記規定が使用されています。

斜体のテキスト	コマンドまたはメニューアイテムを示します
fixed font (固定幅フォント)	システム出力を示します
semi-bold fixed font (セミボールド固定幅フォント)	ユーザーが入力するテキストを示します
かぎ括弧 (「 」)	章の名前や強調されている用語を示します
二重かぎ括弧 (『 』)	他のマニュアル名などを示しています
▶	記載されている順序で行う必要がある作業です
Abc	キーボードのキーを示します
 注意！	この記号が付いている文章には、特に注意してください。この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、生命が危険にさらされたり、システムが破壊されたり、データが失われる可能性があります。
i	追加情報、注記、ヒントを示しています
  	難易度と必要な技能レベルに応じた作業手順の分類を示しています。 29 ページ の「作業手順の分類」を参照してください。
	平均作業時間を示しています。 32 ページ の「平均作業時間」を参照してください。

2 始める前に

アップグレードや保守の作業を始める前に、次の準備作業を行います。

- ▶ 39 ページの「注意事項」章の安全についての注意事項を熟読します。
- ▶ 必要なマニュアルがすべて揃っていることを確認します。35 ページの「必要なマニュアル」の項に示すドキュメントの概要を確認します。必要に応じて PDF ファイルを印刷します。
- ▶ 29 ページの「作業手順の分類」の項に示す作業手順の分類を確認します。
- ▶ 32 ページの「必要な工具」の項に従って、必要な工具が揃っていることを確認します。



注意

Advanced Thermal Design オプションを搭載するシステムには、高温の動作範囲に対応するコンポーネントのみ取り付けることができます。この詳細情報は、システム構成図を参照してください。



Advanced Thermal Design のオプションはメーカーのみが発注でき、レーティングプレート上のロゴに示されます。

オプション部品の取り付け

ご利用のサーバのオペレーティングマニュアルでは、サーバの機能を紹介し、使用できるハードウェアオプションの概要を説明しています。

Fujitsu ServerView Suite 管理ソフトウェアおよび iRMC Web フロントエンドを使用して、ハードウェア拡張の準備を行います。ServerView Suite のドキュメントは、オンラインで入手できます (<http://manuals.ts.fujitsu.com> (日本市場向け: <http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/>))。次の ServerView Suite のトピックを参照してください。

- Operation
- Virtualization
- Maintenance
- Out-Of-Band Management



ハードウェアオプションの最新情報については、次のアドレスにあるサーバのシステム構成図を参照してください。

世界市場の場合：

http://ts.fujitsu.com/products/standard_servers/index.htm

日本市場向け：

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/system/>

拡張キットやスペア部品の注文方法については、Fujitsu のカスタマーサービスパートナーにお問い合わせください。Fujitsu のイラスト入り部品カタログを使用して必要なスペア部品を探して、技術仕様と注文情報をご確認ください。イラスト入り部品カタログは、オンラインで

http://manuals.ts.fujitsu.com/illustrated_spares（世界市場のみ）から入手できます。

故障した部品の交換

故障のため交換が必要なハードウェア部品は、サーバの前面と背面にある保守ランプ、およびフロントパネルにある Local Diagnostic LED によって示されます。サーバのコントロールと表示ランプの詳細については、ご利用のサーバのオペレーティングマニュアルおよび [466 ページ](#) の「コネクタと表示ランプ」の項を参照してください。

ホットプラグ対応ではない部品を交換するためにシステムの電源を切った場合、一連の PRIMERGY 診断表示ランプから、故障した部品がわかります。サーバの電源を切り、主電源から切り離した場合も、CSS 表示ボタンを使うと、故障した部品の横の表示ランプが機能します。詳細については、[51 ページ](#) の「診断情報の使用」および [476 ページ](#) の「フロントパネルのコネクタと表示ランプ」の各項を参照してください。

故障した部品が、CSS（Customer Self Service、EMEA 市場だけが対象）コンセプトに含まれる、お客様による交換部品（Customer Replaceable Unit）である場合、サーバの前面と背面にある CSS 表示ランプが点灯します。

詳細は、『ServerView Suite Local Service Concept - LSC』マニュアルを参照してください。<http://manuals.ts.fujitsu.com>（世界市場の場合）または <http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/>（日本市場向け）。

『ServerView Suite Local Service Concept - LSC』マニュアルで説明しているように、リモート診断手順を使用して保守作業を準備することが推奨されます。

2.1 作業手順の分類

作業手順の難易度は、それぞれ大きく異なります。作業手順は、難易度と必要な技能レベルに応じて、3つの部品のカテゴリのうちの1つに割り当てられます。

各手順の最初に、この項に示す記号のいずれかをを用いて関連する部品タイプを示します。



詳細については、最寄りの Fujitsu のサービスセンターにお問い合わせください。

2.1.1 お客様による交換可能部品（CRU）



お客様による交換可能部品（CRU）

お客様による交換可能部品 は Customer Self Service 対応で、動作中にホットプラグ対応部品として接続したり交換することができます。



お客様ご自身で交換できるコンポーネントは、ご利用される国の保守サービス形態によって異なります。

ホットプラグ対応部品によって、システム可用性が向上し、高いデータ整合性とフェイルセーフパフォーマンスが保証されます。作業手順を実行するために、サーバをシャットダウンしたり、オフラインにしたりする必要はありません。

お客様による交換可能部品として扱われる部品

- ホットプラグ電源ユニット
- ホットプラグファンモジュール
- ホットプラグ HDD/SSD モジュール

お客様による交換可能部品として扱われる周辺装置

- キーボード
- マウス

2.1.2 ユニットのアップグレードおよび修理 (URU)



ユニットのアップグレードおよび修理 (URU)

Upgrade and Repair Units はホットプラグ対応部品ではなく、オプションとして接続するために別途注文したり (*Upgrade Units*)、また、Customer Self Service を通じてお客様にご利用いただけます (*Repair Units*)。



サーバ管理のエラーメッセージと、フロントパネルおよびシステムボードの診断表示ランプにより、故障したアップグレードおよび修理部品はお客様による交換可能な CSS コンポーネントとして通知されます。

アップグレードや修理の手順を行うには、サーバをシャットダウンして開きます。



注意！

サーバを許可なく開けたり、研修を受けていない未許可の要員が修繕しようとする、と、重大な破損を引き起こしたり、破損の原因になる可能性があります。

アップグレード部品として扱われる部品

- プロセッサ (アップグレードキット)
- 光ディスクドライブ
- バックアップドライブ
- 拡張カード
- バッテリーバックアップユニット
- メモリモジュール
- USB Flash Module (UFM)
- iRMC microSD カード

修理部品としてのみ扱われる部品

- CMOS バッテリー
- ホットプラグ非対応ファン
- ホットプラグ非対応ハードディスクドライブ

2.1.3 フィールド交換可能ユニット（FRU）



フィールド交換可能ユニット（FRU）

フィールド交換可能ユニットの取り外しと取り付けには、サーバの不可欠なコンポーネントにおいて複雑な保守手順が含まれます。手順を行うには、サーバをシャットダウンして開き、分解する必要があります。



注意！

フィールド交換可能ユニットに関連する保守手順は、Fujitsu のサービス要員または Fujitsu のトレーニングを受けた技術担当者のみが行うことができます。不正にシステムを干渉すると保証が無効となり、メーカーの責任は免除されますので、ご注意ください。

フィールド交換可能ユニットとして扱われる部品

- プロセッサ（交換）
- SAS/SATA バックプレーン
- 配電ボード
- フロントパネルモジュール
- 管理モジュールおよび診断モジュール
- システムボード
- 標準電源ユニット
- Trusted Platform Module (TPM)
- SATA DOM



詳細については、最寄りの Fujitsu のサービスセンターにお問い合わせください。

2.2 平均作業時間



ハードウェア : 10 分

各作業手順の分類記号の横に、準備作業を含む平均作業時間を示します。

平均作業時間に含まれる手順を以下に示します。

手順	含まれる	説明
サーバのシャットダウン	含まれない	シャットダウン時間は、ハードウェアとソフトウェアの構成によって大きく異なります。 保守作業の前に必要なソフトウェアの作業については、 99 ページ の「 保守作業の開始 」の項を参照してください。
ラックから取り出し、分解	含まれる	作業ができるように、サーバをラックから取り出します（該当する場合）
輸送	含まれない	サーバを作業台まで運ぶ作業（必要な場合）は、環境によって異なります。
保守作業	含まれる	ソフトウェアの準備と作業後の操作を含む保守作業を行います。
輸送	含まれない	サーバを元の場所に戻す作業（必要な場合）は、環境によって異なります。
組み立て、ラックへの搭載	含まれる	サーバを組み立て、ラックに戻します（該当する場合）。
起動	含まれない	起動時間は、ハードウェアとソフトウェアの構成によって大きく異なります。

表 1: 平均作業時間の計算

2.3 必要な工具

保守作業の準備を行うときは、次の表を参考に、必要な工具が揃っていることを確認します。各手順の前に、必要な工具のリストがあります。

ドライバ/ ビット インサート	ネジ	用途	タイプ
プラス PH2 / (+) No. 2 六角、クロス SW5 / PZ2 0.6 Nm		バックアップ ドライブ、光 ディスクドラ イブ、シャー シ	M3 x 4.5 mm (シルバー色) C26192-Y10-C67
プラス PH2 / (+) No. 2 六角、クロス SW5 / PZ2 0.6 Nm		システムボー ド	M3 x 6 mm (シルバー色) C26192-Y10-C68
プラス PH1 / (+) No. 1 0.6 Nm		3.5 インチ HDD	UNC 6-32 x 5 mm (黒色) C26192-Y10-C200
プラス PH0 / (+) No. 0		2.5 インチ HDD/SSD, ウ ルトラスリム ODD	M3 x 3.5 mm ウェハー頭ネジ (シルバー色) C26192-Y10-C102
TPM ビットイン サート TPM 用精密マイ ナスドライバ /TPM モジュール の取り付け工具 (日本市場向け)		TPM 用ネジ ー方向だけ回 せるヘッド (黒色)	REM 3 x 15 mm (黒色) C26192-Y10-C176
プラス PH1 / (+) No. 1		UFM 用ナイロ ン製ネジ	M3 x 4.5 mm (白) A3C40109082

表 2: 必要な工具と使用するネジの一覧

始める前に

ドライバ/ビット インサート	ネジ	用途	タイプ
プラス PH1 / (+) No. 1		TFM	M2.5 x 4 mm (シルバー色) C26192-Y10-C103
六角ボルト 0.6 Nm		前面 VGA コ ネクタ、シリ アルインタ フェース	UNC #4-40 (シルバー色) V26827-B408-V989
Torx PLUS-6iP 0.2 Nm		ウルトラスリ ム ODD ロッ ククランプ	M2 x 4 mm (シルバー色) C26192-Y10-C166
SW5 0.4 Nm		スロットブラ ケットとコン トローラ、 ラック取り付 けブラケット	M3 x 3.5 mm (シルバー / 黒) C26192-Y10-C151

表 2: 必要な工具と使用するネジの一覧

2.4 必要なマニュアル

保守作業中に別のマニュアルを参照する必要がある場合があります。保守作業の準備を行うときは、次の表を参考に、必要なマニュアルが揃っていることを確認します。

-  – サーバに付属のマニュアルは、いつでも参照できるように安全な場所に保管してください。
 - 特に指定がない限り、すべてのマニュアルは、
<http://manuals.ts.fujitsu.com> の「x86 servers」からオンラインで入手できます。
- 日本市場の場合は以下のアドレスをご使用ください。
<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/>

ドキュメント	説明
『はじめにお読みください - PRIMERGY TX1330 M2』リーフレット	簡単な設置手順を示したポスター（オンラインで提供）
『ServerView Quick Start Guide』 『ServerView クイックスタートガイド』（日本市場向け）	オンラインまたは ServerView Suite DVD から入手できる初期サーバセットアップおよびソフトウェア構成に関する情報
『Safety Notes and Regulations』マニュアル 『安全上のご注意』日本市場向け	安全に関する重要な情報について記載されています（オンラインおよび印刷版で提供）
『FUJITSU Server PRIMERGY TX1330 M2 オペレーティングマニュアル』	オンラインで提供
『FUJITSU Server PRIMERGY TX1330 M2 用 D3373 BIOS セットアップユーティリティ』	BIOS の変更可能なオプションやパラメータに関する情報について記載されています（オンラインで提供）
システムボードとサービスラベル	サーバのサイドカバーまたはトップカバーの中にあるラベルに、コネクタ、表示ランプ、基本的な保守作業をまとめてあります。

表 3: 必要なマニュアル

始める前に

ドキュメント	説明
ソフトウェアのマニュアル	<ul style="list-style-type: none"> – 『ServerView Suite Local Service Concept - LSC』 ユーザガイド – 『ServerView Operations Manager - Server Management』 ユーザガイド – 『iRMC S4 - Integrated Remote Management Controller』 ユーザガイド – 『ServerView embedded Lifecycle Management (eLCM)』 ユーザガイド – 『Fujitsu battery unit』 ユーザガイド
イラスト入り部品カタログ	<p>スペア部品を特定し、情報を確認できるシステム（世界市場のみ）。次の URL でオンラインで使用するか、ダウンロード（Windows OS）できます。 http://manuals.ts.fujitsu.com/illustrated_spares また、ServerView Operations Manager の CSS コンポーネントビューから使用できます。</p>
用語集	オンラインで提供
『Warranty』 マニュアル 『保証書』（日本市場向け）	保証、リサイクル、保守に関する重要な情報を示します（オンライン および印刷版で提供）
『Returning used devices』 マニュアル	リサイクルと問い合わせに関する情報について記載されています（オンライン および印刷版で提供）
『Service Desk』 リーフレット 『サポート＆サービス』（日本市場向け）	
その他のマニュアル	<p>RAID ドキュメントは、オンラインで http://manuals.ts.fujitsu.com の <i>x86 servers - Expansion Cards - Storage Adapters</i> から利用できます。 日本市場の場合は以下のアドレスをご使用ください。 http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/</p>

表 3: 必要なマニュアル

ドキュメント	説明
他社のマニュアル	<ul style="list-style-type: none">- オペレーティングシステムのマニュアル、オンラインヘルプ- 周辺装置のマニュアル

表 3: 必要なマニュアル

3 注意事項



注意！

デバイスを設置して起動する前に、次の項に記載されている安全についての注意事項に従ってください。これにより、健康被害を受けたり、デバイスが破損したり、データベースを危険にさらす可能性のある重大なエラーの発生を回避できます。

3.1 安全について



以下の安全上についての注意事項は、『Safety Notes and Regulations』および『安全上のご注意』マニュアルにも記載されています。

このデバイスは、IT 機器関連の安全規則に適合しています。目的の環境にサーバを設置できるかどうかについてご質問がある場合は、販売店または弊社カスタマサービス部門にお問い合わせください。

- このマニュアルに記載されている作業は、技術担当者が行うものとし、ます。技術担当者とは、ハードウェアおよびソフトウェアを含め、サーバを設置するための訓練を受けている要員のことです。
- CSS 障害に関係のないデバイスの修理は、サービス要員が行うものとし、ます。許可されていない作業をシステムに対して行った場合は、保証は無効となり、メーカーの責任は免除されますので、ご注意ください。
- このマニュアルのガイドラインを遵守しなかったり、不適切な修理を行うと、ユーザーが危険（感電、エネルギーハザード、火災）にさらされたり、装置が破損する可能性があります。
- サーバで内部オプションの取り付け、取り外しを行う前に、サーバ、すべての周辺装置、および接続されているその他すべてのデバイスの電源を切ってください。また、電源コードをすべてコンセントから抜いてください。ケーブルを抜かなかった場合、感電や破損の恐れがあります。

作業を始める前に

- デバイスを設置する際、および操作する前に、お使いのデバイスの環境条件についての指示を守ってください。
- デバイスを低温環境から移動した場合は、デバイスの内部 / 外部の両方で結露が発生することがあります。

デバイスが室温に順応し、完全に乾燥した状態になってから、作業を始めてください。この要件が満たされないと、デバイスが破損する場合があります。

- デバイスを輸送する際は、必ず元の梱包材に入れるか、あるいは、衝撃からデバイスを保護するように梱包してください。
日本市場では、梱包箱の再利用については適用されません。

インストールと操作

- このユニットは、周辺温度 35 °C では操作しないでください。Advanced Thermal Design 搭載のサーバでは、環境温度 40 °C まで対応します。
- IEC309 コネクタ付き工業用電源回路網から電力を供給する設置にこの装置が組み込まれている場合は、電源ユニットのフューズ保護が、A 型コネクタの非工業用電源回路網の要件に準拠している必要があります。
- 電源ユニットの主電源電圧は、100 V - 240 V の範囲内で自動調整されます。ローカルの主電源電圧がこの範囲内であることを確認してください。
- このデバイスは、適切に接地された電源コンセント、または、接地されたラックの内部配電システム（電源コードは試験を受けて承認済み）以外には接続しないでください。
- デバイスが、デバイス近くに適切に接地された電源コンセントに接続されていることを確認してください。
- デバイスの電源ソケットと、接地された電源コンセントに簡単に近づくことを確認してください。
- 電源ボタンまたは電源スイッチ（ある場合）では、デバイスを主電源から切り離すことはできません。修理または保守を行う場合は、デバイスを主電源ユニットから完全に切断し、適切に接地された電源コンセントから電源プラグをすべて抜いてください。
- サーバとその周辺装置は、必ず同じ電源回路に接続してください。これを守らないと、停電時にサーバが動作していても、周辺装置（メモリサブシステムなど）が機能しなくなった場合などに、データを失う危険性があります。
- データケーブルには、適切なシールドを施してください。
- Ethernet ケーブルは EN 50173 および EN 50174-1/2 規格、または ISO/IEC 11801 規格にそれぞれ従う必要があります。最低要件は、10/100 Mbit/s Ethernet ではカテゴリ 5 のシールドケーブル、Gigabit Ethernet ではカテゴリ 5e のケーブルを使用します。

- 潜在的危険性を発生させず（誰もつまづかないことを確認）、ケーブルが破損することのないようにケーブルを配線します。サーバの接続時には、このマニュアルのサーバの接続についての指示を参照してください。
- 荒天時には、データ伝送路の接続または切断は行わないでください（落雷の危険性があります）。
- 宝飾品やペーパークリップなどの物や液体がサーバ内部に入る可能性がないことを確認します（感電やショート危険性があります）。
- 緊急時（たとえば、ケース、コントロール、ケーブルの破損や、液体や異物の侵入）には、システム管理者または弊社カスタマサービス部門に連絡してください。怪我の危険がない場合のみ、システムを主電源ユニットから切断してください。
- ケースが完全に組み立てられ、取り付けスロットの背面カバーが取り付けられている（感電、冷却、防火、干渉抑制）場合のみ、(IEC 60950-1 および EN 60950-1 に従って) システムの正しい動作が保証されます。
- 安全性と電磁環境適合性を規定する要件および規則を満たし、電話機に関連するシステム拡張機器のみ、取り付けることができます。それ以外の拡張機器を取り付けると、システムが破損したり、安全規定に違反する場合があります。インストールに適合するシステム拡張機器についての情報は、弊社カスタマサービスセンターまたは販売店で入手できます。
- 警告ラベル（稲妻マークなど）が付いているコンポーネントを開けたり、取り外したり、交換する作業は、認可された資格を持つ要員以外に行わないでください。例外：CSS コンポーネントは交換できます。
- システム拡張機器の取り付けや交換中にサーバが破損した場合は、保証は無効となります。
- モニタのオペレーティングマニュアルに規定されている解像度とリフレッシュレートのみ設定してください。これを守らなかった場合は、モニタが破損する可能性があります。何かわからないことがございましたら、販売店または弊社カスタマサービスセンターにお問い合わせください。
- サーバで内部オプションの取り付け、取り外しを行う前に、サーバ、すべての周辺装置、および接続されているその他すべてのデバイスの電源を切ってください。また、電源コードをすべてコンセントから抜いてください。ケーブルを抜かなかった場合、感電や破損の恐れがあります。
- 内部のケーブルやデバイスを傷つけたり、加工したりしないでください。従わない場合、デバイスの故障、発火、感電の原因となる恐れがあります。また、保証は無効となり、メーカーの責任は免除されます。

注意事項

- サーバ内のデバイスはシャットダウン後もしくは高温の状態が続きます。シャットダウンして少し時間をおいてから、内部オプションを取り付けまたは取り外します。
- 内部オプションの回路とはんだ付け部品は露出しているため、静電気の影響を受けやすくなっています。確実に保護するために、この種類のモジュールへの作業を行う時に手首にアースバンドを装着している場合は、それをシステムの塗装されていない導電性の金属面に接続してください。
- ボードやはんだ付け部品の電気回路に触れないでください。金具部分またはボードのふちを持つようにしてください。
- 内部オプションの取り付け時および以前のデバイス / 場所からの取り外し時に外したネジを取り付けます。別の種類のネジを使用すると、装置が壊れる可能性があります。
- このマニュアルに示す取り付けは、予告なしに可能なオプションに変更される場合があります。

バッテリー

- バッテリーの交換を正しく行わないと、破裂の危険性があります。バッテリーの交換では、まったく同じバッテリーか、またはメーカーが推奨する型のバッテリー以外は使用しないでください。
- バッテリーはゴミ箱に捨てないでください。
- バッテリーは、特別廃棄物についての自治体の規制に従って、廃棄する必要があります。
- バッテリーを挿入する向きに注意してください。
- このデバイスに使用されるバッテリーは、誤った取り扱いによって火災または化学熱傷の原因となることがあります。バッテリーの分解、100°C (212°F) に達する加熱、焼却は行わないでください。
- 汚染物質が含まれているバッテリーには、すべてマーク（ゴミ箱の絵に×印）が付いています。また、以下のような汚染物質として分類されている重金属の化学記号も記載されます。

Cd カドミウム

Hg 水銀

Pb 鉛

光ディスクドライブおよびメディアの使い方

光ディスクドライブを使用する場合は、以下の指示に従ってください。



注意！

- データの損失や装置の破損を防止するために、完全な状態にある CD/DVD/BD のみを使用してください。
- 破損、亀裂、損傷がないかどうか、それぞれの CD/DVD/BD を確認してから、ドライブに挿入してください。

他にラベルを貼ると、CD/DVD/BD の機械的特性が変わり、バランスが悪くなり、振動が発生する場合があるため、注意してください。

破損してバランスが悪くなった CD/DVD/BD は、ドライブの速度が高速になったときに割れる（データ損失）可能性があります。

特定の状況下で、CD/DVD/BD の鋭い破片が光ディスクドライブのカバーに穴を開け（装置の破損）、デバイスから飛び出す可能性があります（特に顔や首などの衣服で覆われていない身体部分に怪我をする危険性があります）。

- 高湿度、およびほこりが多い場所での使用は避けてください。感電およびサーボ故障は、水などの液体、またはペーパークリップなどの金属製品がドライブ内に混入することで発生場合があります。
- 衝撃と振動も防止してください。
- 指定された CD/DVD/BD 以外の物体を挿入しないでください。
- CD/DVD/BD トレーを引っ張る、強く押すなど、乱暴に取り扱わないでください。
- 光ディスクドライブを分解しないでください。
- 使用前に、柔らかい乾いた布で CD/DVD/BD トレーをクリーニングしてください。
- 予防策として、長期間ドライブを使用しない場合は、ディスクを光ディスクドライブから取り出します。塵埃などの異物が光ディスクドライブに入り込まないように、光ディスクトレイを閉じておきます。
- ディスク表面に触れないように、CD/DVD/BD は端を持ってください。

- CD/DVD/BD の表面に、指紋、皮脂、塵埃などが付着しないようにしてください。汚れた場合は、柔らかい乾いた布で中心から端に向かってクリーニングしてください。ベンジン、シンナー、水、レコードスプレー、帯電防止剤、シリコン含浸クロスは使用しないでください。
- CD/DVD/BD の表面を破損しないよう注意してください。
- CD/DVD/BD は熱源に近づけないでください。
- CD/DVD/BD を曲げたり、上に重い物を載せたりしないでください。
- ラベル（印刷）面にボールペンや鉛筆で書き込まないでください。
- CD/DVD/BD を低温の場所から高温の場所に移動すると、CD/DVD/BD の表面に結露が生じてデータ読み取りエラーの原因となる場合があります。この場合、CD/DVD/BD を柔らかい乾いた布で拭き取って、自然乾燥させます。ヘアドライヤーなどの器具を使って CD/DVD/BD を乾燥させないでください。
- 塵埃、破損、変形から保護するには、使用しないときは常に CD/DVD/BD をケースに保管してください。
- CD/DVD/BD を高温の場所に保管しないでください。長時間直射日光の当たる場所、または発熱器具のそばに保管しないでください。



以下の指示を守ることにより、光ディスクドライブや CD/DVD/BD ドライブの損傷だけでなく、ディスクの早期磨耗も防止できます。

- － ディスクをドライブに挿入するのは必要なときだけにして、使い終わったら取り出す。
- － 適切なスリーブにディスクを保管する。
- － ディスクが高温や直射日光にさらされないようにする。

レーザーについて

光ディスクドライブは、IEC 60825-1 レーザクラス 1 に準拠しています。



注意！

光ディスクドライブには、特定の状況下でレーザークラス 1 よりも強力なレーザー光線を発する発光ダイオード（LED）が含まれています。この光線を直接見るのは危険です。

光ディスクドライブのケーシングの部品は絶対に取り外さないでください！

静電気に非常に弱いデバイスが搭載されたモジュール

静電気に非常に弱いデバイスが搭載されたモジュールは、以下のステッカーで識別されます。

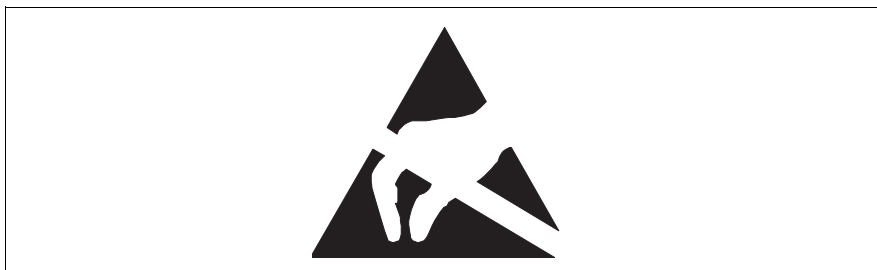


図 1: ESD ラベル

ESD が搭載されているコンポーネントを取り扱う際は、必ず以下を守ってください。

- システムの電源を切り、電源コンセントから電源プラグを抜いてから、ESD が搭載されているコンポーネントの取り付けや取り外しを行ってください。
- 内部オプションの回路とはんだ付け部品は露出しているため、静電気の影響を受けやすくなっています。確実に保護するために、この種類のモジュールへの作業を行う場合は手首にアースバンドを装着し、それをシステムの塗装されていない導電性の金属面に接続してください。
- 使用するすべてのデバイスやツールは、静電気フリーにする。
- 自分とシステムユニットを接続する適切な接地ケーブル（アース）を手首に巻く。
- ESD が搭載されたコンポーネントを持つ場合は、必ず端の部分または緑色の部分（タッチポイント）を握る。
- ESD のコネクタや導電路に絶対に触らない。
- すべてのコンポーネントを静電気フリーなパッドに配置する。

i ESD コンポーネントの取り扱い方法の詳細は、関連する欧州規格および国際規格（EN 61340-5-1、ANSI/ESD S20.20）を参照してください。

サーバの輸送

- サーバを輸送する際は、必ず元の梱包材に入れるか、あるいは、衝撃からサーバを保護するように梱包してください。
日本市場では、梱包箱の再利用については適用されません。
- 設置場所に着くまで、梱包箱を開梱しないでください。
- サーバを持ち上げたり運んだりする場合は、他の人に手伝ってもらってください。PRIMERGY TX1330 M2 はサイズも重量も大きいいため、持ち運びには最低 2 人必要です。
- 絶対に、フロントパネルのハンドルをつかんで持ち上げたり、運んだりしないでください。

ラックへのサーバの設置についての注意

- サーバの質量とサイズを考慮して、安全上の理由からサーバへのラックの設置は 2 名以上で行ってください。
(日本市場の場合は『安全上のご注意』を参照してください)
- 絶対に、フロントパネルのハンドルをつかんでサーバをラックに設置しないでください。
- ケーブルの接続および取り外しの際は、該当するラックのテクニカルマニュアルの「注意事項」の章に記載されている指示に従ってください。対応するラックのテクニカルマニュアルが付属します。
- ラックを設置する際は、傾きを防止するための保護機構が正しく取り付けられているか確認してください。
- 安全上の理由から、設置や保守作業の際、ラックから複数のユニットを同時に取り外さないでください。
- 複数のユニットを同時に取り外すと、ラックが転倒する危険があります。
- ラックは認定技術者（電気技術者）が電源ユニットに接続する必要があります。
- IEC309 タイプコネクタ付き工業用電源回路網から電力を供給する設置にこのサーバが組み込まれている場合は、電源ユニットのフューズ保護が、A 型コネクタの非工業用電源回路網の要件に準拠している必要があります。

3.2 ENERGY STAR



ENERGY STAR の適合認定を取得し、当該製品として識別されている製品は、出荷時点で仕様に完全に準拠しています。エネルギー消費は、インストールされているソフトウェアや、後でハードウェア構成や BIOS またはエネルギーのオプションに行った変更の影響を受けることがあります。この場合、ENERGY STAR によって保証される特性は保証されなくなります。

『ServerView Operations Manager』ユーザーガイドには、現在のエネルギー消費と室温などの測定値の取得に関する手順が記載されています。パフォーマンスモニタまたはタスクマネージャを使用して CPU 使用レベルを読み取ることができます。

3.3 CE 準拠



システムは、「電磁環境適合性」に関する 2004/108/EC および「低電圧指令」に関する 2006/95/EC の EC 指令、および欧州議会及び理事会指令 2011/65/EU の要件に適合しています。このことは、CE マーク（CE = Communauté Européenne）で示されます。

3.4 FCC クラス A 適合性宣言

デバイスに FCC 宣言の表示がある場合は、本書に別段の規定がない限り、以下の宣言は本書に記載される製品に適用されます。その他の製品に関する宣言は、付属のドキュメントに記載されます。

注：

この機器は、FCC 規則の Part 15 で規定されている「クラス A」デジタル装置の条件に準拠していることが、試験を通じて検証されていて、デジタル装置についてのカナダ干渉発生機器標準 ICES-003 のすべての要件を満たしています。これらの条件は、この機器を住宅地域に設置する場合に、有害な干渉に対して保護するための妥当な手段です。この機器は無線周波エネルギーを生成および使用し、また放射することもあるため、取扱説明書に従って正しく設置および使用しないと、無線通信に悪影響を与える恐れがあります。ただし、特定の設置条件で干渉が発生しないという保証はありません。この機器が、無線やテレビの受信に対して有害な干渉の原因となる場合（これは機器の電源をオン/オフすることによって確認することができます）、以下の方法のいずれか 1 つ以上を使用して、干渉をなくすことを推奨します。

- 受信アンテナの方向を変えるか設置場所を変える。
- この機器と受信機器との距離を離す。
- 受信機を接続しているコンセントと別系統回路のコンセントにこの機器を接続する。
- 販売代理店、またはラジオやテレビに詳しい経験豊富な技術者に相談する。

この機器を許可なく改造したり、Fujitsu が指定する以外の接続ケーブルや機器の代替使用または接続を行った場合は、これによって生じたラジオまたはテレビの干渉について、Fujitsu は、一切の責任を負わないものとします。このような許可のない改造、代替使用、接続によって生じた干渉は、ユーザーの責任で修正するものとします。

この機器をいかなるオプション周辺装置やホストデバイスに接続する場合も、遮蔽 I/O ケーブルの使用が必要です。遮蔽 I/O ケーブルを使用しないと、FCC および ICES 規則に違反する場合があります。

警告：

この製品はクラス A 製品です。この製品を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合にはユーザーが適切な対策を取る必要のあることがあります。

3.5 環境保護

環境に優しい製品の設計と開発

この製品は、「環境に優しい製品の設計と開発」のための Fujitsu の基準に従って設計された製品です。つまり、耐久性、資材の選択とラベリング、排出物、梱包材、廃棄とリサイクルの容易さなどの鍵となる要因が配慮されています。

これによって資源が節約され、環境への負荷が軽減されます。詳細は以下に記載されています。

- http://ts.fujitsu.com/products/standard_servers/index.html（世界市場）
- <http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/concept/>（日本市場向け）

エネルギーの節約について

常に電源を入れておく必要のないデバイスは、必要になるまで電源を切ることにより、長期間使用しない場合や、作業の完了後も電源を切る必要があります。

梱包材について

この梱包材に関する情報は、日本市場には適用されません。

梱包材は捨てないでください。システムを輸送するために、梱包材が後日必要になる場合があります。装置を輸送する際は、できれば元の梱包材に入れてください。

消耗品の取り扱いについて

プリンタの消耗品やバッテリーを廃棄する際は、該当する国の規制に従ってください。

EU ガイドラインに基づき、分別されていない一般廃棄物と一緒にバッテリーを廃棄することはできません。バッテリーは、メーカー、販売店、委任代理店が無料で回収し、リサイクルや廃棄を行っています。

汚染物質が含まれているバッテリーには、すべてマーク（ゴミ箱の絵に×印）が付いています。また、以下のような重金属の化学記号も記載されます。この記号が付いているバッテリーは、汚染物質を含むバッテリーとして分類されます。

Cd カドミウム

Hg 水銀

Pb 鉛

プラスチックのケース部分に貼られたラベル

プラスチック部分には、お客様独自のラベルをできる限り貼らないでください。リサイクルが困難になります。

返却、リサイクルおよび廃棄

返却、リサイクル、廃棄を行う場合は、各自治体の規制に従ってください。



一般廃棄物と一緒にデバイスを廃棄することはできません。このデバイスには、欧州指令 2002/96/EC の電気・電子機器廃棄物指令（WEEE）に従ってラベルが貼られています。

この指令によって、使用済み機器の返却およびリサイクルの枠組みが設定され、EU 全土で有効です。使用済みデバイスを返却する際は、利用可能な返却および収集方式をご使用ください。詳細は以下に記載されています

<http://ts.fujitsu.com/recycling>。

ヨーロッパでのデバイスおよび消耗品の返却とリサイクルに関する詳細は、『Returning used devices』マニュアルにも記載しています。このマニュアルは、最寄の Fujitsu の支店、または Paderborn のリサイクルセンター（Recycling Center）で入手できます。

Fujitsu Technology Solutions
Recycling Center
D-33106 Paderborn

電話 +49 5251 525 1410
ファックス +49 5251 525 32 1410

4 基本的なハードウェア手順

4.1 診断情報の使用

Fujitsu ServerView Suite 管理ソフトウェアを使用して、ハードウェア部品のアップグレードまたは交換を計画してください。次の ServerView Suite のトピックを参照してください。

- Operation
- Maintenance

『ServerView Suite Local Service Concept - LSC』マニュアルで説明するように、リモート診断手順を使用して保守作業を準備することが推奨されます。

サービスコンセプト、および拡張キットまたはスペア部品の注文方法は、お近くの Fujitsu カスタマサービスパートナーにお問い合わせください。Fujitsu のイラスト入り部品カタログを使用して必要なスペア部品を探して、技術仕様と注文情報をご確認ください。イラスト入り部品カタログは、オンラインで http://manuals.ts.fujitsu.com/illustrated_spares（世界市場のみ）から入手できます。

次の診断手順を実行して、故障したサーバと部品を特定します。

4.1.1 故障したサーバの特定

データセンター環境で作業している場合、サーバの前面および背面コネクタパネルにある ID ランプを使用すると、簡単に識別できます（[466 ページの「コネクタと表示ランプ」](#)の項を参照）。

- ▶ フロントパネルの ID ボタンを押して、iRMC Web フロントエンドまたは ServerView Operation Manager ユーザインタフェースを使用してシステム ID LED をオンにします。



詳細は、『ServerView Suite Local Service Concept - LSC』マニュアルおよび『Integrated Remote Management Controller』ユーザガイドを参照してください。

- ▶ ServerView Operations Manager を使用して ID ランプのオン / オフを切り替える場合は、「シングルシステムビュー」を選択して「識別灯」ボタンを押します。
- ▶ 保守作業が正常に完了したら、必ず ID ランプをオフにしてください。

4.1.2 エラー クラスの判定

Local Service Concept (LSC) で、故障したサーバ部品を特定できます。故障イベントは、2 つのエラー クラスのうちの 1 つに割り当てられます。

- 保守イベント：保守担当者が解決する必要があります
- **Customer Self Service** (CSS) エラー イベント：運用担当者が解決することができます

保守ランプと CSS LED (466 ページの「コネクタと表示ランプ」の項を参照) は、故障した部品がお客様による交換可能部品か、または保守担当者を派遣して部品を交換する必要があるかを示します。



このランプは、スタンバイモード中、または停電によるサーバ再起動の後にも点灯します。

4.1.2.1 保守ランプ

- ▶ サーバのフロントパネルまたはコネクタパネルの保守ランプを確認してください (466 ページの「コネクタと表示ランプ」の項を参照)。
- ▶ 詳細な診断を行うには、次の手順に従います。

- ハードウェアエラー：

122 ページの「SEL を表示する」の項に記載されているように、システムイベントログ (SEL) をチェックします。

- ソフトウェア / エージェント関連のエラー：

ServerView System Monitor をチェックします。これは、ServerView Agent がインストールされている Windows または Linux ベースのサーバで使用できます。




詳細は、『ServerView System Monitor』ユーザガイドを参照してください。

4.1.2.2 Customer Self Service (CSS) 表示ランプ

- ▶ サーバのフロントパネルまたはコネクタパネルの CSS 表示ランプを確認してください (466 ページの「コネクタと表示ランプ」の項を参照)。


4.1.3 故障した部品の特定

CSS 表示ランプまたは保守ランプでエラークラスを判定した後、フロントパネル、システムボード、HDD モジュール、電源モジュールのローカル診断表示ランプで故障した部品を特定できます。

 詳細は、『ServerView Suite Local Service Concept - LSC』マニュアルを参照してください。

4.1.3.1 フロントのローカル診断表示ランプ


- ▶ サーバのフロントパネルまたはコネクタパネルの CSS 表示ランプ（[468 ページ](#)の「オンボード表示ランプおよびコントロール」の項を参照）を確認してください。

 ローカル診断表示ランプの他に、CSS LED または保守ランプは、故障した部品がお客様による交換可能部品か現場で交換可能な部品であることを示します（[52 ページ](#)の「エラー クラスの判定」の項を参照）。


4.1.3.2 システムボードのローカル診断表示ランプ

CSS 表示ボタンの使用

- ▶ サーバをシャットダウンして電源を切ります。
- ▶ システムから AC 電源コードを抜きます。

 CSS 表示ボタンの機能を使用するには、電源コードを抜いておく必要があります。

- ▶ CSS 表示ボタンを押して、故障した部品を強調表示します（[468 ページ](#)の「オンボード表示ランプおよびコントロール」の項を参照）。

 ローカル診断表示ランプの他に、CSS LED または保守ランプは、故障した部品がお客様による交換可能部品であるか、または保守担当者を派遣して部品を交換する必要があるかを示します（[52 ページ](#)の「エラー クラスの判定」の項を参照）。

ホットプラグ対応ではない装置を交換するためにシステムの電源が切れている場合、PRIMERGY 診断表示ランプのシステムを使用して、故障したコンポーネントを特定できます。

4.2 サーバのシャットダウン



注意！

安全上の注意事項に関する詳細は、[39 ページ](#)の「**注意事項**」の章を参照してください。



この手順は、ホットプラグ対応ではない部品のアップグレードまたは交換の際にのみ必要です。

- ▶ システム管理者に、サーバをシャットダウンしてオフラインにすることを連絡します。
- ▶ すべてのアプリケーションを終了します。
- ▶ アップグレードまたは保守の各作業の準備手順に記載される、必要な手順を行います。
- ▶ サーバをシャットダウンします。



システムで ACPI 準拠の OS が実行されている場合は、電源ボタンを押すと、正常なシャットダウンが実行されます。

- ▶ [51 ページ](#)の「**故障したサーバの特定**」の項に記載されているように、サーバの前面および背面コネクタパネルにある ID ランプをオンにします。

4.3 主電源からサーバの取り外し

標準電源

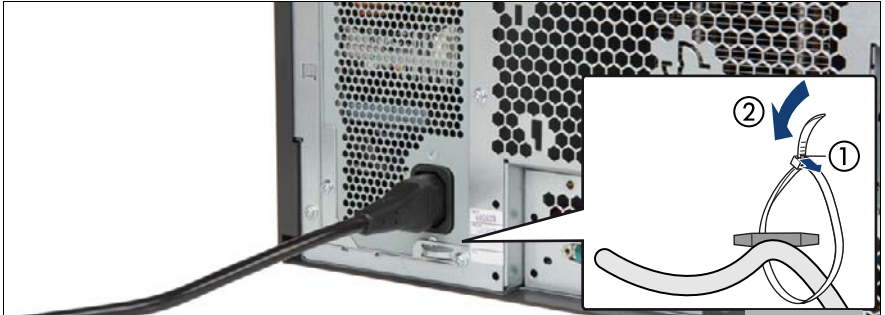


図 2: リリースタイから電源コードを取り外す

- ▶ リリースタイ（1）のロックレバーを引き出して、ループ（2）を緩めます。
- ▶ 電源コードを電源ユニットから取り外して、リリースタイから取り外します。

冗長電源ユニット

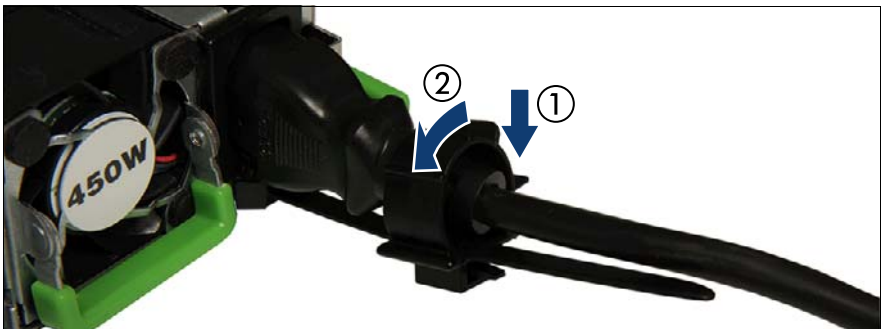


図 3: 電源ユニットのケーブルクランプのロック解除

- ▶ ロックが外れるまで、ケーブルクランプ機構を押します（1）。
- ▶ ケーブルクランプを開きます（2）。
- ▶ 電源コードを電源ユニットから取り外して、ケーブルクランプから取り外します。

4.4 ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し



注意！

- ラックを設置するときは、ラックが傾かないように傾き防止プレートを使用してください。傾き防止プレートがない状態でサーバをラックから取り出そうとすると、ラックが倒れる可能性があります。
- サーバを引き出ししたり、戻したりするときは、指や衣服をはさまないように注意してください。はさまれると怪我することがあります。
- 安全上の注意事項に関する詳細は、[39 ページ](#)の「**注意事項**」の章を参照してください。

4.4.1 サーバをラックから引き出す

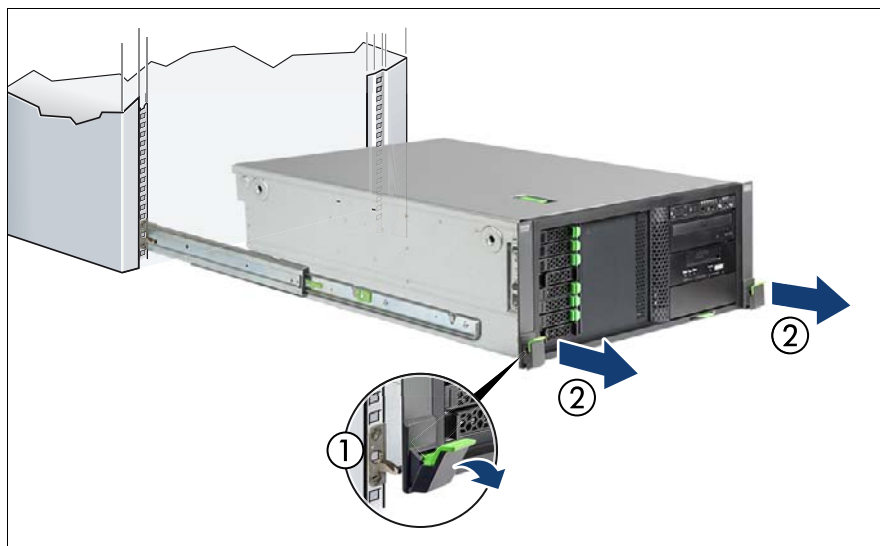


図 4: サーバをラックから引き出す

- ▶ 残りの外部ケーブルをすべて背面コネクタパネルと拡張カードから取り外します（[466 ページ](#)の「**コネクタと表示ランプ**」の項を参照）。

- ▶ ケーブル管理アーム（CMA キット）を使用していない場合、サーバをラックから引き出すときに、背面のケーブルが引っ張られたり、破損しないだけの十分な長さがあることを確認してください。
- ▶ ラックフロントカバーの 2 本のクイックリリースレバーを倒し（1）、所定の位置に固定されるまでサーバをラックから引き出します（2）。



注意！

引き出したサーバの上に物を置いたり、サーバの上で作業を行ったりしないでください。また、絶対にサーバには寄りかからないでください。

4.4.2 ラックからのサーバの取り外し



多くの場合、保守作業はサーバをラックから引き出している状態で実行できます。ただし、作業およびセキュリティのガイドラインによっては、保守のためにサーバをラックキャビネットから完全に取り外すこともできます。



注意！

サーバへのラックを持ち上げるのは 2 人以上で行ってください。
(日本市場の場合は『安全上のご注意』を参照してください)



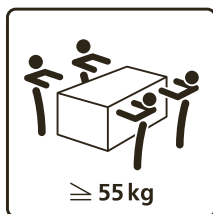
32 kg 未満の構成の場合：

サーバをラックキャビネットから取り出すには、最低 2 人必要です。



55 kg 未満の構成の場合：

サーバをラックキャビネットから取り出すには、最低 3 人必要です。



55 kg 以上の構成の場合：

サーバをラックキャビネットから取り出すには、最低 4 人必要です。

また、次の場合にはリフターが必要です。

- サーバの重量が 50 kg を超える場合
- サーバの重量が 21 kg を超え、25 U 以上の高さに取り付けられている場合

リフターを使用する場合、この手順は保守担当者が実施する必要があります。

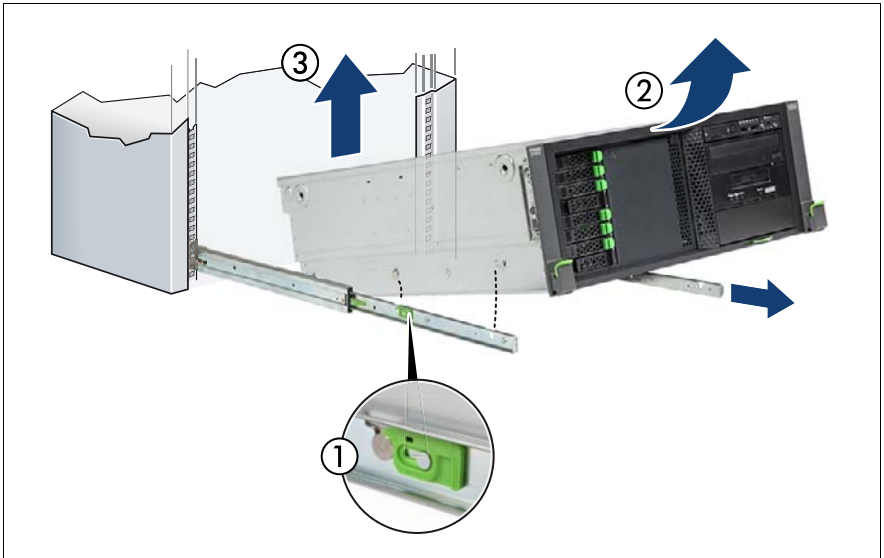


図 5: ラックからのサーバの取り外し

- ▶ 両側のレールのレバーを解除します (1)。
- ▶ 前面および中央のラック取り付けボルトがテレスコピックレールの取り付け位置から外れるように、図のようにサーバの前面を持ち上げます (2)。
- ▶ サーバを背面取り付け位置 (3) から持ち上げ、平らな面の上に置きます。

4.5 サーバを開ける



注意！

- カバーの取り外し、取り付けを行う前に、サーバおよびすべての周辺装置の電源を切ってください。また、電源ケーブルをすべてコンセントから抜いてください。ケーブルを抜かなかった場合、感電や破損の恐れがあります。
- 適用される EMC 要件（電磁環境適合性の要件）に準拠し、冷却要件を満たすため、トップカバーおよびサイドカバーが取り付けられていない状態でサーバを起動しないでください。
- 安全上の注意事項に関する詳細は、[39 ページ](#)の「**注意事項**」の章を参照してください。
- **タワーサーバのみ該当**：フロントカバーを持ってサーバを持ち上げないでください。HDD ベイカバーフックが破損する危険性があります。

4.5.1 ラックサーバ

4.5.1.1 トップカバーの取り外し



図 6: トップカバーの取り外し（ラックサーバ）

- ▶ レバーを開きます（1）。これによって、トップカバーがスライドして（2）ロック機構が外れます。



図 7: トップカバーの取り外し（ラックサーバ）

- ▶ トップカバーを取り外します。

4.5.1.2 ID カードの取り外し



図 8: ID カードの取り外し（ラックサーバ）

- ▶ ID カードをサーバから取り出します。

i ID カードを取り出すときに、予想以上に力が必要な場合があります。ただし、過度に力を加えないでください。

4.5.1.3 ラックフロントカバーの取り外し

- i** ラックフロントカバーは、プラスチック製フレームと、2つのラック取り付け用ブラケットで構成されます。詳細は、[430 ページの「ラックフロントカバーの組み立て」](#)の項を参照してください。



図 9: ラックフロントカバーの取り外し (A)

- ▶ ラックフロントカバーの片方の側のブラケットから2本のネジを取り外します。



図 10: ラックフロントカバーの取り外し (B)

- ▶ ロッキングラッチを押下げて、ラックフロントカバーを少し開きます。

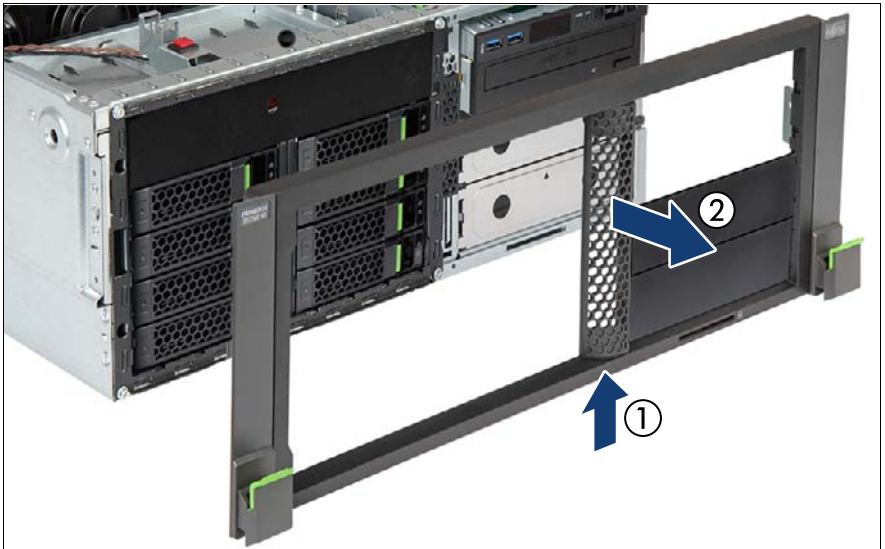


図 11: ラックフロントカバーの取り外し (C)

- ▶ プラスチック製フレームを押し上げて、下部のロックングラッチを外します (1)。
- ▶ ラックフロントカバーを外し、前面に取り外します (2)。

4.5.2 タワーサーバ

4.5.2.1 サーバロックの解除

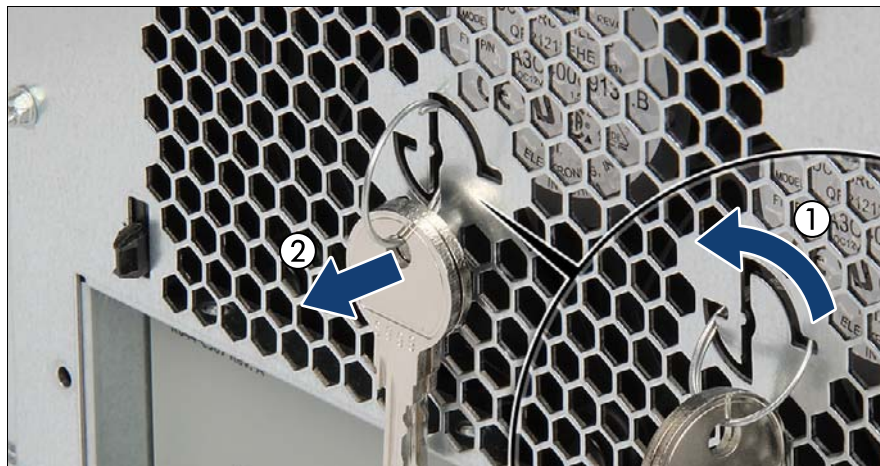


図 12: キーの取り外し

- ▶ キーチェーンを反時計まわりに 90° 回転させます (1)。
- ▶ キーを付けたままキーリングをサーバ背面から取り外します (2)。



図 13: サーバロックの解除

- ▶ キーをサーバ前面の鍵穴に差し込みます。
- ▶ キーを時計回りに回転させ、フロントカバーとサイドカバーのロックを解除します (1)。
- ▶ サーバ前面からキーを抜き (2)、後で使えるように保管しておきます。

4.5.2.2 サイドカバーの取り外し



図 14: サイドカバーの取り外し（タワーサーバ）

- ▶ レバーを開きます（1）。これによって、サイドカバーがスライドしてロック機構が外れます。
- ▶ サイドカバーを取り外します（2）。

4.5.2.3 アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り外し



図 15: アクセス可能なドライブベイカバーの取り外し

- ▶ ロックレバーを押し上げて (1)、アクセス可能なドライブベイカバーを開きます (2)。
- ▶ アクセス可能なドライブベイカバーをフロントカバーから取り外します。



図 16: HDD ベイカバーの取り外し

- ▶ HDD ベイカバーの上端のハンドルを引き出します。
- ▶ HDD ベイカバーをフロントカバーから開いて取り外します。

アクセス可能なドライブベイカバーの保管



図 17: アクセス可能なドライブベイカバーの保管

- ▶ 図のように、アクセス可能なドライブベイカバーを HDD ベイカバーへ置きます。

4.5.2.4 ID カードの取り外し



図 18: ID カードの取り外し（タワーサーバ）

- ▶ ID カードをサーバから取り出します。



ID カードを取り出すときに、予想以上に力が必要な場合があります。ただし、過度に力を加えないでください。

4.5.2.5 フロントカバーの取り外し



図 19: フロントカバーの取り外し（タワーサーバ）

- ▶ ロッキングラッチをつまんで少し引き出しながら、フロントカバーを取り外します（1、拡大された部分を参照）。
- ▶ フロントカバーの下端をゆっくりと開きます（2）。
- ▶ フロントカバーのロックを解除して取り外します（3）。

4.6 サーバを閉じる



注意！

- カバーを取り付ける前に、不要な部品や道具がサーバ内に残っていないことを確認してください。
- 適用される EMC 要件（電磁環境適合性の要件）に準拠し、冷却要件を満たすため、トップカバーおよびサイドカバーが取り付けられていない状態でサーバを起動しないでください。
- 安全上の注意事項に関する詳細は、[39 ページ](#)の「**注意事項**」の章を参照してください。

4.6.1 ラックモデル

4.6.1.1 ラックフロントカバーの取り付け



図 20: ラックフロントカバーの取り付け

- ▶ サーバ前面にラックのフロントカバーを取り付けます。
- ▶ 図の拡大された部分のように、ラック取り付け用ブラケットが、シャーシの両側に正しくはめ込まれていることを確認します。



図 21: ラックフロントカバーの取り付け (B)

- ▶ ラック取り付け用ブラケットが、シャーシの両側に正しくはめ込まれていることを確認します。
- ▶ ラックフロントカバーを 2 本の M3 x 4.5 mm ネジで両側に固定します。

4.6.1.2 ID カードの取り付け

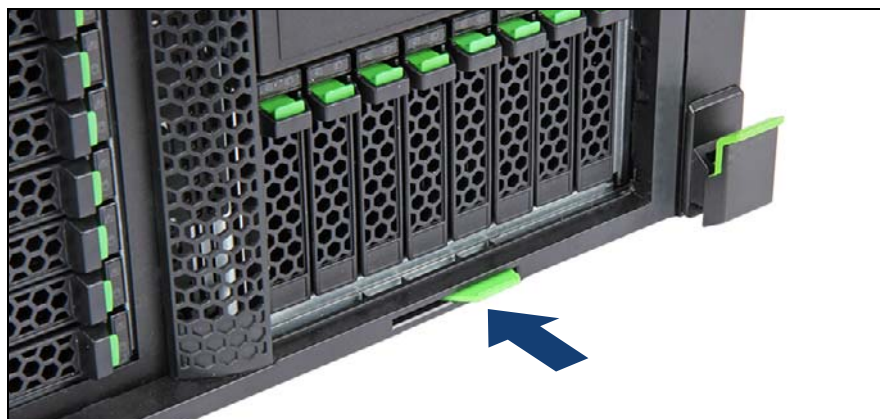


図 22: ID カードの取り付け (ラックサーバ)

- ▶ 図のように、ID カードをスロットに差し込み、所定の位置にはまるまでスライドさせます。

4.6.1.3 トップカバーの取り付け



図 23: トップカバーの取り付け（ラックサーバ）（A）

- ▶ 上面カバーのロックレバーを開きます。
- ▶ トップカバーを 2cm ずらしてシャーシにかぶせます。

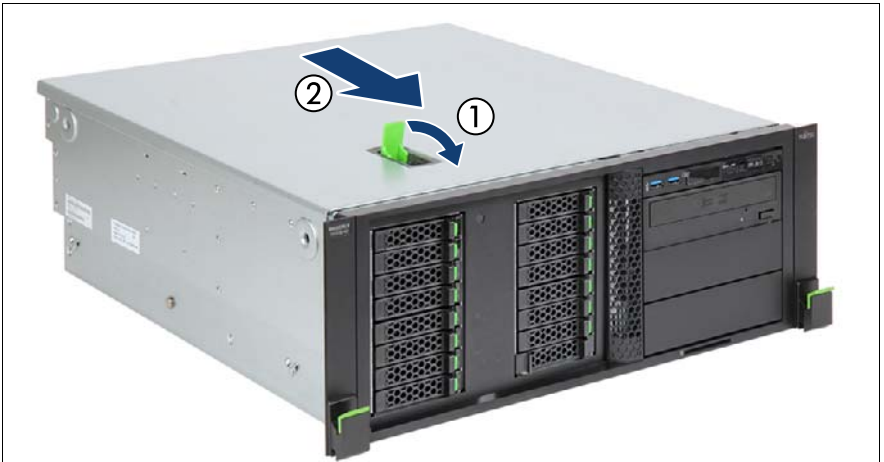


図 24: トップカバーの取り付け（ラックサーバ）（B）

- ▶ トップカバーのロックレバーを閉じます（1）。これによって、トップカバーがスライドしてロック機構（2）がロックされます。

4.6.2 タワーサーバ

4.6.2.1 フロントカバーの取り付け



図 25: フロントカバーの取り付け（タワーサーバ）（A）

- ▶ フロントカバー上端にあるの 2 つのタブをシャーシの留め具に掛けます。



図 26: フロントカバーの取り付け（タワーサーバ）（B）

- ▶ フロントカバーの下端にあるロックングラッチがはまるまで (2)、フロントカバーを倒します (1)。

4.6.2.2 ID カードの取り付け



図 27: ID カードの取り付け（タワーサーバ）

- ▶ 図のように、ID カードをスロットに差し込み（1）、所定の位置にはまるまでスライドさせます（2）。

4.6.2.3 アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り付け



図 28: HDD ベイカバーの取り付け

- ▶ 図のように、HDD ベイカバーをフロントカバーに差し込みます（1）。
- ▶ 所定の位置に固定されるまで、HDD ベイカバーを押し込みます（2）。



図 29: アクセス可能なドライブベイカバーの取り付け

- ▶ 図のように、アクセス可能なドライブベイカバーをフロントカバーに差し込みます (1)。
- ▶ 所定の位置に固定されるまで、アクセス可能なドライブベイカバーを押し込みます (2)。

4.6.2.4 サイドカバーの取り付け



図 30: サイドカバーの取り付け（タワーサーバ）

- ▶ サイドカバーのロックレバーを回転させて開きます。
- ▶ サイドカバーを 2cm ずらしてシャーシにかぶせます。
- ▶ サイドカバーのロックレバーを閉じます (1)。これによって、トップカバーがスライドしてロック機構 (2) がロックされます。



キーロックは「ロック解除」の位置になります。

4.6.2.5 サーバのロック

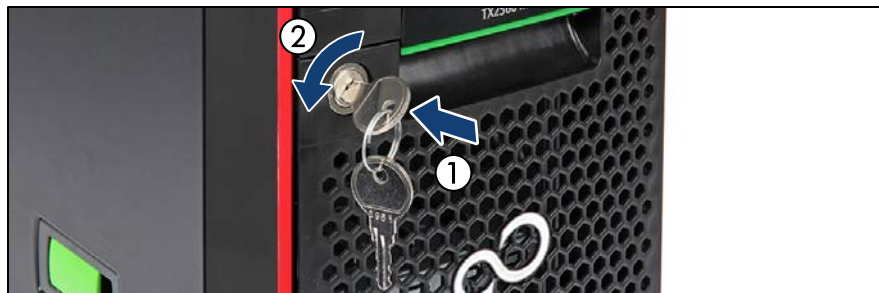


図 31: サーバのロック

- ▶ セキュリティ要件で必要な場合は、次の手順でサーバをロックしてください。
 - ▶ キーをサーバ前面の鍵穴に差し込みます (1)。
 - ▶ キーを反時計回りに回転させ、フロントカバーとサイドカバーをロックします (2)。
 - ▶ キーをサーバ前面から取り出します。

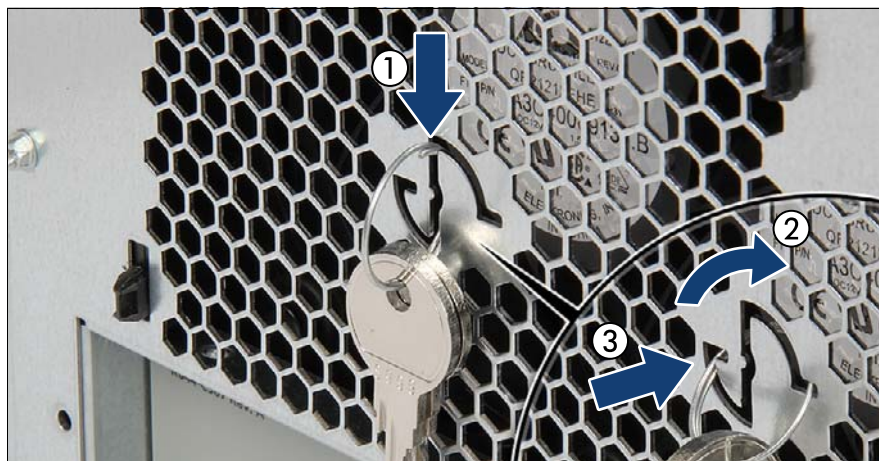


図 32: キーリングの保管

- ▶ キーリングをサーバ背面のスロットに差し込みます (1)。
- ▶ 図のように、キーリングがラッチ留めされるまで (3)。90° 時計回りに回転させます (2)。

4.7 ラックへのサーバの取り付け

4.7.1 ラックレールへのサーバの取り付け



注意！

サーバをラックレールに取り付けるには、最低 2 名必要です。（日本市場の場合は『安全上のご注意』を参照してください）



32 kg 未満の構成の場合：

サーバをラックキャビネットから取り付けるには、最低 2 名必要です。



55 kg 未満の構成の場合：

サーバをラックキャビネットから取り付けるには、最低 3 名必要です。



55 kg 以上の構成の場合：

サーバをラックキャビネットから取り付けるには、最低 4 名必要です。

また、次の場合にはリフターが必要です。

- － サーバの重量が 50 kg を超える場合
- － サーバの重量が 21 kg を超え、25 U 以上の高さに取り付けられる場合

リフターを使用する場合、この取り付け手順は保守担当者が実施する必要があります。

i その他のラックレールキットの詳細については、ラックキャビネットのマニュアルを参照してください。

- ▶ 必要に応じて、『Rack Mounting Kit - RMK-F2 Drop-In』の取り付け手順に記載されているように、ラック取り付けブラケットとラックシステムをラックに取り付けます。

i ラック取り付けキットに、印刷されたポスターが付属しています。

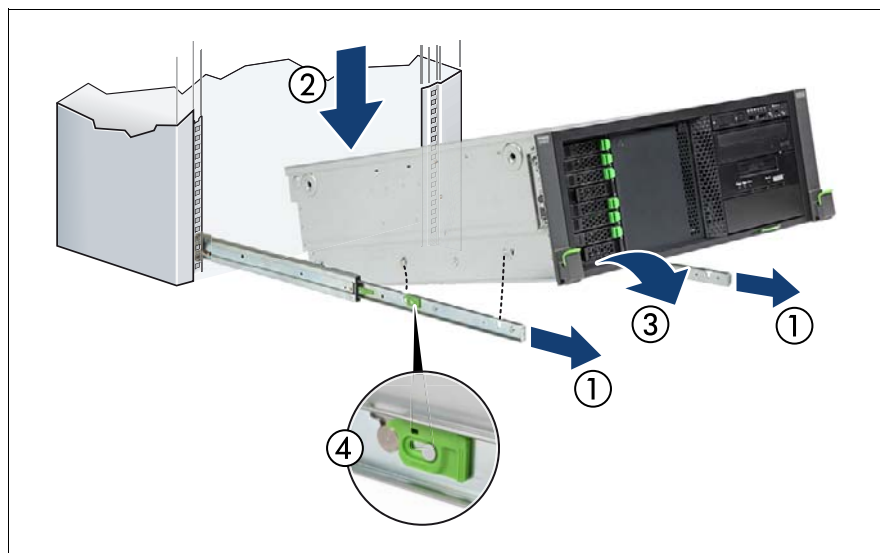


図 33: ラックレールへのサーバの取り付け

- ▶ テレスコピックレールを、ロックされるまで完全に引き出します (1)。
- ▶ 少し斜めにして、サーバをテレスコピックレールの背面取り付け位置まで下げます (2)。
- ▶ サーバを倒します (3)。6本の取り付けボルトがすべて、テレスコピックレールの取り付け位置にしっかりと固定され、レバーがロックされていることを確認します (4)。

4.7.2 ラックにサーバを格納する

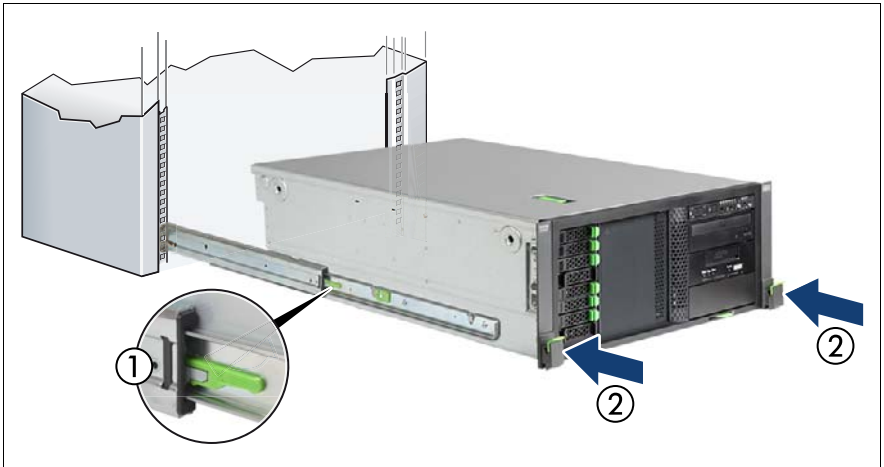


図 34: ラックにサーバを格納する

- ▶ 両方のテレスコピックレールでロッキングラッチを持ち上げます (1)。
- ▶ ラックフロントカバーのクイックリリースレバーが所定の位置に固定されるまで、サーバをラックの中に最後までスライドさせます (2)。
- ▶ サーバ背面への電源コード以外のすべてのケーブルを再び接続します。

i ケーブル管理アーム (CMA キット) を使用していない場合、サーバをラックから引き出すときに、背面のケーブルが引っ張られたり、破損しないだけの十分な長さがあることを確認してください。

リリースタイを使用して、緩んだケーブルが通気を邪魔しないようにします。

電源コードの接続および取り付けについては、[80 ページの「主電源へのサーバの接続」](#)の項を参照してください。

4.8 主電源へのサーバの接続



注意！

この電源は、主電源の電圧が 100 V - 240 V. の範囲内で自動調整されます。所在地の主電源電圧が定格電圧範囲に対応する場合のみ、サーバが動作します。

標準電源

- ▶ 該当する場合は、主電源プラグを屋内主電源の電源タップの接地されたコンセントに接続します。
- ▶ 電源コードを電源ユニットに接続します。

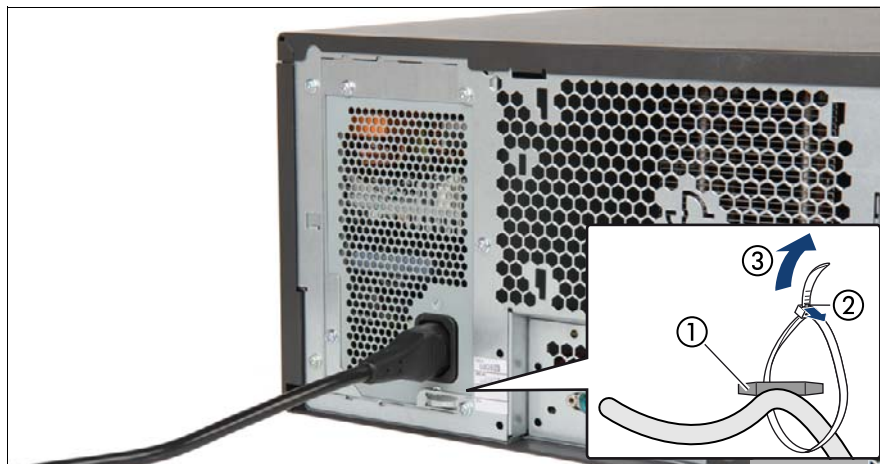


図 35: 電源コードの取り付け

- ▶ リリースタイを穴に通します (1)。
- ▶ リリースタイを引き締め、電源コードを固定します (2)。
絶縁コネクタが誤ってサーバから外れることがなくなります。

冗長電源ユニット

- ▶ 該当する場合、主電源プラグをラックの電源タップに接続します。

i 完全な位相冗長性を実現するため、2 台目の電源ユニットをその他の電源ユニットとは別の AC 電源に接続してください。1 つの AC 電源が故障しても、サーバは稼働を継続します。

- ▶ 電源コードを電源ユニットに接続します。
- ▶ 電源ユニットの保守ランプが緑色で点灯していることを確認してください (474 ページの「PSU 表示ランプ (ホットプラグ PSU のみ)」の項を参照)。

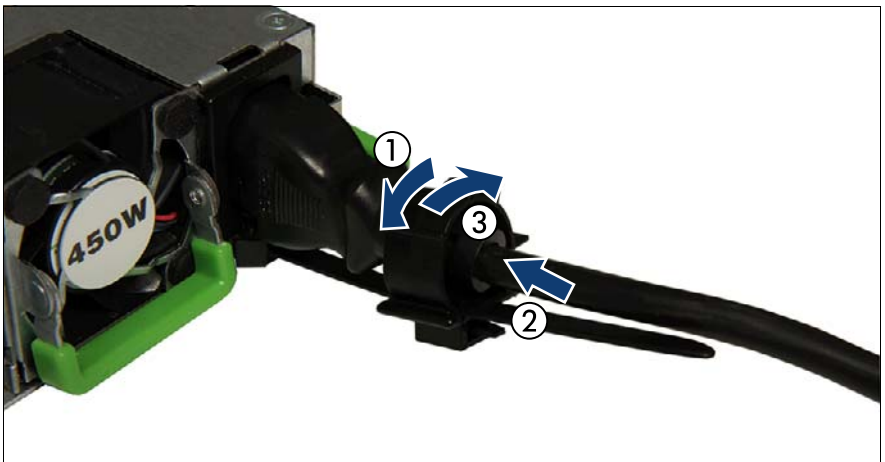


図 36: 例：電源ユニットのケーブルクランプのロック

- ▶ ケーブルクランプを引き上げます (1)。
- ▶ ケーブルクランプに電源コードを通します (2)。
- ▶ ケーブルクランプが固定されるまで押し下げ、電源ケーブルを固定します (3)。

4.9 サーバの電源投入



注意！

- サーバの電源投入前に、トップカバーおよびサイドカバーが閉まっていることを確認してください。適用される EMC 要件（電磁環境適合性の要件）に準拠し、冷却要件を満たすため、トップカバーおよびサイドカバーが取り付けられていない状態でサーバを起動しないでください。
 - サーバを主電源に接続した後、サーバがスタンバイモードに切り替わるまで約 60 秒かかります。
 - [39 ページ](#) の「**注意事項**」の章の安全についての注意事項に従ってください。
- ▶ すべての周辺装置ケーブルをサーバの背面コネクタパネルに接続します。
- ▶ [80 ページ](#) の「**主電源へのサーバの接続**」の項に記載されているように、電源コードを接続して固定します。
- ▶ 電源コードをすべてコンセントに接続します。
- i** 完全な位相冗長性を実現するため、2 台目の電源ユニットをその他の電源からの別の AC 電源に接続してください。1 つの AC 電源が故障しても、サーバは稼働を継続します。
- ▶ 電源ボタンを押してサーバを起動します。
- ▶ 電源ボタンの上の電源表示ランプが緑色に点灯していることを確認します。
- i** 詳細は、[476 ページ](#) の「**フロントパネルのコントロールと表示ランプ**」の項を参照してください。
- ▶ アップグレードまたは保守の各作業の修了手順に記載される、必要な手順を行います。

4.10 システムファンモジュールの取り扱い

4.10.1 標準システムファンモジュールの取り外し



図 37: 標準システムファンモジュールの取り外し

- ▶ システムボードコネクタ FAN1 SYS からファンケーブルを取り外します。

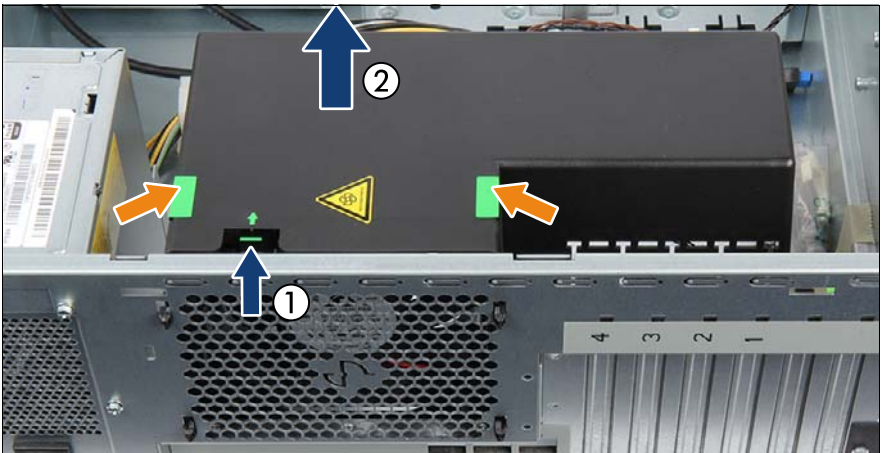


図 38: 標準システムファンモジュールの取り外し

- ▶ システムファンモジュールを少し持ち上げながら（1）、ロックタブを押します。
- ▶ 2つの緑色のグリップを持って（オレンジ色の矢印を参照）システムファンモジュールをシャーシから持ち上げます（2）。

4.10.2 冗長システムファンモジュールの取り外し

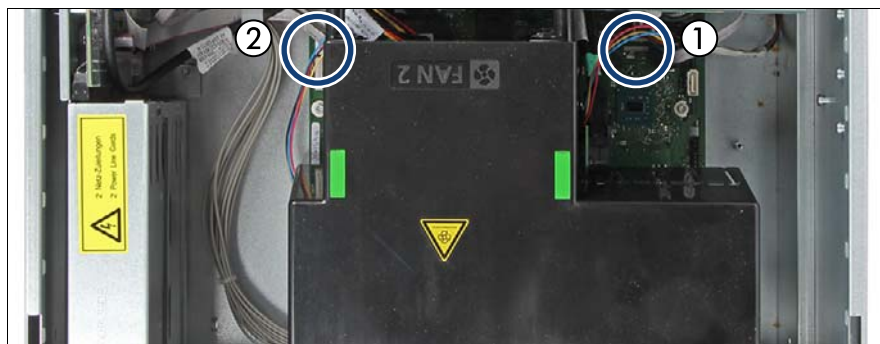


図 39: システムファンケーブルの取り外し

- ▶ システムボードコネクタ FAN2 (1) および FAN4 SYS (2) からファンケーブルを取り外します。

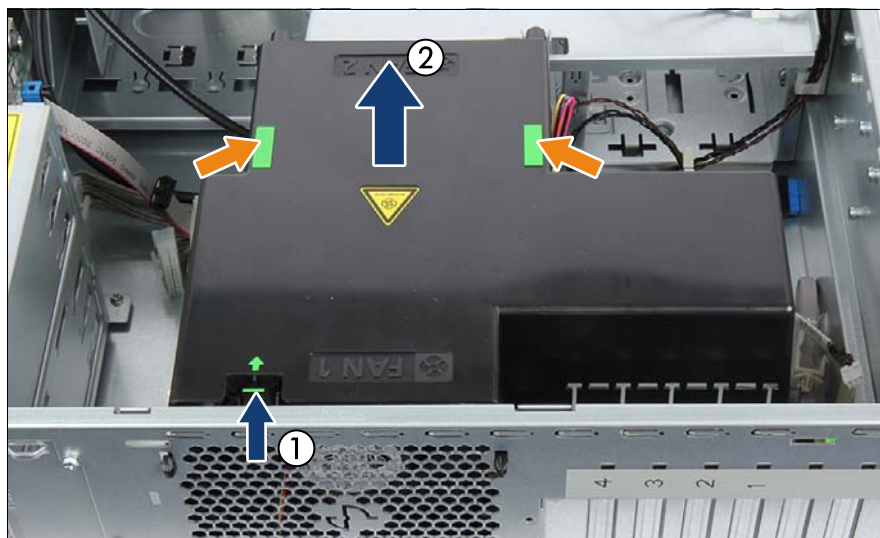


図 40: 冗長システムファンモジュールの取り外し

- ▶ システムファンモジュールを少し持ち上げながら (1)、ロッキングタブを押します。
- ▶ 2つの緑色のグリップを持って (オレンジ色の矢印を参照) システムファンモジュールをシャーシから持ち上げます (2)。

4.10.3 標準システムファンモジュールの取り付け

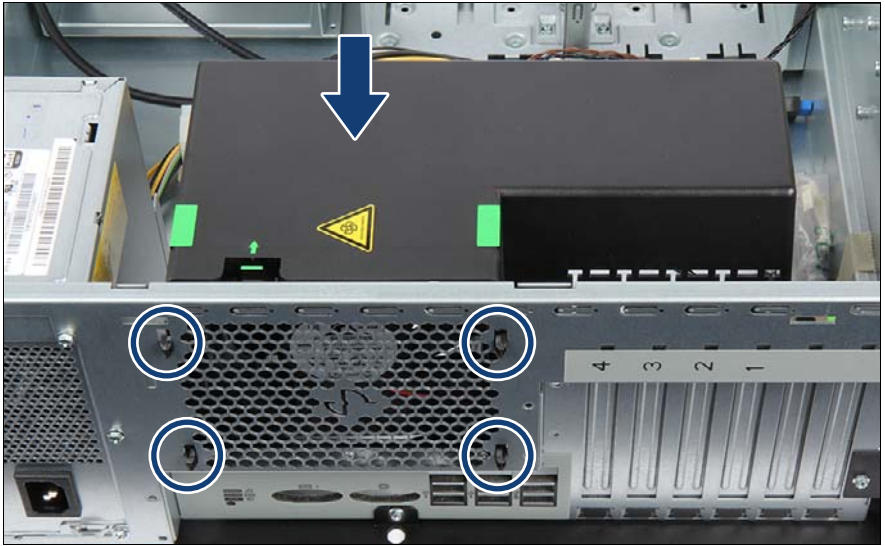


図 41: 標準システムファンモジュールの取り付け

- ▶ システムファンモジュールをシャーシに降ろします。



ケーブルが送風ダクトの下にはさまらないように注意してください。

- ▶ システムファンモジュールの 4 つのフックをシャーシの鍵穴スロットにはめ込みます。
- ▶ 4 つのフックが鍵穴スロットの幅の狭い方の終点に固定されるまで、システムファンモジュールを押し下げます（丸で囲んだ部分）。

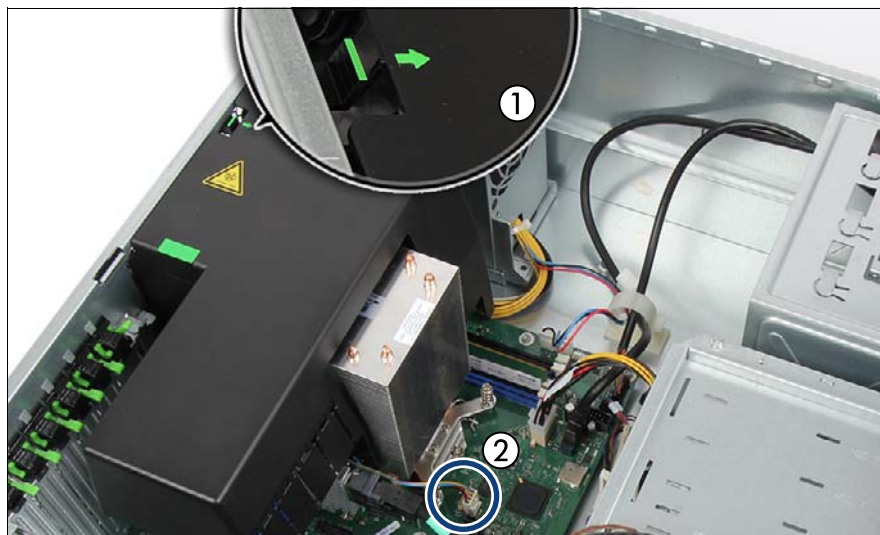


図 42: システムファンケーブルの接続

- ▶ システムファンモジュールのロックレバーをシャーシの上縁に正しくはめます (1)。
- ▶ システムボードコネクタ FAN1 SYS にファンケーブルを取り付けます。

4.10.4 冗長システムファンモジュールの取り付け

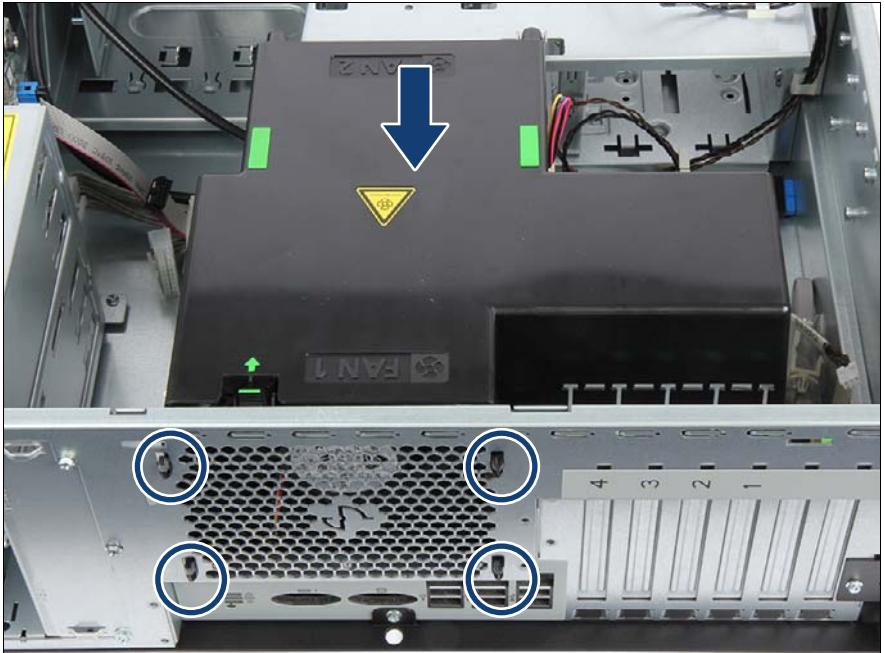


図 43: 冗長システムファンモジュールの取り付け

- ▶ システムファンモジュールをシャーシに降ろします。



ケーブルが送風ダクトの下にはさまらないように注意してください。

- ▶ システムファンモジュールの 4 つのフックをシャーシの鍵穴スロットにはめ込みます。
- ▶ 4 つのフックが鍵穴スロットの幅の狭い方の終点に固定されるまで、システムファンモジュールを押し下げます（丸で囲んだ部分）。

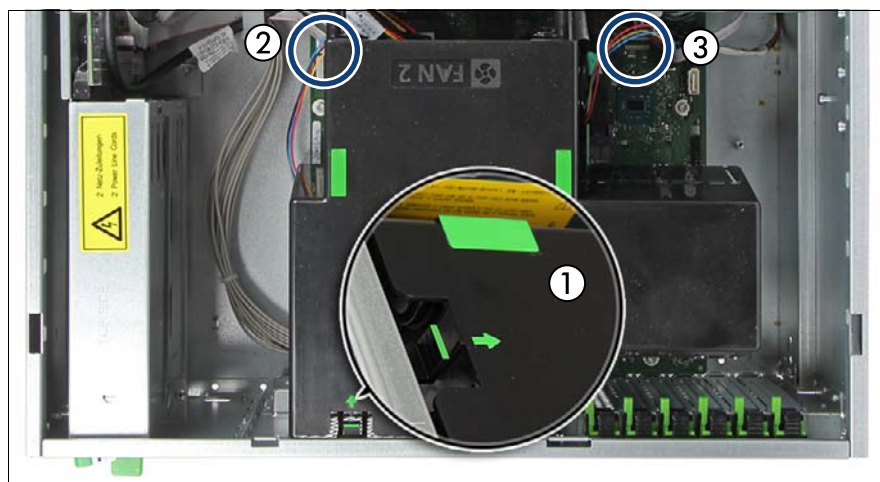


図 44: システムファンケーブルの接続

- ▶ システムファンモジュールのロックレバーをシャーシの上縁に正しくはめます (1)。
- ▶ ファン1からシステムボードコネクタ FAN4 SYS にファンケーブルを取り付けます (2)。
- ▶ ファン2からシステムボードコネクタ FAN2 にファンケーブルを取り付けます (3)。



DCケーブル(CBL_MoBo_DRV_Pwr)のラベルをファンに巻き込まないように注意すること。



4.11 アクセス可能なドライブベイの取り扱い

4.11.1 アクセス可能なドライブのロックを開く

4.11.1.1 タワーサーバ

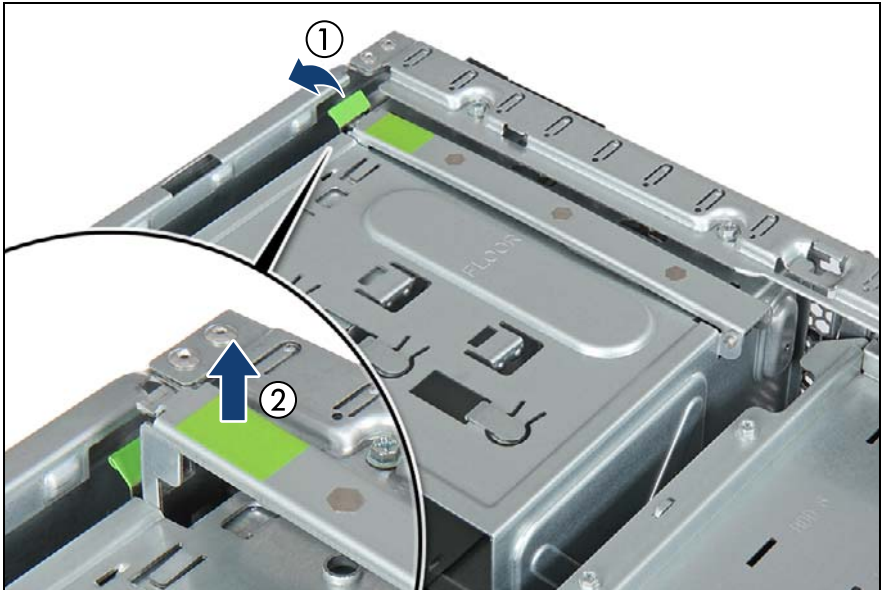


図 45: アクセス可能なドライブのロックを開く（タワーサーバ）

- ▶ ロッキングラッチを押して、アクセス可能なドライブのロックを外します (1)。
- ▶ アクセス可能なドライブのロッキングバーを持ち上げます (2)。

4.11.1.2 ラックサーバ

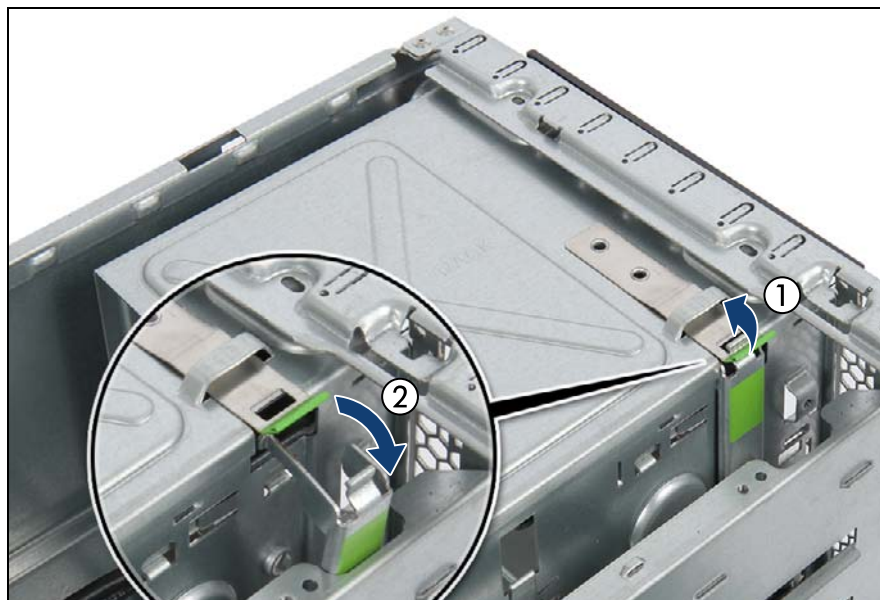


図 46: アクセス可能なドライブのロックを開く (ラックサーバ)

- ▶ ロッキングラッチを引き上げて、アクセス可能なドライブのロックを外します (1)。
- ▶ アクセス可能なドライブのロックを開きます (2)。

4.11.2 アクセス可能なドライブのロックを閉じる

4.11.2.1 タワーサーバ

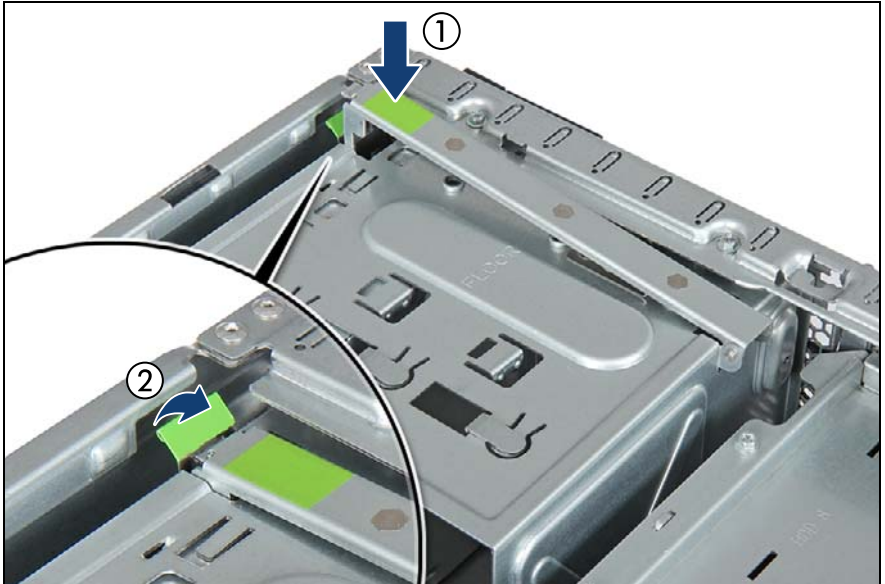


図 47: アクセス可能なドライブのロックを閉じる (タワーサーバ)

- ▶ ロッキングバー (1) を閉じてロックします (2)。

4.11.2.2 ラックサーバ

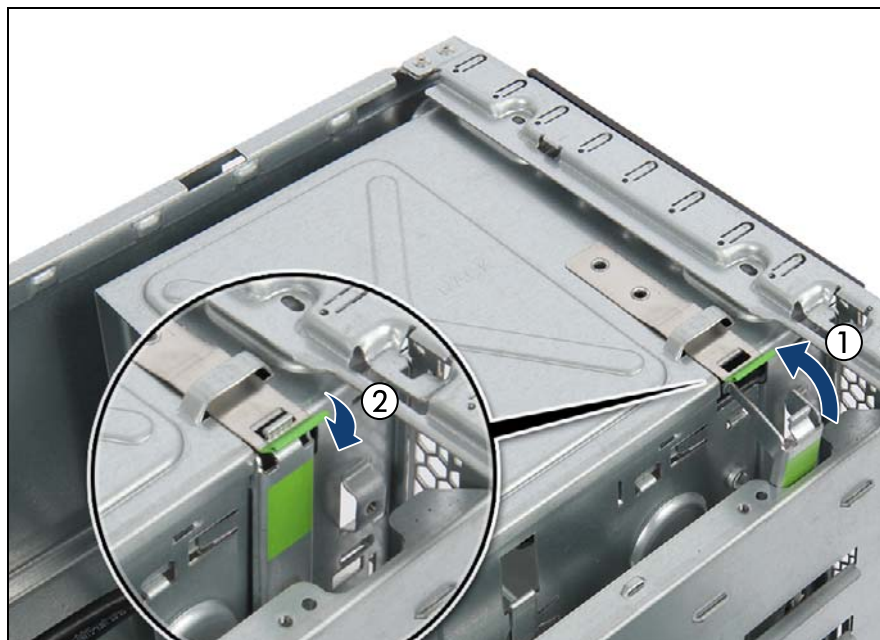


図 48: アクセス可能なドライブのロックを閉じる（ラックサーバ）

- ▶ 所定の位置にはまるまで、ロック（1）を押し込みます（2）（拡大された部分を参照）。

4.11.3 アクセス可能なドライブのフィラーカバー

4.11.3.1 アクセス可能なドライブのフィラーカバーの取り外し



図 49: アクセス可能なドライブのフィラーカバーの取り外し

- ▶ 2つのツマミでアクセス可能なドライブフィラーカバーを持ち、目的の取り付けベイから引き出します。



注意！

該当する EMC 指令に準拠し、かつ冷却要件を満たすために、使用していないドライブベイにフィラーカバーを必ず装着してください。

4.11.3.2 アクセス可能なドライブフィラーカバーの取り付け



図 50: アクセス可能なドライブフィラーカバーの取り付け

- ▶ アクセス可能なドライブフィラーカバーを 2 つの指穴で持ち、矢印の形に開けられた穴を上に向けて、空いているインストールベイに挿入します（丸で囲んだ部分）。



注意！

該当する EMC 指令に準拠し、かつ冷却要件を満たすために、使用していないドライブベイにフィラーカバーを必ず装着してください。

4.11.4 アクセス可能なドライブのカバー

4.11.4.1 アクセス可能なドライブのカバーの取り外し

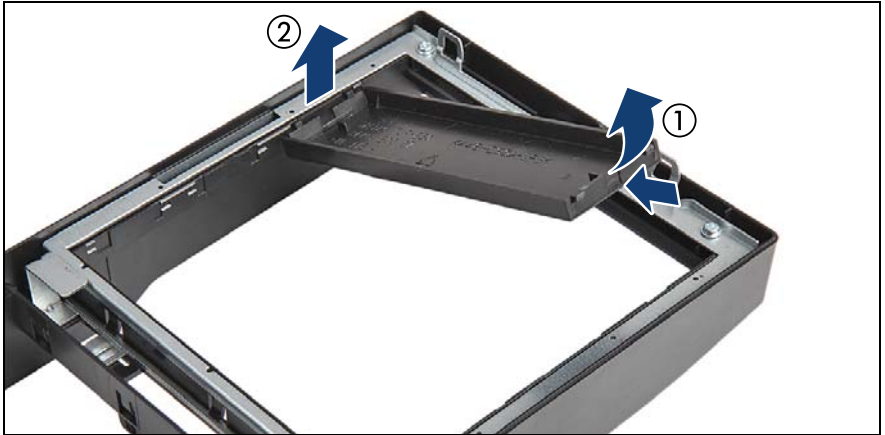


図 51: アクセス可能なドライブのカバーの取り外し



アクセス可能なドライブカバーの取り外しについては、タワーサーバの例で説明されています。ラックフロントカバーの場合、手順は同じです。

- ▶ フロントカバーを裏返します。
- ▶ ドライブカバーの両側の突起を押します。
- ▶ アクセス可能なドライブのカバーを持ち上げて（1）取り外します（2）。

4.11.4.2 アクセス可能なドライブカバーの取り付け

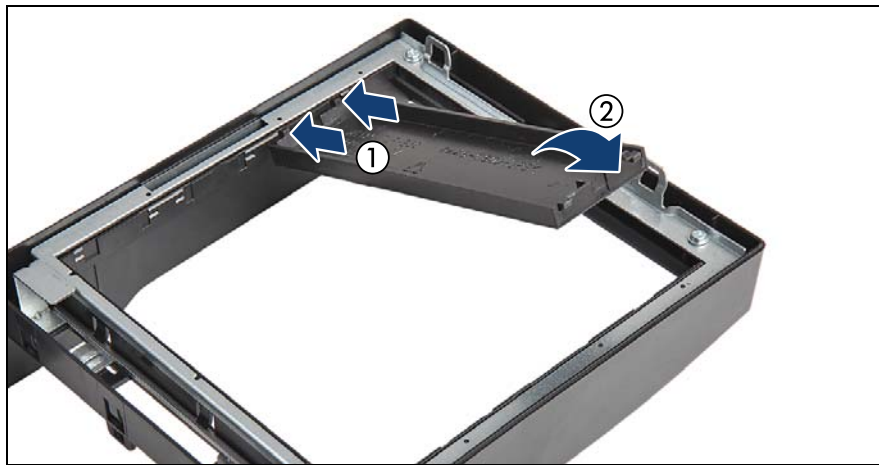


図 52: アクセス可能なドライブカバーの取り付け

i アクセス可能なドライブカバーの取り付けについては、タワーサーバの例で説明されています。ラックフロントカバーの場合、手順は同じです。

- ▶ アクセス可能なドライブフィラーカバーが空いている各ドライブベイに取り付けられていることを確認します。
- ▶ フロントカバーを裏返します。
- ▶ アクセス可能なドライブカバーの片方の端にある 2 つの突起を、フロントカバーの右内側の端に結合します (1)。
- ▶ 所定の位置にはまるまで、アクセス可能なドライブカバーを倒します (2)。

4.12 フットスタンドの取り扱い

4.12.1 フットスタンドの取り付け



図 53: フットスタンドの取り付け (A)

- ▶ フットスタンドをサーバ背面の下端に取り付けます。

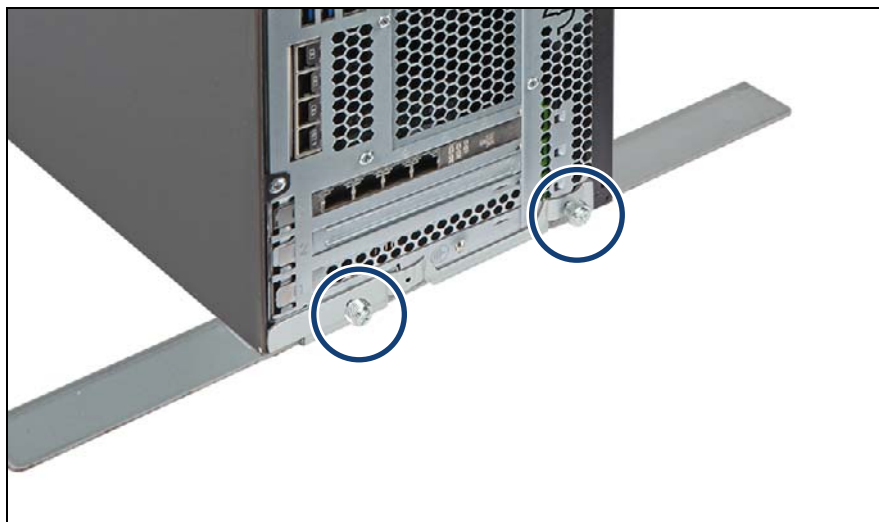


図 54: フットスタンドの取り付け (B)

- ▶ フットスタンドをサーバ背面に 2 本のつまみネジで固定します。

4.12.2 フットスタンドの取り外し

- ▶ フットスタンドの 2 本のつまみネジを緩めます (54 の図を参照)。
- ▶ フットスタンドをサーバ背面から取り外します。

5 基本的なソフトウェア手順

5.1 保守作業の開始

5.1.1 BitLocker 機能の中断

BitLocker ドライブ暗号化は、内容を暗号化して、情報にアクセスするにはユーザに資格情報の認証を要求して、OS とデータドライブを保護します。オペレーティングシステムドライブでは、BitLocker は互換性のある Trusted Platform Module (TPM) を使用してコンピュータの起動プロセスが元の状態から変更されているかどうかを検出します。



互換性のある TPM を使用せずに BitLocker を使用方法の追加情報については、<http://technet.microsoft.com/library/cc731549.aspx> の「Windows BitLocker ドライブ暗号化」のページを参照してください。

BitLocker ドライブ暗号化の中断は、Windows がインストールされているドライブを暗号化せずに BitLocker 保護を解除する、一時的な手段です。BitLocker は、サーバのハードウェア構成や起動ファイルを変更する前に中断にしてください。保守手順が完了したら、再び BitLocker を再開にします。



注意！

- BitLocker 機能を有効にしてシステム構成（ハードウェアまたはファームウェア設定）を変更すると、システムにアクセスできなくなる場合があります。システムがリカバリモードになり、通常動作に戻るには 48 桁のリカバリパスワードが必要になります。

サーバの保守を行う前に、BitLocker ドライブ暗号化を中断にしてください。

- 中断にした場合、BitLocker は Trusted Platform Module (TPM) ではなくプレーンテキストのキーを使用して暗号化されたファイルを読み取ります。BitLocker を再度有効にするまで、このドライブの情報は安全ではないことに注意してください。
- ▶ システム管理者に連絡して、「コントロールパネル」の「*BitLocker* ドライブ暗号化」を使用して、システムボリ्यूムの BitLocker 保護を中断します。



これにより、BitLocker が保守のために中断されます。ボリ्यूムは復号化されず、キーは破棄されません。

Windows Server 2008

- ▶ 「スタート」 ボタンをクリックして、「コントロールパネル」から「セキュリティ」を選択し、「BitLocker ドライブ暗号化」をクリックして、BitLocker ドライブ暗号化を開きます。
- ▶ システムボリュームを選択して「BitLocker をオフにする」をクリックします。
- ▶ 「BitLocker ドライブ暗号化」ダイアログで「BitLocker を無効します」をクリックします。

Windows Server 2008 R2 以降

- ▶ 「スタート」 ボタンをクリックして、「コントロールパネル」から「システムとセキュリティ」を選択し、「BitLocker ドライブ暗号化」をクリックして、BitLocker ドライブ暗号化を開きます。
- ▶ システムボリュームを選択して「保護の中断」をクリックします。
- ▶ 「はい」をクリックして、BitLocker の中断中にデータが保護されないことを確認します。



BitLocker セットアップウィザードからアクセスできる機能を指定するには、BitLocker グループポリシーの設定を変更する必要がある場合があります。

BitLocker ドライブ暗号化を中断する方法については、Microsoft TechNet ライブラリ (<http://technet.microsoft.com/library/cc731549.aspx>) を参照してください。

Fujitsu のサービスパートナーは、Fujitsu Extranet Web ページで詳細情報をご確認ください（日本語版もあります）。

5.1.2 SVOM Boot Watchdog 機能の無効化

ServerView Operations Manager boot watchdog は、あらかじめ設定した時間内にサーバが起動するかどうかを判定します。Watchdog タイマーが切れると、システムは自動的にリブートします。

5.1.2.1 Boot watchdog 設定の表示

BIOS での Boot watchdog 設定の表示

- ▶ BIOS に移行します。

- ▶ 「*Server Mgmt*」メニューを選択します。
- ▶ 「*Boot Watchdog*」に、現在の watchdog ステータス、タイムアウト間隔、watchdog がタイムアウトしたときにトリガされるアクションについての詳細情報が表示されます。



BIOS の詳細は、対応する『BIOS セットアップユーティリティ』リファレンスマニュアルを参照してください。

iRMC Web フロントエンドでの Boot watchdog 設定の表示

- ▶ ServerView iRMC Web フロントエンドに移動します。
- ▶ 「サーバ管理情報」メニューを選択します。
- ▶ 「ウォッチドッグ設定」に、現在の watchdog ステータス、タイムアウト間隔、watchdog がタイムアウトしたときにトリガされるアクションについての詳細情報が表示されます。



iRMC 設定の詳細については、『Integrated Remote Management Controller』ユーザガイドを参照してください。

ServerView Operations Manager での Boot watchdog 設定の表示

- ▶ ServerView Operations Manager の「シングルシステムビュー」で、「ステータス表示／設定」メニューから「メンテナンス」を選択します。
- ▶ 「*ASR&R*」で「ウォッチドッグ設定」タブを選択して、現在の watchdog ステータス、タイムアウト間隔、watchdog がタイムアウトしたときにトリガされるアクションについての詳細情報を表示します。



詳細については、『ServerView Operations Manager - Server Management』ユーザガイドを参照してください。

5.1.2.2 Boot watchdog 設定の指定

ファームウェアをアップグレードするためにシステムをリムーバブルブートメディアから起動する場合は、保守作業を開始する前に Boot Watchdog を無効にしておく必要があります。それ以外の場合は、フラッシュプロセスが完了する前に Boot Watchdog でシステムがリブートされることがあります。



注意！

ファームウェアアップグレードプロセスが正常に完了しなかった場合、サーバにアクセスできなくなったり、ハードウェアが破損または破壊されたりする場合があります。

タイマー設定は BIOS 内で、または ServerView iRMC Web フロントエンドを使用して設定できます。

BIOS での Boot watchdog 設定の指定

- ▶ BIOS に移行します。
- ▶ 「*Server Mgmt*」メニューを選択します。
- ▶ 「*Boot Watchdog*」で「*Action*」設定を「*Continue*」に設定します。
- ▶ 変更を保存して BIOS を終了します。



BIOS にアクセスして設定を変更する方法については、対応する BIOS セットアップユーティリティリファレンスマニュアルを参照してください。

iRMC Web フロントエンドを使用した Boot watchdog 設定の指定

- ▶ ServerView iRMC Web フロントエンドに移動します。
- ▶ 「サーバ管理情報」メニューを選択します。
- ▶ 「ウォッチドッグ設定」で「*Boot ウォッチドッグ*」ドロップダウンリストから「*継続稼働*」を選択します。
- ▶ 「適用」をクリックして変更内容を適用します。



iRMC 設定の詳細については、『Integrated Remote Management Controller』ユーザガイドを参照してください。

5.1.3 バックアップおよび光ディスクメディアの取り出し

- ▶ システム管理者に連絡して、ドライブをサーバから取り外す前に、バックアップドライブまたは光ディスクドライブに残っているすべてのバックアップメディアまたは光メディアを取り出してください。
- ▶ バックアップメディアを通常の方法で取り出せず、ドライブを修理のために返送したり廃棄したりする前にカートリッジを取り外す必要がある場合は、手動でテープを取り出す必要があります。

「強制」テープ取り出しの詳細は、以下の [https アドレス](https://partners.ts.fujitsu.com/com/service/ps/Servers/PRIMERGY/Pages/TapeFacts.aspx) から取得できる Fujitsu サービスパートナー向けの「Tape Facts」ガイドを参照してください。

<https://partners.ts.fujitsu.com/com/service/ps/Servers/PRIMERGY/Pages/TapeFacts.aspx>

日本市場の場合、テープを強制排出する必要がある場合には、サポート部門に相談して下さい。



Fujitsu では、手動のテープ取り出し手順から生じるテープドライブおよびデータカートリッジ/テープへの破損、またはデータ損失について責任を負いません。

5.1.4 バックアップソフトウェアソリューションの検証と設定



この作業は、日本市場にのみ適用されます。

バックアップソフトウェアソリューションによっては、保守作業を開始する前に、バックアップソフトウェアドライブレストからバックアップドライブを無効または削除する必要があります。

これは、次のバックアップソフトウェアソリューションの場合です。

– BackupExec



手順は、バックアップソリューションによって異なる場合があります。詳細は、別途提供される専用のマニュアルを参照してください。

Fujitsu サービスパートナーは、該当するバックアップソフトウェアソリューションの詳細情報および関連ドキュメントを Fujitsu Extranet ページから取得できます。

5.1.5 マルチパス I/O 環境でのサーバ保守の注意事項

マルチパス I/O 環境でサーバを ServerView Suite DVD からオフラインで起動して、ServerView Update DVD を使用してオフライン BIOS/ ファームウェアアップデートを実行したり、PrimeCollect を使用して診断データを収集したりする場合、システム構成が破損してシステムが起動できなくなる危険性があります。



これはマルチパスドライバに関する Windows PE の既知の制約です。

Update Manager Express の使用

- ▶ オフライン BIOS / ファームウェアアップデートを実施する場合、事前に ServerView Update DVD または USB メモリを用意してください。

- ▶ 最新の ServerView Update DVD イメージを、Fujitsu からダウンロードします。

EMEA 市場向け

<ftp://ftp.ts.fujitsu.com/images/serverview>

日本市場向け：

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/products/note/svsdvd/dvd/>

- ▶ イメージを DVD に書き込みます。
- ▶ 起動可能な USB メモリを作成するには、『Local System Update for PRIMERGY Servers』ユーザガイドに記載されている手順に従います。
- ▶ オフライン環境で ServerView Update DVD または USB メモリを使用する前に、サーバを適切にシャットダウンして、すべての外部 I/O 接続（LAN、FC や SAS ケーブルなど）をシステムから切断してください。マウス、キーボード、ビデオケーブル、AC 電源コードのみを接続したままにしてください。



タスクの完了後に、すべての外部 I/O 接続を元の位置に再び接続できるように、それらが一意に識別できるようにしておきます。

（物理）Update DVD または USB メモリから Update Manager Express を起動するには、次の手順に従います。

- ▶ 『Local System Update for PRIMERGY Servers』ユーザガイドに記載されている手順に従って、Update DVD または USB メモリを準備します。
- ▶ 準備した Update DVD または USB メモリからサーバをブートします。

DVD： ▶ サーバの電源を入れます。

- ▶ サーバの電源を入れた直後に、Update DVD を DVD ドライブに挿入してトレイを閉じます。

USB： ▶ USB メモリをサーバに接続します。

- ▶ サーバの電源を入れます。

DVD または USB メモリからサーバがブートしない場合は、次の手順に従います。

- ▶ 前面のリセットボタンを押すか、サーバの電源を一度切断して数秒後に再び投入して、サーバをリブートします。
- ▶ サーバが起動したら、**[F12]** を押してブートメニューを表示します。
- ▶ **[↑]** および **[↓]** カーソルキーを使用してブートデバイスに DVD ドライブまたは USB メモリを選択し、**[ENTER]** を押します。

サーバが Update DVD または USB メモリからブートします。

- ▶ ブートプロセスが完了した後、使用する GUI 言語を選択します。

Update Manager Express のメインウィンドウが表示されます。

- ▶ 目的の保守作業を終了します。



詳細は、『Local System Update for PRIMERGY Servers』ユーザガイドを参照してください。

PrimeCollect の使用

PrimeCollect を起動するには、次の手順に従います。

- ▶ オフライン環境で PrimeCollect を使用する前に、サーバを適切にシャットダウンして、すべての外部 I/O 接続（LAN、FC や SAS ケーブルなど）をシステムから取り外してください。マウス、キーボード、ビデオケーブル、AC 電源コードのみを接続したままにしてください。



タスクの完了後に、すべての外部 I/O 接続を元の位置に再び接続できるように、それらが一意に識別できるようにしておきます。

- ▶ サーバの電源を入れます。
- ▶ サーバの電源を入れた直後に、DVD ドライブに ServerView Suite DVD を挿入し、ドライブトレイを閉じます。

DVD からサーバがブートしない場合は、次の手順に従います。

- ▶ 前面のリセットボタンを押すか、サーバの電源を一度切断して数秒後に再び投入して、サーバをリブートします。
- ▶ サーバが起動したら、**[F12]** を押してブートメニューを表示します。
- ▶ **[↑]** および **[↓]** カーソルキーを使用してブートデバイスに DVD ドライブを選択し、**[ENTER]** を押します。

サーバが ServerView Suite DVD からブートします。

- ▶ ブートプロセスが完了した後、使用する GUI 言語を選択します。
- ▶ 最初の Installation Manager スタートアップウィンドウで、「*Installation Manager mode*」セクションから「*PrimeCollect*」を選択します。
- ▶ 「次へ」をクリックして続行します。
- ▶ 目的の保守作業を終了します。



詳細は、『PrimeCollect』ユーザガイドを参照してください。

手順の完了

- ▶ アップデート手順または診断手順が完了した後、サーバをシャットダウンしてすべての外部 I/O 接続を再接続して、システムを通常動作に戻します。
- ▶ 必要に応じて、マルチパス環境内の残りのすべてのサーバに対してこの手順を実行します。

5.1.6 ID ランプの点灯

データセンター環境で作業している場合、サーバの前面および背面コネクタパネルにある ID ランプを使用すると、簡単に識別できます。



詳細は、[51 ページ](#)の「故障したサーバの特定」の項または『ServerView Suite Local Service Concept - LSC』マニュアルを参照してください。

フロントパネルの ID ボタンを使用する

- ▶ フロントパネルの ID ボタンを押して、ID ランプをオンに切り替えます。



詳細は、[476 ページ](#)の「フロントパネルのコントロールと表示ランプ」の項を参照してください。

iRMC Web フロントエンドの使用

- ▶ ServerView iRMC Web フロントエンドに移動します。
- ▶ 「システムの概要」で「Identify LED On」をクリックして ID ランプをオンにします。

ServerView Operations Manager を使用する

- ▶ ServerView Operations Manager の「シングルシステムビュー」で、タイトルバーの「識別灯」ボタンを押して、ID ランプをオンにします。

5.2 保守作業の完了

5.2.1 システムボード BIOS と iRMC のアップデートまたはリカバリ



日本市場では、別途指定する手順に従ってください。

システムボード、メモリ、または CPU を交換したら、BIOS と iRMC を最新バージョンにアップグレードする必要があります。最新バージョンの BIOS と iRMC は、Fujitsu サポートインターネットページから取得できます。

<http://ts.fujitsu.com/support/> (EMEA 市場向け)

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/downloads/> (日本市場向け)



Fujitsu は、BIOS アップデートによって生じるサーバへの破損またはデータ損失について責任を負いません。

5.2.1.1 システムボード BIOS のアップデートまたはリカバリ

BIOS のフラッシュ手順

- ▶ サーバの『BIOS セットアップユーティリティ』リファレンスマニュアルに記載されているように、BIOS フラッシュ手順を行います。

BIOS リカバリ手順

- ▶ サーバの『BIOS セットアップユーティリティ』リファレンスマニュアルに記載されているように、BIOS リカバリ手順を行います。

5.2.1.2 iRMC のアップデートまたはリカバリ

iRMC のフラッシュ手順

- ▶ 起動可能な iRMC ファームウェアアップデートイメージを格納した USB メモリを準備します。
- ▶ USB メモリを USB ポートに接続します。



iRMC ファームウェアを格納した USB デバイスのみを USB ポートに接続してください。その他の USB デバイスはすべて一時的に取り外してください。

- ▶ サーバを再起動します。

- ▶ システムが USB メモリを検出します。



BIOS で USB メモリを識別できない場合は、ポップアップメッセージ「Failed to boot for Emergency flash.Please Reset now」が画面中央に表示されます。

- ▶ アップデートツールメニューから以下のオプションのいずれかを選択して、iRMC のアップデートプロセスを開始してください。

Normal

既存のシステムボードをアップデートする場合は、このオプションを選択します。

Initial

iRMC のアップデート手順を行う前にシステムボードを交換した場合は、このオプションを選択します。このオプションにより、iRMC ファームウェアおよびブートローダなどの、すべての関連するフラッシュ手順が連続して行われます。



注意！


iRMC アップグレードプロセスが開始したら、中断しないでください。プロセスが中断されると、iRMC BIOS が完全に破損します。



フラッシュ後に iRMC が機能しない場合、システムを主電源から切断して再度接続します。

- ▶ フラッシュプロセスが完了したら、USB メモリを抜いてサーバを再起動します。

iRMC リカバリ手順

- ▶ 起動可能な iRMC ファームウェアアップデートイメージを格納した USB メモリを準備します。
- ▶ [54 ページ](#) の「**サーバのシャットダウン**」の項に記載されているように、サーバがシャットダウンされ、主電源から切断されていることを確認します。
- ▶ USB メモリを USB ポートに接続します。
 -  iRMC ファームウェアを格納した USB デバイスのみを USB ポートに接続してください。その他の USB デバイスはすべて一時的に取り外してください。
- ▶ フロントパネルの ID ボタンを押しながら、サーバを主電源に接続します。必要に応じてこの作業は 2 人で行ってください。
- ▶ 保守ランプと ID ランプが点滅し、サーバが iRMC リカバリ状態になっていることを示します。

- ▶ 電源ボタンを押します。システムが POST プロセスを開始します。



iRMC リカバリモードでは、「FUJITSU」ロゴは表示されません。

- ▶ システムが USB メモリを検出します。



BIOS で USB メモリを識別できない場合は、ポップアップメッセージ「Failed to boot for Emergency flash.Please Reset now」が画面中央に表示されます。

- ▶ アップデートツールメニューから *Recovery_L* オプションを選択して、iRMC アップデートプロセスを開始します。



注意！

iRMC アップグレードプロセスが開始したら、中断しないでください。プロセスが中断されると、iRMC BIOS が完全に破損します。



フラッシュ後に iRMC が機能しない場合、システムを主電源から切断して再度接続します。

- ▶ 電源ボタンを押して、サーバをシャットダウンします。
- ▶ サーバを主電源から切断して、iRMC リカバリ状態を終了します。

5.2.2 システム情報のバックアップ / 復元の確認

システムボードの交換時にデフォルト以外の設定が損失しないように、重要なシステム構成データのバックアップコピーがシステムボード NVRAM からシャーシ ID EPROM に自動的に保存されます。システムボードを交換した後、バックアップデータはシャーシ ID ボードから新しいシステムボードに復元されます。

バックアップまたは復元プロセスが正常に実行されたかどうかを確認するため、ServerView Operations Manager を使用してシステムイベントログ (SEL) をチェックします (122 ページの「システムイベントログ (SEL) の表示と消去」の項も参照)。

システムボードの交換後

- ▶ 122 ページの「システムイベントログ (SEL) の表示と消去」の項に記載されているように SEL ログファイルをチェックして、シャーシ ID EPROM のバックアップデータがシステムボードに復元されているかどうかを確認します。

Chassis IDPROM: Restore successful

シャーシ ID EPROM の交換後

- ▶ 122 ページの「システムイベントログ (SEL) の表示と消去」の項に記載されているように SEL ログファイルをチェックして、システムボード設定のバックアップコピーがシャーシ ID EPROM に転送されているかどうかを確認します。

Chassis IDEPROM: Backup successful

5.2.3 RAID コントローラファームウェアのアップデート

RAID コントローラを交換したら、ファームウェアを最新バージョンにアップグレードする必要があります。最新バージョンの RAID コントローラファームウェアは、Fujitsu サポート Web ページから取得できます。

<http://ts.fujitsu.com/support/> (世界市場の場合)

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/downloads/> (日本市場向け)



弊社は、ファームウェアアップデートによって生じるサーバへの破損またはデータ損失について責任を負いません。

日本市場では、別途指定する手順に従ってください。

ServerView Update Manager の使用

ServerView Update Manager または Update Manager Express (UME) を使用して RAID コントローラをアップデートする方法については、次のマニュアルを参照してください。

- ServerView Update Manager:
『ServerView Update Management』 ユーザガイド
- ServerView Update Manager Express:
『Local System Update for PRIMERGY Servers』 ユーザガイド

フラッシュツールの使用

最新のファームウェアファイルは、Windows または DOS ツールの ASP (Autonomous Support Package) として Fujitsu サポート Web ページからダウンロードできます：

<http://ts.fujitsu.com/support/> (世界市場の場合)

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/downloads/> (日本市場向け)

- ▶ 「Drivers & Downloads」を選択します。

- ▶ 「*Select Product*」ドロップダウンリストからご利用の PRIMERGY サーバを選択するか、シリアル番号または ID 番号を検索フィールドに入力します。
- ▶ オペレーティングシステムとバージョンを選択します。
- ▶ 目的のコンポーネントタイプ（SAS RAID など）を選択します。
- ▶ デバイスリストからご利用のコントローラを選択し、一連の使用可能なドライバおよびファームウェアを展開します。
- ▶ 目的のファイルを選択して「*Download*」をクリックし、その後指示に従ってください。

5.2.4 Option ROM Scan の有効化

取り付けまたは交換した拡張カードを設定するには、カードの Option ROM をシステムボード BIOS で有効にする必要があります。リブート時にカードのファームウェアがシステム BIOS によって呼び出され、入力や設定を行います。

Option ROM は常時有効にする（頻繁にセットアップが必要な可能性のあるブートコントローラの場合）ことも、1 回の設定のために一次的に有効にすることもできます。コントローラの Option ROM を常時有効にする場合は、システムボードの BIOS で一度に 2 個の Option ROM しか有効にできないことに注意してください。

- ▶ BIOS に移行します。
- ▶ 「*Advanced*」メニューから「*Option ROM Configuration*」を選択します。
- ▶ 目的の PCI スロットを指定して、「*Launch Slot # OpROM*」を「*Enabled*」に設定します。
- ▶ 変更を保存して BIOS を終了します。




システムボード BIOS で同時に 2 つまで Option ROM を有効にできません。


BIOS にアクセスして設定を変更する方法については、対応する BIOS セットアップユーティリティリファレンスマニュアルを参照してください。

有効にした拡張カードがブートシーケンスの POST 段階中に初期化されると、拡張カードのファームウェアに移行するためのキーの組み合わせが一時的に表示されます。

- ▶ 表示されたキーの組み合わせを押します。

- ▶ 拡張カードのファームウェアオプションを必要に応じて変更します。
 - ▶ 変更を保存してファームウェアを終了します。
-  拡張カードの Option ROM をシステムボード BIOS で無効にできます。
- 例外：拡張カードが永続的なブートデバイスを制御する場合、カードの Option ROM は有効のままにしておく必要があります。

5.2.5 バックアップソフトウェアソリューションの検証と設定


-  この作業は、日本市場にのみ適用されます。

バックアップドライブの無効化

バックアップソフトウェアソリューションによっては、保守作業が完了してから、バックアップソフトウェアドライブレリストからバックアップドライブを無効化または削除し、バックアップジョブを再設定する必要があります。

これは、次のバックアップソフトウェアソリューションの場合です。

- Netvault for Windows
- ARCServe
- BackupExec

-  手順は、バックアップソリューションによって異なる場合があります。詳細は、別途提供される専用のマニュアルを参照してください。
- 弊社サービスパートナーは、該当するバックアップソフトウェアソリューションの詳細情報および関連ドキュメントを 弊社 Extranet ページから取得できます。

バックアップドライブの再有効化

103 ページの「バックアップソフトウェアソリューションの検証と設定」の項に記載されているように、バックアップドライブが無効になっている場合、またはバックアップソフトウェアドライブレリストから削除されている場合は、保守作業を完了するために再度有効にする必要があります。

- ▶ バックアップドライブを再度有効にして、バックアップソフトウェア設定と cronjob を変更します。



弊社サービスパートナーは、該当するバックアップソフトウェアソリューションの詳細情報および関連ドキュメントを弊社 Extranet ページから取得できます。

5.2.6 Boot Retry Counter のリセット

Boot Retry Counter は、POST watchdog がシステムリブートを実行するたびに、あらかじめ設定された値から減少していきます。値が「0」になると、システムはシャットダウンし、電源が切れます。

5.2.6.1 Boot Retry Counter の表示

現在の Boot Retry Counter のステータスは BIOS で確認できます。

- ▶ BIOS に移行します。
- ▶ 「*Server Mgmt*」メニューを選択します。
- ▶ 「*Boot Retry Counter*」に、現在残っているブート試行回数が表示されます。この値は、ブート試行の失敗や、重大なシステムエラーによるシステムリブートごとに減少します。
- ▶ BIOS を終了します。

5.2.6.2 Boot Retry Counter のリセット

サービスタスクの終了時には、Boot Retry Counter を元の値にリセットしてください。



お客様が元の Boot Retry 値を把握していない場合は、以下のことに注意してください：

システムが起動して、正常なブート試行の後 6 時間以内にエラーが発生しない場合、Boot Retry Counter は自動的にデフォルト値にリセットされます。指定されたブート試行回数は、この時間が経過した後にのみ決定されることに留意してください。

お客様が元の Boot Retry 値を知っている場合は、次の手順に従って、Boot Retry Counter をリセットまたは設定してください。

BIOS での Boot Retry Counter のリセット

- ▶ BIOS に移行します。
- ▶ 「*Server Mgmt*」メニューを選択します。

- ▶ 「*Boot Retry Counter*」で、「**+**」または「**-**」キーを押して最大ブート試行回数を指定します（0 ～ 7）。
- ▶ BIOS を終了します。

ServerView Operations Manager を使用した *Boot Retry Counter* のリセット

- ▶ ServerView Operations Manager の「*管理者設定*」ビューで、「*サーバ設定*」を選択します。
- ▶ SVOM で複数のサーバが設定されている場合は、ターゲットサーバを選択し、「*次へ*」をクリックします。
- ▶ 「*サーバ設定*」メニューペインから、「*再起動オプション*」を選択します。
- ▶ 「*再起動リトライ*」の「*デフォルトの再起動リトライ回数*」フィールドで、最大起動試行回数（0 ～ 7）を指定します。

iRMC Web フロントエンドを使用したブートリトライカウンタのリセット

- ▶ ServerView iRMC Web フロントエンドに移動します。
- ▶ 「*サーバ管理情報*」メニューを選択します。
- ▶ 「*ASR&R オプション*」で、以下の *Boot Retry Counter* の設定を行うことができます。
 - ▶ 「*リトライカウンタ最大値*」で、OS をブートする最大試行回数を指定します（0 ～ 7）。
 - ▶ 「*リトライカウンタ*」に、現在残っているブート試行回数が表示されます。*Boot Retry Counter* をリセットするには、この値を上で指定したブート試行回数で上書きします。
- ▶ 「*適用*」をクリックして変更内容を適用します。



iRMC 設定の詳細については、『Integrated Remote Management Controller』ユーザガイドを参照してください。

5.2.7 メモリモジュールまたはプロセッサの交換後のエラーステータスのリセット

5.2.7.1 メモリモジュール

メモリエラーの場合、ServerView Operations Manager によって故障したメモリモジュールが報告されることがあります。



注意事項

故障したモジュールを交換した後、エラーカウンターが自動的にリセットされているか確認してください。メモリスロットが故障しているようにまだ示される場合は、以下のいずれかを使用してエラーカウンターを手動でリセットしてください。

iRMC Web フロントエンドの使用

- ▶ ServerView iRMC Web フロントエンドに移動します。
- ▶ 「*System Information*」メニューを選択します。
- ▶ 「*System Components*」で、影響を受けるメモリモジュールの横にあるチェックボックスを選択します。
- ▶ ドロップダウンリストから「*Reset Error Counter*」を選択します。
- ▶ 「適用」をクリックして変更内容を適用します。

ServerView Maintenance Tools の使用（Windows のみ）

- ▶ ServerView Maintenance Tool の起動
 - Windows Server 2008 R2 以前：
「スタート」>「(すべての) プログラム」>「*Fujitsu*」>
「*ServerView Suite*」>「*Agents*」>「*Maintenance Tools*」
 - Windows Server 2012 以降：
「スタート」>「アプリ」>「*Fujitsu*」>「*Maintenance Tools*」
- ▶ メモリステータスタブを選択します。
- ▶ 故障発生予測ステータスが表示されるメモリモジュールを選択します。
- ▶ 「*Reset Status*」をクリックします。



「*Reset Status*」ボタンは、選択したメモリモジュールにエラーがある場合のみ使用できます。

- ▶ すべての故障発生予測 / 故障ステータスの問題が解決されていることを ServerView Operations Manager で確認します。

コマンドラインの使用 (Linux のみ)

ServerView Agents for Linux に含まれる `meclear` ユーティリティを使用して、メモリカウンターをリセットできます。



`meclear` (Memory Module Error Counter Reset Utility) を使用して、メモリモジュールの交換後などに、メモリモジュールについて収集されたエラーカウンターをリセットできます。

詳細については、`meclear` マニュアルページを参照してください。

- ▶ ルートとしてログインします。
- ▶ 次のコマンドを入力して **ENTER** を押します。
`/usr/sbin/meclear`
- ▶ ステータスが「OK」または「Not available」以外のメモリモジュールの番号を選択します。
- ▶ すべてのメモリモジュールに「OK」ステータスが表示されるようになるまで上記手順を繰り返します。
- ▶ すべての故障発生予測 / 故障ステータスの問題が解決されていることを ServerView Operations Manager で確認します。

5.2.7.2 プロセッサ

重大なエラーの場合、ServerView Operations Manager によって故障したプロセッサが報告されることがあります。



注意事項

故障した CPU の交換後に、以下のいずれかの方法を使用してエラーカウンターを手動でリセットしてください。

ServerView Maintenance Tools の使用 (Windows のみ)

- ▶ ServerView Maintenance Tool の起動
 - Windows Server 2008 R2 以前：
「スタート」> 「(すべての) プログラム」> 「Fujitsu」> 「ServerView Suite」> 「Agents」> 「Maintenance Tools」
 - Windows Server 2012 以降：
「スタート」> 「アプリ」> 「Fujitsu」> 「Maintenance Tools」

- ▶ CPU ステータスタブを選択します。
- ▶ 故障発生予測ステータスが表示される CPU を選択します。
- ▶ 「Reset Status」をクリックします。
- ▶ すべての故障発生予測 / 故障ステータスの問題が解決されていることを ServerView Operations Manager で確認します。

コマンドラインの使用 (Linux のみ)

次の手順の従って、特定のプロセッサのエラーカウンタをリセットします。

- ▶ ルートとしてログインします。
- ▶ 次のコマンドを入力して **[ENTER]** を押します。
 - ラックサーバ、またはタワーサーバの場合 (RX および TX サーバ) :
`/usr/sbin/eecdcp -c oc=0609 oi=<CPU#>`
 - ブレードサーバ、またはスケールアウトサーバの場合 (BX および CX サーバ) :
`/usr/sbin/eecdcp -c oc=0609 oi=<CPU#> cab=<cabinet nr>`

キャビネット番号を識別できるように、次のコマンドを入力して **[ENTER]** を押します :

`/usr/sbin/eecdcp -c oc=E204`



<CPU#> の入力値は、CPU1 の場合は「0」、CPU2 の場合は「1」です。

- ▶ 上記の方法でエラーステータスをリセットできない場合は、以下の手順ですべてのプロセッサのエラーカウンタをリセットしてください。
 - ▶ ルートとしてログインします。
 - ▶ 次のコマンドを入力して **[ENTER]** を押します。
 1. `/etc/init.d/srvmagt stop`
`/etc/init.d/srvmagt_scs stop`
`/etc/init.d/eecd stop`
`/etc/init.d/eecd_mods_src stop`
 2. `cd /etc/srvmagt`
 3. `rm -f cehist.bin`
 4. `/etc/init.d/eecd_mods_src start`
`/etc/init.d/eecd start`
`/etc/init.d/srvmagt start`

```
/etc/init.d/srvmagt_scs start
```

- ▶ すべての故障発生予測 / 故障ステータスの問題が解決されていることを ServerView Operations Manager で確認します。

5.2.8 ファンテストの実施



故障したファンの交換についての注意事項

故障したシステムファン及びファンが故障した電源ユニットを交換した後、次のファンテストまでファンエラー表示ランプが点灯し続けます。デフォルトでは、ファンテストは 24 時間おきに自動的に開始されます。ファン交換後の初回ファンテスト実行後にファンエラー表示ランプは消灯します。

ファン交換後にファンテストを手動で開始させる場合は、以下の方法により実行します。

iRMC Web インターフェースによるファンテストの実行

- ▶ iRMC Web インターフェースへログインします。
- ▶ メニューから「センサ」-「ファン」を選択します。
- ▶ 交換したファンをシステムファングループで選択し、「ファン回転数テスト開始ボタン」を選択します。




iRMC 設定の詳細については、『Integrated Remote Management Controller』ユーザーガイドを参照してください。


ServerView Operations Manager によるファンテストの実行

- ▶ ServerView Operations Manager を起動し、ログインします。
- ▶ 「管理者設定」で「サーバの設定」を選択します。
- ▶ 「サーバリスト」タブの階層ツリーで、設定するサーバを選択します。
- ▶ ウィンドウの右側で選択したサーバの詳細を指定し、「次へ」をクリックして入力を確認します。
ウィンドウの左側で「設定」タブがアクティブになります。
- ▶ 「設定」タブのナビゲーションエリアで、「その他の設定」を選択します。
- ▶ 「ファンテスト時刻」を現時刻から数分後に設定します。（元の設定時刻を控えておくこと）

- ▶ 「ページ保存」をクリックします。
ファンテストは指定した時刻に実行されます。
- ▶ ファンテスト実行後、設定時刻を元の時刻に戻して、「ページ保存」をクリックします。

 詳細については、『ServerView Operations Manager』ユーザーガイドを参照してください。

シャーシ ID Prom Tool によるファンテストの実行（日本市場の場合）

 日本市場では、別途指定する手順に従ってください。


5.2.9 SVOM Boot Watchdog 機能の有効化

ServerView Operations Manager boot watchdog 機能がファームウェアアップデートのために無効にされている場合（[100 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」](#)の項を参照）、保守作業を完了するには有効にする必要があります。

タイマー設定は BIOS 内で、または ServerView iRMC Web フロントエンドを使用して設定できます。

BIOS での Boot watchdog 設定の指定

- ▶ BIOS に移行します。
- ▶ 「Server Mgmt」メニューを選択します。
- ▶ 「Boot Watchdog」で「Action」設定を「Reset」に設定します。
- ▶ 変更を保存して BIOS を終了します。

 BIOS にアクセスして設定を変更する方法については、対応する BIOS セットアップユーティリティリファレンスマニュアルを参照してください。

iRMC Web フロントエンドを使用した Boot watchdog 設定の指定

- ▶ ServerView iRMC Web フロントエンドに移動します。
- ▶ 「サーバ管理情報」メニューを選択します。
- ▶ 「ウォッチドッグ設定」で、Boot ウォッチドッグの横のチェックボックスが選択されているかを確認します。ドロップダウンリストから「リセット」を選択し、目的のタイムアウト遅延を指定します。

- ▶ 「適用」をクリックして変更内容を適用します。



iRMC 設定の詳細については、『Integrated Remote Management Controller』ユーザガイドを参照してください。

5.2.10 交換した部品のシステム BIOS での有効化

プロセッサ、拡張カード、またはメモリモジュールが故障した場合、故障した部品はシステム BIOS で「Disabled」または「Failed」に設定されます。サーバは、システム構成内の残りの故障していないハードウェア部品のみでリブートします。故障した部品を交換した後、システムボード BIOS で有効に戻す必要があります。

- ▶ BIOS に移行します。
- ▶ 「Advanced」メニューを選択します。
- ▶ 該当する部品のステータスメニューを選択します。

- プロセッサ：CPU Status



このオプションは、マルチプロセッサシステムでのみ使用できます。

- メモリ：Memory Status

- 拡張カード：PCI Status

- ▶ 交換した部品を「Enable」にリセットします。
- ▶ 変更を保存して BIOS を終了します。



BIOS にアクセスして設定を変更する方法については、対応する BIOS セットアップユーティリティリファレンスマニュアルを参照してください。

5.2.11 メモリモードの確認


メモリモジュールが故障した場合、サーバはリブートし、故障したモジュールは無効になります。この結果、同一メモリモジュールのペアが使用できなくなり、現行の動作モード（ミラーチャネルモードなど）が使用できなくなることがあります。この場合、動作モードは自動的にインデペンデントチャネルモードに戻ります。



サーバで利用できるメモリ動作モードの詳細は、[300 ページの「メモリの取り付け順序」](#)の項を参照してください。

故障したモジュールを交換した後、メモリ動作モードは自動的に元の状態にリセットされます。動作モードが正しいことを確認することを推奨します。

- ▶ BIOS に移行します。
- ▶ 「*Advanced*」メニューを選択します。
- ▶ 「*Memory Status*」で、「*Failed*」になっているメモリモジュールがないことを確認します。
- ▶ 変更を保存して（該当する場合）、BIOS を終了します。

 BIOS にアクセスして設定を変更する方法については、対応する BIOS セットアップユーティリティリファレンスマニュアルを参照してください。


5.2.12 システム時刻設定の確認

 この作業は、Linux 環境にのみ適用されます。


システムボードを交換した後、システム時刻が自動的に設定されます。デフォルトで、RTC（Real Time Clock：リアルタイムクロック）標準時間がローカル時刻として設定されています。

Linux OS を使用し、ハードウェアクロックが OS で UTC（Universal Time, Coordinated：協定世界時）に設定されている場合、BMC ローカル時刻が正しくマッピングされないことがあります。

- ▶ システムボードを交換した後、RTC または UTC 標準時間がシステム時刻として使用されているか、システム管理者に問い合わせてください。

 システム時刻（RTC）が UTC に設定されている場合、SEL（システムイベントログ）タイムスタンプがローカル時刻と異なる場合があります。

- ▶ BIOS に移行します。
- ▶ 「*Main*」メニューを選択します。
- ▶ 「*System Time*」と「*System Date*」で正しい時刻と日付を指定します。

 デフォルトでは、BIOS に設定されるシステム時刻は RTC（Real Time Clock）ローカル時刻です。IT インフラが普遍的に受け入れた時間標準に依存している場合は、代わりに「*System Time*」を UTC

(Universal Time, Coordinated : 協定世界時) に設定します。GMT (Greenwich Mean Time : グリニッジ標準時) は、UTC に相当すると考えることができます。

- ▶ 変更を保存して BIOS を終了します。



BIOS にアクセスして設定を変更する方法については、対応する BIOS セットアップユーティリティリファレンスマニュアルを参照してください。

5.2.13 システムイベントログ (SEL) の表示と消去

5.2.13.1 SEL を表示する

システムイベントログ (SEL) は、ServerView Operations Manager または ServerView iRMC Web フロントエンドを使用して表示できます。

SEL を ServerView Operations Manager で表示する


- ▶ ServerView Operations Manager の「シングルシステムビュー」で、「ステータス表示／設定」メニューから「メンテナンス」を選択します。
- ▶ 「メンテナンス」で「システムイベントログ」を選択します。
- ▶ 表示するメッセージタイプを選択します。
 - 重大イベント
 - 重度のイベント
 - 軽度のイベント
 - 情報イベント



SVOM ドライブモニタに関する注意事項


「ドライブモニタ」ビューには、監視対象のコンポーネントの概要と、管理対象サーバのシステムイベントログに記録された関連するイベントが表示されます。

「監視コンポーネント」には、監視対象コンポーネントの一覧が表示されます。コンポーネントに「警告」または「エラー」ステータスが表示される場合は、それを選択して「承認」をクリックします。これにより、サーバ側のイベントを確認します。事前にサーバにログオンしておく必要がある場合があります。これで、コンポーネントのステータスは「ok」に設定されます。新しいステータスを確認するには、「ドライブモニタ」ビューを「更新」でリフレッシュします。

-  ServerView Operations Manager を使用して SEL を表示およびソートする方法については、『ServerView Operations Manager - Server Management』ユーザーガイドを参照してください。

SEL iRMC Web フロントエンドを使用して SEL を表示する


- ▶ ServerView iRMC Web フロントエンドに移動します。
- ▶ 「イベントログ」を選択して「iRMC S4 ログの表示」サブメニューを選択します。
- ▶ 「iRMC S4 イベントログ内容」に SEL が表示されます。リストをフィルタリングするには、目的のイベントタイプの横のチェックボックスを選択して「Apply」を押し、変更内容を適用します。

-  iRMC 設定の詳細については、『Integrated Remote Management Controller』ユーザガイドを参照してください。

5.2.13.2 SEL をクリアする

システムイベントログ (SEL) をクリアするには、ServerView iRMC Web フロントエンドを使用します。

- ▶ ServerView iRMC Web フロントエンドに移動します。
- ▶ 「イベントログ」を選択して「iRMC S4 ログの表示」サブメニューを選択します。
- ▶ 「iRMC S4 イベントログ情報」で「イベントログのクリア」をクリックして SEL をクリアします。

-  iRMC 設定の詳細については、『Integrated Remote Management Controller』ユーザガイドを参照してください。


5.2.14 Linux 環境での NIC 構成ファイルのアップデート

ネットワークデバイス名 (*eth<x>*) の変更によるエラーを防止するため、ネットワークインタフェースカードの MAC アドレス (ハードウェアアドレス) を Linux OS の対応する NIC 構成ファイルに保存することを推奨します。

Linux OS を実行するサーバで、ネットワークコントローラまたはオンボード LAN コントローラを搭載したシステムボードを交換すると、MAC アドレスは変更されますが、定義ファイル内で自動的に更新されません。


通信の問題を防止するため、対応する *ifcfg-eth<x>* 定義ファイルに保存されている変更した MAC アドレスを更新する必要があります。

MAC アドレスを更新するには、次の手順に従います。


 使用している Linux OS またはクライアントシステム上の定義ファイルに応じて、手順は異なることがあります。次の情報を参考として使用してください。システム管理者に定義ファイルを変更するよう依頼してください。

- ▶ ネットワークコントローラまたはシステムボードを交換した後、[82 ページの「サーバの電源投入」](#)の項に記載されているようにサーバの電源を入れて起動します。

kudzu (Red Hat Linux 向けのハードウェア構成ツール) がブート時に起動して、システム上の新規または変更されたハードウェアを検出します。

 クライアント環境によっては、*kudzu* はブート時に起動しません。

- ▶ 「Keep Configuration」を選択して「Ignore」を選択し、ブートプロセスを完了します。
- ▶ *vi* テキストエディタを使用して、*ifcfg-eth<x>* ファイルの HWADDR セクションで MAC アドレスを指定します。

 MAC アドレスは、システムボードまたはネットワークコントローラに貼付されているタイプラベルに記載されています。

例:

ネットワークコントローラ 1 の定義ファイルを変更するには、次のコマンドを入力します。

```
# vi /etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-eth1
```

vi で、新しい MAC アドレスを次のように指定します。

```
HWADDR=xx:xx:xx:xx:xx:xx
```


- ▶ 定義ファイルを保存して閉じます。
- ▶ 変更を反映させるには、次のコマンドを入力してネットワークをリブートする必要があります。

```
# service network restart
```

i システムボードまたはネットワークコントローラに複数の LAN ポートがある場合、残りの *ifcfg-eth<x>* 定義ファイルをそれぞれ更新する必要があります。

- ▶ NIC 構成ファイルを更新して、新しいカードシーケンスと MAC アドレスを反映させます。

5.2.15 BitLocker 機能の再開

BitLocker ドライブ暗号化が保守のために中断にされている場合（99 ページの「[BitLocker 機能の中断](#)」）、サービスタスクを完了するには有効に戻す必要があります。

i 部品交換の前に BitLocker ドライブ暗号化が中断にされている場合は、保守作業の後にサーバをリブートするときにリカバリキーの入力を求められません。

ただし、BitLocker 機能が中断にされていない場合、Windows はリカバリモードになり、ブートを続行するためにリカバリキーの入力を要求します。

- ▶ この場合、システム管理者に問い合わせ、OS をブートするためにリカバリキーを入力します。
- ▶ システム管理者に連絡して、「コントロールパネル」の「*BitLocker* ドライブ暗号化」を使用して、中断にされているシステムボリュームの BitLocker 保護を有効します。

Windows Server 2008

- ▶ 「スタート」ボタンをクリックして、「コントロールパネル」から「セキュリティ」を選択し、「*BitLocker* ドライブ暗号化」をクリックして、BitLocker ドライブ暗号化を開きます。
- ▶ システムボリュームを選択して「*BitLocker* をオンにする」をクリックします。

Windows Server 2008 R2 以降

- ▶ 「スタート」ボタンをクリックして、「コントロールパネル」から「システムとセキュリティ」を選択し、「BitLocker ドライブ暗号化」をクリックして、BitLocker ドライブ暗号化を開きます。
- ▶ システムボリュームを選択して「保護の再開」をクリックします。

i BitLocker ドライブ暗号化を再開にする方法については、Microsoft TechNet ライブラリ (<http://technet.microsoft.com/library/cc731549.aspx>) を参照してください。

Fujitsu のサービスパートナーは、Fujitsu Extranet Web ページで詳細情報をご確認ください（日本語版もあります）。

5.2.16 RAID アレイのリビルドの実行

RAID アレイに組み込まれているハードディスクドライブを交換した後、RAID リビルドがバックグラウンドプロセスで完全に自動実行されます。

- ▶ RAID アレイのリビルドが正常に開始したことを確認します。プログレスバーで最低 1%進捗したことまで待機します。
- ▶ お客様には、リビルドが完了するまでの残り時間が、表示される概算時間に基づいて通知されます。

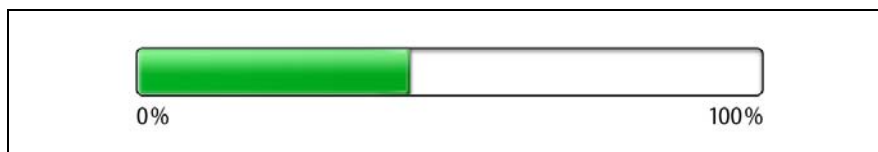


図 55: プログレスバー（RAID アレイのリビルド）




注意！

システムはこれで動作するようになりますが、RAID アレイのリビルドが完了するまでデータ冗長性は利用できなくなります。ハードディスクドライブの容量によって、全体的な処理に数時間かかる可能性があります。場合によっては数日かかります。

i リビルド中は、わずかにパフォーマンスに影響が出ることがあります。


5.2.17 変更された MAC/WWN アドレスの検索

ネットワークコントローラを交換すると、MAC（Media Access Control）アドレスと WWN（World Wide Name）アドレスが変更されます。

 下記の手順以外にも、MAC/WWN アドレスを、ネットワークコントローラまたはシステムボードに貼付されているタイプラベルで確認することができます。

5.2.17.1 MAC アドレスの検索

- ▶ ServerView iRMC Web フロントエンドに移動します。
- ▶ 「*System Information*」メニューを選択します。
- ▶ 「*Network Inventory*」に、MAC アドレスなどの、管理対象の PRIMERGY サーバの各ネットワークコントローラに関する情報が表示されます。

 この情報は、iRMC S4 以降にのみ該当します。
Command Line Protocol (CLP) をサポートするネットワークコントローラのみ表示されます。

- ▶ 変更された MAC アドレスをお客様に伝えてください。

5.2.17.2 WWN アドレスの検索

Emulex FC/FCoE アダプタ

- ▶ 111 ページの「[Option ROM Scan の有効化](#)」の項に記載されているように、システムボードの BIOS でネットワークコントローラの Option ROM を有効にします。
- ▶ サーバを再起動します。
- ▶ ブート中に、Emulex BIOS ユーティリティオプションが表示されたらすぐに、**[ALT]+[E]** または **[CTRL]+[E]** を押します。
- ▶ 「*Emulex Adapters in the System*」に、使用可能な Emulex アダプタとその WWN がすべて表示されます。
- ▶ 新しい 16 桁の WWN アドレスをメモします。
- ▶ 「**[Esc]**」を押して Emulex BIOS ユーティリティを終了します。
- ▶ 変更された WWN アドレスをお客様に伝えてください。

QLogic FC アダプタ

- ▶ 111 ページの「Option ROM Scan の有効化」の項に記載されているように、システムボードの BIOS でネットワークコントローラの Option ROM を有効にします。
- ▶ サーバを再起動します。
- ▶ ブート中に、QLogic BIOS ユーティリティオプションが表示されたらすぐに、**[ALT]+[Q]** または **[CTRL]+[Q]** を押します。
- ▶ 「*Select Host Adapter*」で、矢印キー **[↑]/[↓]** を使用して目的の FC/FCoE アダプタを選択して「**[Enter]**」を押します。
- ▶ 「*Fast!UTIL Options*」メニューから「*Configuration Settings*」を選択して「**[Enter]**」を押します。
- ▶ 「*Configuration Settings*」メニューから「*Adapter Settings*」を選択して「**[Enter]**」を押します。
- ▶ 「*Adapter Port Name*」に表示される新しい 16 桁の WWN アドレスをメモします。
- ▶ **[Esc]** を押してメインメニューに戻り、QLogic BIOS ユーティリティを終了します。
- ▶ 変更された WWN アドレスをお客様に伝えてください。

5.2.18 シャーシ ID Prom Tool の使用

専用シャーシ ID ボードまたはサーバのフロントパネルボードにあるシャーシ ID EPROM には、サーバ名やモデル、サーバ本体のタイプ、シリアル番号、製造データなどの、システム情報が格納されています。

システムを ServerView マネジメント環境に取り込んで ServerView Installation Manager を使用してサーバをインストールできるようにするには、システムデータが完全で正確である必要があります。

シャーシ ID EPROM を交換した後、システム情報を シャーシ ID Prom ツールを使用して入力する必要があります。保守担当者は、ツールと詳細な手順を Fujitsu Technology Solutions 公開 から入手できます。

<https://partners.ts.fujitsu.com/com/service/ps/Servers/PRIMERGY/>

- ▶ ページのメインエリアから PRIMERGY システムを選択します。
- ▶ カテゴリーの選択から、「*Software & Tools Documentation*」を選択します。

- ▶ ファイルをダウンロードする際に、「Tools」エリアで「Tools: Chassis-IDProm Tool」をクリックします（*tool-chassis-Idprom-Tool.zip*）。



日本市場では、別途指定する手順に従ってください。

Advanced Thermal Design（ATD）の注意事項



サーバに Advanced Thermal Design（ATD）のオプションは使用でき、有効にされた場合、同様のシャーシ ID Prom Tool の情報を設定してください。



ATD オプションは出荷時のデフォルトとしてメーカーのみに発注できます。レーティングプレート上の ATD ロゴをチェックして、サーバの ATD の可能を特定します。

Advanced Thermal Design（ATD）の詳細は、サーバのオペレーティングマニュアルを参照してください。



注意！

ATD フラグの設定しできないことに注意してください。シャーシ ID Prom Tool を使用して ATD フラグのリセットはできません。

5.2.19 LAN チーミングの設定

ServerView Operations Manager を使用して、既存の LAN チームの詳細情報を取得します。

- ▶ ServerView Operations Manager の「シングルシステムビュー」で、「ステータス表示／設定」メニューから「システムステータス」を選択します。
- ▶ 「ネットワークインターフェース」で「作成した LAN チーム」を選択します。
- ▶ 「ネットワークインタフェース（概要）」の概要に、設定されたすべての LAN チームとそのコンポーネントが表示されます。詳細を表示する LAN チームを選択します。
 - LAN チームプロパティ：選択した LAN チームのプロパティ
 - LAN チーム統計：選択した LAN チームで利用できる統計



詳細については、『ServerView Operations Manager - Server Management』ユーザーガイドを参照してください。

5.2.19.1 LAN コントローラを交換またはアップグレードした後

交換した LAN コントローラを再利用するには、次の点に注意してください。

- ▶ 交換した LAN コントローラが LAN チーミング構成の一部として使用されていたかどうかをお客様と確認します。
- ▶ LAN チーミングがアクティブな場合、LAN ドライバユーティリティを使用して LAN コントローラを交換した後、構成を復元する必要があります。

お客様の要件に従って、コントローラがプライマリまたはセカンダリとして割り当てられていることを確認します。



詳細は、該当する LAN ドライバのマニュアルを参照してください。

5.2.19.2 システムボードの交換後

- ▶ 交換したオンボード LAN コントローラが LAN チーミング構成の一部として使用されていたかどうかをお客様と確認します。
- ▶ LAN チーミングがアクティブな場合、LAN ドライバユーティリティを使用してシステムボードを交換した後、構成を復元する必要があります。



詳細は、該当する LAN ドライバのマニュアルを参照してください。

5.2.20 ID ランプの消灯

フロントパネルの ID ボタンを押すか、iRMC Web フロントエンドまたは ServerView Operations Manager を使用して、保守作業が正常に完了した後に ID ランプをオフにします。



詳細は、[51 ページの「故障したサーバの特定」](#)の項、または『ServerView Suite Local Service Concept - LSC』マニュアルおよび『Integrated Remote Management Controller』ユーザガイドを参照してください。

フロントパネルの ID ボタンを使用する

- ▶ フロントパネルの ID ボタンを押して、ID ランプをオフにします。

iRMC Web フロントエンドの使用

- ▶ ServerView iRMC Web フロントエンドに移動します。
- ▶ 「システムの概要」で「Identify LED Off」をクリックして ID ランプをオフにします。

ServerView Operations Manager を使用する

- ▶ ServerView Operations Manager の「シングルシステムビュー」で、タイトルバーの「識別灯」ボタンを押して、ID ランプをオフにします。

5.2.21 シャーシモデルの指定

シャーシの変更後に、サーバを ServerView マネジメントのユーザインタフェースにラックとして正しく表示するには、シャーシモデルの設定をアップデートする必要があります。

これは、ServerView Installation Manager または Maintenance Tool を使用して行います。

ServerView Installation Manager の使用

- ▶ システムを ServerView Suite DVD からブートします。ServerView Installation Manager が起動します。
- ▶ 使用するユーザインタフェースの言語を選択します。
- ▶ 「Status backup media」で「No status backup」を選択し、「Continue」をクリックします。
- ▶ 「Maintenance」を選択します。
- ▶ 「Server Configuration Manager」を選択します。
- ▶ ラックモデルのボックスにチェックし、「Save」をクリックして設定を保存します。

ServerView Maintenance Tool の使用

ServerView エージェントがインストールされた Windows ベースのサーバの場合、次の手順に従います。

- ▶ 「Start」をクリックして「All Programs」をポイントし、「Fujitsu」 - 「ServerView Suite」 - 「Agents」 - 「Maintenance Tools」の順にポイントします。

- ▶ 「*Maintenance Tools*」メニューペインで「*Chassis Model Configuration*」タブをクリックします。
- ▶ 「*Convert to*」で「*Rack Model*」ボタンをクリックします。
- ▶ 「*Exit*」をクリックして「*Maintenance Tools*」メニューペインを閉じます。



ServerView エージェントのインストールの詳細については、『*ServerView Operations Manager - Installation ServerView Agents for Windows*』ユーザガイドを参照してください。

6 電源ユニット

安全上の注意事項



注意！

- 電源ユニットを分解しないでください。そのようにすると、感電の危険性があります。
- PSU の周囲は、シャットダウン後も高温のままです。サーバのシャットダウン後、高温のコンポーネントが冷却されるのを待ってから電源ユニットの取り外しを行ってください。
- 電源ユニットを取り付ける際には、電源ユニットのコネクタが破損していたり曲がっていないことを確認してください。
- 電源ユニットが取り外しにくい場合、無理に引き出さないでください。
- 電源ユニットは重いため、取り扱いには注意してください。誤って落とした場合、怪我の恐れがあります。
- 安全上の注意事項に関する詳細は、[39 ページ](#)の「**注意事項**」の章を参照してください。

6.1 基本情報

サーバには次のものを搭載できます。

- 標準電源ユニット（permanently built-in）

この電源は、主電源の電圧が 100 V - 240 V の範囲内で自動調整されます。

- または最大 2 台のホットプラグ電源ユニット（slide-in units）

基本構成では、サーバには電源ユニットが 1 台取り付けられ、100 V - 240 V の範囲の主電源電圧に自動的に調整します。電源ユニットのほか、オプションで 2 台目の電源ユニットを取り付けて、冗長電源ユニットとして機能させることができます。1 台の電源ユニットが故障しても、冗長構成の 2 台目の電源ユニットにより、動作が停止せず、続行されます。また、故障が発生した電源ユニットは、動作中に交換できます（ホットプラグ）。

- またはホットプラグ電源ユニット 1 台と Fujitsu バッテリーユニット (FJBU)

電源のほかに、オプションで FJBU をモジュール型 UPS としてインストールできます。電源障害が発生すると、当座の間、サーバは FJBU バッテリーを使用して動作します。FJBU は、動作中に交換できます（ホットプラグ）。



注意！

このサーバは、100 V - 240 V の範囲内の主電源電圧をサポートします。所在地の主電源電圧が定格電圧範囲に対応する場合のみ、サーバが動作します。

6.2 標準電源

6.2.1 標準電源ユニットの交換



フィールド交換可能ユニット
(FRU)



ハードウェア：10 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

6.2.1.1 準備手順

- ▶ [51 ページ](#) の「故障したサーバの特定」
- ▶ [99 ページ](#) の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ [54 ページ](#) の「サーバのシャットダウン」
- ▶ [55 ページ](#) の「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合：[56 ページ](#) の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合（サーバを横向きにします）：[60 ページ](#) の「サーバを開ける」
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り外します：[83 ページ](#) の「システムファンモジュールの取り扱い」

6.2.1.2 故障した標準電源ユニットの取り外し

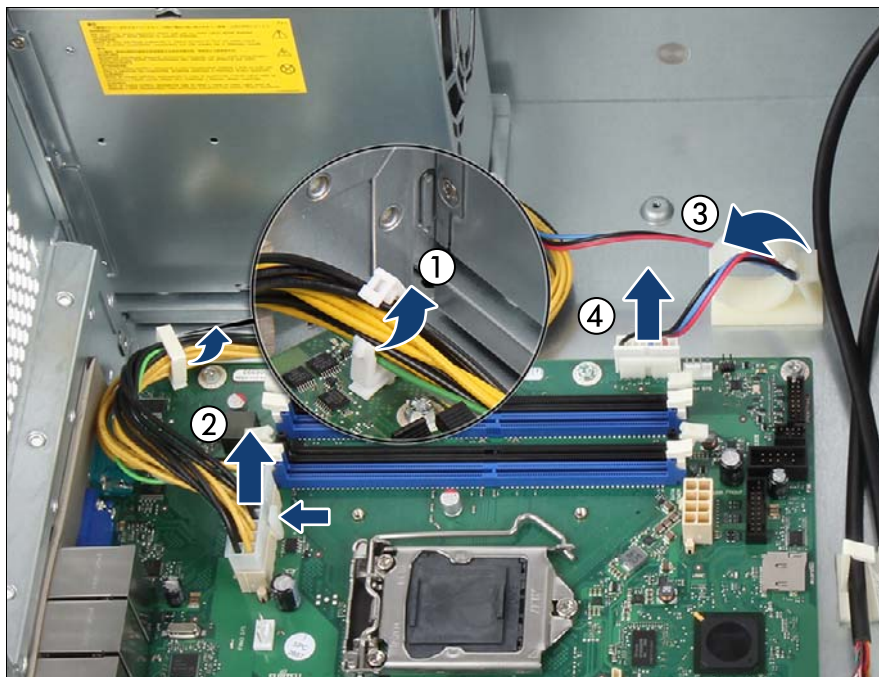


図 56: 電源ケーブルの取り外し

- ▶ 電源ケーブルクランプを開きます (1)。
- ▶ コネクタのリリースラッチを押しながら、ATX 電源コネクタを取り外します (2)。
- ▶ 電源クランプを開きます (3)。
- ▶ 電源管理コネクタを取り外します (4)。



図 57: 標準電源ユニットの取り外し

- ▶ 5本のネジ（丸で囲んだ部分）を取り外します。

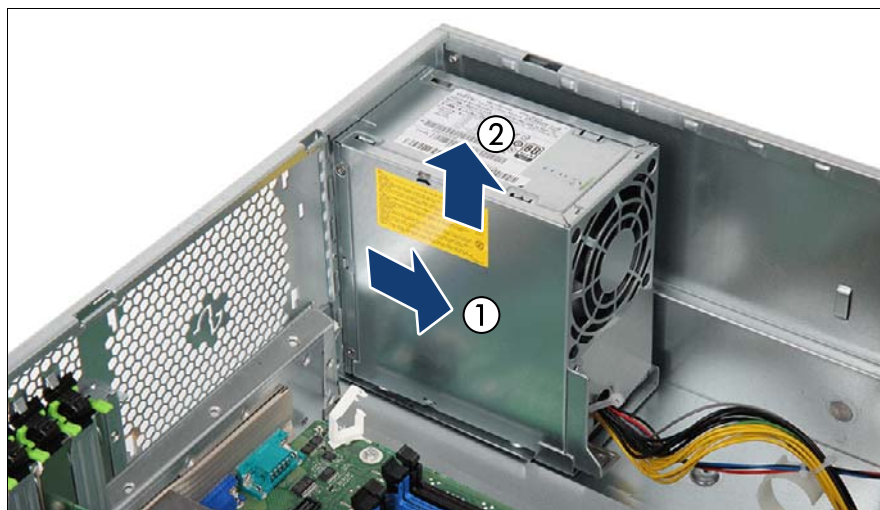


図 58: 標準電源ユニットの取り出し

- ▶ 電源ユニットをシャーシの中で 3 cm ほどスライドさせます (1)。
- ▶ 電源ユニットをシャーシから持ち上げます (2)。



図 59: 取り付けフレームの電源ユニットからの取り外し (A)

- ▶ 2本のネジ（丸で囲んだ部分）を取り外します。



図 60: 取り付けフレームの電源ユニットからの取り外し (B)

- ▶ 取り付けフレームを電源ユニットから取り外します。

6.2.1.3 新しい標準電源ユニットの取り付け



図 61: 取り付けフレームの電源ユニットへの取り付け

- ▶ 取り付けフレームを電源ユニットに取り付けます。



図 62: 取り付けフレームの電源ユニットへの固定

- ▶ 取り付けフレームを2本のネジで電源ユニットへ固定します（丸で囲んだ部分）。



図 63: 標準電源ユニットの取り付け

- ▶ サーバ底面の 2 つのフック（丸で囲んだ部分）が取り付けフレームの溝にはまるまで、電源ユニットをシャーシへ降ろします（1）。
- ▶ 電源ユニットをシャーシの背面に向かってスライドさせます（2）。
- ▶ 5 本のネジ（図 57 を参照）で電源ユニットをシャーシに固定します。
- ▶ ATX 電源コネクタをシステムボードコネクタ「PWR1」に接続します（438 ページの「電源ケーブル配線」の項を参照）。
- ▶ 電源ケーブルクランプに電源ケーブルを通します（図 56 を参照）。電源ケーブルクランプを閉じます。
- ▶ PSU 電源管理コネクタをシステムボードコネクタ PC2009 に接続します（438 ページの「電源ケーブル配線」の項を参照）。
- ▶ 電源ケーブルクランプに電源ケーブルを通します（図 56 を参照）。ケーブルクランプを閉じます。

6.2.1.4 終了手順

- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り付けます：
[83 ページ の「システムファンモジュールの取り扱い」](#)
- ▶ [69 ページ の「サーバを閉じる」](#)
- ▶ [80 ページ の「主電源へのサーバの接続」](#)
- ▶ [82 ページ の「サーバの電源投入」](#)
- ▶ [125 ページ の「BitLocker 機能の再開」](#)
- ▶ [118 ページ の「ファンテストの実施」](#)

6.3 冗長電源ユニット

6.3.1 PSU モジュールの取り付け



お客様による交換可能部品
(CRU)



ハードウェア : 5 分

工具 : 工具不要

6.3.1.1 準備手順

必要ありません。

6.3.1.2 PSU ダミーカバーの取り外し

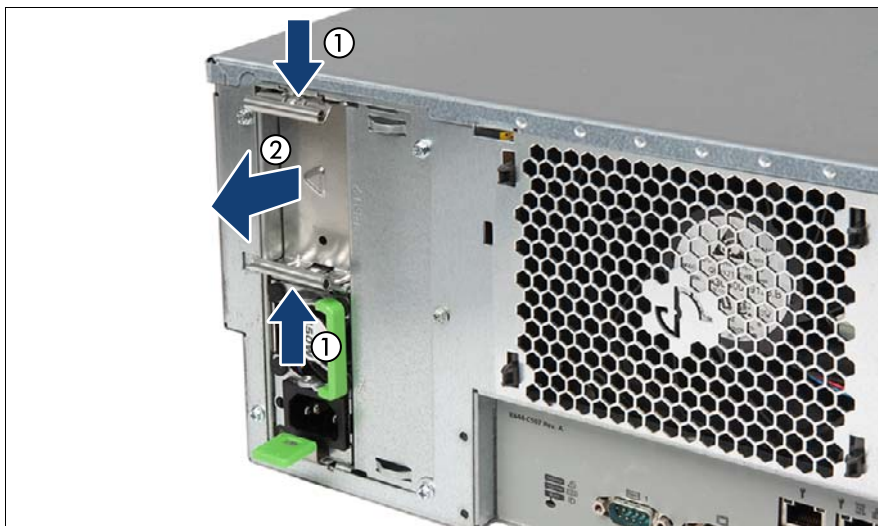


図 64: PSU ダミーカバーの取り外し

- ▶ 両方のリリースラッチを押して (1)、ダミーカバーを取り外します (2)。

**注意！**

ダミーカバーは今後使うかもしれないので、保管しておいてください。電源モジュールを取り外して、すぐに新しい電源ユニットに交換しない場合、該当する EMC 指令に準拠し、かつ冷却要件を満たすために、ダミーカバーをスロットに再び取り付けてください。

6.3.1.3 PSU モジュールの取り付け

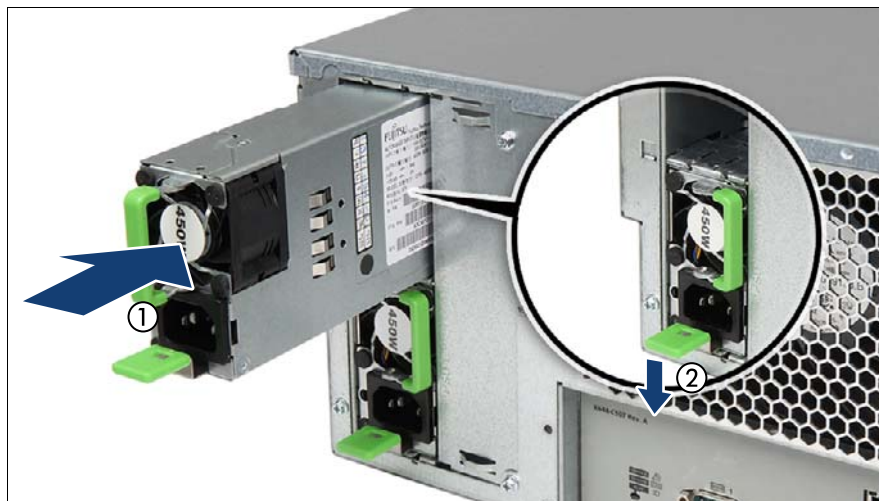


図 65: PSU モジュールの取り付け

- ▶ PSU モジュールを、ロックングラッチが所定の位置にカチッと固定されるまで (2)、スロットに押し込みます (1)。



注意！

PSU モジュールが輸送中にシャーシから飛び出さないように、PSU モジュールがスロットにしっかりと入り、固定されたことを確認します。

- ▶ 必要に応じて、PSU モジュールのハンドルを倒します。

6.3.1.4 終了手順

- ▶ 増設した電源ユニットの場合：80 ページの「主電源へのサーバの接続」

6.3.2 PSU モジュールの取り外し



お客様による交換可能部品
(CRU)



ハードウェア : 5 分

工具 : 工具不要



CMA (Cable Management Arm) を使用するサーバの注意事項

取り付けた CMA は PSU モジュールをブロックしているので、PSU モジュールの取り外しや取り付けを行うには追加の手順が必要です。

- ▶ CMA ストッパのロックを解除します。
- ▶ CMA ストッパを取り付けられているクロスバーと一緒に取り外します。
- ▶ 右手で CMA ストッパ、クロスバー、および CMA アームケーブルを支えます。
- ▶ PSU モジュールを取り外し、PSU ダミーカバーを空いているベイへ取り付けます。
- ▶ アセンブリー式 (CMA ストッパ、クロスバー、および CMA アーム) を再びレールに取り付けます。

6.3.2.1 準備手順

- ▶ [55 ページ](#) の「主電源からサーバの取り外し」の項に記載されるように、PSU モジュールから AC 電源コードを抜きます。



注意！

連続稼働を保証するために、次の指示を守ってください。

- ▶ PSU モジュールを取り外す前に、残りの PSU モジュールで、十分な電力供給がシステム構成に行われることを確認してください。
- ▶ 電源ユニットを取り外す前に、1 つ目と 2 つ目のスロットの電源モジュールがまだ動作していることを確認してください。

6.3.2.2 PSU モジュールの取り外し

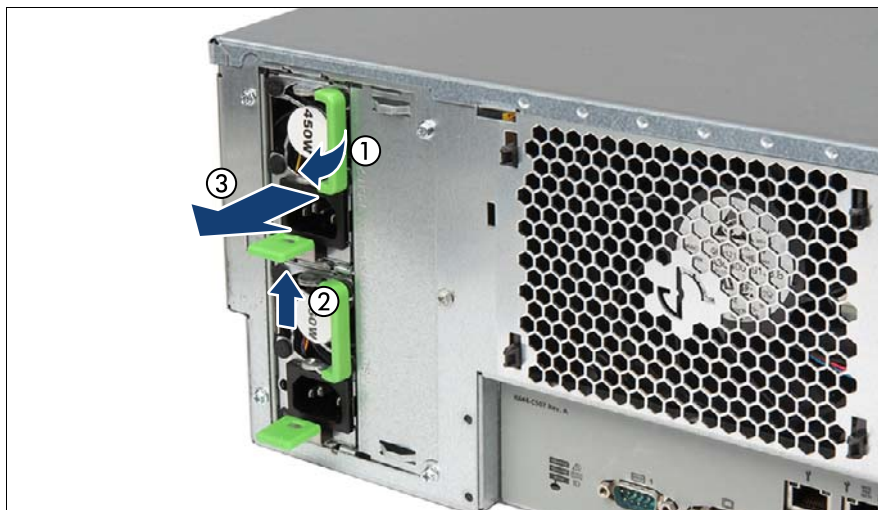


図 66: PSU モジュールの取り外し

- ▶ PSU モジュールのハンドルを持ち上げます (1)。
- ▶ 緑色のロックングラッチを押します (2)。
- ▶ 緑色のロックングラッチを押した状態で、スロットから PSU モジュールを引き出します (3)。



注意！

動作中に、PSU モジュールのベイを 2 分以上空けたままにしないでください。温度が上昇しシステムコンポーネントが破損する場合があります。

6.3.2.3 PSU のダミーカバーの取り付け

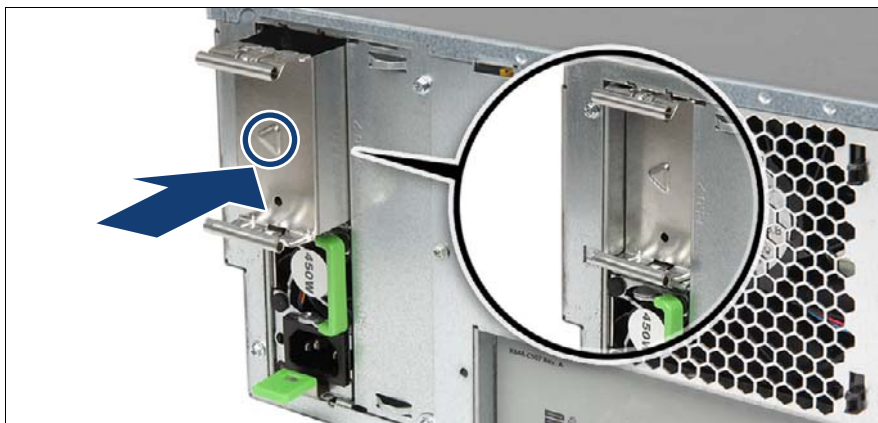


図 67: PSU のダミーカバーの取り付け

- ▶ 矢印マークを左に向けて（丸で囲んだ部分）、ダミーカバーを空いているベイに挿入します。
- ▶ 所定の位置に固定されるまで、ダミーカバーをベイに押し込みます。



注意！

該当する EMC 指令に準拠し、かつ冷却要件を満たすために、使用していない PSU スロットにダミーカバーを必ず装着してください。

6.3.3 PSU モジュールの交換



お客様による交換可能部品
(CRU)



ハードウェア : 5 分

工具 : 工具不要



注意！

- 電源ユニットを非冗長構成で交換する場合、サーバの電源を先に切っておく必要があります。
- 故障のある電源ユニットを、同じタイプの新しい電源ユニットと交換します。



CMA (Cable Management Arm) を使用するサーバの注意事項

電源ユニットの交換については、CMA ストッパと電源ユニット間の干渉のために、追加の作業が必要です。

- ▶ CMA ストッパのロックを解除します。
- ▶ CMA ストッパを取り付けられているクロスバーと一緒に取り外します。
- ▶ 右手で CMA ストッパ、クロスバー、および CMA ケーブルを支えます。
- ▶ 電源ユニットを取り外し、新しい電源ユニットを慎重に取り付けます。
- ▶ アセンブリー式 (CMA ストッパ、クロスバー、および CMA) を再びレールに取り付けます。

6.3.3.1 準備手順

- ▶ [51 ページ](#) の「故障したサーバの特定」
- ▶ 電源ユニットを非冗長構成で交換する場合のみ、次の手順を行います。
[54 ページ](#) の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 電源ユニットを非冗長構成で交換する場合のみ、次の手順を行います。
[55 ページ](#) の「主電源からサーバの取り外し」

6.3.3.2 故障した PSU モジュールの取り外し

- ▶ サーバ管理ソフトウェアを使用して、故障した電源ユニットを特定します。
- ▶ [144 ページ](#) の「PSU モジュールの取り外し」に記載されるように、PSU モジュールを取り外します。

6.3.3.3 新しい PSU モジュールの取り付け

- ▶ [142 ページ](#) の「PSU モジュールの取り付け」の項に記載されているように、新しい電源ユニットを取り付けます。

6.3.3.4 終了手順

- ▶ [80 ページ](#) の「主電源へのサーバの接続」の項に記載されているように、電源コードを新しい PSU モジュールに再び接続し、リリースタイで固定します。
- ▶ 電源ユニットを非冗長構成で交換する場合のみ、次の手順を行います。
[82 ページ](#) の「サーバの電源投入」
- ▶ [118 ページ](#) の「ファンテストの実施」

6.3.4 配電ボードの交換



フィールド交換可能ユニット
(FRU)



ハードウェア : 15 分

工具 : 工具不要

6.3.4.1 準備手順

- ▶ [51 ページ](#) の「故障したサーバの特定」
- ▶ [99 ページ](#) の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ [54 ページ](#) の「サーバのシャットダウン」
- ▶ [55 ページ](#) の「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合 [56 ページ](#) の「サーバをラックから引き出す」

- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り外します：
[83 ページ の「システムファンモジュールの取り扱い」](#)

6.3.4.2 PSU モジュールの取り外し

- ▶ [144 ページ の「PSU モジュールの取り外し」](#)に記載されているように、すべての電源ユニットを取り外します。

6.3.4.3 故障した配電ボードの交換

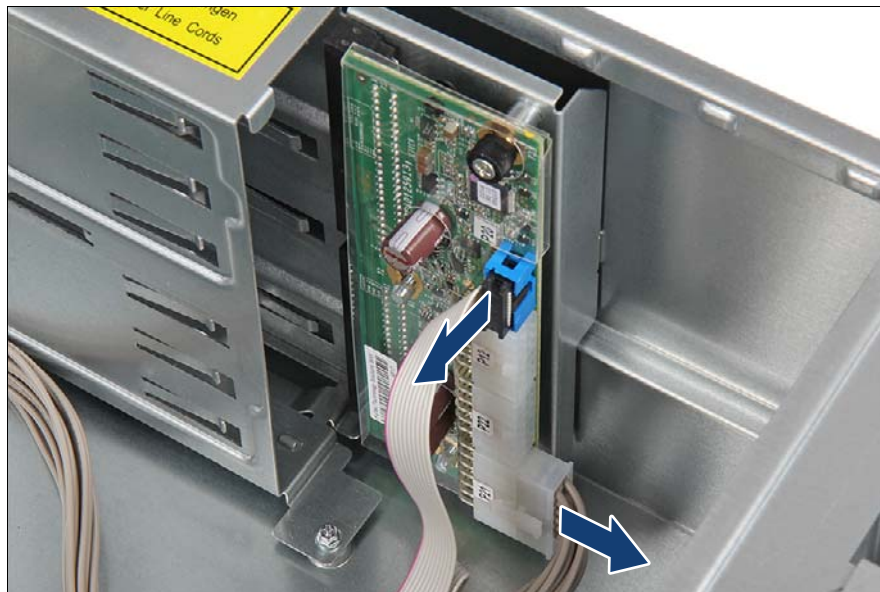


図 68: 電源ケーブルの取り外し

- ▶ 信号ケーブルと電源ケーブルを配電ボードから取り外します。

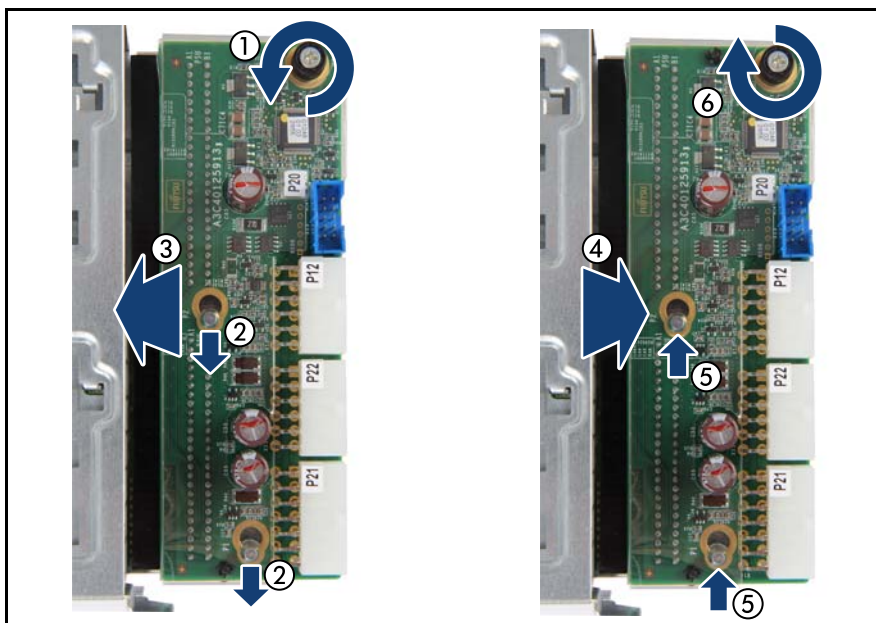


図 69: 配電ボードの交換

- ▶ ネジを緩めます (1)。
- ▶ 矢印の方向に配電ボードを押します (2)。
- ▶ 配電ボードを取り外します (3)。
- ▶ 新しい配電ボードを PSU ケージへ挿入します (4)。
- ▶ 矢印の方向に配電ボードを押します (5)。
- ▶ ネジを固定します (6)。
- ▶ 信号ケーブルと電源ケーブルを配電ボードに接続します (図 68 を参照)。

6.3.4.4 ホットプラグ電源ユニットの取り付け

- ▶ 140 ページの「PSU モジュールの取り付け」の項に記載されているように、電源ユニットを取り付けます。

6.3.4.5 終了手順

- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り付けます：
[83 ページ の「システムファンモジュールの取り扱い」](#)
- ▶ [69 ページ の「サーバを閉じる」](#)
- ▶ [80 ページ の「主電源へのサーバの接続」](#)
- ▶ [82 ページ の「サーバの電源投入」](#)
- ▶ [125 ページ の「BitLocker 機能の再開」](#)

6.4 Fujitsu バッテリーユニット (FJBU)

6.4.1 FJBU の取り付け



お客様による交換可能部品
(CRU)



ハードウェア : 5 分

工具 : 工具不要

6.4.1.1 準備手順

必要ありません。

6.4.1.2 PSU ダミーカバーの取り外し

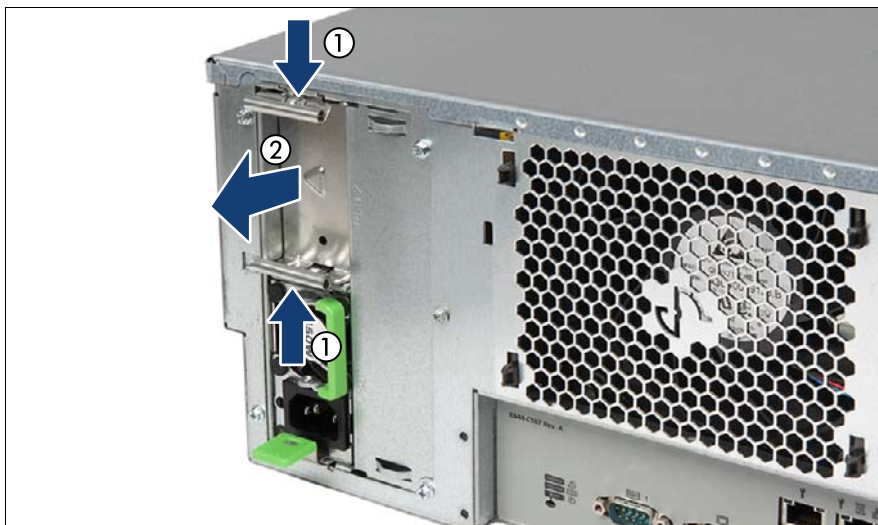


図 70: PSU ダミーカバーの取り外し

- ▶ 両方のリリースラッチを押して (1)、ダミーカバーを取り外します (2)。

**注意！**

ダミーカバーは今後使うかもしれないので、保管しておいてください。電源モジュールを取り外して、すぐに新しい電源ユニットに交換しない場合、該当する EMC 指令に準拠し、かつ冷却要件を満たすために、ダミーカバーをスロットに再び取り付けてください。

6.4.1.3 FJBU の取り付け



図 71: FJBU の取り付け

- ▶ FJBU を、ロッキングラッチが所定の位置にカチッと固定されるまで (2)、スロットに押し込みます (1)。



注意！

FJBU が輸送中にシャーシから飛び出さないように、FJBU がスロットにしっかりと入り、固定されたことを確認します。

6.4.1.4 終了手順

- ▶ 必要ありません。



停電後に自動シャットダウンを実行するには、FJBU 管理ソフトウェアをインストールします。FJBU 管理ソフトウェアのインストールおよび設定方法については、『Fujitsu バッテリーユニット』ユーザガイドを参照してください。

6.4.2 FJBU の取り外し



お客様による交換可能部品
(CRU)



ハードウェア : 5 分

工具 : 工具不要



CMA (Cable Management Arm) を使用するサーバの注意事項

取り付けた CMA は FJBU をブロックしているので、PSU モジュールの取り外しや取り付けを行うには追加の手順が必要です。

- ▶ CMA ストッパのロックを解除します。
- ▶ CMA ストッパを取り付けられているクロスバーと一緒に取り外します。
- ▶ 右手で CMA ストッパ、クロスバー、および CMA アームケーブルを支えます。
- ▶ FJBU を取り外し、PSU ダミーカバーを空いているベイへ取り付けます。
- ▶ アセンブリー式 (CMA ストッパ、クロスバー、および CMA アーム) を再びレールに取り付けます。

6.4.2.1 準備手順

- ▶ 必要ありません。

6.4.2.2 FJBU の取り外し



図 72: FJBU の取り外し

- ▶ 緑色のロックングラッチを押します (1)。
- ▶ 緑色のロックングラッチを押した状態で、スロットから FJBU を引き出します (2)。



注意！

動作中に、FJBU のベイを 2 分以上空けたままにしないでください。
温度が上昇しシステムコンポーネントが破損する場合があります。

6.4.2.3 PSU のダミーカバーの取り付け

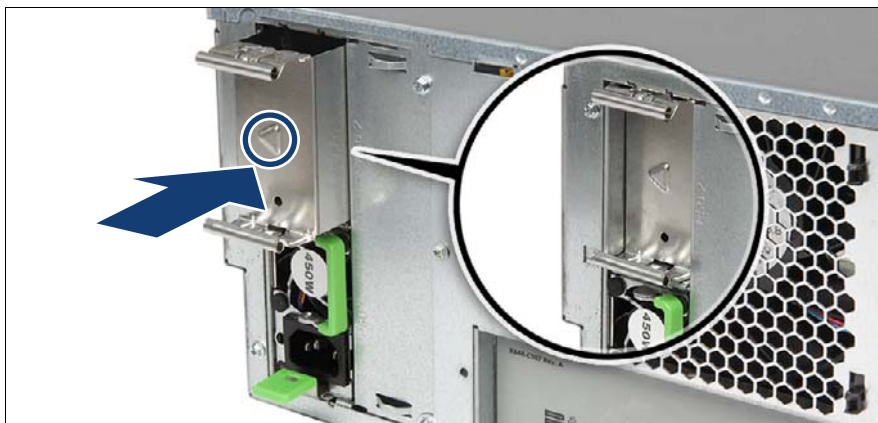


図 73: PSU のダミーカバーの取り付け

- ▶ 矢印マークを左に向けて（丸で囲んだ部分）、ダミーカバーを空いているベイに挿入します。
- ▶ 所定の位置に固定されるまで、ダミーカバーをベイに押し込みます。

**注意！**

該当する EMC 指令に準拠し、かつ冷却要件を満たすために、使用していない PSU スロットにダミーカバーを必ず装着してください。

6.4.3 FJBU の交換



お客様による交換可能部品
(CRU)



ハードウェア : 5 分

工具 : 工具不要



CMA (Cable Management Arm) を使用するサーバの注意事項

FJBU の交換については、CMA ストッパと電源ユニット間の干渉のために、追加の作業が必要です。

- ▶ CMA ストッパのロックを解除します。
- ▶ CMA ストッパを取り付けられているクロスバーと一緒に取り外します。
- ▶ 右手で CMA ストッパ、クロスバー、および CMA ケーブルを支えます。
- ▶ FJBU を取り外して新しい FJBU を慎重に取り付けます。
- ▶ アセンブリー式 (CMA ストッパ、クロスバー、および CMA) を再びレールに取り付けます。

6.4.3.1 準備手順

- ▶ [51 ページ](#) の「故障したサーバの特定」

6.4.3.2 故障した FJBU の取り外し

- ▶ [154 ページ](#) の「FJBU の取り外し」に記載されるように、FJBU を取り外します。

6.4.3.3 新しい FJBU の取り付け

- ▶ [152 ページ](#) の「FJBU の取り付け」の項に記載されるように、FJBU を取り付けます。

6.4.3.4 終了手順

- ▶ 必要ありません。

6.5 標準の電源ユニットから冗長電源ユニットへの変更

標準の電源ユニットは、冗長電源ユニットに交換できます。冗長電源ユニットは、最大 2 台の電源ユニット（スライドインユニット）から構成されます。アップグレードキットには、電源ユニットが 1 台だけ含まれます。電源の冗長性を確保するには、2 台目の電源ユニットを別途注文する必要があります。

冗長電源ユニット用のアップグレードキットは、以下の要素から構成されます。

- 配電ボード付き PSU ケージ（電源ケーブルを含む）
- ホットプラグ電源ユニット 1 台
- ダミーカバー（電源ユニットを 1 台だけ取り付ける場合は、2 つ目のベイにダミーカバーを取り付ける必要があります）
- ネジ数本



フィールド交換可能ユニット
(FRU)



ハードウェア : 10 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

6.5.1 準備手順

- ▶ [99 ページ](#) の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ [54 ページ](#) の「サーバのシャットダウン」
- ▶ [55 ページ](#) の「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合 [56 ページ](#) の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合（サーバを横向きにします）：[60 ページ](#) の「サーバを開ける」
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り外します：[83 ページ](#) の「システムファンモジュールの取り扱い」

6.5.2 標準電源ユニットの取り外し

- ▶ 135 ページの「故障した標準電源ユニットの取り外し」の項に記載されているように、標準の電源ユニットを取り外します。

6.5.3 アップグレードキットの取り付け

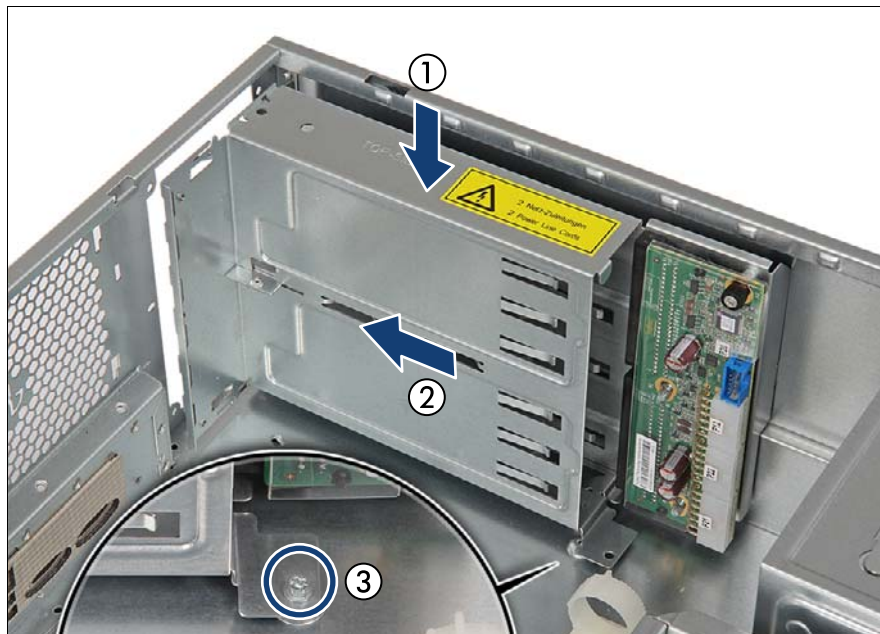


図 74: PSU ケージの取り付け

- ▶ PSU ケージをシャーシに挿入します (1)。
- ▶ 新しい PSU ケージをシャーシの背面に向かってスライドさせます (2)。
- ▶ PSU ケージをネジ 1 本で固定します (3)。
- ▶ 信号ケーブルと電源ケーブルを配電ボードに接続します (図 68 を参照)。

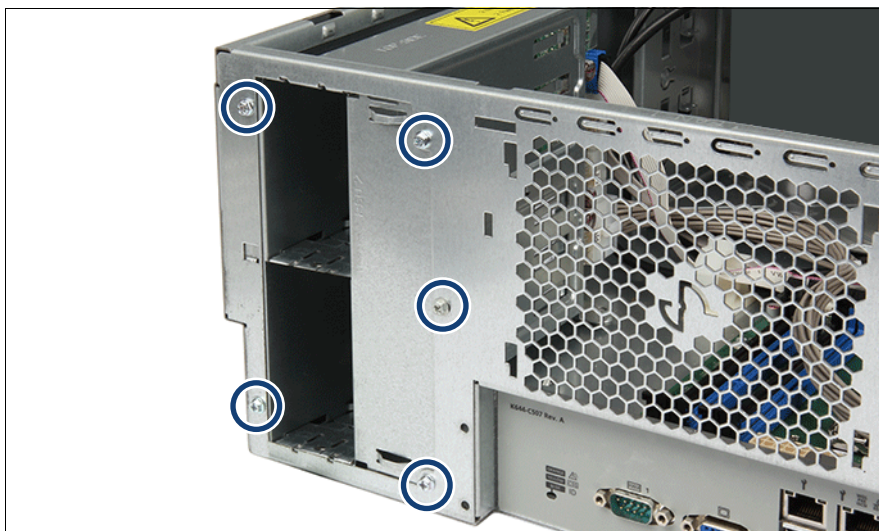


図 75: PSU ケージの固定

- ▶ PSU ケージを 5 本のネジでシャーシに固定します（丸で囲んだ部分）。

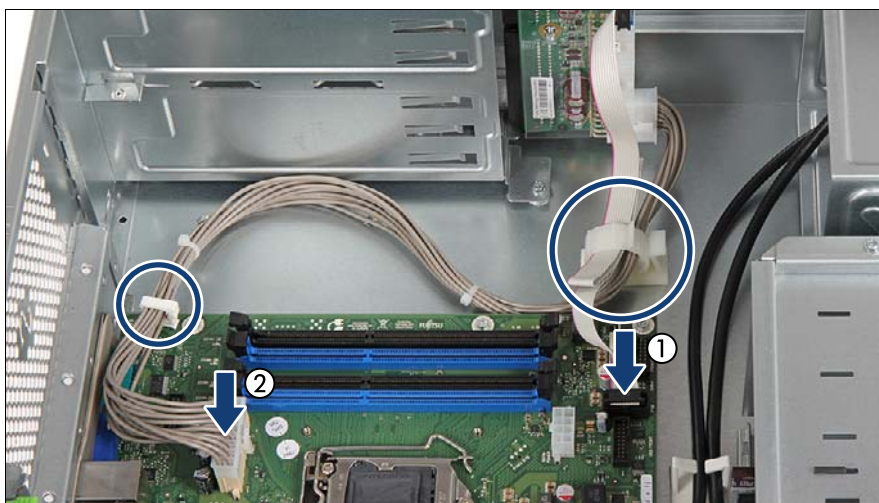


図 76: 電源ケーブルのシステムボードへの接続

- ▶ 黒の電源コネクタをシステムボードコネクタ P30 に接続します（1）（図 293 または図 294 を参照）。

- ▶ 電源コネクタ P1 をシステムボードコネクタ PW1 に接続します (2) (438 ページの「電源ケーブル配線」の項を参照)。
- ▶ 対応するケーブルクランプに電源ケーブルを通します (丸で囲んだ部分)。
- ▶ 142 ページの「PSU モジュールの取り付け」に記載されるように、PSU モジュールを取り付けます。
- ▶ 該当する場合は、152 ページの「FJBU の取り付け」に記載されるように FJBU を取り付けます。
- ▶ ベイの 1 つを空いたままにしておく場合は、145 ページの「PSU のダミーカバーの取り付け」に記載されるように、PSU ダミーカバーを取り付けます。

6.5.4 終了手順

- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り付けます：
83 ページの「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ 69 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ 80 ページの「主電源へのサーバの接続」
- ▶ 82 ページの「サーバの電源投入」
- ▶ 125 ページの「BitLocker 機能の再開」

7 ハードディスクドライブ/SSD (Solid State Drive)

安全上の注意事項



注意！

- サービス技術者以外は、HDD トレイからディスクドライブを取り外さないでください。
- アップグレードの後に元の場所に戻せるように、HDD/SSD モジュールすべてに明確なマークを付ける必要があります。そうしないと、データが損失することがあります。
- ボードやはんだ付け部品の電気回路に触れないでください。金具部分またはボードのふちを持つようにしてください。
- ハードディスクドライブを取り外す前に、ディスクが完全に回転を停止するまで約 30 秒待機してください。
- ハードディスクドライブの起動時に、少しの間共鳴音が聞こえる場合があります。これは故障ではありません。
- OS に応じてディスクドライブの Write Cache 設定を設定できます。Write Cache が有効になっている場合に停電が発生すると、キャッシュされたデータが損失することがあります。
- ハードディスクドライブまたは Solid State Drive を廃棄、輸送、返却する場合は、お客様自身のセキュリティのため、ドライブのデータを消去してください。
- ディスクドライブを乱暴に取り扱うと、保存されているデータが破損することがあります。予期しない問題に対処するには、重要なデータを常にバックアップします。データを別のハードディスクドライブにバックアップする際、ファイルまたはパーティション単位でバックアップを作成してください。
- デバイスの取り扱いは、衝撃や振動の影響を受けない場所で行ってください。
- 極端な高温または低温の場所、または温度変化の激しい場所では使用しないでください。
- ハードディスクドライブまたは Solid State Drive は分解しないでください。

- 安全上の注意事項に関する詳細は、[39 ページ](#)の「**注意事項**」の章を参照してください。



SAS RAID コントローラについては、[265 ページ](#)の「**拡張カードとバックアップユニット**」の章を参照してください。

7.1 基本情報

最高パフォーマンスには次の取り付け順序を推奨します：

- 必ず Solid State Drive (SSD) を取り付けしてから、ハードディスクドライブを取り付けます。
- 容量の異なるハードディスクドライブおよび Solid State Drive は、容量の大きい順に取り付けます。
- 回転速度の異なるハードディスクドライブは、回転速度の速い順に取り付けます。
- バステクノロジーが異なるハードディスクドライブ (SAS または SATA) を取り付ける場合は、まず SAS ドライブを取り付けてから、SATA ドライブを取り付けます。
- 取り付け順序の概要のまとめは、[164 ページ](#)の「**2.5 インチ HDD/SSD 構成**」項および [194 ページ](#)の「**3.5 インチ HDD 構成**」項を参照してください。
- 使用していない HDD/SSD ベイにダミーモジュールを取り付けます。



図 77: TX1330 M2 ラックの例



図 78: TX1330 M2 タワーの例

7.2 2.5 インチ HDD/SSD 構成

7.2.1 2.5 インチ HDD/SSD ベイの取り付け

- 必ず Solid State Drive (SSD) を取り付けしてから、ハードディスクドライブを取り付けます。
- HDD/SSD モジュールを 1 台しか取り付けない場合は、HDD/SSD モジュールを 1 の位置に取り付けます。空きベイにはダミーモジュールを取り付けます。

7.2.2 バックプレーンの概要



図 79: バックプレーン x 3 の例

1	HDD ケージ 1 の SAS バックプレーン 1 (基本構成)
2	オプションの HDD ケージ 2 の SAS バックプレーン 2
3	オプションの 8 x 2.5 インチ HDD 拡張ボックスの SAS バックプレーン 3

i この番号は、168 ページの「最大 24 台の HDD/SSD モジュールでの構成 (バックプレーン x 3)」に基づいています。

7.2.3 最大 8 つの HDD/SSD モジュールでの構成 (バックプレーン x 1)

取り付け順序



図 80: 最大 8x 2.5 インチ HDD/SSD の取り付け順序

HDD/SSD の命名体系



図 81: 最大 8x 2.5 インチ HDD/SSD の命名体系

ハードディスクドライブ /SSD (Solid State Drive)

i ServerView RAID Manager にリストされる HDD/SSD の番号は、HDD の取り付け順序とは異なります。

SAS コントローラ 1 つの場合

位置	論理ドライブ番号	ServerView RAID Manager の表示名 (エンクロー ジャ番号 : ポート番号)
①	0	ベンダー製品 (0)
②	1	ベンダー製品 (1)
③	2	ベンダー製品 (2)
④	3	ベンダー製品 (3)
⑤	4	ベンダー製品 (4)
⑥	5	ベンダー製品 (5)
⑦	6	ベンダー製品 (6)
⑧	7	ベンダー製品 (7)

7.2.4 最大 8 つの HDD/SSD モジュールでの構成 (バック
プレーン x 2)

取り付け順序



図 82: 最大 16x 2.5 インチ HDD/SSD の取り付け順序

HDD/SSD の命名体系



図 83: 最大 16x 2.5 インチ HDD/SSD の命名体系

i ServerView RAID Manager にリストされる HDD/SSD の番号は、HDD の取り付け順序とは異なります。

SAS エクスパンダボードと SAS コントローラ 1 つの場合

位置	論理ドライブ番号	ServerView RAID Manager の表示名 (エンクロージャ番号 : ポート番号)
①	0	ベンダー製品 (0)
②	1	ベンダー製品 (1)
③	2	ベンダー製品 (2)
④	3	ベンダー製品 (3)
⑤	4	ベンダー製品 (4)
⑥	5	ベンダー製品 (5)
⑦	6	ベンダー製品 (6)
⑧	7	ベンダー製品 (7)
⑨	8	ベンダー製品 (8)
⑩	9	ベンダー製品 (9)
⑪	10	ベンダー製品 (10)
⑫	11	ベンダー製品 (11)
⑬	12	ベンダー製品 (12)
⑭	13	ベンダー製品 (13)
⑮	14	ベンダー製品 (14)
⑯	15	ベンダー製品 (15)

7.2.5 最大 24 台の HDD/SSD モジュールでの構成 (バックプレーン x 3)

取り付け順序

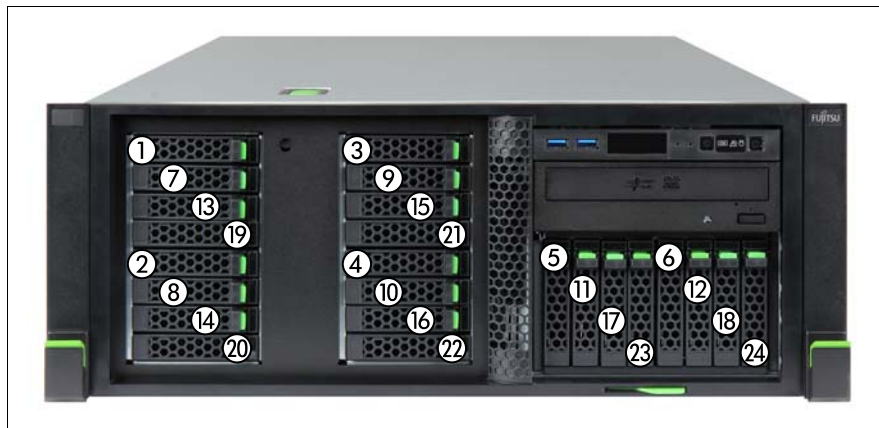


図 84: 最大 24x 2.5 インチ HDD/SSD の取り付け順序

HDD/SSD の命名体系

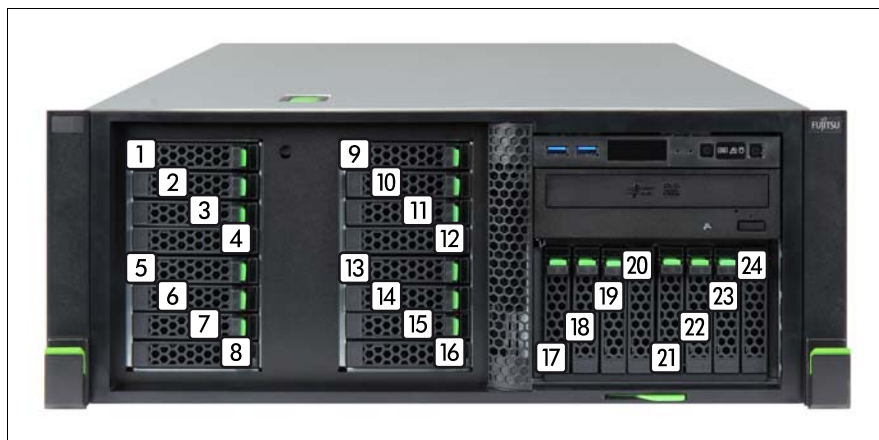


図 85: 最大 24x 2.5 インチ HDD/SSD の命名体系



ServerView RAID Manager にリストされる HDD/SSD の番号は、HDD の取り付け順序とは異なります。

SAS エキスパンダボードと SAS コントローラ 1 つの場合

位置	論理ドライブ番号	ServerView RAID Manager の表示名 (エンクロージャ番号 : ポート番号)
①	0	ベンダー製品 (1:0)
②	1	ベンダー製品 (1:1)
③	2	ベンダー製品 (1:2)
④	3	ベンダー製品 (1:3)
⑤	4	ベンダー製品 (1:4)
⑥	5	ベンダー製品 (1:5)
⑦	6	ベンダー製品 (1:6)
⑧	7	ベンダー製品 (1:7)
⑨	8	ベンダー製品 (1:8)
⑩	9	ベンダー製品 (1:9)
⑪	10	ベンダー製品 (1:10)
⑫	11	ベンダー製品 (1:11)
⑬	12	ベンダー製品 (1:12)
⑭	13	ベンダー製品 (1:13)
⑮	14	ベンダー製品 (1:14)
⑯	15	ベンダー製品 (1:15)
⑰	16	ベンダー製品 (1:16)
⑱	17	ベンダー製品 (1:17)
⑲	18	ベンダー製品 (1:18)
⑳	19	ベンダー製品 (1:19)
㉑	20	ベンダー製品 (1:20)
㉒	21	ベンダー製品 (1:21)
㉓	22	ベンダー製品 (1:22)
㉔	23	ベンダー製品 (1:23)

7.2.6 2.5 インチ HDD/SSD モジュールおよび 3.5 インチ HDD モジュール (バックプレーン x 3) での混在構成

取り付け順序



図 86: 最大 16x 2.5 インチ HDD/SSD および最大 4x 3.5 インチ HDD の取り付け順序

HDD/SSD の命名体系

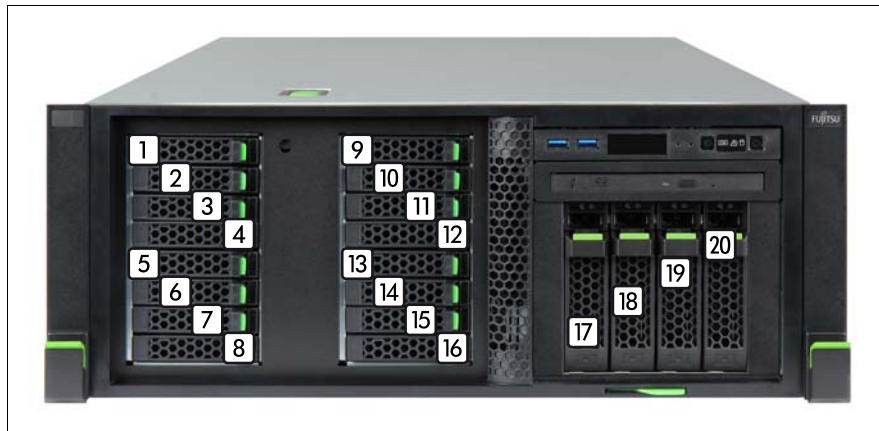


図 87: 最大 16x 2.5 インチ HDD/SSD および最大 4x 3.5 インチ HDD の命名体系



ServerView RAID Manager にリストされる HDD/SSD の番号は、HDD の取り付け順序とは異なります。

SAS エキスパンダボードと SAS コントローラ 1 つの場合

位置	論理ドライブ番号	ServerView RAID Manager の表示名 (エンクロージャ番号 : ポート番号)
①	0	ベンダー製品 (1:0)
②	1	ベンダー製品 (1:1)
③	2	ベンダー製品 (1:2)
④	3	ベンダー製品 (1:3)
⑤	4	ベンダー製品 (1:4)
⑥	5	ベンダー製品 (1:5)
⑦	6	ベンダー製品 (1:6)
⑧	7	ベンダー製品 (1:7)
⑨	8	ベンダー製品 (1:8)
⑩	9	ベンダー製品 (1:9)
⑪	10	ベンダー製品 (1:10)
⑫	11	ベンダー製品 (1:11)
⑬	12	ベンダー製品 (1:12)
⑭	13	ベンダー製品 (1:13)
⑮	14	ベンダー製品 (1:14)
⑯	15	ベンダー製品 (1:15)
⑰	16	ベンダー製品 (1:16)
⑱	17	ベンダー製品 (1:17)
⑲	18	ベンダー製品 (1:18)
⑳	19	ベンダー製品 (1:19)

7.2.7 2.5 インチの HDD/SSD モジュールの取り付け



お客様による交換可能部品
(CRU)



ハードウェア : 5 分

工具 : 工具不要

7.2.7.1 準備手順

- ▶ 該当する場合、66 ページの「アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り外し」
- ▶ 164 ページの「2.5 インチ HDD/SSD 構成」の項に記載されているように、正しいドライブベイを特定します。

7.2.7.2 2.5 インチ HDD/SSD ダミーモジュールの取り外し

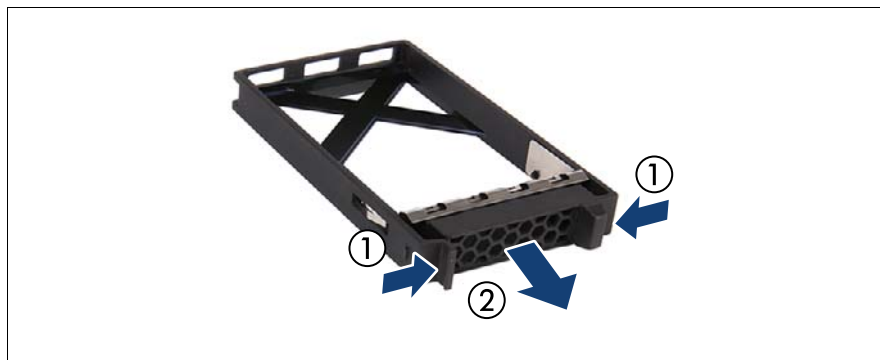


図 88: 2.5 インチ HDD/SSD ダミーモジュールの取り外し

- ▶ 両方のタブを同時に押して (1)、ダミーモジュールをベイから引き出します (2)。



注意 !

ダミーモジュールは今後使うかもしれないので、保管しておいてください。

該当する EMC 指令に準拠し、かつ冷却要件を満たすために、使用していない HDD/SSD ベイにダミーモジュールを必ず装着してください。

7.2.7.3 2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り付け

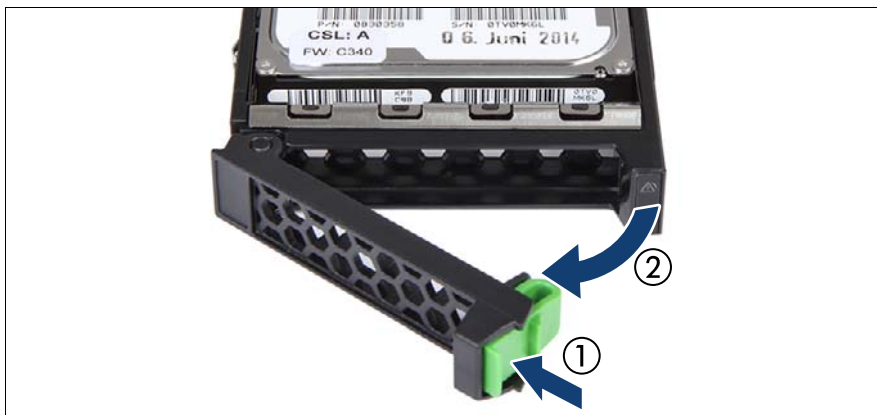


図 89: 2.5 インチ HDD/SSD モジュールのロックレバーを開く

- ▶ 緑色のロックングラッチをはさんで (1)、ロックレバーを開きます (2)。



図 90: 2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り付け

- ▶ ドライブベイに HDD/SSD モジュールを挿入し、慎重に最後まで押し込みます (1)。
- ▶ ロックレバーを閉じて、ハードディスクドライブを所定の位置に固定します (2)。

7.2.7.4 終了手順

- ▶ 該当する場合、73 ページの「アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り付け」
- ▶ 126 ページの「RAID アレイのリビルドの実行」

7.2.8 2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り外し



お客様による交換可能部品
(CRU)





ハードウェア : 5 分

工具 : 工具不要

7.2.8.1 準備手順

- ▶ 取り外す HDD/SSD モジュールが RAID アレイに組み込まれている場合は、次の手順に従います。

RAID レベル	手順
RAID 0	<p>故障した場合は、RAID 0 アレイに組み込まれている HDD モジュールのみ取り外します。</p> <p> 注意！ 動作可能な HDD モジュールを取り外すと、データが失われます。</p>
RAID 5	<p>HDD モジュールを RAID 1 または RAID 5 アレイから取り外してもデータは失われません。</p> <p>ただし、取り外したドライブは、すぐに同じか、または同等以上の容量の HDD モジュールに交換する必要があります。</p> <p> 126 ページの「RAID アレイのリビルドの実行」の項に記載されているように、HDD モジュールの交換後、バックグラウンドプロセスとして、RAID のリビルドが行われます。</p>

RAID アレイの一部である動作可能な HDD モジュールを永久的にサーバから取り外すには、まず ServerView RAID Manager を使用してアレイを削除する必要があります。



注意！

アレイのすべての HDD/SSD のすべてのデータが失われます。
RAID アレイを削除する前に、必ずデータのバックアップを行ってください。

詳細は、『ServerView Suite RAID Management』ユーザガイドを参照してください。

- ▶ 該当する場合、[66 ページ](#)の「アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り外し」

7.2.8.2 2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り外し

- ▶ 緑色のロッキングラッチをはさんで、ロックレバーを開きます ([81 auf Seite 165](#) を参照)。
- ▶ HDD/SSD モジュールを 2 ～ 3 cm 引き出します。
- ▶ ハードディスクドライブが完全に回転を停止するまで、約 30 秒待機してください。



これは、Solid State Drive を取り外す場合には必要ありません。



この時間は、HDD モジュールが取り外されたことと、ハードディスクドライブが停止したことを RAID コントローラが認識するために必要です。

- ▶ HDD/SSD モジュールをベイから完全に引き出します。

7.2.8.3 2.5 インチ HDD/SSD ダミーモジュールの取り付け



注意！

取り外した HDD/SSD モジュールをすぐに交換しない場合は、該当する EMC 指令に準拠し、かつ冷却要件を満たすために、使用していない HDD/SSD ベイにダミーモジュールを必ず装着してください。



図 91: 2.5 インチ HDD/SSD ダミーモジュールの取り付け

- ▶ 所定の位置に固定されるまで HDD ダミーモジュールをドライブベイにスライドさせます。

7.2.8.4 終了手順

- ▶ 該当する場合、73 ページの「アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り付け」

7.2.9 2.5 インチ HDD/SSD モジュールの交換



お客様による交換可能部品
(CRU)



ハードウェア : 5 分

工具 : 工具不要



注意 !

- ドライブへのアクセスがない場合のみ、動作中に HDD/SSD モジュールを取り外してください。サーバのオペレーティングマニュアルに記載されるように、HDD/SSD モジュールの表示ランプを確認します。
- ドライブが RAID コントローラで動作し、RAID レベル 0、1、1E、10、5、50、6 または 60 で動作しているディスクアレイに属しているかどうか分からない場合には、いかなる状態であっても、絶対にシステムの動作中に HDD / SSD モジュールを取り外さないでください。

動作中の HDD/SSD モジュールの交換は、対応する RAID 設定を行った場合のみ可能です。
- 取り外し後に元の場所に戻せるように、HDD/SSD モジュール（ドライブ）すべてに明確なマークを付ける必要があります。この作業を行わないと既存のデータが失われることがあります。

7.2.9.1 準備手順

- ▶ 51 ページの「故障したサーバの特定」
- ▶ 該当する場合、66 ページの「アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り外し」
- ▶ 53 ページの「故障した部品の特定」

故障していない HDD/SSD モジュールの取り外しにのみ適用される事項 :

- ▶ 故障していない HDD/SSD モジュールを取り外す場合は、まず、RAID 設定ソフトウェアを使用してドライブを「オフライン」に設定する必要があります。

7.2.9.2 2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り外し

- ▶ 175 ページの「2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り外し」の項に記載されているように、交換する HDD / SSD モジュールをサーバから取り外します。

7.2.9.3 2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り付け

- ▶ の項に記載されるように、空いているドライブベイに新しい HDD/SSD モジュールを取り付けます。172 ページの「2.5 インチの HDD/SSD モジュールの取り付け」

7.2.9.4 終了手順

- ▶ 該当する場合、73 ページの「アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り付け」
- ▶ 126 ページの「RAID アレイのリビルドの実行」

7.2.10 2.5 インチ HDD SAS バックプレーン (8 HDD) の交換



フィールド交換可能ユニット
(FRU)



ハードウェア : 10 分

工具 : プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

7.2.10.1 準備手順

- ▶ 51 ページの「故障したサーバの特定」
- ▶ 54 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 55 ページの「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 56 ページの「ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し」
- ▶ 60 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 該当する場合、66 ページの「アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り外し」

- ▶ 次の項に記載されるように、すべての HDD/SSD モジュールを取り外します：[174 ページの「2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り外し」](#)
- ▶ すべてのケーブルを故障した SAS バックプレーンから取り外します。

7.2.10.2 2.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り外し



2.5 インチ HDD SAS バックプレーンを交換するために、2.5 インチ HDD フロントパネルを取り外す必要はありません。図では、フロントパネルは、図示の目的のためのみに取り外されています。

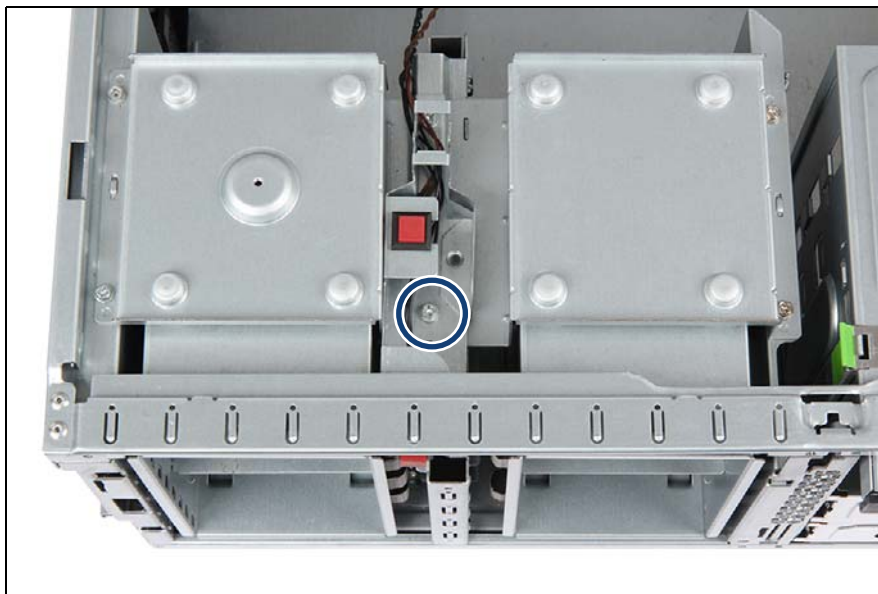


図 92: イントリュージョンスイッチホルダーの取り外し (A)

- ▶ 図のように、イントリュージョンスイッチホルダーから 1 本のネジを取り外します。

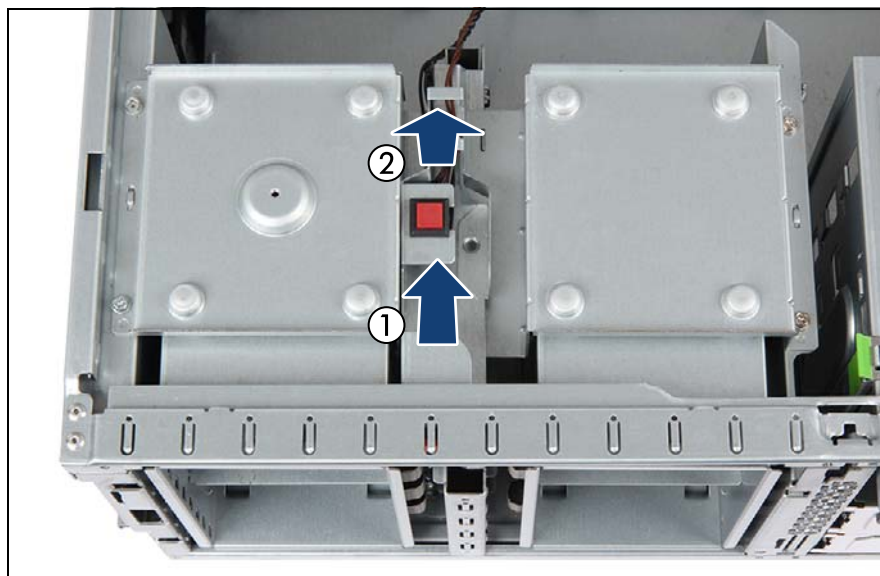


図 93: イントリュージョンスイッチホルダーの取り外し (B)

- ▶ イントリュージョンスイッチホルダーが HDD ベイのトップカバーから外れるまで、後ろにスライドさせます (1)。
- ▶ イントリュージョンスイッチホルダーを取り外して (2)、保管しておきます。
- ▶ イントリュージョンスイッチケーブルをシステムボードに接続しているままにしておきます。

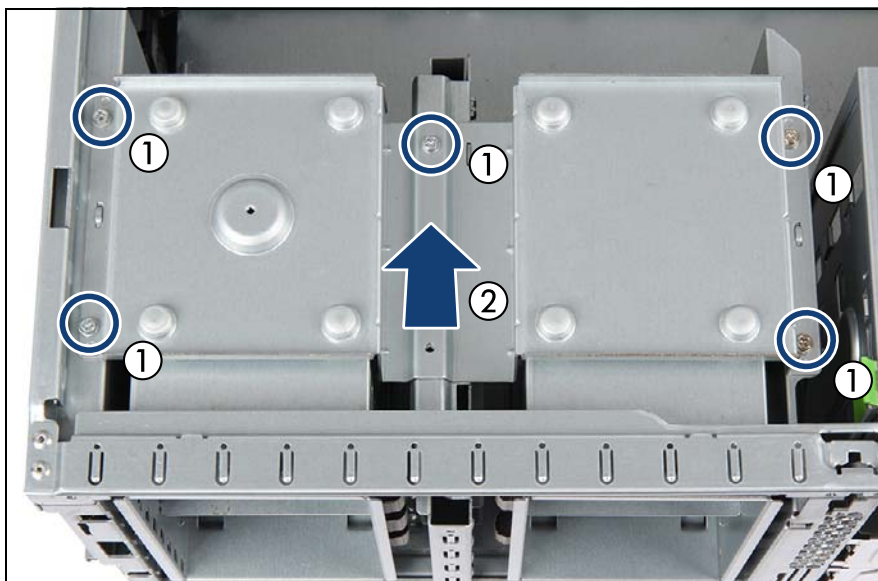


図 94: 2.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り外し

- ▶ 2.5 インチ HDD ベイのトップカバーから 5 本のネジを取り外します (1)。
- ▶ 2.5 インチ HDD ベイのトップカバーをシャーシから取り外します (2)。

7.2.10.3 2.5 インチ HDD /SSD SAS バックプレーンの取り外し

- i** 2.5 インチ HDD SAS バックプレーンを交換するために、2.5 インチ HDD/SSD フロントパネルを取り外す必要はありません。図では、フロントパネルは、図示の目的のためのみに取り外されています。

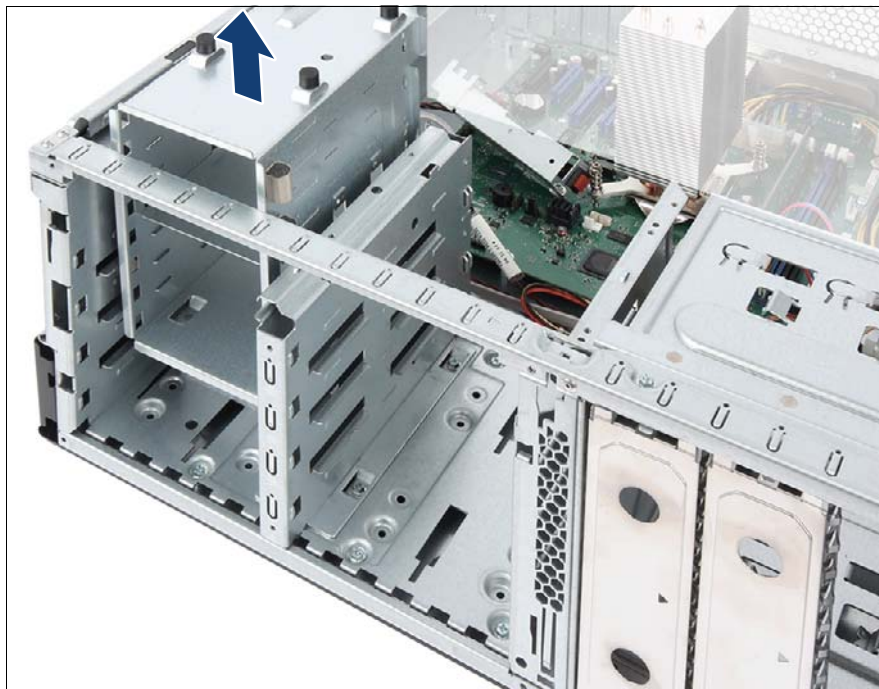


図 95: 2.5 インチ HDD ケージの取り外し

- ▶ 故障した HDD バックプレーンを含む 2.5 インチ HDD ケージを、HDD ベイから持ち上げます。

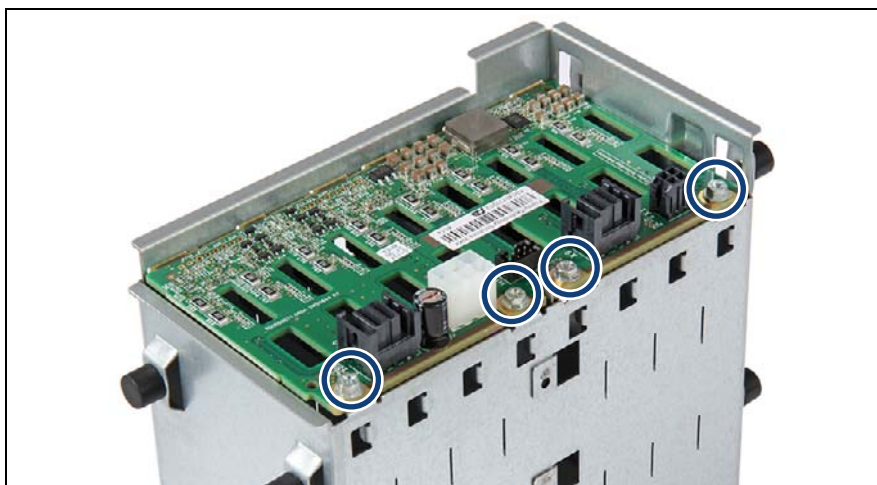


図 96: 故障した 2.5 インチ HDD/SSD SAS バックプレーンの取り外し (A)

- ▶ 故障した 2.5 インチ HDD SAS バックプレーンの 4 本のネジを取り外します (丸で囲んだ部分)。

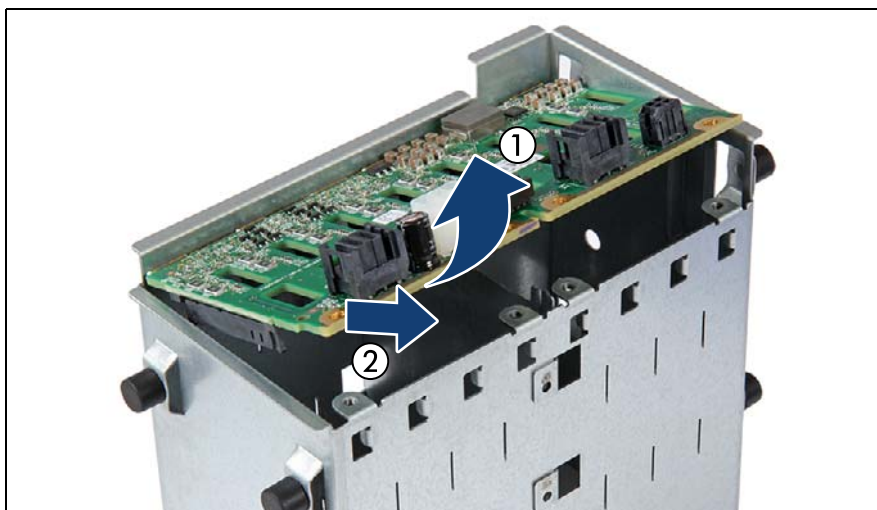


図 97: 故障した 2.5 インチ HDD/SSD SAS バックプレーンの取り外し (B)

- ▶ 故障した 2.5 インチ HDD SAS バックプレーンを起こし (1)、やや傾けながら HDD ケージの穴から外します (2)。

7.2.10.4 2.5 インチ HDD/SSD SAS バックプレーンの取り付け

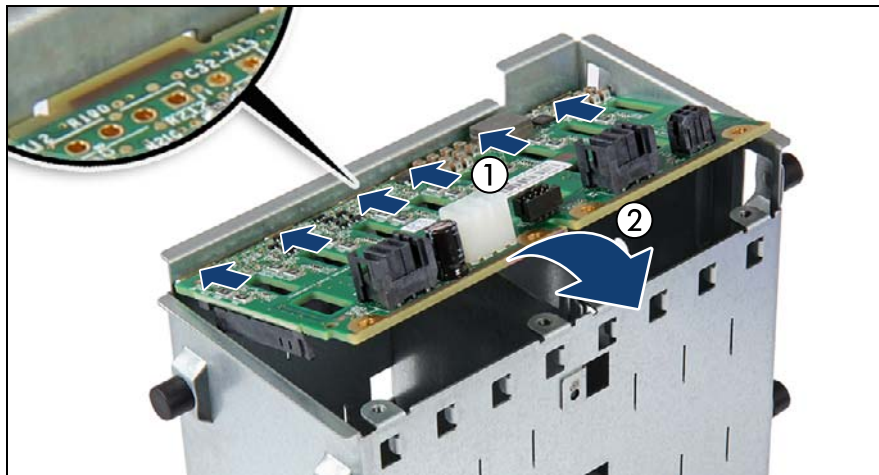


図 98: 新しい 2.5 インチ HDD/SSD SAS バックプレーンの取り付け (A)

- ▶ 新しい 2.5 インチ HDD SAS バックプレーンを、やや傾けながら HDD ケージの 6 つの穴に合わせます (1)。
- ▶ 2.5 インチ HDD SAS バックプレーンを倒します (2)。

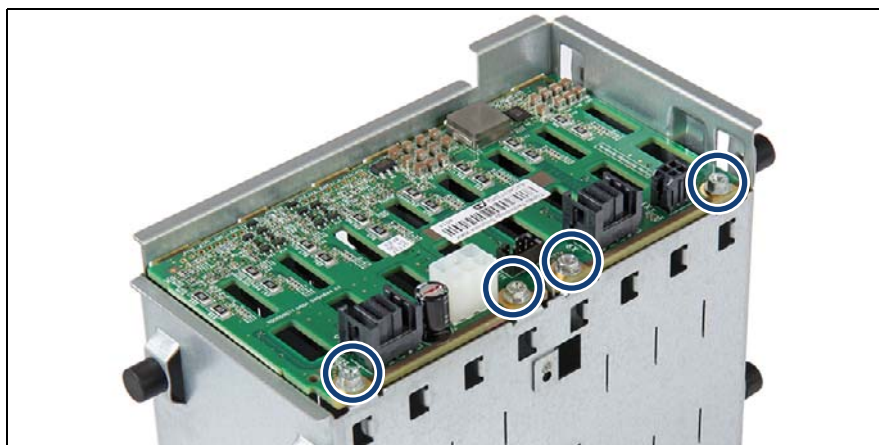


図 99: 新しい 2.5 インチ HDD/SSD SAS バックプレーンの取り付け (B)

- ▶ 4 本の M3 x 4.5 mm ネジで、2.5 インチ HDD SAS バックプレーンを HDD ケージに固定します (丸で囲んだ部分)。

- i** 2.5 インチ HDD SAS バックプレーンを交換するために、2.5 インチ HDD フロントパネルを取り外す必要はありません。図では、フロントパネルは、図示の目的のためのみに取り外されています。

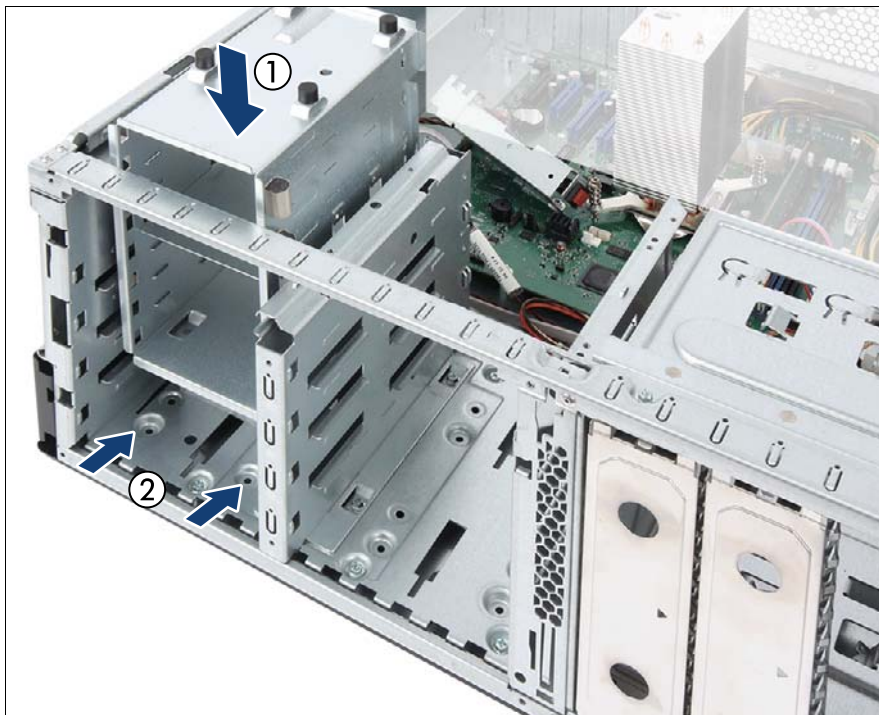


図 100: 2.5 インチ HDD ケージの取り付け

- ▶ 図のように、HDD 取り付けベイへ、2.5 インチ HDD ケージを降ろします (1)。
- ▶ ケージの下部の 4 本のゴム製ボルトが、シャーシフロアの対応する凹みに正しくはめ込まれていることを確認します (2)。

7.2.10.5 2.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り付け

- i** 2.5 インチ HDD SAS バックプレーンを交換するために、2.5 インチ HDD フロントパネルを取り外す必要はありません。図では、フロントパネルは、図示の目的のためのみに取り外されています。

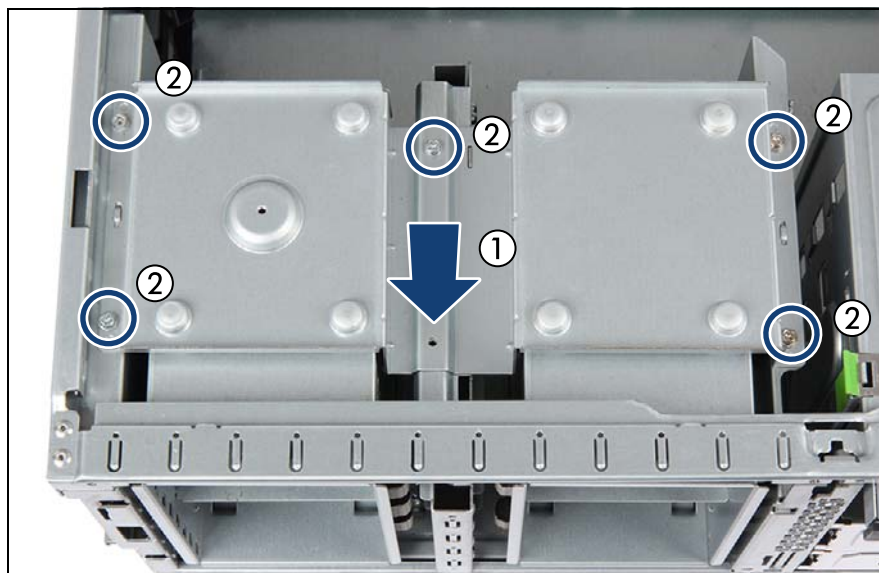


図 101: 2.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り付け

- ▶ 2.5 インチ HDD ベイのトップカバーを HDD 取り付けベイに降ろします (1)。
- ▶ ケージの上部の 4 本のゴム製ボルトが、HDD ベイのトップカバーの対応する凹みに正しくはめ込まれていることを確認します。
- ▶ M3 x 4.5 mm のネジ 5 本で、HDD ベイのトップカバーをシャーシに固定します (2)。

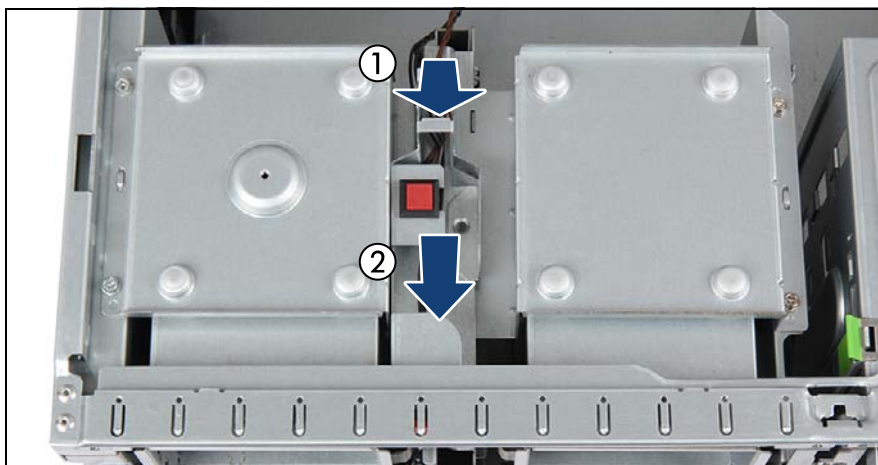


図 102: イントリュージョンスイッチホルダーの取り付け (A)

- ▶ イントリュージョンスイッチホルダーを HDD ベイのトップカバーへ置きます (1)。
- ▶ イントリュージョンスイッチホルダーを、最後までシャーシ前面の縁の下にスライドさせます (2)。

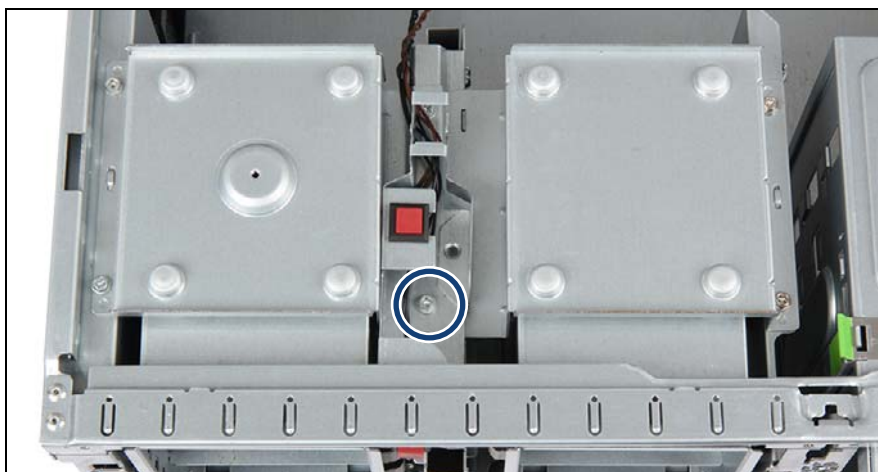


図 103: イントリュージョンスイッチホルダーの取り付け (B)

- ▶ M3 x 4.5 mm ネジ 1 本で、イントリュージョンスイッチホルダーを HDD ベイのトップカバーに固定します。

7.2.10.6 バックプレーン 1 へのケーブルの接続

エキスパンダボードのない構成

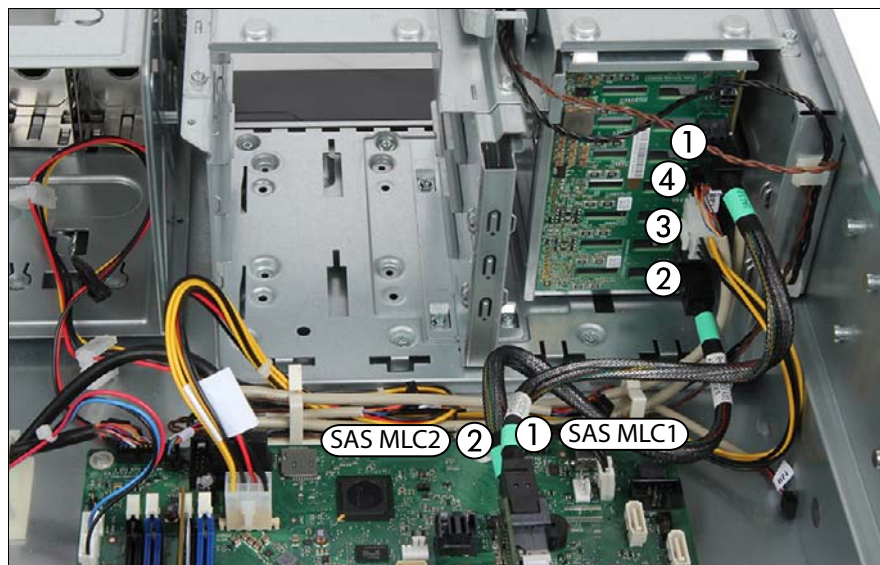


図 104: ケーブルのバックプレーン 1 への接続

- ▶ バックプレーン 1 に 2 本の SAS ケーブル C19 を接続します。
 - (1) SAS コントローラコネクタ MLC1 からバックプレーンコネクタ X9 へ
 - (2) SAS コントローラコネクタ MLC2 からバックプレーンコネクタ X10 へ
- ▶ バックプレーン 1 に電源ケーブル C5 を接続します。
 - (3) システムボードコネクタ SATA POWER からバックプレーンコネクタ X40 へ
- ▶ 該当する場合は、OOB ケーブル C23 をバックプレーン 1 に接続します。
 - (4) システムボードコネクタ I2C5 からバックプレーンコネクタ X11 へ

エキスパンダボード付きの構成

- ▶ エキスパンダボードを使用した配線については、246 ページの「ケーブルのエキスパンダボードへの接続」の項を参照してください。



ケーブル接続の概要のまとめは、436 ページの「ケーブル図」の項を参照してください。

7.2.10.7 終了手順

- ▶ 172 ページの「2.5 インチの HDD/SSD モジュールの取り付け」の項に記載されるように、すべての取り外した HDD/SSD モジュールを取り付けます。
- ▶ 69 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 77 ページの「ラックへのサーバの取り付け」
- ▶ 80 ページの「主電源へのサーバの接続」
- ▶ 82 ページの「サーバの電源投入」

7.2.11 8 から 16 x 2.5 インチ HDD/SSD 構成へのアップグレード



ユニットのアップグレードおよび修理 (URU)



平均作業時間：
20 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

7.2.11.1 準備手順

- ▶ 99 ページの「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 54 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 55 ページの「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 56 ページの「ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し」
- ▶ 60 ページの「サーバを開ける」

ハードディスクドライブ/SSD (Solid State Drive)

- ▶ 次の項に記載されるように、すべての HDD/SSD モジュールを取り外します：[174 ページの「2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り外し」](#)

7.2.11.2 8 x 2.5 インチ HDD フロントパネルの取り外し

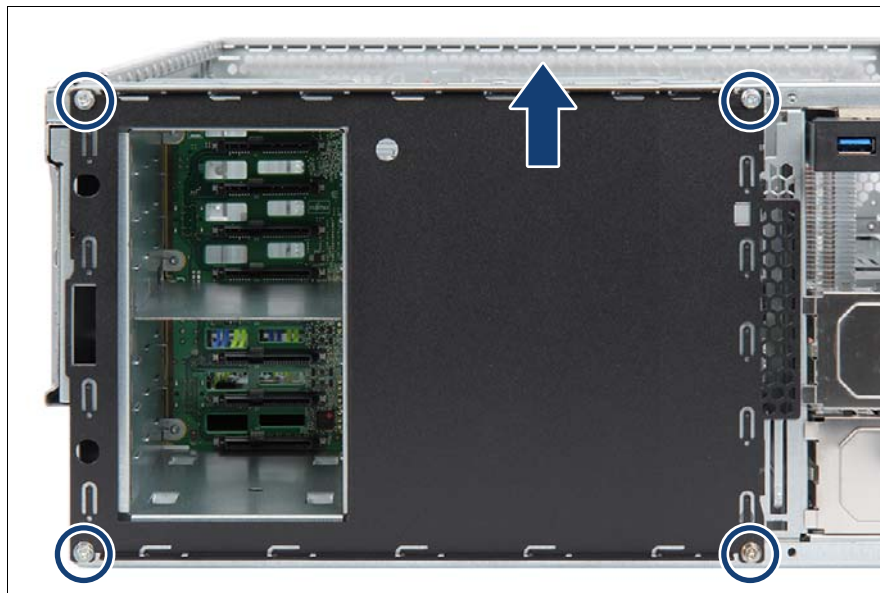


図 105: 8 x 2.5 インチ HDD フロントパネルの取り外し

- ▶ 8 x 2.5 インチ HDD フロントパネルから 4 本のネジを取り外します。
- ▶ シャーシから外れるまで、8 x 2.5 インチ HDD フロントパネルを引き上げます。
- ▶ 8 x 2.5 インチ HDD フロントパネルを取り外します。

7.2.11.3 2.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り外し

- ▶ [179 ページの「2.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り外し」](#)の項に記載されているように、2.5 インチ HDD ベイカバーを取り外します。

7.2.11.4 2 つ目の 2.5 インチ HDD/SSD SAS バックプレーンの取り付け

- ▶ 184 ページの「2.5 インチ HDD/SSD SAS バックプレーンの取り付け」の項に記載されているように、2 つ目の 2.5 インチ HDD/SSD SAS バックプレーンと 2 つ目の HDD ケージを、取り付けます。

7.2.11.5 2.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り付け

- ▶ 185 ページの「2.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り付け」の項に記載されるように 2.5 インチ HDD ベイのトップカバーを取り付けます。

7.2.11.6 16 x 2.5 インチ HDD フロントパネルの取り付け

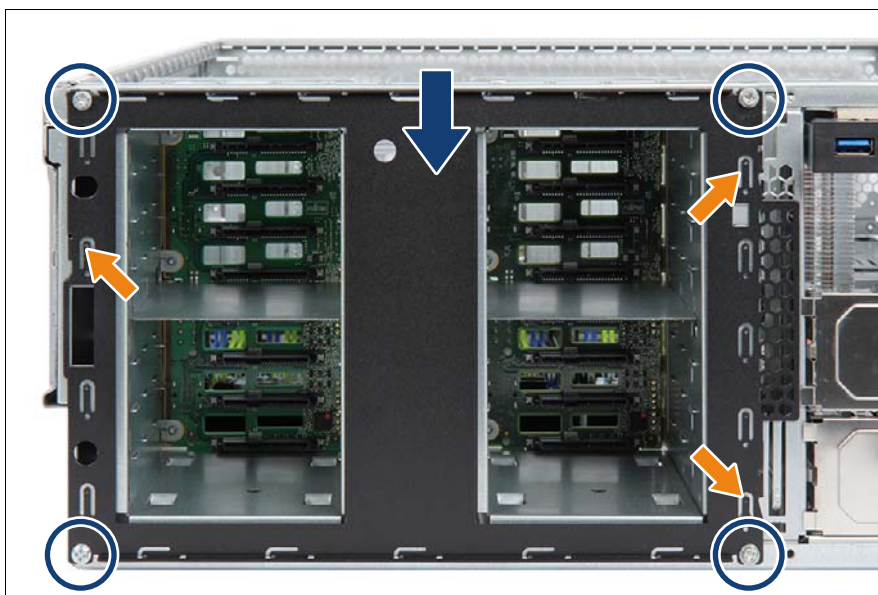


図 106: 16 x 2.5 インチ HDD フロントパネルの固定

- ▶ 2.5 インチ HDD フロントパネルの 3 つのフックを、サーバ前面のスロットに合わせます（オレンジ色の矢印を参照）。
- ▶ 上端がシャシーに合うまで、HDD フロントパネルをしっかり押し下げます（青色の矢印を参照）。
- ▶ 4 本の M3 x 4.5 mm ネジで、HDD フロントパネルをサーバ前面に固定します（丸で囲んだ部分）。

7.2.11.7 SAS バックプレーン 2 へのケーブルの接続

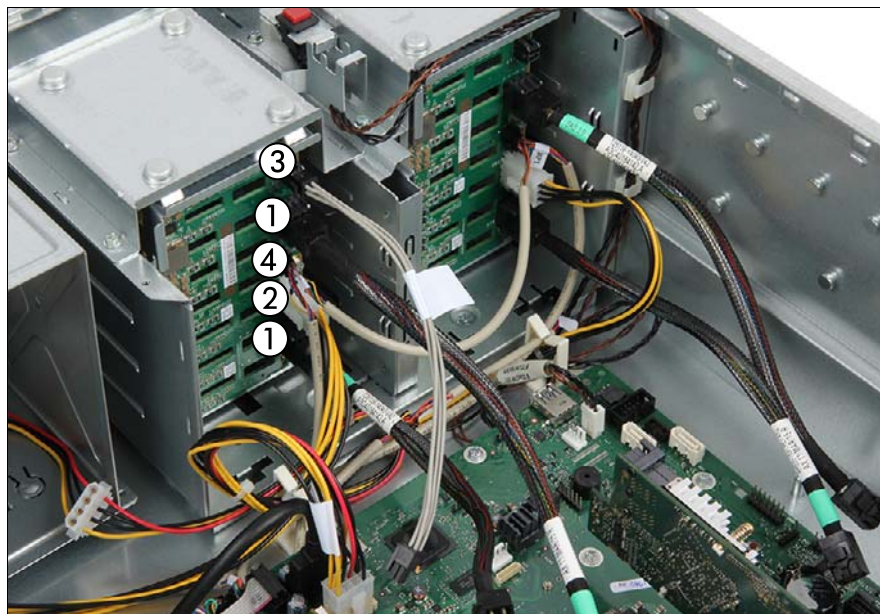


図 107: SAS バックプレーン 2 へのケーブルの接続

- ▶ (1) SAS ケーブル C35 をバックプレーン 2 コネクタ X9 および X10 に接続します。
- ▶ バックプレーン 2 に電源ケーブルを接続します。
 - (2) 電源ケーブル C12 を電源バックプレーンコネクタ P22 から バックプレーン 2 コネクタ X40 へ
 - (3) SAS エキスパンダ電源ケーブル C34 をバックプレーン 2 コネクタ X17 へ
- ▶ 該当する場合は、OOB ケーブル C23 をバックプレーンに接続します。
 - (4) システムボードコネクタ I2C5 からバックプレーンコネクタ X11 へ



ケーブル接続の概要のまとめは、[436 ページの「ケーブル図」](#)の項を参照してください。

7.2.11.8 エクスパンダボードの取り付け

- ▶ [245 ページ](#) の「[SAS エクスパンダボードの取り付け](#)」の項に記載されているように、エクスパンダボードを取り付けます。

7.2.11.9 終了手順

- ▶ [172 ページ](#) の「[2.5 インチの HDD/SSD モジュールの取り付け](#)」の項に記載されるように、すべての取り外した HDD/SSD モジュールを取り付けます。



HDD の取り付け順序の詳細は、[164 ページ](#) の「[2.5 インチ HDD/SSD 構成](#)」の項を参照してください。

- ▶ [69 ページ](#) の「[サーバを閉じる](#)」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は [77 ページ](#) の「[ラックへのサーバの取り付け](#)」
- ▶ [80 ページ](#) の「[主電源へのサーバの接続](#)」
- ▶ [82 ページ](#) の「[サーバの電源投入](#)」
- ▶ BitLocker 機能を使用していて、保守作業を開始する前に無効にした場合は、BitLocker を再度有効にします。[125 ページ](#) の「[BitLocker 機能の再開](#)」

7.3 3.5 インチ HDD 構成

7.3.1 3.5 インチ HDD ベイの取り付け

- HDD モジュールを 1 台しか取り付けない場合、HDD モジュールを（前から見て）空きベイに取り付け、ダミーモジュールを右のベイに取り付けます。
- 容量の異なるモジュールを取り付ける場合は、容量の大きいモジュールを先に取り付けます。
- 回転速度が異なるモジュールを取り付ける場合は、回転速度が速いモジュールを先に取り付けます。

7.3.2 バックプレーンの概要



図 108: 3.5 インチ HDD SAS バックプレーン

1	HDD ケージ 1 の SAS バックプレーン 1（基本構成）
2	HDD ケージ 2 の SAS バックプレーン 2（オプション）
3	オプションの 4 x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスの SAS バックプレーン 3

7.3.3 最大 4 つの HDD モジュールでの構成 (バックプレーン x 1)

取り付け順序




図 109: 最大 4x 3.5 インチ HDD の取り付け順序

HDD の命名体系



図 110: 最大 4x 3.5 インチ HDD の命名体系

ハードディスクドライブ /SSD (Solid State Drive)



ServerView RAID Manager にリストされる HDD の番号は、HDD の取り付け順序とは異なります。

SAS コントローラ 1 つの場合

位置	論理ドライブ番号	ServerView RAID Manager の表示名 (エンクロージャ番号 : ポート番号)
①	0	ベンダー製品 (0)
②	1	ベンダー製品 (1)
③	2	ベンダー製品 (2)
④	3	ベンダー製品 (3)

7.3.4 最大 8 台の HDD モジュールでの構成 (バックプレーン x 2)

取り付け順序



図 111: 最大 8x 3.5 インチ HDD の取り付け順序

HDD の命名体系



図 112: 最大 8x 3.5 インチ HDD の命名体系



ServerView RAID Manager にリストされる HDD の番号は、HDD の取り付け順序とは異なります。

SAS コントローラ 1 つの場合

位置	論理ドライブ番号	ServerView RAID Manager の表示名 (エンクロージャ番号 : ポート番号)
①	0	ベンダー製品 (0)
②	1	ベンダー製品 (1)
③	2	ベンダー製品 (2)
④	3	ベンダー製品 (3)
⑤	4	ベンダー製品 (4)
⑥	5	ベンダー製品 (5)
⑦	6	ベンダー製品 (6)
⑧	7	ベンダー製品 (7)

7.3.5 最大 12 台の HDD モジュールでの構成 (バックプレーン x 3)

取り付け順序

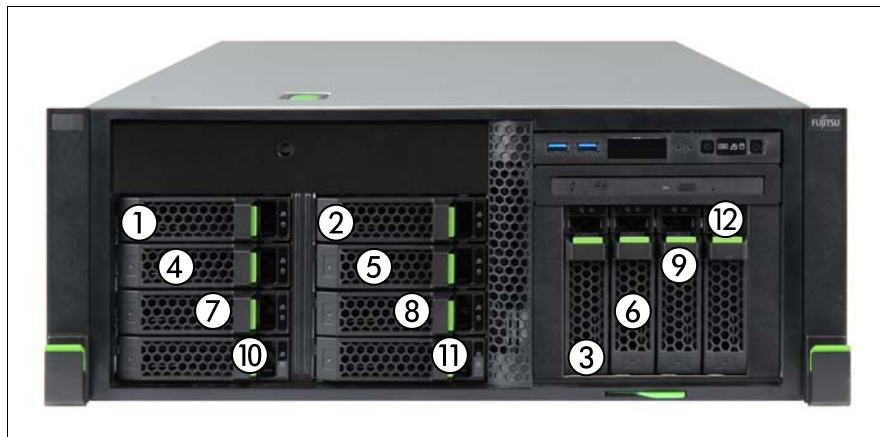


図 113: 最大 12x 3.5 インチ HDD の取り付け順序

HDD の命名体系



図 114: 8x 3.5 インチ HDD の命名体系

i ServerView RAID Manager にリストされる HDD の番号は、HDD の取り付け順序とは異なります。

SAS エキスパンダボードと SAS コントローラ 1 つの場合

位置	論理ドライブ番号	ServerView RAID Manager の表示名 (エンクロージャ番号 : ポート番号)
①	0	ベンダー製品 (1:0)
②	1	ベンダー製品 (1:1)
③	2	ベンダー製品 (1:2)
④	3	ベンダー製品 (1:3)
⑤	4	ベンダー製品 (1:4)
⑥	5	ベンダー製品 (1:5)
⑦	6	ベンダー製品 (1:6)
⑧	7	ベンダー製品 (1:7)
⑨	8	ベンダー製品 (1:8)
⑩	9	ベンダー製品 (1:9)
⑪	10	ベンダー製品 (1:10)
⑫	11	ベンダー製品 (1:11)

7.3.6 3.5 インチ HDD モジュールおよび 2.5 インチ HDD/SSD モジュール（バックプレーン x 3）での混在構成

取り付け順序



図 115: 最大 8x 3.5 インチ HDD および最大 8x 2.5 インチ HDD/SSD の取り付け順序

HDD/SSD の命名体系



図 116: 最大 8x 3.5 インチ HDD および最大 8x 2.5 インチ HDD/SSD の命名体系

i ServerView RAID Manager にリストされる HDD/SSD の番号は、HDD の取り付け順序とは異なります。

SAS エキスパンダボードと RAID コントローラ 1 つの場合

位置	論理ドライブ番号	ServerView RAID Manager の表示名 (エンクロージャ番号 : ポート番号)
①	0	ベンダー製品 (1:0)
②	1	ベンダー製品 (1:1)
③	2	ベンダー製品 (1:2)
④	3	ベンダー製品 (1:3)
⑤	4	ベンダー製品 (1:4)
⑥	5	ベンダー製品 (1:5)
⑦	6	ベンダー製品 (1:6)
⑧	7	ベンダー製品 (1:7)
⑨	8	ベンダー製品 (1:8)
⑩	9	ベンダー製品 (1:9)
⑪	10	ベンダー製品 (1:10)
⑫	11	ベンダー製品 (1:11)
⑬	12	ベンダー製品 (1:12)
⑭	13	ベンダー製品 (1:13)
⑮	14	ベンダー製品 (1:14)
⑯	15	ベンダー製品 (1:15)

7.3.7 3.5 インチの HDD モジュールの取り付け



お客様による交換可能部品
(CRU)



平均作業時間：
5 分

工具： 工具不要

7.3.7.1 準備手順

- ▶ タワーサーバで作業をする場合は、66 ページの「アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り外し」の項に記載されているように、HDD ベイカバーを開きます。
- ▶ 194 ページの「3.5 インチ HDD 構成」の項に記載されているように、正しいドライブベイを特定します。

7.3.7.2 3.5 インチ HDD ダミーモジュールの取り外し

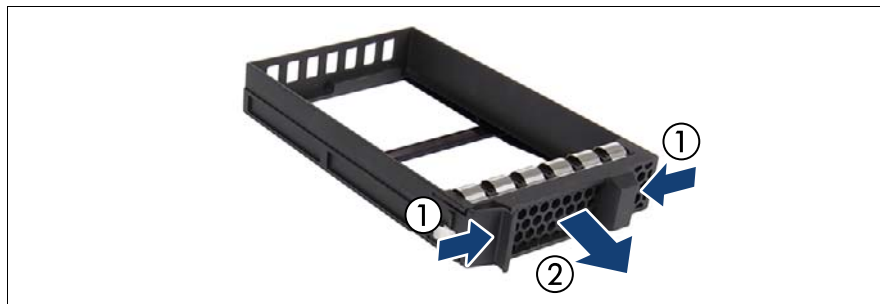


図 117: 3.5 インチダミーモジュールの取り外し

- ▶ 両方のタブを同時に押して (1)、ダミーモジュールをベイから引き出します (2)。



注意！

ダミーモジュールは今後使うかもしれないので、保管しておいてください。

該当する EMC 指令に準拠し、かつ冷却要件を満たすために、使用していない HDD ベイにダミーモジュールを必ず装着してください。

7.3.7.3 3.5 インチ HDD モジュールの取り付け

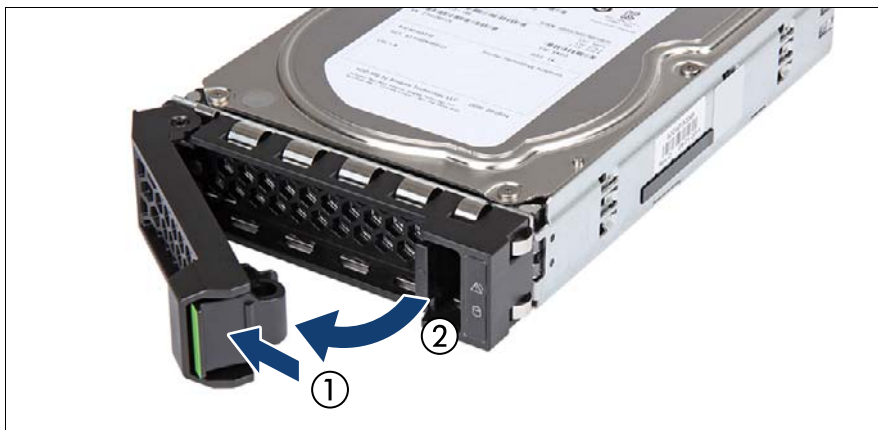


図 118: 3.5 インチ HDD モジュールのロックレバーを開く

- ▶ 緑色のロッキングラッチをはさんで (1)、ロックレバーを開きます (2)。



図 119: 3.5 インチ HDD モジュールの取り付け

- ▶ ドライブベイに HDD モジュールを挿入し、慎重に最後まで押し込みます (1)。
- ▶ ロックレバーを閉じて、ハードディスクドライブを所定の位置に固定します (2)。

7.3.7.4 終了手順

- ▶ タワーサーバで作業をする場合は、73 ページの「アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り付け」の項に記載されているように、HDD ベイカバーを閉じます。
- ▶ 126 ページの「RAID アレイのリビルドの実行」

7.3.8 3.5 インチ HDD モジュールの取り外し



お客様による交換可能部品
(CRU)





平均作業時間：
5 分

工具： 工具不要

7.3.8.1 準備手順

- ▶ 取り外す HDD モジュールが RAID アレイに組み込まれている場合は、次の手順に従います。

RAID レベル	手順
RAID 0	<p>故障した場合は、RAID 0 アレイに組み込まれている HDD モジュールのみ取り外します。</p> <p> 注意！ 動作可能な HDD モジュールを取り外すと、データが失われます。</p>
RAID 5	<p>HDD モジュールを RAID 1 または RAID 5 アレイから取り外してもデータは失われません。</p> <p>ただし、取り外したドライブは、すぐに同じか、または同等以上の容量の HDD モジュールに交換する必要があります。</p> <p> 126 ページの「RAID アレイのリビルドの実行」の項に記載されているように、HDD モジュールの交換後、バックグラウンドプロセスとして、RAID のリビルドが行われます。</p>

RAID アレイの一部である動作可能な HDD モジュールを永久的にサーバから取り外すには、まず ServerView RAID Manager を使用してアレイを削除する必要があります。



注意！

アレイのすべての HDD のすべてのデータが失われます。RAID アレイを削除する前に、必ずデータのバックアップを行ってください。

詳細は、『ServerView Suite RAID Management』ユーザガイドを参照してください。

- ▶ タワーサーバで作業をする場合は、[66 ページ](#)の「[アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り外し](#)」の項に記載されているように、HDD ベイカバーを開きます。

7.3.8.2 3.5 インチ HDD モジュールの取り外し

- ▶ 緑色のロッキングラッチをはさんで、ロックレバーを開きます ([203 ページ](#)の[図 118](#))。
- ▶ HDD モジュールを 2 ～ 3 cm 引き出します。
- ▶ ハードディスクドライブが完全に回転を停止するまで、約 30 秒待機してください。



この時間は、HDD モジュールが取り外されたことと、ハードディスクドライブが停止したことを RAID コントローラが認識するために必要です。

- ▶ HDD モジュールをベイから完全に引き出します。

7.3.8.3 3.5 インチ HDD ダミーモジュールの取り付け



注意！

取り外した HDD モジュールをすぐに交換しない場合は、該当する EMC 指令に準拠し、かつ冷却要件を満たすために、使用していない HDD ベイにダミーモジュールを必ず装着してください。



図 120: 3.5 インチ HDD ダミーモジュールの取り付け

- ▶ ダミーモジュールを、固定するまで空きベイに押し込みます。

7.3.8.4 終了手順

- ▶ タワーサーバで作業をする場合は、73 ページの「アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り付け」の項に記載されているように、HDD ベイカバーを閉じます。

7.3.9 3.5 インチ HDD モジュールの交換



お客様による交換可能部品
(CRU)



平均作業時間：
5 分

工具： 工具不要



注意！

- 現在ドライブへのアクセスがない場合のみ、動作中に HDD モジュールを取り外してください。対応するオペレーティングマニュアルに記載されているように、HDD モジュールの表示ランプを確認します。
- ドライブが RAID コントローラで動作し、RAID レベル 0、1、1E、10、5、50、6 または 60 で動作しているディスクアレイに属しているかどうか分からない場合には、いかなる状態であっても、絶対にシステムの動作中に HDD モジュールを取り外さないでください。

動作中の HDD モジュールの交換は、対応する RAID 設定を行った場合のみ可能です。

- 取り外し後に元の場所に戻せるように、HDD モジュール（ドライブ）すべてに明確なマークを付ける必要があります。この作業を行わないと既存のデータが失われることがあります。

7.3.9.1 準備手順

- ▶ [51 ページ](#) の「故障したサーバの特定」
- ▶ タワーサーバで作業をする場合は、[66 ページ](#) の「アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り外し」の項に記載されているように、HDD ベイカバーを開きます。
- ▶ [53 ページ](#) の「故障した部品の特定」

故障していない HDD モジュールの取り外しにのみ適用される事項：

- ▶ 故障していない HDD モジュールを取り外す場合は、まず、RAID 設定ソフトウェアを使用してドライブを「オフライン」に設定する必要があります。



詳細は、『ServerView Suite RAID Management』ユーザガイドを参照してください。

7.3.9.2 3.5 インチ HDD モジュールの取り外し

- ▶ [205 ページ](#) の「3.5 インチ HDD モジュールの取り外し」の項に記載されているように、交換する HDD をサーバから取り外します。

7.3.9.3 3.5 インチ HDD モジュールの取り付け

- ▶ [202 ページ](#) の「3.5 インチの HDD モジュールの取り付け」の項に記載されているように、新しい HDD モジュールを取り付けます。

7.3.9.4 終了手順

- ▶ タワーサーバで作業をする場合は、[73 ページ](#) の「アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り付け」の項に記載されているように、HDD ベイカバーを閉じます。
- ▶ [126 ページ](#) の「RAID アレイのリビルドの実行」

7.3.10 3.5 インチ HDD SAS バックプレーンの交換



フィールド交換可能ユニット
(FRU)



平均作業時間：
15 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

7.3.10.1 準備手順

- ▶ 51 ページの「故障したサーバの特定」
- ▶ 54 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 55 ページの「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 56 ページの「ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し」
- ▶ 60 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 該当する場合、66 ページの「アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り外し」
- ▶ 次の項に記載されるように、すべての HDD/SSD モジュールを取り外します：174 ページの「2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り外し」
- ▶ すべてのケーブルを故障した SAS バックプレーンから取り外します。

7.3.10.2 3.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り外し



3.5 インチ HDD SAS バックプレーンを交換するために、3.5 インチ HDD フロントパネルを取り外す必要はありません。図では、フロントパネルは、図示の目的のためのみに取り外されています。

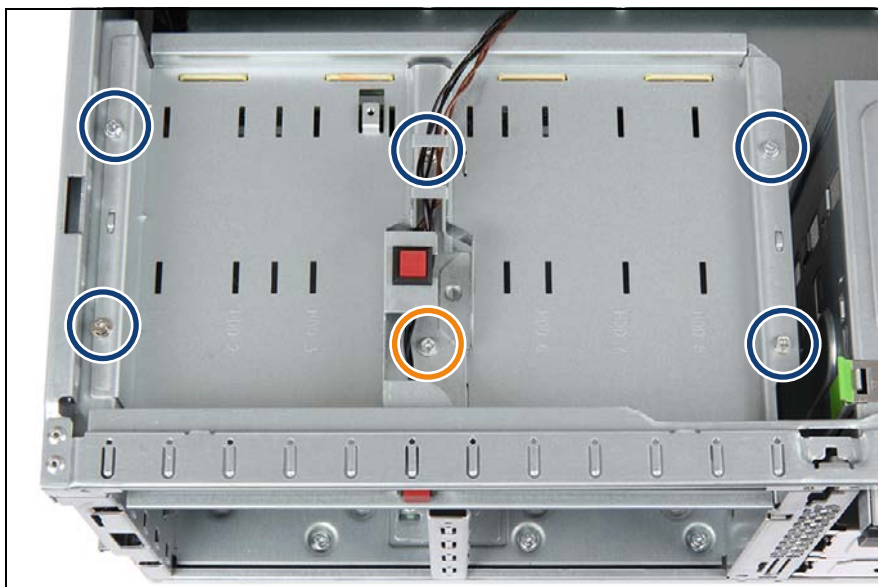


図 121: 3.5 インチ HDD ベイトップカバーの取り外し (A)

- ▶ 3.5 インチ HDD ベイのトップカバーから 5 本のネジを取り外します（青色の丸で囲んだ部分）。
- ▶ イントリュージョンスイッチホルダーから 1 本のネジを取り外します（オレンジ色の丸で囲んだ部分）。

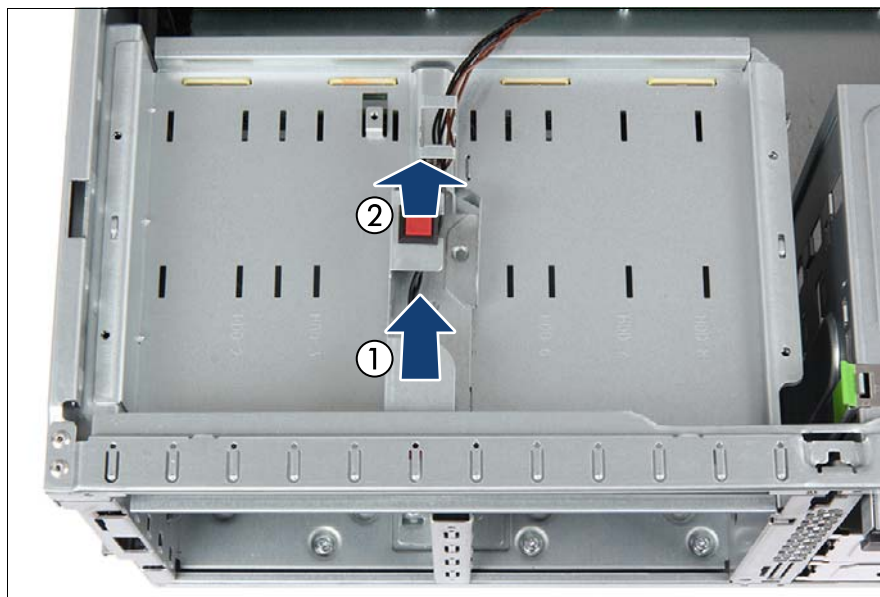


図 122: 3.5 インチ HDD ベイトップカバーの取り外し (B)

- ▶ イントリュージョンスイッチホルダーが HDD ベイのトップカバーから外れるまで、後ろにスライドさせます (1)。
- ▶ イントリュージョンスイッチホルダーを取り外して (2)、保管しておきます。
- ▶ イントリュージョンスイッチケーブルをシステムボードに接続しているままにしておきます。

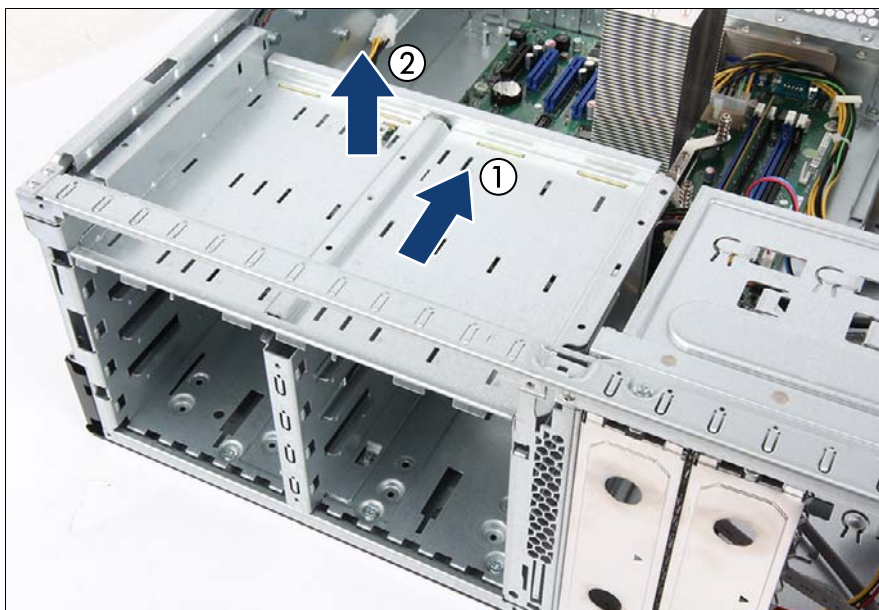


図 123: 3.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り外し (C)

- ▶ 3.5 インチ HDD ベイのトップカバーをゆっくりと持ち上げて、下図のように SAS バックプレーンから取り外します (1)。
- ▶ 3.5 インチ HDD ベイのトップカバーをシャーシから取り外します (2)。

7.3.10.3 3.5 インチ HDD SAS バックプレーンの取り外し

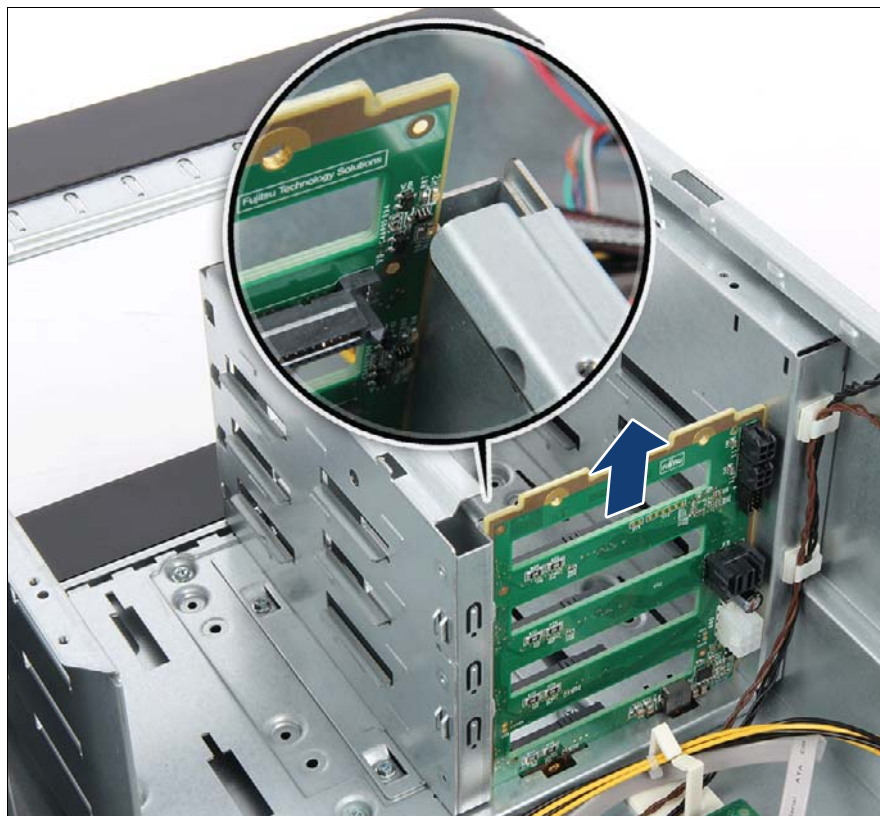


図 124: 3.5 インチ HDD SAS バックプレーンの取り外し

- ▶ SAS バックプレーンを垂直に引き上げて、HDD ベイから取り外します。



HDD ベイの金属製のフレーム（丸で囲んだ部分）で SAS バックプレーンのコンポーネントを破損しないように注意してください。

7.3.10.4 3.5 インチ HDD SAS バックプレーンの取り付け

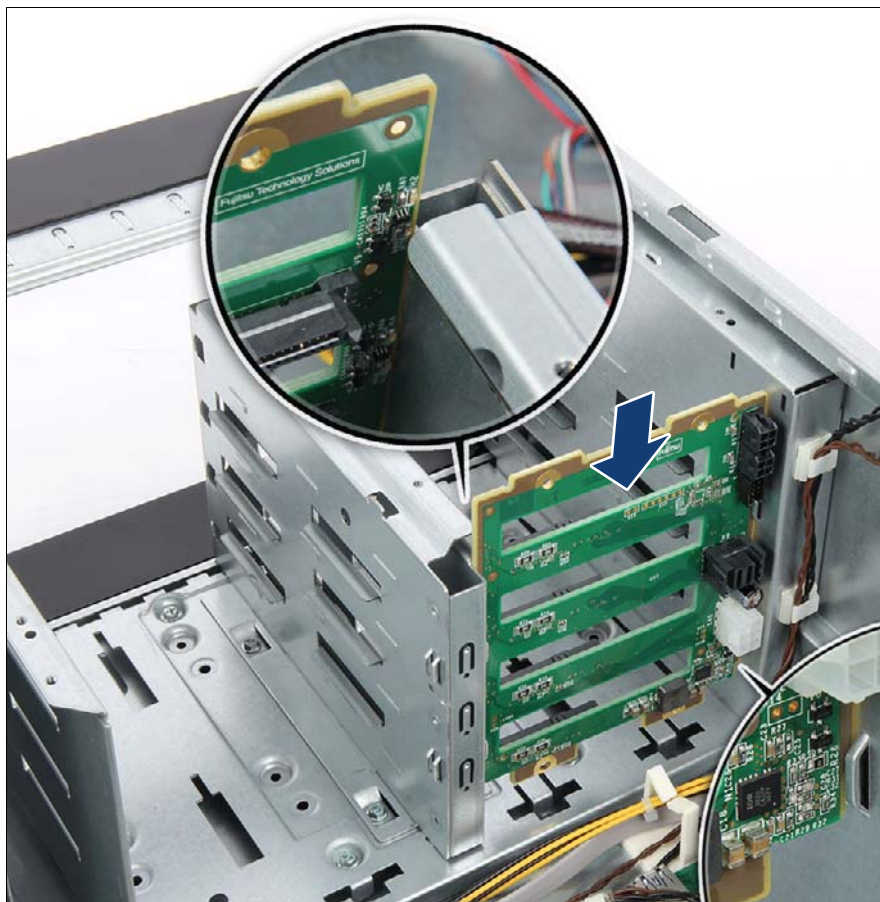


図 125: 新しい 4 x 3.5 インチ HDD SAS バックプレーンの取り付け (A)

- ▶ HDD バックプレーンを SAS ベイの外側にあるガイドにはめ込み（拡大された部分を参照）、下側の縁に降ろします。



HDD ベイの金属製のフレーム（丸で囲んだ部分）で SAS バックプレーンのコンポーネントを破損しないように注意してください。

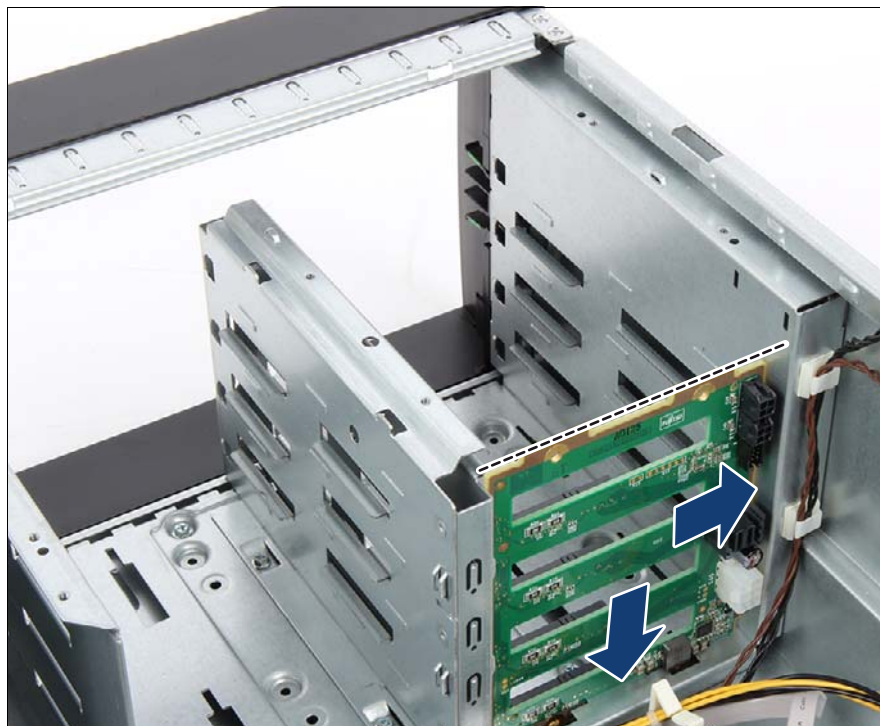


図 126: 新しい 4 x 3.5 インチ HDD SAS バックプレーンの取り付け (B)

- ▶ 4 x 3.5 インチ HDD SAS バックプレーンが、下側の縁およびサイドのガイドに正しくはめ込まれていることを確認します (矢印を参照)。
- ▶ SAS バックプレーンの上端が HDD ベイの仕切りに合っていることを確認します (点線を参照)。

7.3.10.5 3.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り付け

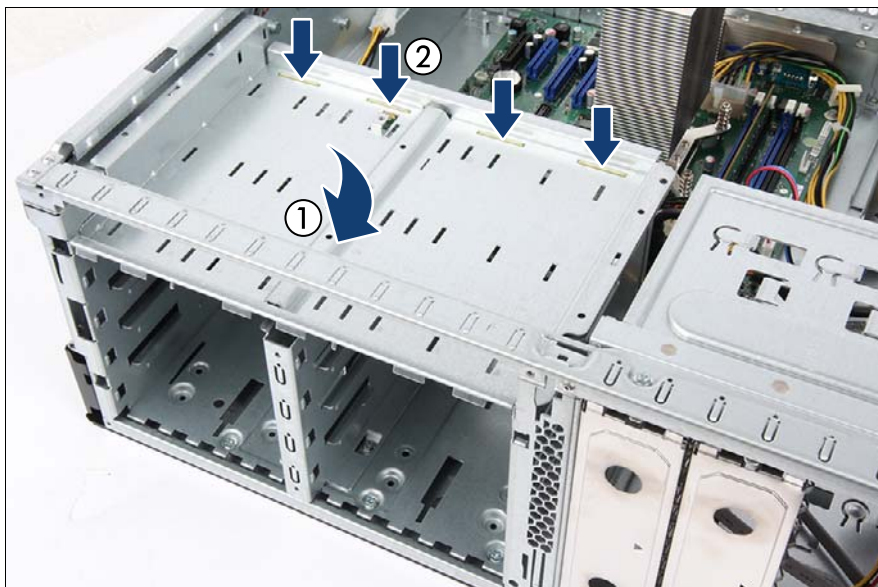


図 127: 3.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り付け (A)

- ▶ 3.5 インチ HDD ベイのトップカバーを HDD ベイに降ろします (1)。
- ▶ 3.5 インチ HDD ベイのトップカバーを 4x 3.5 インチ HDD SAS バックプレーンのラッチの上に置きます (2)。



注意！

4x 3.5 インチ HDD SAS バックプレーンのラッチが、HDD ベイのトップカバーの開口部に正しく固定されていることを確認します。

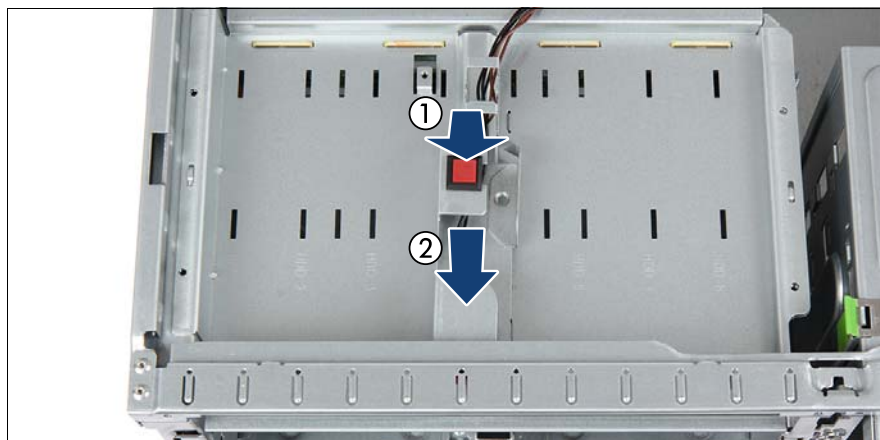


図 128: 3.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り付け (B)

- ▶ イントリュージョンスイッチホルダーを HDD ベイのトップカバーへ置きます (1)。
- ▶ イントリュージョンスイッチホルダーを、最後までシャーシ前面の縁の下にスライドさせます (2)。

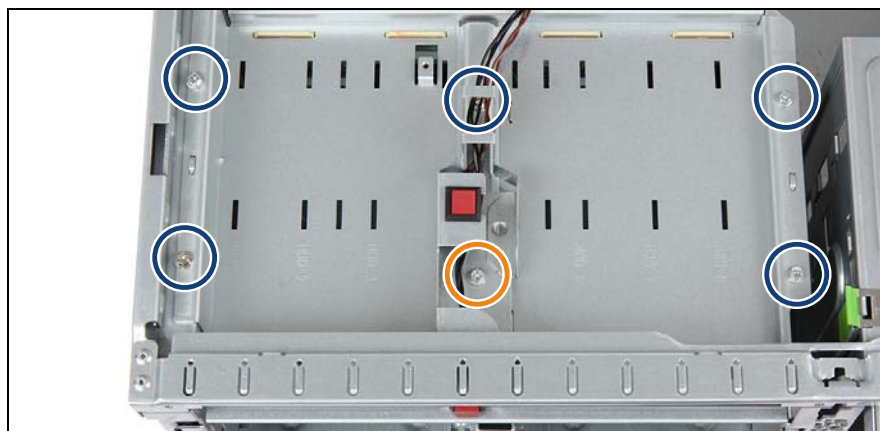


図 129: 3.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り付け (C)

- ▶ M3 x 4.5 mm のネジ 5 本で、HDD ベイのトップカバーをシャーシに固定します (青色の丸で囲んだ部分)。
- ▶ M3 x 4.5 mm ネジ 1 本で、イントリュージョンスイッチホルダーを HDD ベイのトップカバーに固定します (オレンジ色の丸で囲んだ部分)。

7.3.10.6 SAS バックプレーン 1 へのケーブルの接続

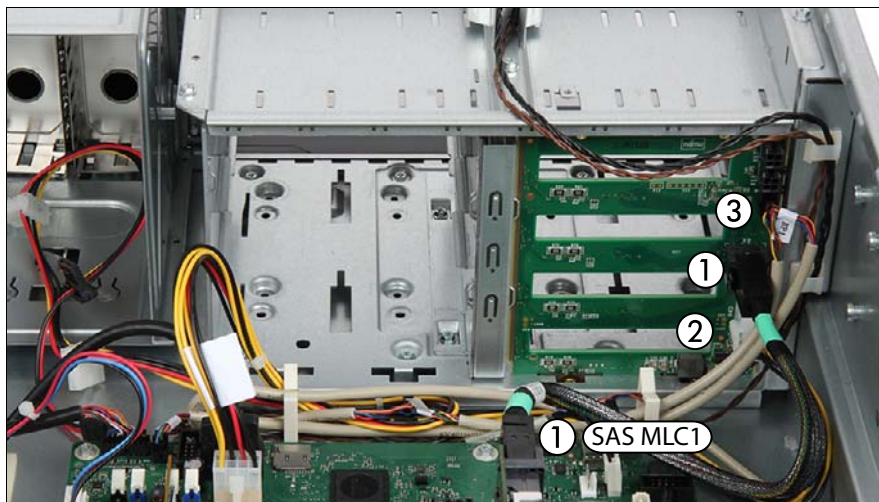


図 130: SAS バックプレーン 1 へのケーブルの接続

- ▶ バックプレーンに SAS ケーブル C19 を接続します。
 - (1) SAS コントローラコネクタ MLC1 からバックプレーンコネクタ X9 へ
- ▶ バックプレーンに電源ケーブル C5 を接続します。
 - (2) システムボードコネクタ SATA POWER からバックプレーンコネクタ X40 へ
- ▶ 該当する場合は、OOB ケーブル C23 をバックプレーンに接続します。
 - (3) システムボードコネクタ I2C5 からバックプレーンコネクタ X11 へ

i ケーブル接続の概要のまとめは、[436 ページ](#)の「[ケーブル図](#)」の項を参照してください。

7.3.10.7 終了手順

- ▶ [172 ページ](#)の「[2.5 インチの HDD/SSD モジュールの取り付け](#)」の項に記載されるように、すべての取り外した HDD/SSD モジュールを取り付けます。
- ▶ [69 ページ](#)の「[サーバを閉じる](#)」

- ▶ [ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 77 ページ の「ラックへのサーバの取り付け」](#)
- ▶ [80 ページ の「主電源へのサーバの接続」](#)
- ▶ [82 ページ の「サーバの電源投入」](#)

7.3.11 8 x 3.5 インチ HDD 構成へのアップグレード



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



平均作業時間：
20 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

7.3.11.1 準備手順

- ▶ [99 ページ の「BitLocker 機能の中断」](#)
- ▶ [54 ページ の「サーバのシャットダウン」](#)
- ▶ [55 ページ の「主電源からサーバの取り外し」](#)
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は [56 ページ の「ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し」](#)
- ▶ [60 ページ の「サーバを開ける」](#)
- ▶ 次の項に記載されるように、すべての HDD/SSD モジュールを取り外します：[174 ページ の「2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り外し」](#)

7.3.11.2 3.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り外し

- ▶ [208 ページ の「3.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り外し」](#) の項に記載されているように、3.5 インチ HDD ベイトップカバーを取り外します。

7.3.11.3 4x 3.5 インチの HDD フロントパネルの取り外し



図 131: 4x 3.5 インチの HDD フロントパネルの取り外し

- ▶ 4 x 3.5 インチ HDD フロントパネルから 4 本のネジを取り外します（丸で囲んだ部分）。
- ▶ シャーシから外れるまで、4x 3.5 インチ HDD フロントパネルを引き上げます（矢印を参照）。
- ▶ 4x 3.5 インチの HDD フロントパネルを取り外します。

7.3.11.4 2つ目の3.5インチ HDD SAS バックプレーンの取り付け

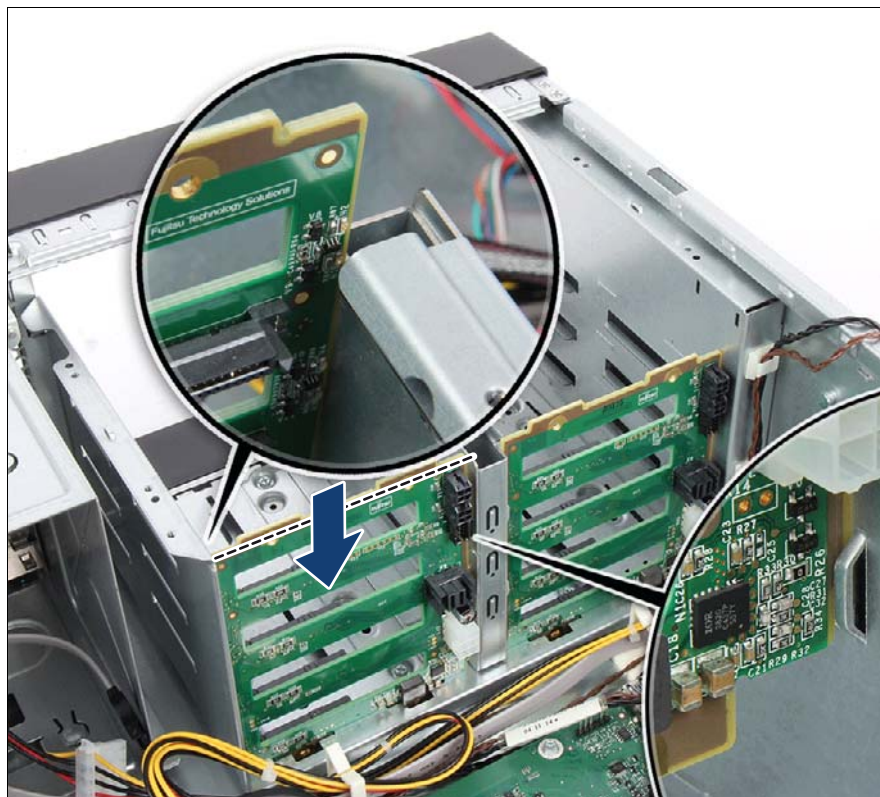


図 132: 2つ目の3.5インチ HDD SAS バックプレーンの取り付け

- ▶ HDD バックプレーンを SAS ベイの外側にあるガイドにはめ込み（拡大された部分を参照）、下側の縁に降ろします。

i HDD ベイの金属製のフレーム（丸で囲んだ部分）で SAS バックプレーンのコンポーネントを破損しないように注意してください。

- ▶ SAS バックプレーンが、下側の縁およびサイドのガイドに正しくはめ込まれていることを確認します。
- ▶ SAS バックプレーンの上端が HDD ベイの仕切りに合っていることを確認します（点線を参照）。

7.3.11.5 8x 3.5 インチ HDD フロントパネルの取り付け

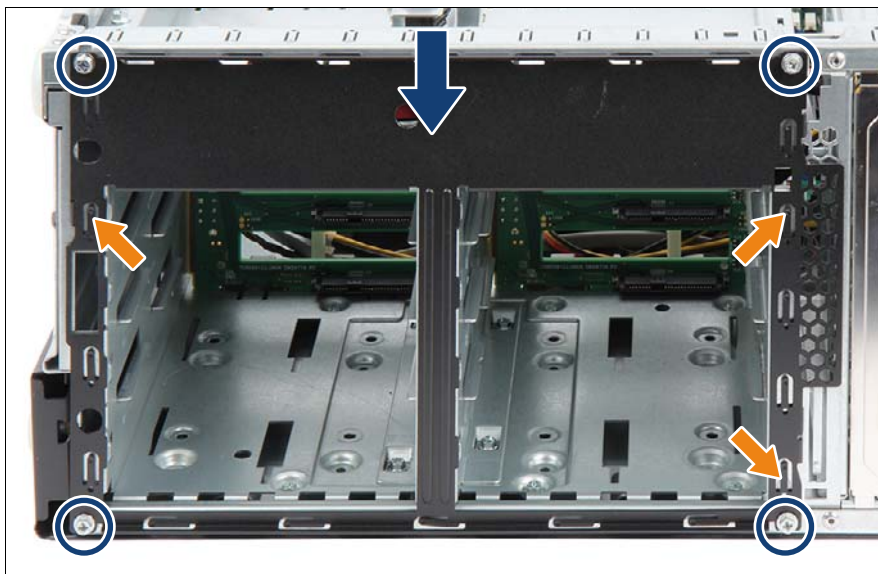


図 133: 8x 3.5 インチ HDD フロントパネルの固定

- ▶ HDD フロントパネルの 3 つのフックを、サーバ前面のスロットに合わせます（オレンジ色の矢印を参照）。
- ▶ 上端がシャーシに合うまで、HDD フロントパネルをしっかり押し下げます（青色の矢印を参照）。
- ▶ 4 本の M3 x 4.5 mm ネジで、HDD フロントパネルをサーバ前面に固定します（丸で囲んだ部分）。

7.3.11.6 3.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り付け

- ▶ 215 ページの「3.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り付け」の項に記載されるように HDD ベイのトップカバーを取り付けます。

7.3.11.7 SAS バックプレーン 2 へのケーブルの接続

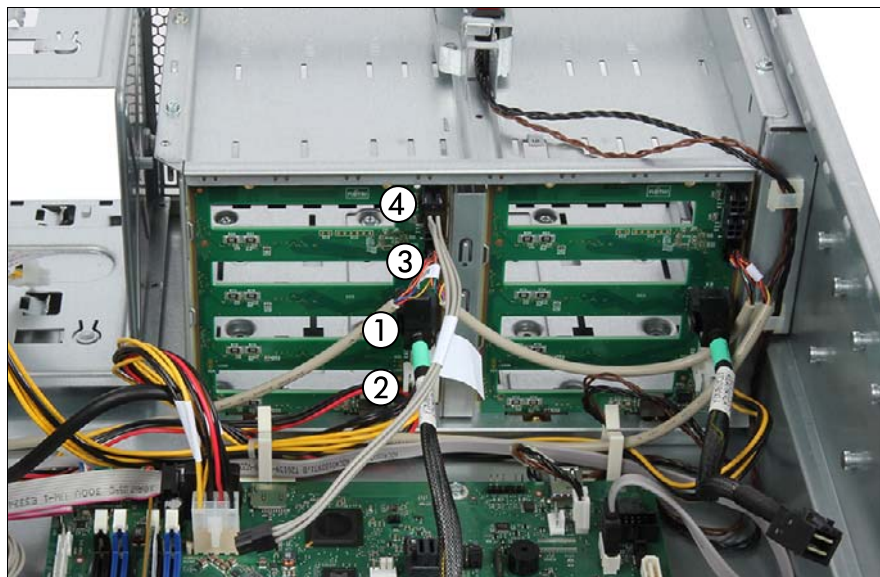


図 134: SAS バックプレーン 2 へのケーブルの接続

- ▶ バックプレーン 2 に SAS ケーブル C19 を接続します。
 - (1) SAS コントローラコネクタ MLC2 からバックプレーン 2 コネクタ X9 へ
- ▶ バックプレーン 2 に電源ケーブルを接続します。
 - (2) 電源ケーブル C12 を電源バックプレーンコネクタ P22 から バックプレーン 2 コネクタ X40 へ
 - (3) 必要に応じて、その他のアクセス可能なドライブへの電源ケーブルを電源コネクタ X17 へ
- ▶ 該当する場合は、OOB ケーブル C23 をバックプレーンに接続します。
 - (4) システムボードコネクタ I2C5 からバックプレーンコネクタ X11 へ



ケーブル接続の概要のまとめは、[436 ページの「ケーブル図」](#)の項を参照してください。

7.3.11.8 終了手順

- ▶ 172 ページの「2.5 インチの HDD/SSD モジュールの取り付け」の項に記載されるように、すべての取り外した HDD/SSD モジュールを取り付けます。



HDD の取り付け順序の詳細は、194 ページの「3.5 インチ HDD 構成」の項を参照してください。

- ▶ 69 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 77 ページの「ラックへのサーバの取り付け」
- ▶ 80 ページの「主電源へのサーバの接続」
- ▶ 82 ページの「サーバの電源投入」
- ▶ BitLocker 機能を使用していて、保守作業を開始する前に無効にした場合は、BitLocker を再度有効にします。125 ページの「BitLocker 機能の再開」

7.4 HDD 拡張ボックス

7.4.1 HDD 拡張ボックスの概要

7.4.1.1 8 x 2.5 インチ HDD 拡張ボックス



図 135: 8 x 2.5 インチ HDD 拡張ボックス



8 x 2.5 インチ HDD 拡張ボックスは、アクセス可能なドライブベイ 2 と 3 に取り付けます。

7.4.1.2 4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックス



図 136: 4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックス



4 x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスは、アクセス可能なドライブベイ 1、2、3 に取り付けます。

7.4.2 8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



平均作業時間：
10 分

工具： マイナスドライバ（アクセス可能なドライブの取り付け用ブラケットを曲げるため）

7.4.2.1 準備手順

- ▶ 99 ページの「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 54 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 55 ページの「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
56 ページの「ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し」
- ▶ 60 ページの「サーバを開ける」

7.4.2.2 アクセス可能なドライブのダミーカバーの取り外し

- ▶ 93 ページの「アクセス可能なドライブのフィルターカバー」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブフィルターカバーを必要なベイから取り外します。
- ▶ 95 ページの「アクセス可能なドライブのカバー」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブカバーを取り外します。

7.4.2.3 HDD/SSD バックプレーンの取り付け

- ▶ 必要に応じて、232 ページの「新しい HDD/SSD バックプレーンの取り付け」の項に記載されているように、HDD/SSD バックプレーンを 8x 2.5 HDD 拡張ボックスに取り付けます。

7.4.2.4 8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け



図 137: 取り付けブラケットを曲げる

- ▶ ドライバを使用して、中央の取り付けベイ（ベイ 2）の各側にある 2 つの取り付けブラケットを内側に曲げます。
- ▶ 89 ページの「アクセス可能なドライブのロックを開く」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブロックを取り外します。



図 138: 8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け

- ▶ 8x 2.5 インチ HDD 拡張ボックスを取り付けベイ 2 と 3 に差し込み、フロントパネルに揃うまでゆっくり押し込みます。
- ▶ [91 ページ](#) の「アクセス可能なドライブのロックを閉じる」の項に記載されているように、ロックを取り付けます。

7.4.2.5 8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの線図

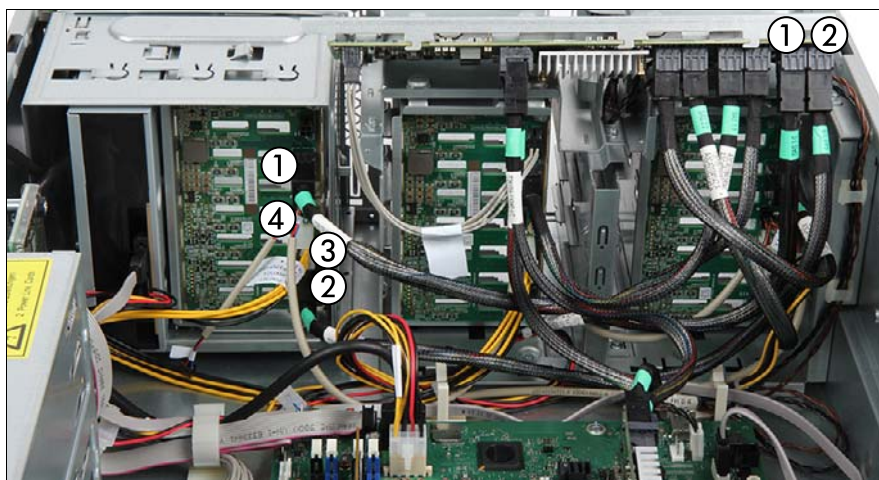


図 139: 8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの接続

▶ SAS ケーブル C36 を接続します。

- (1) バックプレーンコネクタ X9 からエキスパンダボードコネクタ X14 へ
- (2) バックプレーンコネクタ X10 からエキスパンダボードコネクタ X15 へ

▶ バックプレーンに電源ケーブル C12 を接続します。

- (3) 電源バックプレーンコネクタ P22 から バックプレーン 3 コネクタ X40 へ

▶ 該当する場合は、OOB ケーブル C23 をバックプレーンに接続します。

- (4) システムボードコネクタ I2C5 からバックプレーンコネクタ X11 へ



上記ケーブル接続は一例です。構成によりケーブル接続が異なるため、[436 ページの「ケーブル図」](#)の項を参照してください。

7.4.2.6 8 x 2.5 インチ HDD 拡張ボックスへの HDD の取り付け

- ▶ [173 ページ](#) の「2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り付け」および [176 ページ](#) の「2.5 インチ HDD/SSD ダミーモジュールの取り付け」の項に記載されているように、HDD モジュールまたは HDD ダミーモジュールを、追加の HDD スロットに取り付けます。



HDD の取り付け順序の詳細は、[164 ページ](#) の「2.5 インチ HDD/SSD 構成」の項を参照してください。

7.4.2.7 終了手順

- ▶ [69 ページ](#) の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は [77 ページ](#) の「ラックへのサーバの取り付け」
- ▶ [80 ページ](#) の「主電源へのサーバの接続」
- ▶ [82 ページ](#) の「サーバの電源投入」
- ▶ BitLocker 機能を使用していて、保守作業を開始する前に無効にした場合は、BitLocker を再度有効にします。[125 ページ](#) の「BitLocker 機能の再開」

7.4.3 8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



平均作業時間：
10 分

工具： 工具不要

7.4.3.1 準備手順

- ▶ [99 ページ](#) の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ [54 ページ](#) の「サーバのシャットダウン」
- ▶ [55 ページ](#) の「主電源からサーバの取り外し」

- ▶ 174 ページの「2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り外し」の項に記載されているように、すべての HDD モジュールを HDD 拡張ボックスから取り外します。
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 56 ページの「ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し」
- ▶ 60 ページの「サーバを開ける」

7.4.3.2 8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し

- ▶ 8x 2.5 インチ HDD 拡張ボックスバックプレーンから、すべてのケーブルを取り外します。
- ▶ 89 ページの「アクセス可能なドライブのロックを開く」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブロックを取り外します。



図 140: 8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し

- ▶ 8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスを取り付けベイからゆっくりと引き出します。

- ▶ [91 ページ](#) の「アクセス可能なドライブのロックを閉じる」の項に記載されているように、ロックを取り付けます。

7.4.3.3 アクセス可能なドライブのダミーカバーの取り付け

- ▶ [93 ページ](#) の「アクセス可能なドライブのフィラーカバー」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブフィラーカバーを空のドライブベイに取り付けます。
- ▶ [95 ページ](#) の「アクセス可能なドライブのカバー」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブカバーをフロントカバーに取り付けます。

7.4.3.4 終了手順

- ▶ [69 ページ](#) の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[77 ページ](#) の「ラックへのサーバの取り付け」
- ▶ [80 ページ](#) の「主電源へのサーバの接続」
- ▶ [82 ページ](#) の「サーバの電源投入」
- ▶ [125 ページ](#) の「BitLocker 機能の再開」

7.4.4 8x 2.5 インチ HDD 拡張ボックスの HDD/SSD バックプレーンの交換



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



平均作業時間：
10 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

7.4.4.1 準備手順

- ▶ [54 ページ](#) の「サーバのシャットダウン」
- ▶ [55 ページ](#) の「主電源からサーバの取り外し」

- ▶ 174 ページの「2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り外し」の項に記載されているように、すべての HDD モジュールを HDD 拡張ボックスから取り外します。
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 56 ページの「ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し」
- ▶ 60 ページの「サーバを開ける」

7.4.4.2 故障した HDD/SSD バックプレーンの取り外し

- ▶ 228 ページの「8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し」の項に記載されているように、8 x 2.5 インチ HDD 拡張ボックスのロックを解除して、取り付けベイから引き出します。

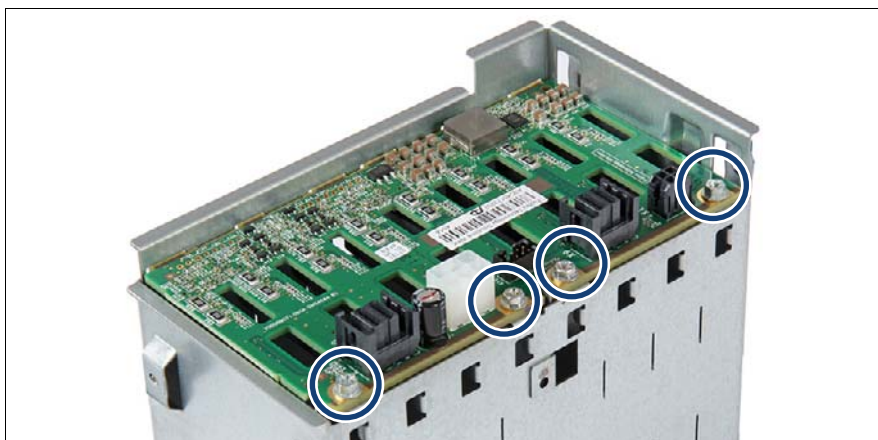


図 141: HDD/SSD バックプレーンの取り外し (A)

- ▶ 4 本のネジを取り外します (丸で囲んだ部分)。

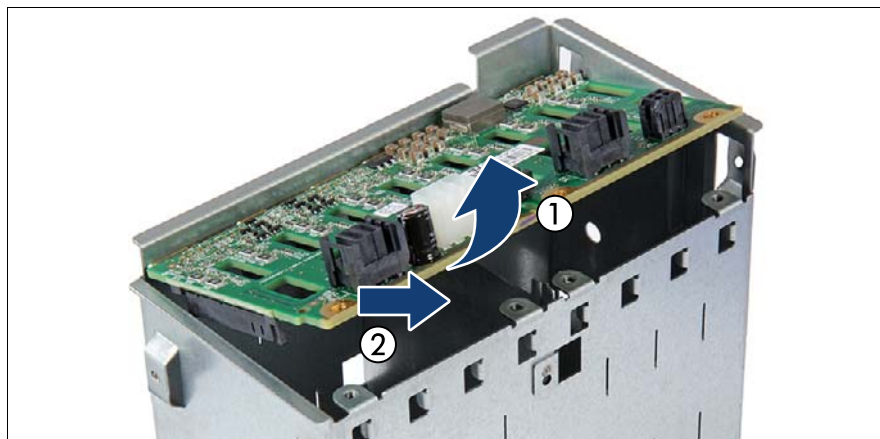


図 142: HDD/SSD バックプレーンの取り外し (B)

- ▶ HDD/SSD バックプレーンを持ち上げ (1)、やや傾けながら HDD 拡張ボックスの凹みから外します (2)。

7.4.4.3 新しい HDD/SSD バックプレーンの取り付け

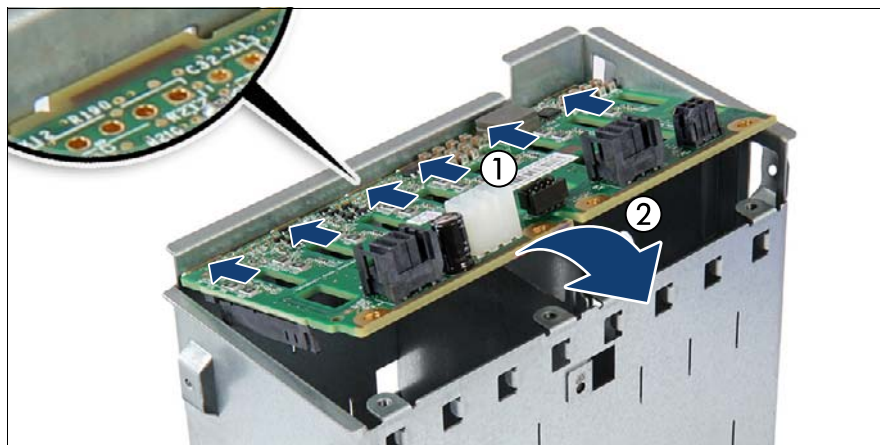


図 143: HDD/SSD バックプレーンの取り付け

- ▶ HDD/SSD バックプレーンを、やや傾けながら HDD 拡張ボックスの 6 つの凹みに合わせます (1)。
- ▶ HDD/SSD バックプレーンを倒します (2)。

- ▶ HDD/SSD バックプレーンを 4 本のネジで固定します (図 141 を参照)。
- ▶ 224 ページの「8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け」の項に記載されているように、8x 2.5 インチ HDD 拡張ボックスを取り付けます。

7.4.4.4 終了手順

- ▶ 69 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ 172 ページの「2.5 インチの HDD/SSD モジュールの取り付け」の項に記載されているように、すべてのハードディスクドライブを HDD 拡張ボックスの元のスロットに再び取り付けます。
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 77 ページの「ラックへのサーバの取り付け」
- ▶ 80 ページの「主電源へのサーバの接続」
- ▶ 82 ページの「サーバの電源投入」

7.4.5 4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



平均作業時間：
10 分

工具： マイナスドライバ (アクセス可能なドライブの取り付け用ブラケットを曲げるため)

7.4.5.1 準備手順

- ▶ 99 ページの「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 54 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 55 ページの「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 56 ページの「ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し」
- ▶ 60 ページの「サーバを開ける」

7.4.5.2 アクセス可能なドライブのダミーカバーの取り外し

- ▶ [93 ページ](#) の「[アクセス可能なドライブのフィラーカバー](#)」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブフィラーカバーを必要なベイから取り外します。
- ▶ [95 ページ](#) の「[アクセス可能なドライブのカバー](#)」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブカバーを取り外します。

7.4.5.3 ウルトラスリム ODD の HDD 拡張ボックスへの取り付け

- ▶ 必要に応じて、[347 ページ](#) の「[ウルトラスリム ODD の取り付け](#)」の項に記載されているように、ウルトラスリム ODD を新しい 4 x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスに取り付けます。

7.4.5.4 HDD バックプレーンの取り付け

- ▶ 必要に応じて、[243 ページ](#) の「[新しい HDD バックプレーンの取り付け](#)」の項に記載されているように、HDD バックプレーンを 4x 3.5 HDD 拡張ボックスに取り付けます。

7.4.5.5 4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け



図 144: 取り付けブラケットを曲げる

- ▶ ドライバを使用して、上部と中央の取り付けベイ（ベイ 1 とベイ 2）の取り付けブラケットを内側に曲げます（拡大された部分を参照）。
- ▶ ドライブケースの両側の下部にある 4 つの取り付けブラケットを曲げます。
- ▶ [89 ページ](#) の「アクセス可能なドライブのロックを開く」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブロックを取り外します。

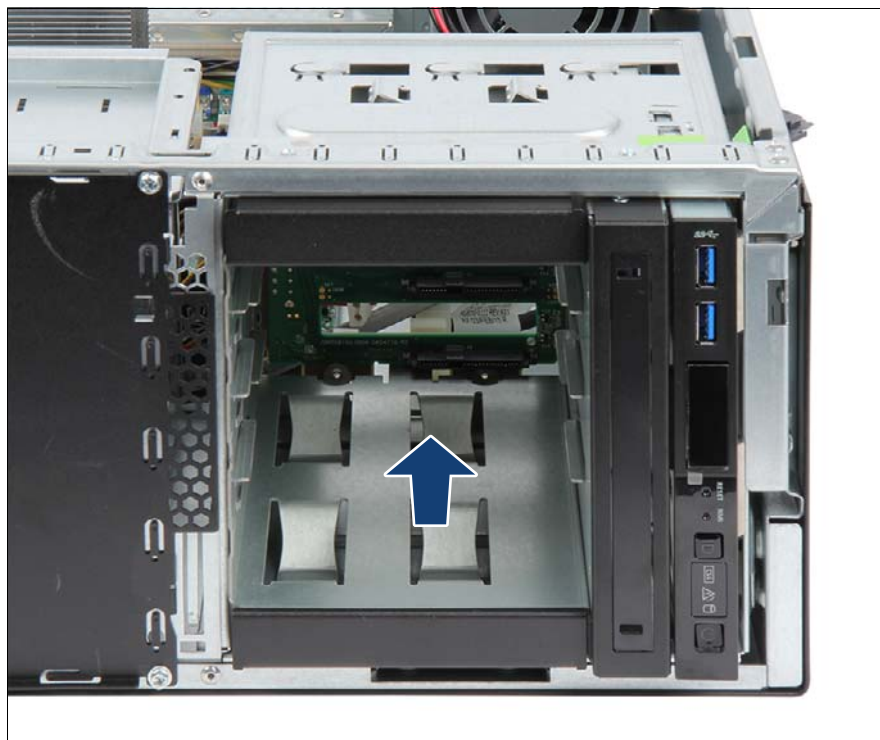


図 145: 4x 3.5 HDD 拡張ボックスの取り付け

- ▶ 必要に応じて、ウルTRASリム ODD のケーブルをベイを通して配線します。
- ▶ 4x3.5 インチ HDD 拡張ボックスを取り付けベイ 1 ～ 3 に差し込み、フロントパネルに揃うまでゆっくり押し込みます。
- ▶ [91 ページ](#) の「アクセス可能なドライブのロックを閉じる」の項に記載されているように、ロックを取り付けます。

7.4.5.6 4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの配線

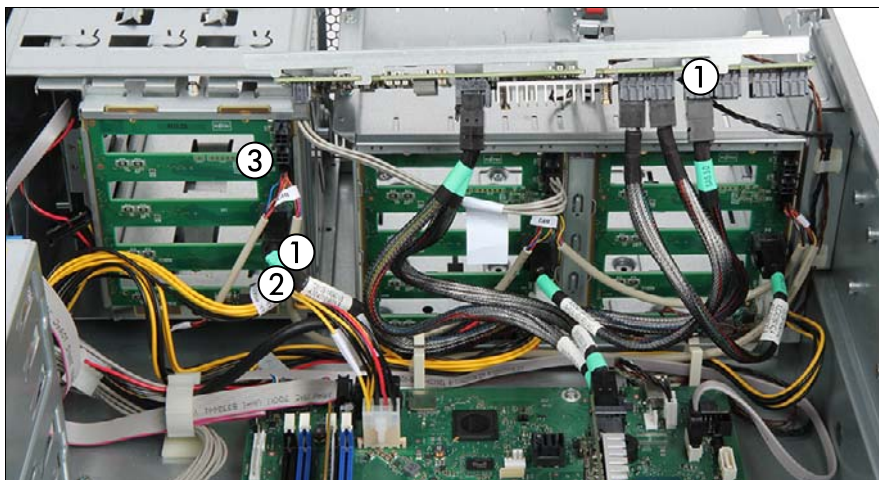


図 146: 4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスの接続にのケーブルの接続

- ▶ SAS ケーブル C36 を接続します。
 - (1) バックプレーンコネクタ X9 からエキスパンダボードコネクタ X12 へ
- ▶ バックプレーンに電源ケーブル C12 を接続します。
 - (2) 電源バックプレーンコネクタ P22 から バックプレーン 3 コネクタ X40 へ
- ▶ 該当する場合は、OOB ケーブル C23 をバックプレーンに接続します。
 - (3) システムボードコネクタ I2C5 からバックプレーンコネクタ X11 へ
- ▶ 必要に応じて、ウルトラスリム ODD の電源ケーブルと SATA ケーブルをシステムボードに接続します（[347 ページ](#)の「[ウルトラスリム ODD の取り付け](#)」の項を参照）。

i 上記ケーブル接続は一例です。構成によりケーブル接続が異なるため、[436 ページ](#)の「[ケーブル図](#)」の項を参照してください。

7.4.5.7 4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスに交換 HDD モジュールの取り付け

- ▶ [203 ページ](#) の「3.5 インチ HDD モジュールの取り付け」および [205 ページ](#) の「3.5 インチ HDD ダミーモジュールの取り付け」の項に記載されているように、HDD モジュールまたは HDD ダミーモジュールを、追加の HDD スロットに取り付けます。



HDD の取り付け順序の詳細は、[194 ページ](#) の「3.5 インチ HDD 構成」の項を参照してください。

7.4.5.8 終了手順

- ▶ [69 ページ](#) の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は [77 ページ](#) の「ラックへのサーバの取り付け」
- ▶ [80 ページ](#) の「主電源へのサーバの接続」
- ▶ [82 ページ](#) の「サーバの電源投入」
- ▶ BitLocker 機能を使用していて、保守作業を開始する前に無効にした場合は、BitLocker を再度有効にします。[125 ページ](#) の「BitLocker 機能の再開」

7.4.6 4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



平均作業時間：
10 分

工具： 工具不要

7.4.6.1 準備手順

- ▶ [99 ページ](#) の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ [54 ページ](#) の「サーバのシャットダウン」
- ▶ [55 ページ](#) の「主電源からサーバの取り外し」

- ▶ 204 ページの「3.5 インチ HDD モジュールの取り外し」の項に記載されているように、すべての HDD モジュールを HDD 拡張ボックスから取り外します。
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 56 ページの「ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し」
- ▶ 60 ページの「サーバを開ける」

7.4.6.2 4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し

- ▶ 4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスバックプレーンから、すべてのケーブルを取り外します。
- ▶ 該当する場合は、すべてのケーブルを薄型 ODD から取り外します。
- ▶ 89 ページの「アクセス可能なドライブのロックを開く」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブロックを取り外します。

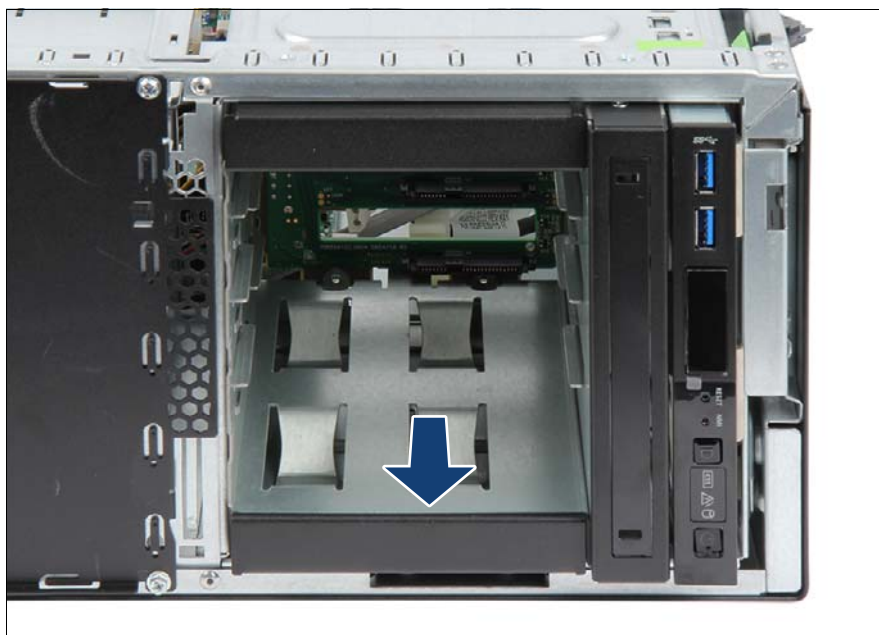


図 147: HDD 拡張ボックスの取り外し

- ▶ 4 x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスを取り付けベイからゆっくりと引き出します。

- ▶ [91 ページ](#) の「アクセス可能なドライブのロックを閉じる」の項に記載されているように、ロックを取り付けます。

7.4.6.3 アクセス可能なドライブのダミーカバーの取り付け

- ▶ [94 ページ](#) の「アクセス可能なドライブフィラーカバーの取り付け」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブフィラーカバーを空のドライブベイに取り付けます。
- ▶ [96 ページ](#) の「アクセス可能なドライブカバーの取り付け」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブカバーをフロントカバーに取り付けます。

7.4.6.4 終了手順

- ▶ [69 ページ](#) の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[77 ページ](#) の「ラックへのサーバの取り付け」
- ▶ [80 ページ](#) の「主電源へのサーバの接続」
- ▶ [82 ページ](#) の「サーバの電源投入」
- ▶ [125 ページ](#) の「BitLocker 機能の再開」

7.4.7 4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスの HDD バックプレーンの交換



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



平均作業時間：
10 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

7.4.7.1 準備手順

- ▶ [54 ページ](#) の「サーバのシャットダウン」
- ▶ [55 ページ](#) の「主電源からサーバの取り外し」

- ▶ 204 ページの「3.5 インチ HDD モジュールの取り外し」の項に記載されているように、すべての HDD モジュールを HDD 拡張ボックスから取り外します。
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 56 ページの「ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し」
- ▶ 60 ページの「サーバを開ける」

7.4.7.2 故障した HDD バックプレーンの取り外し

- ▶ 238 ページの「4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し」の項に記載されているように、4 x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスのロックを解除して、取り付けベイから引き出します。

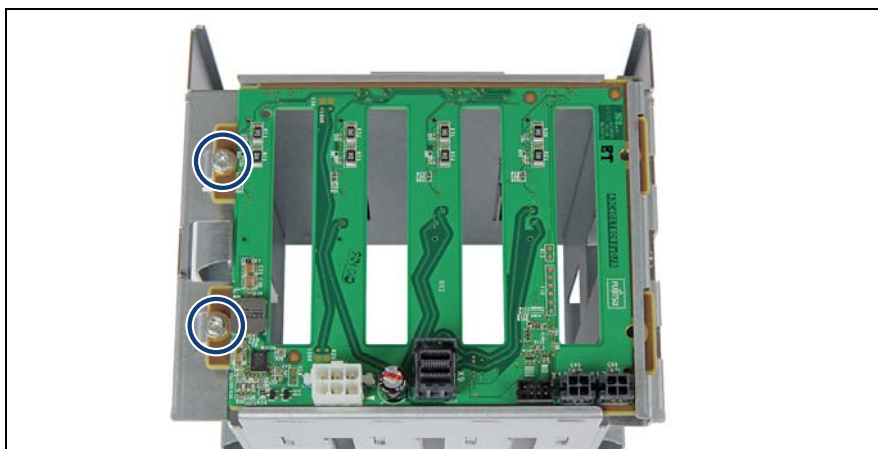


図 148: HDD バックプレーンの取り外し (A)

- ▶ 2 本のネジ（丸で囲んだ部分）を取り外します。

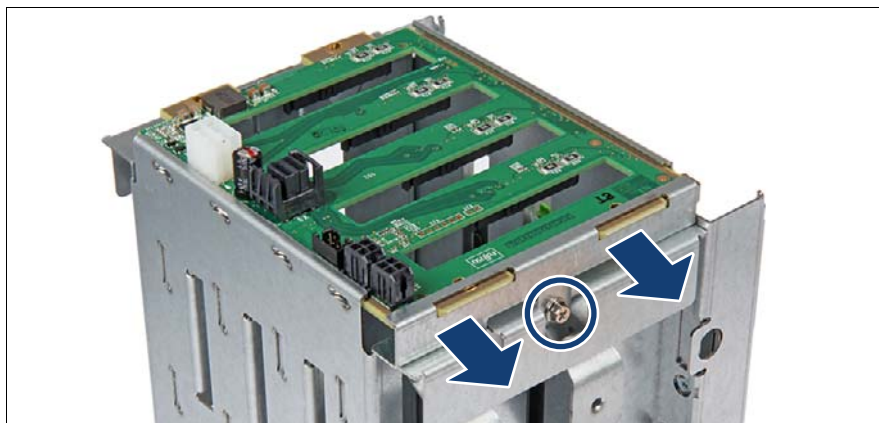


図 149: HDD バックプレーンの取り外し (B)

- ▶ ネジを取り外します (丸で囲んだ部分)。
- ▶ ブラケットを取り外します。

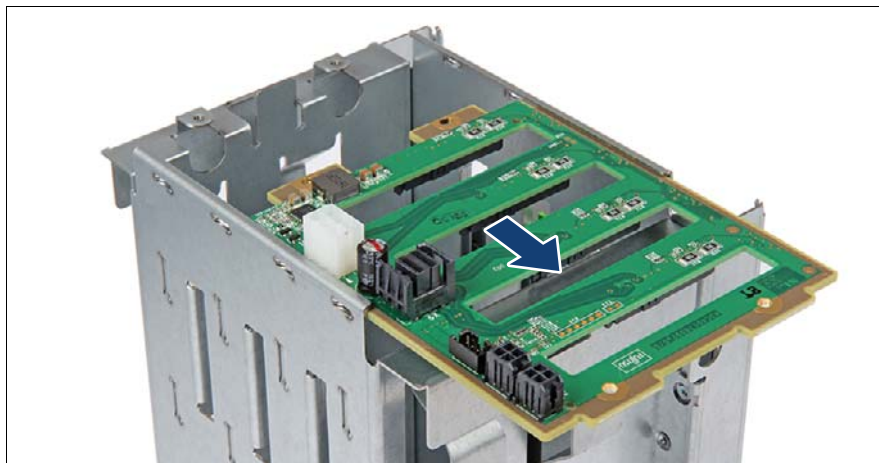


図 150: HDD バックプレーンの取り外し (C)

- ▶ 矢印の方向に HDD バックプレーンを押し出します。

7.4.7.3 新しい HDD バックプレーンの取り付け

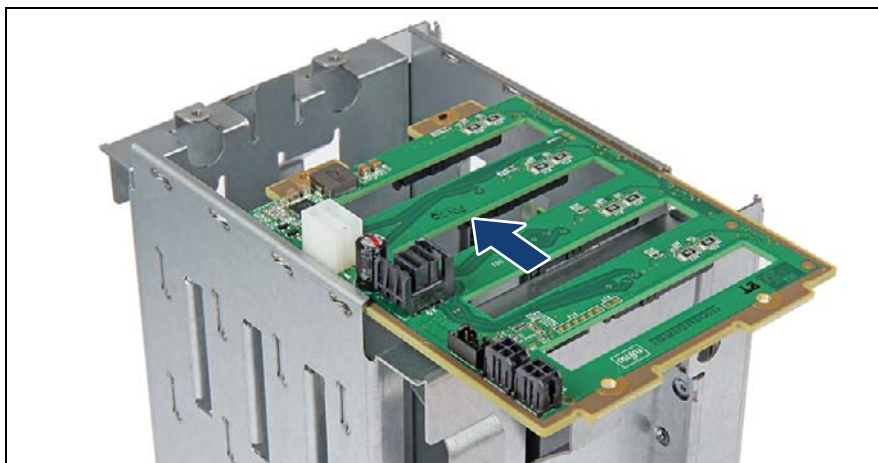


図 151: HDD バックプレーンの取り付け (A)

- ▶ HDD バックプレーンをガイドに合わせます。
- ▶ 矢印の方向に HDD バックプレーンを押しします。

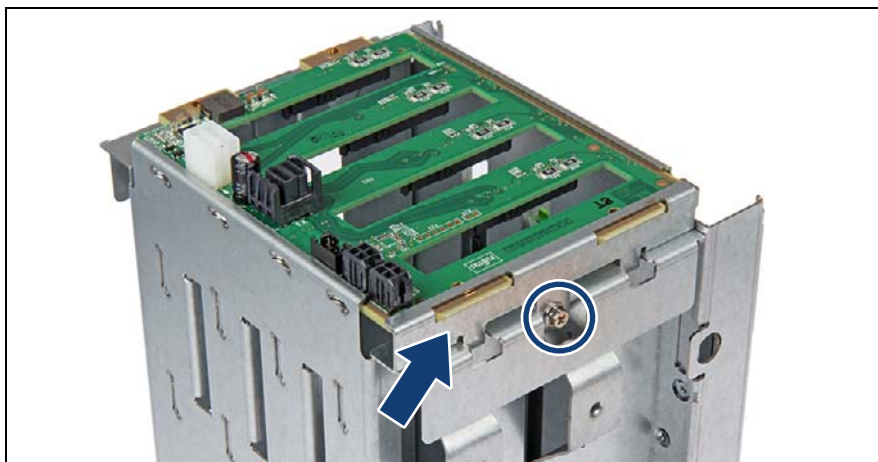


図 152: HDD バックプレーンの取り付け (B)

- ▶ ブラケットを配置して（矢印を参照）、1本のネジで固定します（丸で囲んだ部分）。

- ▶ HDD バックプレーンを 2 本のネジで固定します (図 148 を参照)。
- ▶ 233 ページの「4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け」の項に記載されているように、4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスを取り付けます。

7.4.7.4 終了手順

- ▶ 69 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ 202 ページの「3.5 インチの HDD モジュールの取り付け」の項に記載されているように、すべてのハードディスクドライブを HDD 拡張ボックスの元のスロットに再び取り付けます。
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
77 ページの「ラックへのサーバの取り付け」
- ▶ 80 ページの「主電源へのサーバの接続」
- ▶ 82 ページの「サーバの電源投入」

7.5 SAS エキスパンダボード

7.5.1 SAS エキスパンダボードの取り付け



フィールド交換可能ユニット
(FRU)



ハードウェア : 10 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

7.5.1.1 準備手順

- ▶ 99 ページの「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 54 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 55 ページの「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
56 ページの「ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し」
- ▶ 60 ページの「サーバを開ける」

7.5.1.2 SAS エキスパンダボードの取り付け

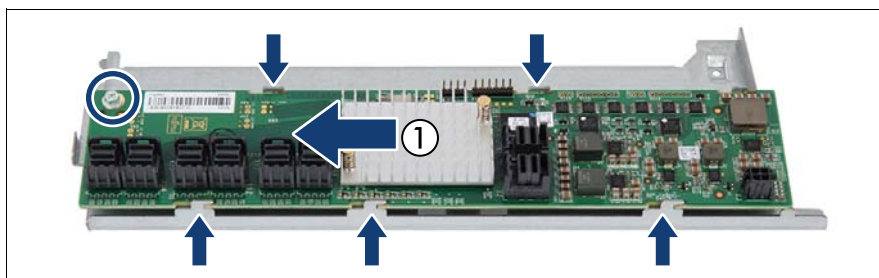


図 153: SAS エキスパンダボードの取り付け

- ▶ SAS エキスパンダボードをエキスパンダホルダーに固定します。穴とフックに注意してください（矢印を参照）。
- ▶ 矢印の方向に SAS エキスパンダボードを押してください（1）。
- ▶ SAS エキスパンダボードをネジ M3 x 4.5 mm で固定します（丸で囲んだ部分）。

7.5.1.3 ケーブルのエキスパンダボードへの接続

2.5 インチ HDD/SSD 構成

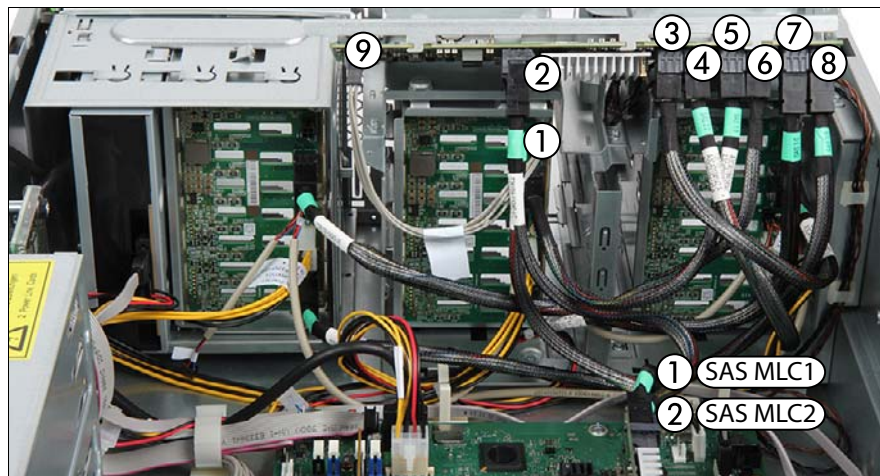


図 154: ケーブルのエキスパンダボードへの接続

- ▶ SAS ケーブルをエキスパンダボードへ接続します。
 - (1) ケーブル C19 を SAS コントローラ MLC1 から SAS エキスパンダボード X1 へ
 - (2) ケーブル C19 を SAS コントローラ MLC2 から SAS エキスパンダボード X2 へ
 - (3) ケーブル C35 をバックプレーン 1 コネクタ X9 からエキスパンダボードコネクタ X10 へ
 - (4) ケーブル C35 をバックプレーン 1 コネクタ X10 からエキスパンダボードコネクタ X11 へ
 - (5) ケーブル C35 をバックプレーン 2 コネクタ X9 からエキスパンダボードコネクタ X12 へ
 - (6) ケーブル C35 をバックプレーン 2 コネクタ X10 からエキスパンダボードコネクタ X13 へ
 - (7) ケーブル C36 をバックプレーン 3 コネクタ X9 からエキスパンダボードコネクタ X14 へ

- (8) ケーブル C36 をバックプレーン 3 コネクタ X10 からエキスパンダボードコネクタ X15 へ
- ▶ (9) SAS エクスパンダ電源ケーブル C34 をバックプレーン 2 コネクタ X17 から SAS エクスパンダボードコネクタ X3 へ



ケーブル接続の概要のまとめは、[436 ページ](#)の「[ケーブル図](#)」の項を参照してください。

HDD/SSD 混在構成 2.5/3.5 インチ

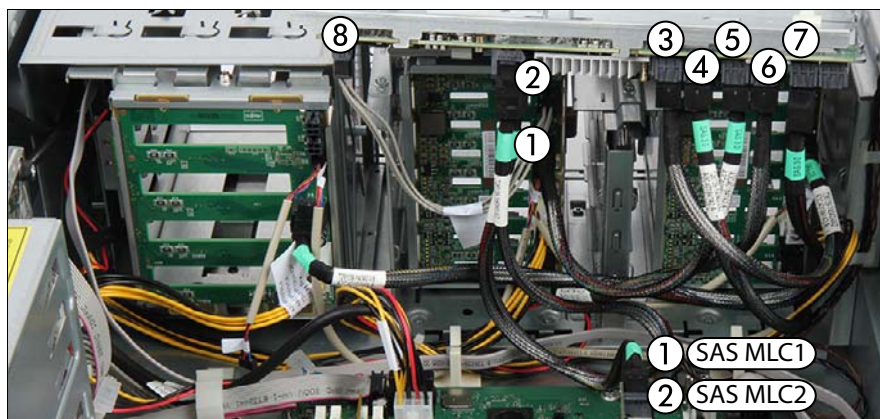


図 155: ケーブルのエキスパンダボードへの接続

- ▶ SAS ケーブルをエキスパンダボードへ接続します。
 - (1) ケーブル C19 を SAS コントローラ MLC1 から SAS エクスパンダボード X1 へ
 - (2) ケーブル C19 を SAS コントローラ MLC2 から SAS エクスパンダボード X2 へ
 - (3) ケーブル C35 をバックプレーン 1 コネクタ X9 からエキスパンダボードコネクタ X10 へ
 - (4) ケーブル C35 をバックプレーン 1 コネクタ X10 からエキスパンダボードコネクタ X11 へ
 - (5) ケーブル C35 をバックプレーン 2 コネクタ X9 からエキスパンダボードコネクタ X12 へ
 - (6) ケーブル C35 をバックプレーン 2 コネクタ X10 からエキスパンダボードコネクタ X13 へ

- (7) ケーブル C36 をバックプレーン 3 コネクタ X9 からエキスパンダボードコネクタ X14 へ
- ▶ (8) SAS エキスパンダ電源ケーブル C34 をバックプレーン 2 コネクタ X17 から SAS エキスパンダボードコネクタ X3 へ



ケーブル接続の概要のまとめは、[436 ページ](#)の「[ケーブル図](#)」の項を参照してください。

3.5 インチ HDD/SSD 構成

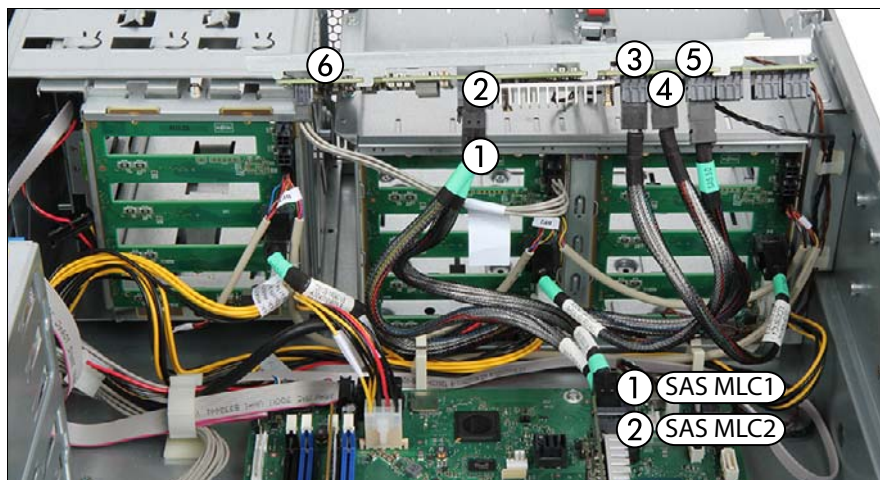


図 156: ケーブルのエキスパンダボードへの接続

- ▶ SAS ケーブルをエキスパンダボードへ接続します。
- (1) ケーブル C19 を SAS コントローラ MLC1 から SAS エキスパンダボード X1 へ
- (2) ケーブル C19 を SAS コントローラ MLC2 から SAS エキスパンダボード X2 へ
- (3) ケーブル C35 をバックプレーン 1 コネクタ X9 からエキスパンダボードコネクタ X10 へ
- (4) ケーブル C35 をバックプレーン 2 コネクタ X9 からエキスパンダボードコネクタ X11 へ
- (5) ケーブル C36 をバックプレーン 3 コネクタ X9 からエキスパンダボードコネクタ X12 へ

(6) SAS エキスパンダ電源ケーブル C34 をバックプレーン 2 コネクタ X17 から SAS エキスパンダボードコネクタ X3 へ



ケーブル接続の概要のまとめは、[436 ページ](#)の「[ケーブル図](#)」の項を参照してください。

HDD/SSD 混在構成 3.5/2.5 インチ

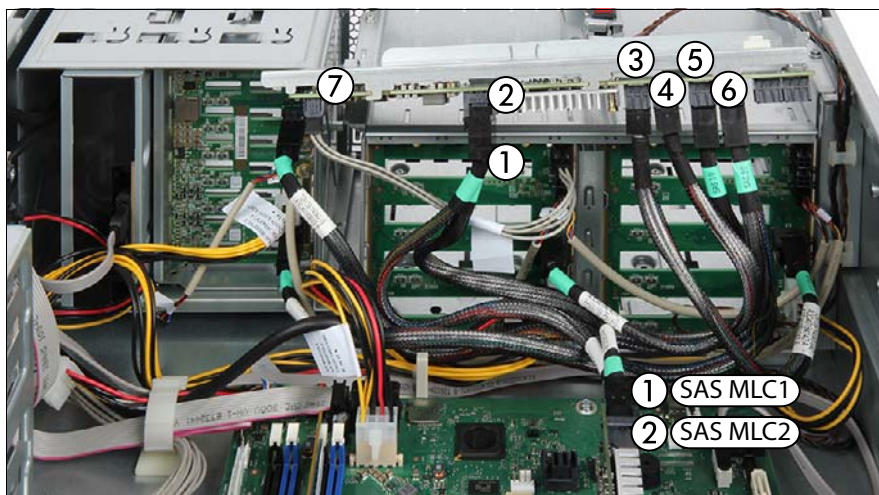


図 157: ケーブルのエキスパンダボードへの接続

▶ SAS ケーブルをエキスパンダボードへ接続します。

- (1) ケーブル C19 を SAS コントローラ MLC1 から SAS エキスパンダボード X1 へ
- (2) ケーブル C19 を SAS コントローラ MLC2 から SAS エキスパンダボード X2 へ
- (3) ケーブル C35 をバックプレーン 1 コネクタ X9 からエキスパンダボードコネクタ X10 へ
- (4) ケーブル C35 をバックプレーン 2 コネクタ X9 からエキスパンダボードコネクタ X11 へ
- (5) ケーブル C36 をバックプレーン 3 コネクタ X9 からエキスパンダボードコネクタ X12 へ
- (6) ケーブル C36 をバックプレーン 3 コネクタ X10 からエキスパンダボードコネクタ X13 へ

(7) SAS エクスパンダ電源ケーブル C34 をバックプレーン 2 コネクタ X17 から SAS エクスパンダボードコネクタ X3 へ



ケーブル接続の概要のまとめは、[436 ページ](#)の「[ケーブル図](#)」の項を参照してください。

7.5.1.4 エクスパンダホルダーの取り付け

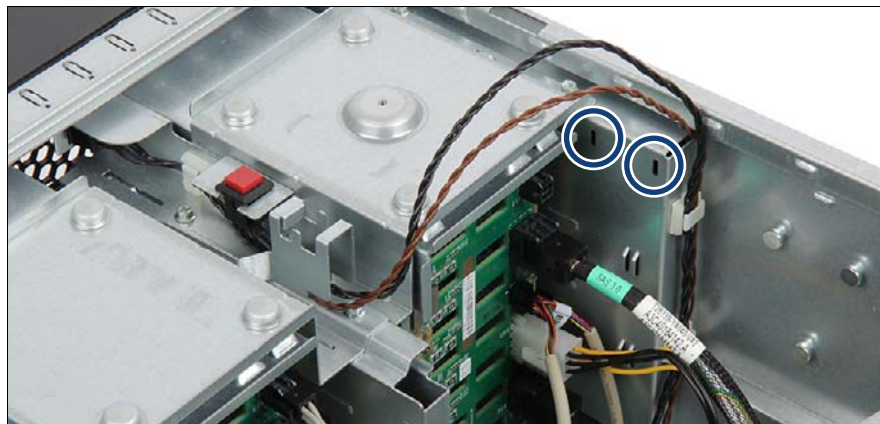


図 158: エクスパンダホルダーの取り付け (A)

▶ 2 つの穴に注意します (丸で囲んだ部分)。

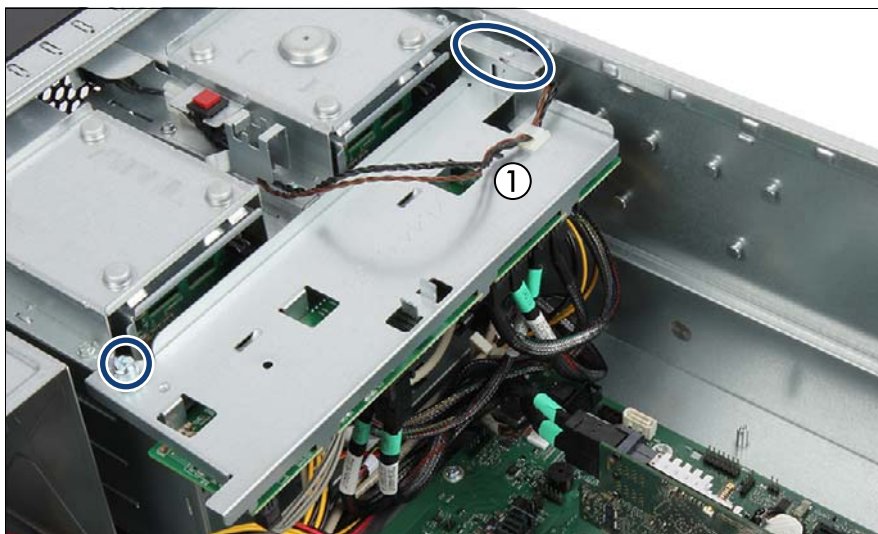


図 159: エキスパンダホルダーの取り付け (B)

- ▶ 2つのフックが2つの溝（楕円で囲んだ部分）にはまるようにエキスパンダボードを置きます。
- ▶ エキスパンダボードをつまみネジ C26361-K666-C26（丸で囲んだ部分）で固定します。
- ▶ 図のように、イントリュージョンスイッチケーブルを配線します（1）。

7.5.1.5 終了手順

- ▶ [69 ページの「サーバを閉じる」](#)
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は [77 ページの「ラックへのサーバの取り付け」](#)
- ▶ [80 ページの「主電源へのサーバの接続」](#)
- ▶ [82 ページの「サーバの電源投入」](#)
- ▶ [125 ページの「BitLocker 機能の再開」](#)

7.5.2 SAS エキспанダボードの取り外し



フィールド交換可能ユニット
(FRU)



ハードウェア : 10 分

工具 : プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

7.5.2.1 準備手順

- ▶ 99 ページの「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 54 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 55 ページの「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
56 ページの「ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し」
- ▶ 60 ページの「サーバを開ける」

7.5.2.2 エキспанダホルダーの取り外し

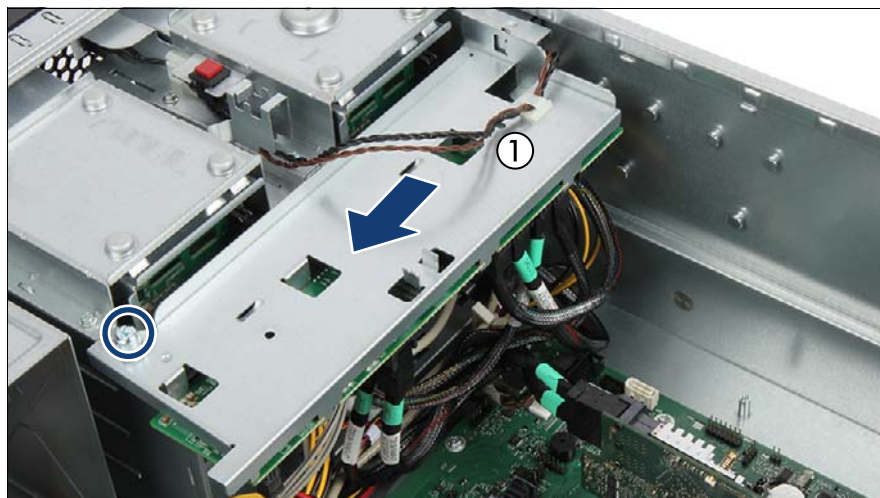


図 160: エキспанダホルダーの取り外し

- ▶ イントリュージョンスイッチケーブルをケーブルクランプから取り外します (1)。

- ▶ つまみネジを取り外します（丸で囲んだ部分）。
- ▶ SAS エクスパンダボードホルダーを矢印の方向にスライドさせ、シャーシから持ち上げます。
- ▶ すべてのケーブルをエクスパンダボードから取り外します。

7.5.2.3 SAS エクスパンダボードの取り外し

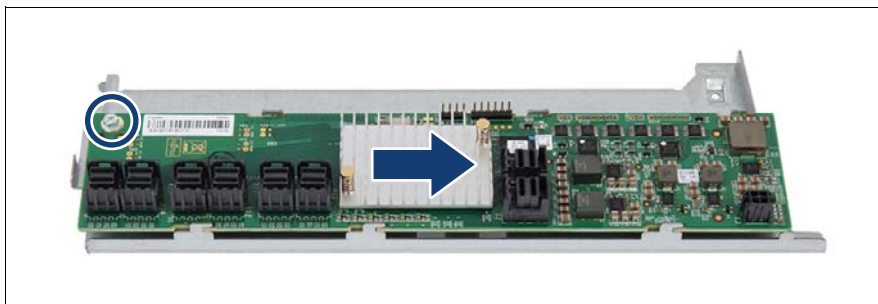


図 161: SAS エクスパンダボードの取り外し

- ▶ 1 本のネジを取り外します（丸で囲んだ部分）。
- ▶ 矢印の方向に SAS エクスパンダボードを押してください。
- ▶ SAS エクスパンダボードをエクスパンダホルダーから取り外します。

7.5.2.4 終了手順

- ▶ [69 ページの「サーバを閉じる」](#)
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[77 ページの「ラックへのサーバの取り付け」](#)
- ▶ [80 ページの「主電源へのサーバの接続」](#)
- ▶ [82 ページの「サーバの電源投入」](#)
- ▶ [125 ページの「BitLocker 機能の再開」](#)

7.5.3 SAS エキスパンダボードの交換



フィールド交換可能ユニット
(FRU)



平均作業時間：
10 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

7.5.3.1 準備手順

- ▶ 99 ページの「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 54 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 55 ページの「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
56 ページの「ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し」
- ▶ 60 ページの「サーバを開ける」

7.5.3.2 故障した SAS エキスパンダボードの取り外し

- ▶ 252 ページの「SAS エキスパンダボードの取り外し」

7.5.3.3 新しい SAS エキスパンダボード取り付け

- ▶ 245 ページの「SAS エキスパンダボードの取り付け」

7.5.3.4 終了手順

- ▶ 69 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
77 ページの「ラックへのサーバの取り付け」
- ▶ 80 ページの「主電源へのサーバの接続」
- ▶ 82 ページの「サーバの電源投入」
- ▶ 125 ページの「BitLocker 機能の再開」

8 システムファン

安全上の注意事項



注意！

- 内部のケーブルやデバイスを傷つけたり、加工したりしないでください。傷つけたり、加工したりすると、部品を傷め、火災、感電の原因となります。
- サーバ内のデバイスおよびコンポーネントは、シャットダウン後もしばらくは高温の状態が続きます。サーバのシャットダウン後、高温になっているコンポーネントが冷却されるのを待ってから内部オプションの取り付けや取り外しを行ってください。
- 内部オプションの回路とはんだ付け部品は露出しているため、静電気の影響を受けやすくなっています。静電気に敏感なデバイス（ESD）を取り扱う際は、まず、接地された物（アース）に触れるなどして静電気の帯電を必ず放電してください。
- ボードやはんだ付け部品の電気回路に触れないでください。回路ボードを持つ際は、金属部分またはふちを持つようにしてください。
- この章に示す方法以外でデバイスを取り付けたり、解体したりすると、保証が無効になります。
- 詳細は、[39 ページ](#)の「**注意事項**」の章を参照してください。

8.1 基本情報

次の 2 種類のシステムファンモジュールを取り付けることができます。

- 標準システムファンモジュールには、送風ダクトにファンが 1 つあります
- 冗長システムファンモジュールには、送風ダクトにファンが 2 つあります

システムファンモジュールは、CPU ヒートシンクとメモリスロットへ直接エアフローを送ります。



電源ユニットの追加のファンは電源ユニットに不可欠な部品なので、個別に交換できません。

8.1.1 標準システムファンモジュール

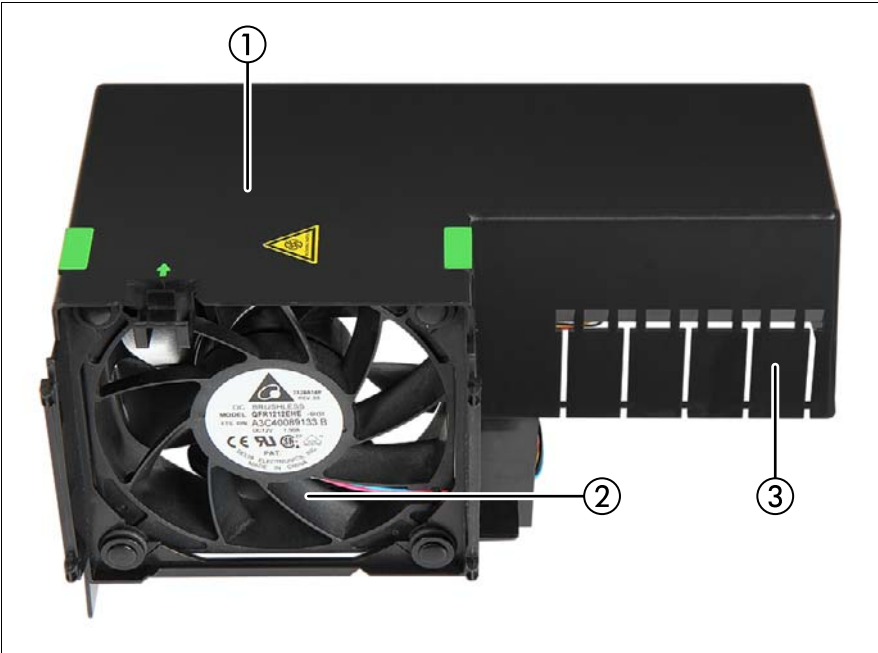


図 162: 標準システムファンモジュール

1	送風ダクト
2	システムファン 1、120 x 38 mm
3	ブレークアウト



注意！

このシステムファンは冗長システムファンではないため、故障や故障の予兆がある場合は即座に交換する必要があります。

8.1.2 冗長システムファンモジュール

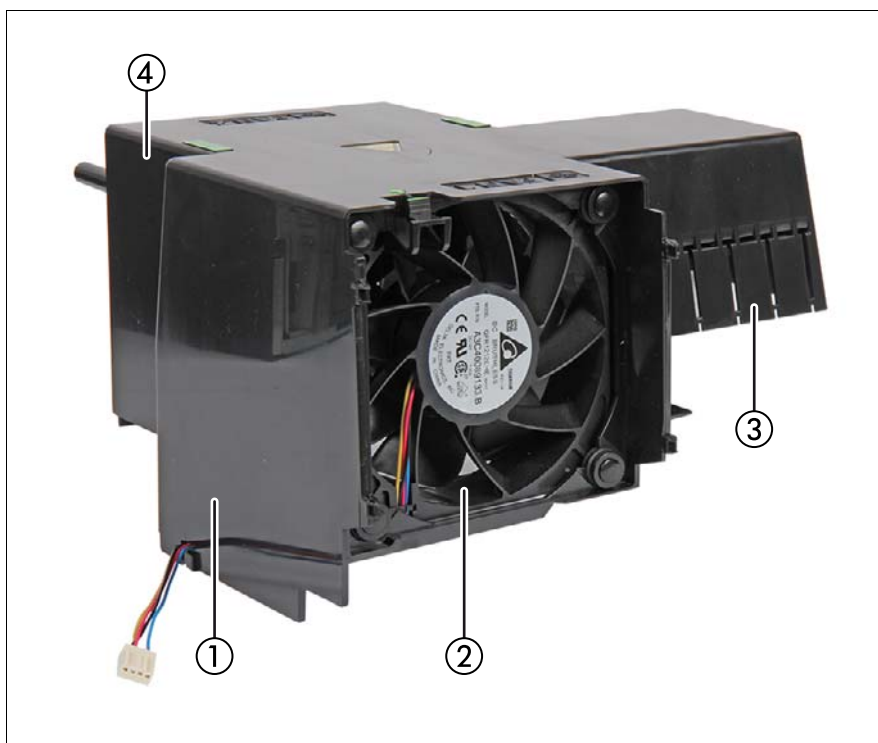


図 163: 冗長システムファンモジュール

1	送風ダクト
2	システムファン 1、120 x 38 mm
3	ブレークアウト
4	システムファン 2、120 x 38 mm

8.2 システムファンの交換



ユニットのアップグレードお
よび修理
(URU)



ハードウェア : 5 分

工具 : 工具不要

8.2.1 準備手順

- ▶ [51 ページ](#) の「故障したサーバの特定」
- ▶ [54 ページ](#) の「サーバのシャットダウン」
- ▶ [55 ページ](#) の「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[56 ページ](#) の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合（サーバを横向きにします）：
- ▶ [60 ページ](#) の「サーバを開ける」
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り外します：
[83 ページ](#) の「システムファンモジュールの取り扱い」

8.2.2 システムファンの取り外し

8.2.2.1 ファンケーブルの取り外し

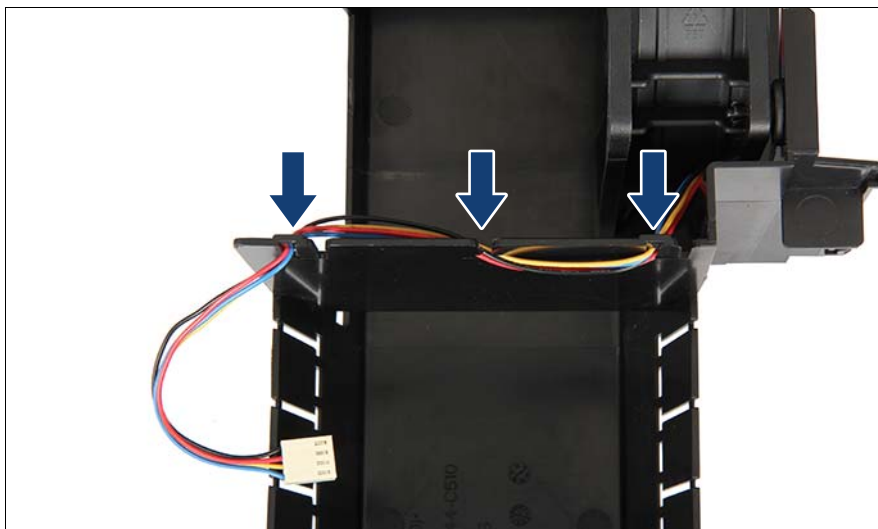


図 164: 標準システムファン：ガイドからのファンケーブルの取り外し

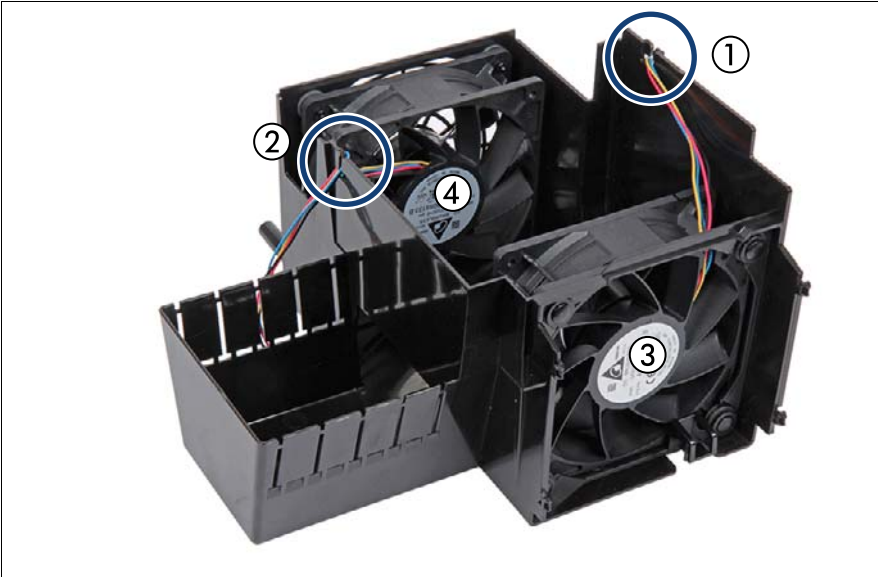


図 165: 冗長システムファン：ガイドからのファンケーブルの取り外し

1	システムファン 1 からのファンケーブルのガイド
2	システムファン 2 からのファンケーブルのガイド
3	システムファン 1 のラベル
4	システムファン 2 のラベル

▶ ファンケーブルを対応するガイドから取り外します。

8.2.2.2 故障したシステムファンの取り外し



以下の説明は、すべてのシステムファンに有効です。

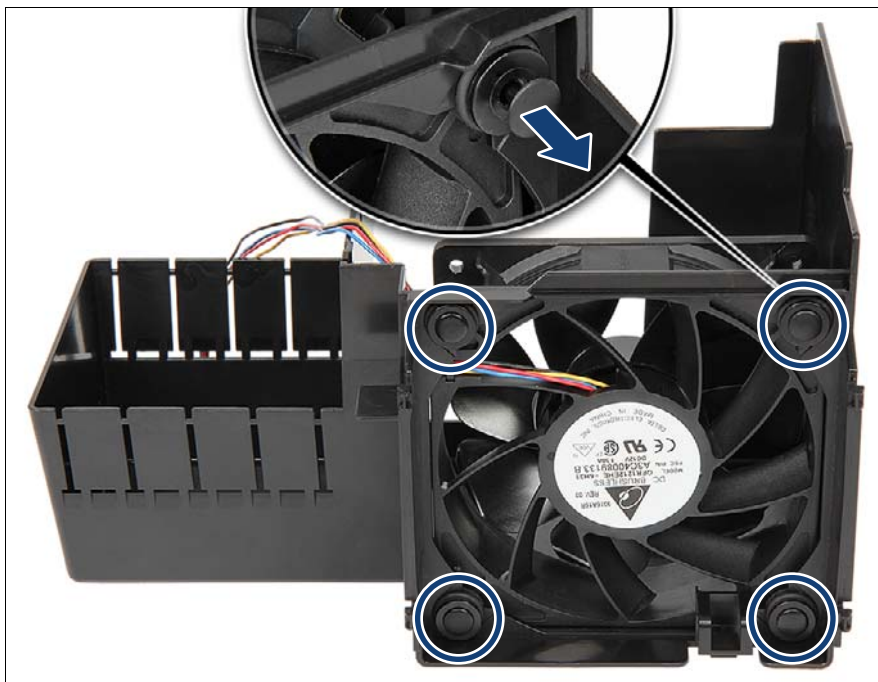


図 166: スナップリベットからの止めピンの取り外し

- ▶ 送風ダクトの 4 個のスナップリベットから止めピン（丸で囲んだ部分）を取り外します。

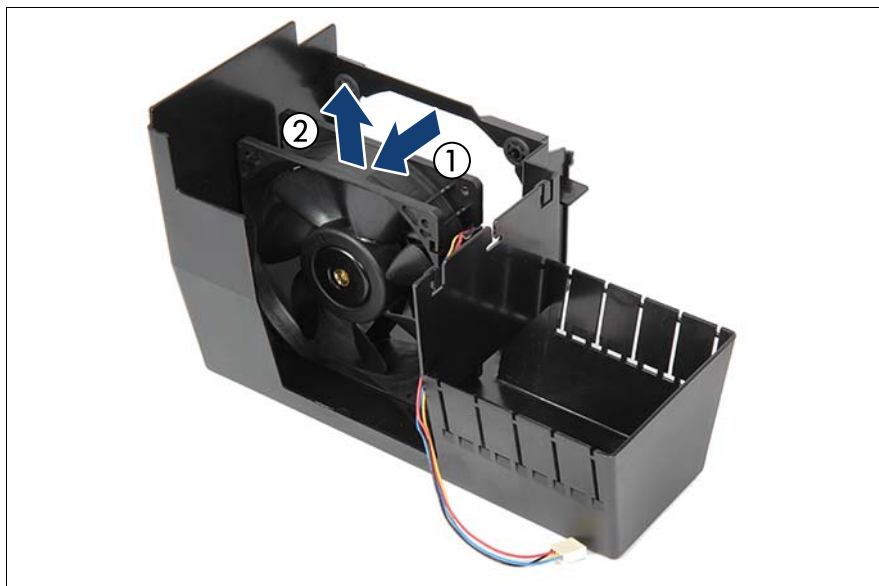


図 167: 送風ダクトからのシステムファンの取り外し

- ▶ システムファンをスナップリベットから取り外します (1)。
- ▶ 送風ダクトからシステムファンを取り外します (2)。

8.2.3 システムファンの取り付け

8.2.3.1 新しいシステムファンの取り付け

- ▶ システムファンを送風ダクトに挿入します。

i 取り付け方向を記録しておきます。すべてのシステムファンのラベルが背面に向かって表示されるようにします（図 165 を参照）。

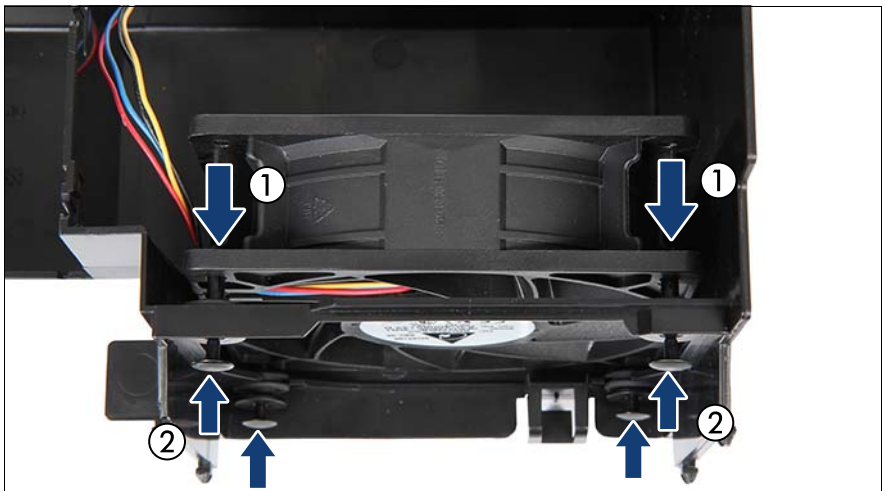


図 168: 送風ダクトへのシステムボードの取り付け

- ▶ システムファンをスナップリベットに押し込みます（1）。

i ファンケーブルの位置を確認します。ファンケーブルが押されないことを確認してください。

- ▶ 4 個の止めピンをスナップリベットに差し込み、しっかりと押し込みます（2）。

8.2.3.2 ケーブルの配線

- ▶ ファンケーブルを対応するガイドに挿入します（図 164 および図 165 を参照）。

8.2.4 終了手順

- ▶ 85 ページの「標準システムファンモジュールの取り付け」
- ▶ 69 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 79 ページの「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 80 ページの「主電源へのサーバの接続」
- ▶ 82 ページの「サーバの電源投入」
- ▶ 118 ページの「ファンテストの実施」

9 拡張カードとバックアップユニット

安全上の注意事項



注意！

- 内部のケーブルやデバイスを傷つけたり、加工したりしないでください。傷つけたり、加工したりすると、部品を傷め、火災、感電の原因となります。
- サーバ内のデバイスおよびコンポーネントは、シャットダウン後もしばらくは高温の状態が続きます。サーバのシャットダウン後、高温になっているコンポーネントが冷却されるのを待ってから内部オプションの取り付けや取り外しを行ってください。
- 内部オプションの回路とはんだ付け部品は露出しているため、静電気の影響を受けやすくなっています。静電気に敏感なデバイス（ESD）を取り扱う際は、まず、接地された物（アース）に触れるなどして静電気の帯電を必ず放電してください。
- ボードやはんだ付け部品の電気回路に触れないでください。回路ボードを持つ際は、金属部分またはふちを持つようにしてください。
- この章に示す方法以外でデバイスを取り付けたり、解体したりすると、保証が無効になります。
- 詳細は、[39 ページ](#)の「**注意事項**」の章を参照してください。

9.1 基本情報

システムボードには、4 つの拡張スロットがあります。

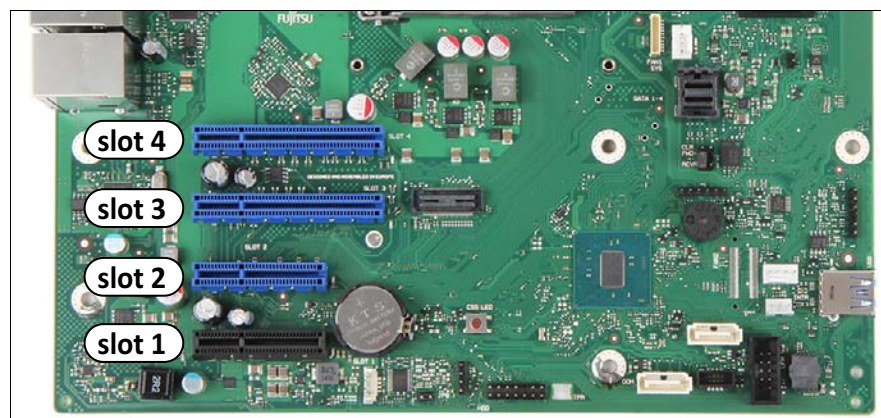


図 169: PCI スロットの概観

PCI スロット	タイプ	機能
1	PCIe Gen 3 x1 (機械的には x4)	オプションの PCI アダプタボード用スロット (ライザーカードで接続)
2	PCIe Gen 3 x4	
3	PCIe Gen 3 x8	
4	PCIe Gen 3 x8	ブートコントローラの専用スロット



オプションのライザーカードで、PCI 32 ビットスロットを追加できます。このライザーカードは、スロット 1 の下にある 2 本のスペーサーボルトで取り付けられます。この場合、PCI アダプタボードはスロット 1 に取り付けられています（[281 ページの「新しいライザーカードの取り付け」](#)の項を参照）。

9.1.1 拡張カードの取り付け順序

	システム 1 台あたりの 最大 枚 数	スロット番号			
		1	2	3	4
SAS/RAID コントローラ					
RAID Ctrl SAS 12G (D3216) Cougar4/PRAID EP400i	1	-	-	-	1
RAID Ctrl SAS 12G (D3216) Cougar4/PRAID EP420i	1	-	-	-	1
Modular RAID Lynx4 (3307/A1x) PRAID CP400i	1	-	-	-	1
PSAS CP400i、8 ポート、12Gb/s SAS+SATA PCIe ホストバスアダプタ	1	-	2	1	3
Ethernet コントローラ					
Eth Ctrl 2x10 Gbit PCI-e x8 D2755 SFP+	1	-	1	3	1
PLAN AP 1x1Gbit Cu Intel I210-T1 (Beaver Lake)	2	3	2	1	4
Eth Ctrl 2x10GBase-T X540-T2	1	-	2	1	3
PLAN CP 4x1Gbit Cu Intel I350-T4 (Stonylake-QP)	2	3	2	1	4
PLAN CP 2x1Gbit Cu Intel I350-T2 (Stonylake-DP)	2	3	2	1	4
PLAN EP OCe14102 2x 10Gb	1	-	2	1	3
その他					
Nvidia NVS315 PCI-E x16、1GB、Dual-DVI-I また は Dual VGA Graphics Card	1	-	2	1	-
32 ビット PCI カード用ライザーカード、PCI アダ プタボード付き	1	1	-	-	-



サポートされている拡張カードの最新情報については、次のアドレスにあるサーバのシステム構成図を参照してください。

世界市場の場合：

http://ts.fujitsu.com/products/standard_servers/index.htm

日本市場向け：

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/system/>

9.2 スロットブラケットの取り扱い

9.2.1 スロットブラケットの取り付け



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



ハードウェア : 5 分

工具 : プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

標準拡張カードの例



注意！

冷却要件を満たすため、穴あきフルハイトスロットブラケットを使用してください。



図 170: スロットブラケットの取り付け (A)

- ▶ スロットブラケットの取り付けタブにコントローラをセットします。
- ▶ プラグシェルがスロットブラケットのコネクタパネルの切り込みにはめ込まれるまで、スロットブラケットをコントローラに向かってゆっくりずらします。

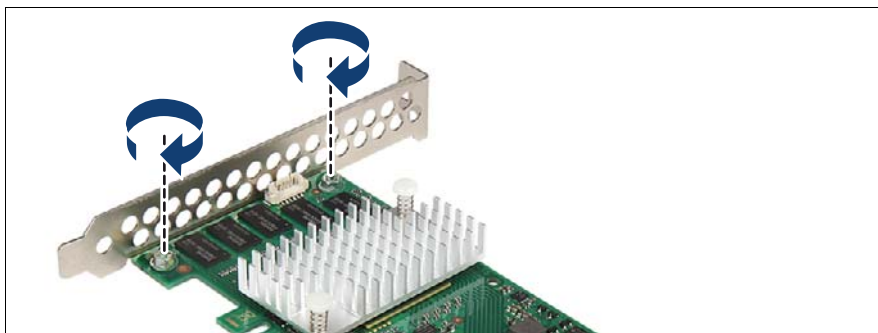


図 171: スロットブラケットの取り付け (B)

- ▶ M3 x 3.5 mm のネジ 2 本で、スロットブラケットをコントローラに固定します。

9.2.2 スロットブラケットの取り外し



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



ハードウェア : 5 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

スロットブラケットの取り外し

- ▶ 2 本のネジを取り外します。
- ▶ スロットブラケットの取り付けタブからコントローラを取り外します。

9.3 拡張カードとライザーカード

9.3.1 標準スロットの拡張カードの取り付け



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



ハードウェア : 5 分
ソフトウェア : 5 分

工具 : プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

9.3.1.1 準備手順

- ▶ [99 ページ](#) の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ [100 ページ](#) の「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ [54 ページ](#) の「サーバのシャットダウン」
- ▶ [55 ページ](#) の「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[56 ページ](#) の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合（サーバを横向きにします）：
- ▶ [60 ページ](#) の「サーバを開ける」
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り外します：
[83 ページ](#) の「システムファンモジュールの取り扱い」

9.3.1.2 スロットカバーの取り外し

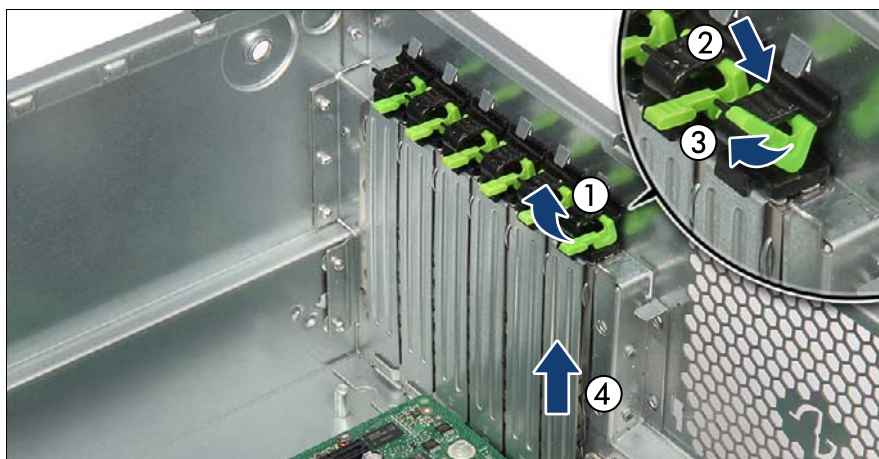


図 172: スロットカバーの取り外し

- ▶ スロットカバーのクランプのロックハンドルを持ち上げます (1)。
- ▶ スロットカバーのクランプを押し下げて外します (2)。
- ▶ スロットカバーのクランプを取り外します (3)。
- ▶ スロットカバーの取り外し (4)。

**注意！**

スロットカバーは今後使うかもしれないので、保管しておいてください。

該当する EMC 指令に準拠し、かつ冷却要件を満たすために、使用していない PCI スロットの開口部にスロットカバーを必ず装着してください。

9.3.1.3 拡張カードの取り付け

- ▶ 拡張カードを保護パッケージから取り出します。

i コントローラの設定に関する詳しい説明は、付属のドキュメントを参照してください。

- ▶ 該当する場合は、[268 ページ](#)の「[スロットブラケットの取り付け](#)」の項に記載されているように、必要なスロットブラケットを拡張カードに取り付けます。

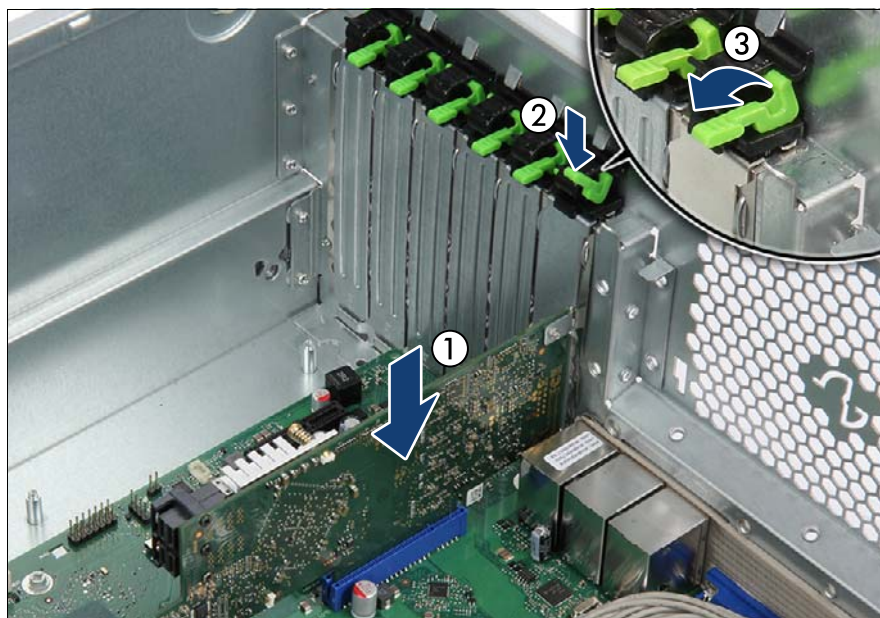


図 173: 拡張カードの取り付け

- ▶ 拡張カードを目的の PCI スロットに慎重に挿入し、スロットに完全にはめ込まれるまでしっかりと押し込みます (1)。
- ▶ スロットカバーのクランプをクリップで留めます (2)。
- ▶ 所定の位置に固定されるまで、スロットカバーのクランプのロックハンドルを倒します (3)。
- ▶ 該当する場合は、内部ケーブルを拡張カードに接続します。

i ケーブル接続の概要のまとめは、[436 ページ](#)の「[ケーブル図](#)」の項を参照してください。

- ▶ 該当する場合は、283 ページの「FBU の取り付け」の項に記載されるように、FBU を拡張カードに接続します。

9.3.1.4 終了手順

- ▶ 該当する場合は、システムファンモジュールからブレークアウトを取り外します（図 162 および図 163 を参照）。
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り付けます：
83 ページの「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ 69 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
79 ページの「ラックにサーバを格納する」
- ▶ すべての外部ケーブルを交換される拡張カードに再び接続します。
- ▶ 80 ページの「主電源へのサーバの接続」
- ▶ 82 ページの「サーバの電源投入」
- ▶ 110 ページの「RAID コントローラファームウェアのアップデート」
- ▶ 該当する場合、111 ページの「Option ROM Scan の有効化」
- ▶ 119 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」
- ▶ 125 ページの「BitLocker 機能の再開」
- ▶ 該当する場合、130 ページの「LAN コントローラを交換またはアップグレードした後」

9.3.2 標準スロットからの拡張カードの取り外し



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



ハードウェア : 5 分

工具 : 工具不要

9.3.2.1 準備手順

- ▶ [99 ページ](#) の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ [54 ページ](#) の「サーバのシャットダウン」
- ▶ [55 ページ](#) の「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ 取り外す拡張カードから外部ケーブルをすべて取り外します。
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[56 ページ](#) の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合（サーバを横向きにします）：
- ▶ [60 ページ](#) の「サーバを開ける」
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り外します：
[83 ページ](#) の「システムファンモジュールの取り扱い」

9.3.2.2 拡張カードの取り外し

- ▶ 該当する場合は、内部ケーブルを拡張カードから取り外してください。

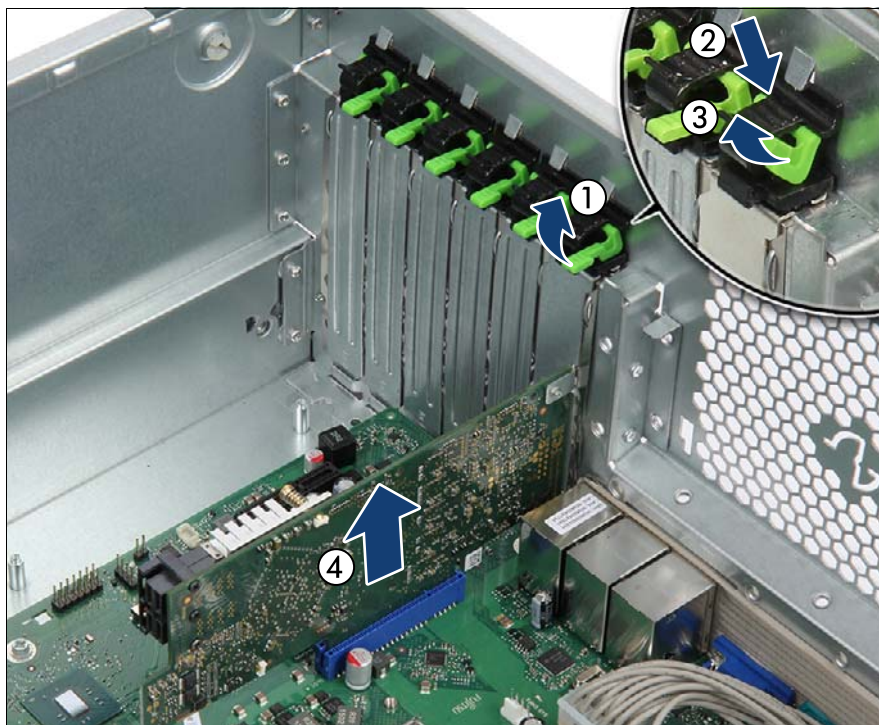


図 174: 拡張カードの取り外し

- ▶ スロットカバーのクランプのロックハンドルを持ち上げます (1)。
- ▶ スロットカバーのクランプを押し下げて外します (2)。
- ▶ スロットカバーのクランプを取り外します (3)。
- ▶ 拡張カードを垂直にそっと持ち上げ、スロットから取り外します (4)。

9.3.2.3 スロットカバーの取り付け



注意！

該当する EMC 指令に準拠し、かつ冷却要件を満たすために、使用していない PCI スロットの開口部にスロットカバーを必ず装着してください。

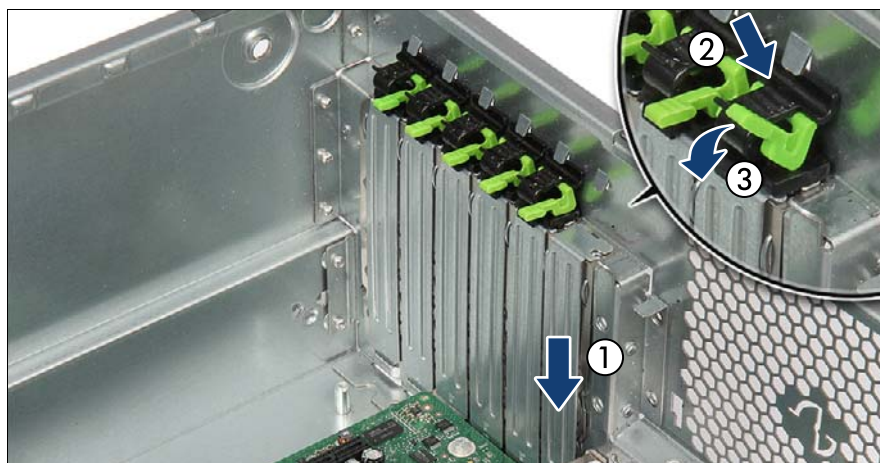


図 175: スロットカバーの取り付け

- ▶ 使用されていないスロットの開口部に PCI スロットカバーを挿入します (1)。
- ▶ スロットカバーのクランプをクリップで留めます (2)。
- ▶ 所定の位置に固定されるまで、スロットカバーのクランプのロックハンドルを倒します (3)。

9.3.2.4 終了手順

- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り付けます：
[83 ページの「システムファンモジュールの取り扱い」](#)
- ▶ [69 ページの「サーバを閉じる」](#)
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[79 ページの「ラックにサーバを格納する」](#)
- ▶ [80 ページの「主電源へのサーバの接続」](#)
- ▶ [82 ページの「サーバの電源投入」](#)

- ▶ [125 ページ](#) の「BitLocker 機能の再開」

9.3.3 拡張カードの交換



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



ハードウェア : 5 分
ソフトウェア : 5 分

工具: プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ (スロットブラケットを取り付ける場合のみ)

ネットワーク設定のリカバリに関する注記



ネットワークコントローラまたはシステムボードを交換すると、オペレーティングシステムのネットワーク構成設定は失われ、デフォルト値に置き換えられます。これは全ての静的 IP アドレスと LAN チューニング設定に適用されます。

ネットワークコントローラやシステムボードを交換する前に、現在のネットワーク設定を書き留めておきます。

9.3.3.1 準備手順

- ▶ 該当する場合、[277 ページ](#) の「ネットワーク設定のリカバリに関する注記」
- ▶ [99 ページ](#) の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ [100 ページ](#) の「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ [51 ページ](#) の「故障したサーバの特定」
- ▶ [54 ページ](#) の「サーバのシャットダウン」
- ▶ [55 ページ](#) の「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は [56 ページ](#) の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合 (サーバを横向きにします) :
- ▶ [60 ページ](#) の「サーバを開ける」

- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り外します：
[83 ページ](#) の「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ [53 ページ](#) の「故障した部品の特定」

9.3.3.2 故障のある拡張カードの取り外し

- ▶ [274 ページ](#) の「標準スロットからの拡張カードの取り外し」の項に記載されているように、拡張カードを取り外します。
- ▶ 故障のある拡張カードのスロットブラケットを再利用する場合：[269 ページ](#) の「スロットブラケットの取り外し」

9.3.3.3 新しい拡張カードの取り付け

- ▶ 該当する場合は、[268 ページ](#) の「スロットブラケットの取り付け」。
- ▶ [270 ページ](#) の「標準スロットの拡張カードの取り付け」の項に記載されているように、拡張カードを取り付けます。

9.3.3.4 終了手順

- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り付けます：
[83 ページ](#) の「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ [69 ページ](#) の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[79 ページ](#) の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ すべての外部ケーブルを交換される拡張カードに再び接続します。
- ▶ [80 ページ](#) の「主電源へのサーバの接続」
- ▶ [82 ページ](#) の「サーバの電源投入」
- ▶ [120 ページ](#) の「交換した部品のシステム BIOS での有効化」
- ▶ [127 ページ](#) の「変更された MAC/WWN アドレスの検索」
- ▶ [124 ページ](#) の「Linux 環境での NIC 構成ファイルのアップデート」
- ▶ [110 ページ](#) の「RAID コントローラファームウェアのアップデート」
- ▶ [119 ページ](#) の「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」
- ▶ [125 ページ](#) の「BitLocker 機能の再開」

- ▶ 該当する場合は、交換したコントローラ（拡張カードまたはオンボード）の元の構成に従って、オペレーティングシステムのネットワーク設定を再構成します。



ネットワーク設定の構成は、お客様が行います。

詳細は、[277 ページ](#)の「ネットワーク設定のリカバリに関する注記」の項を参照してください。

- ▶ 該当する場合、[130 ページ](#)の「LAN コントローラを交換またはアップグレードした後」

9.3.4 ライザーカードの交換



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



ハードウェア : 5 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

9.3.4.1 準備手順

- ▶ [51 ページ](#)の「故障したサーバの特定」
- ▶ [99 ページ](#)の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ [54 ページ](#)の「サーバのシャットダウン」
- ▶ [55 ページ](#)の「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ライザーカードスロットに取り付けられている拡張カードからすべての外部ケーブルを取り外します。
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は [56 ページ](#)の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合（サーバを横向きにします）：
- ▶ [60 ページ](#)の「サーバを開ける」
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り外します：
[83 ページ](#)の「システムファンモジュールの取り扱い」

9.3.4.2 故障したライザーカードの取り外し

- ▶ 275 ページの「拡張カードの取り外し」の項に記載されているように、拡張カードをライザーカードスロットから取り外します。

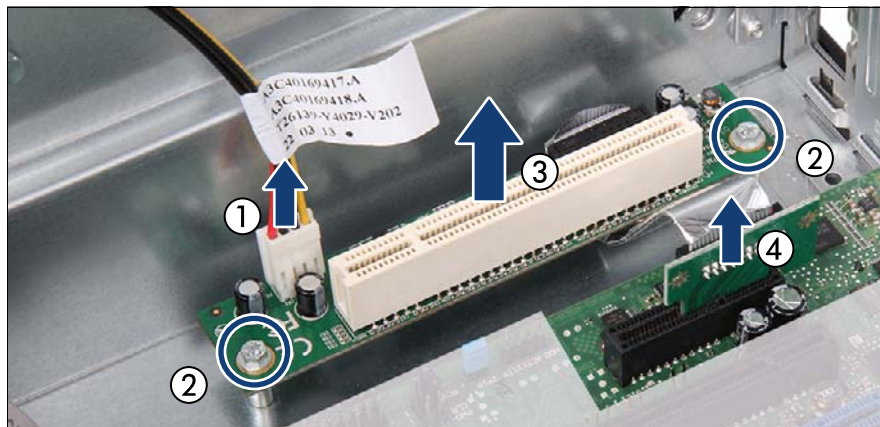


図 176: ライザーカードの取り外し

- ▶ 電源ケーブルを取り外します (1)。
- ▶ 2 本のネジを取り外します (2)。
- ▶ ライザーカードを取り外します (3)。
- ▶ PCI アダプタボードをスロット 1 から取り外します (4)。

9.3.4.3 新しいライザーカードの取り付け

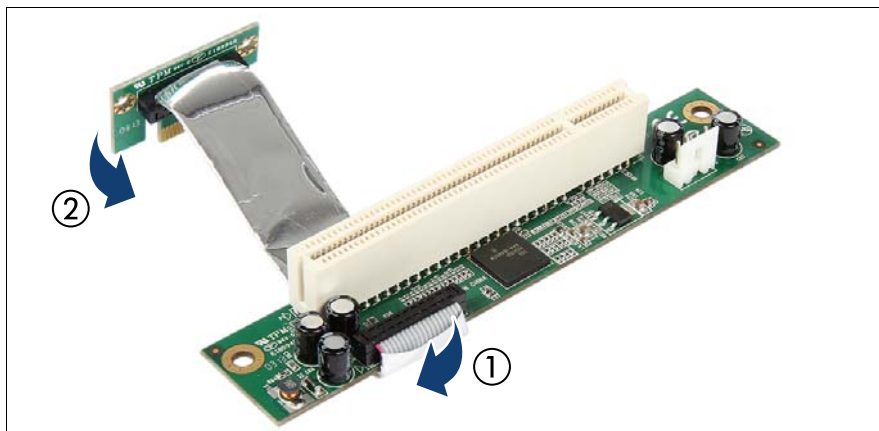


図 177: ライザーカードの準備

- ▶ ケーブルをライザーカードの下に通します (1)。
- ▶ PCI アダプタボードを傾けます (2)。

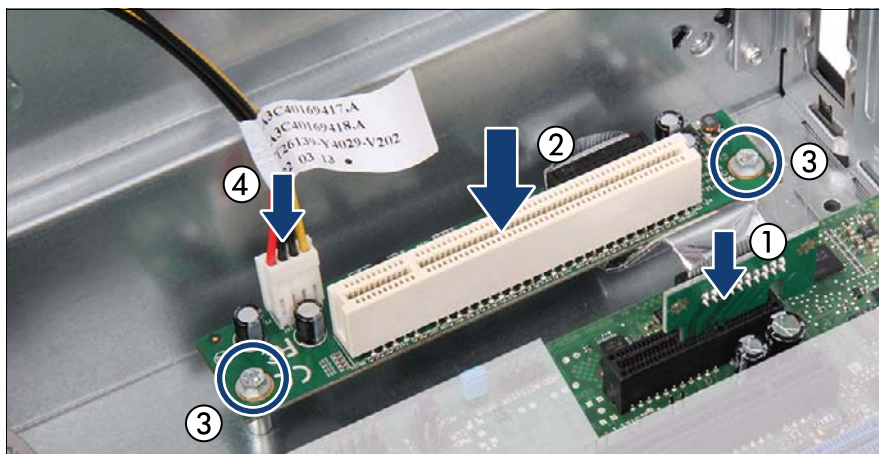


図 178: ライザーカードの取り付け

- ▶ PCI アダプタボードをスロット 1 に挿入します (1)。
- ▶ ライザーカードを 2 本のスペーサーボルトに取り付けます (2)。
- ▶ ライザーカードを 2 本のネジ (3) で固定します。

- ▶ 電源ケーブルを接続します (4)。
- ▶ [270 ページ](#) の「標準スロットの拡張カードの取り付け」の項に記載されているように、拡張カードをライザーカードスロットに取り付けます。

9.3.4.4 終了手順

- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り付けます：
[83 ページ](#) の「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ [69 ページ](#) の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[79 ページ](#) の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ ライザーカードスロットに取り付けられている拡張カードにすべての外部ケーブルを取り付け直します。
- ▶ [80 ページ](#) の「主電源へのサーバの接続」
- ▶ [82 ページ](#) の「サーバの電源投入」

9.4 バックアップユニット

9.4.1 基本情報

フラッシュバックアップユニット（FBU）は、停電時に備えて、接続されている SAS RAID コントローラのメモリ内容をバックアップします。サーバは最大 2 台のバックアップユニットに対応します。

9.4.2 FBU の取り付け



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



ハードウェア : 5 分

工具 : TFM : プラス PH1 / (+) No. 1 ドライバ

FBU : 工具不要



注意 !

安全上の注意事項に関する詳細は、[39 ページ](#)の「[注意事項](#)」の章を参照してください。

9.4.2.1 準備手順

- ▶ [100 ページ](#)の「[SVOM Boot Watchdog 機能の無効化](#)」
- ▶ [54 ページ](#)の「[サーバのシャットダウン](#)」
- ▶ [55 ページ](#)の「[主電源からサーバの取り外し](#)」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は [56 ページ](#)の「[サーバをラックから引き出す](#)」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合（サーバを横向きにします）:
- ▶ [60 ページ](#)の「[サーバを開ける](#)」
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り外します : [83 ページ](#)の「[システムファンモジュールの取り扱い](#)」

9.4.2.2 TFM の取り付け

各種 TFM に関する注意

RAID コントローラによって、異なる TFM キットを利用できます。

RAID コントローラ	TFM キット
D3216 PRAID EP400i (S26361-D3216-Axx)	TFM 4G (LSZ:03-25444-05)
D3216 PRAID EP420i (S26361-D3216-Bxx)	TFM 8G (LSZ:03-25444-01)

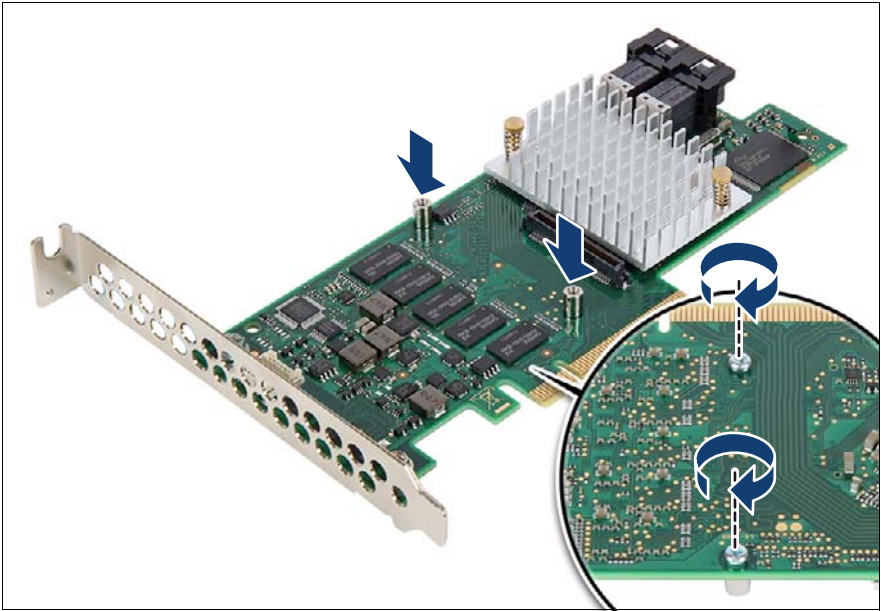


図 179: TFM の取り付け (A)

- ▶ 2 本のスペーサーボルトを SAS RAID コントローラに合わせ、TFM キットのネジでそれぞれ固定します。

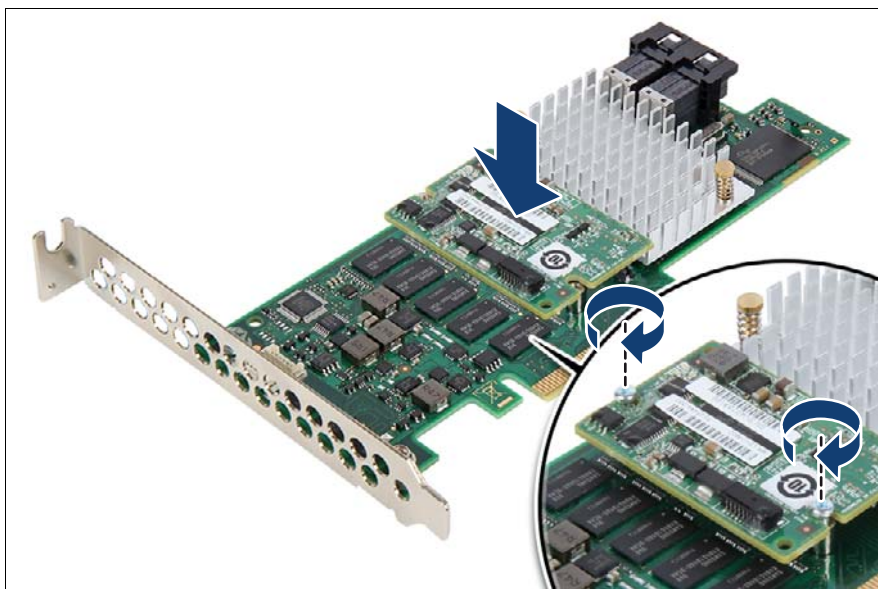


図 180: TFM の取り付け (B)

- ▶ TFM を RAID コントローラに取り付けます。
- ▶ TFM キットの 2 本のネジで、TFM をスペーサーボルトに固定します。

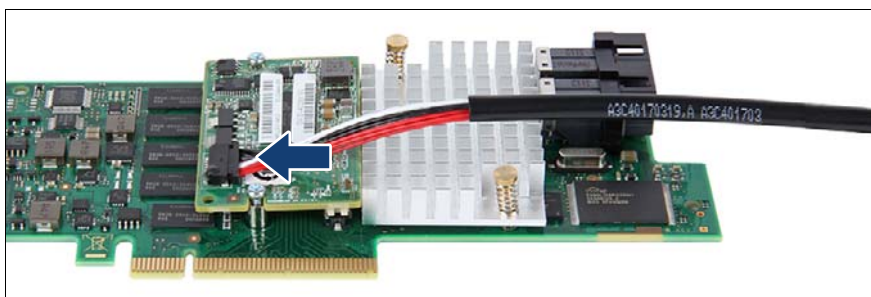


図 181: TFM の取り付け (C)

- ▶ TFM へ FBU アダプタケーブルを接続します。
- ▶ [270 ページ](#) の「標準スロットの拡張カードの取り付け」の項に記載されているように、SAS RAID コントローラを取り付けます。
- ▶ SAS ケーブルを SAS RAID コントローラ上の元のコネクタに接続します。

9.4.2.3 FBU の準備

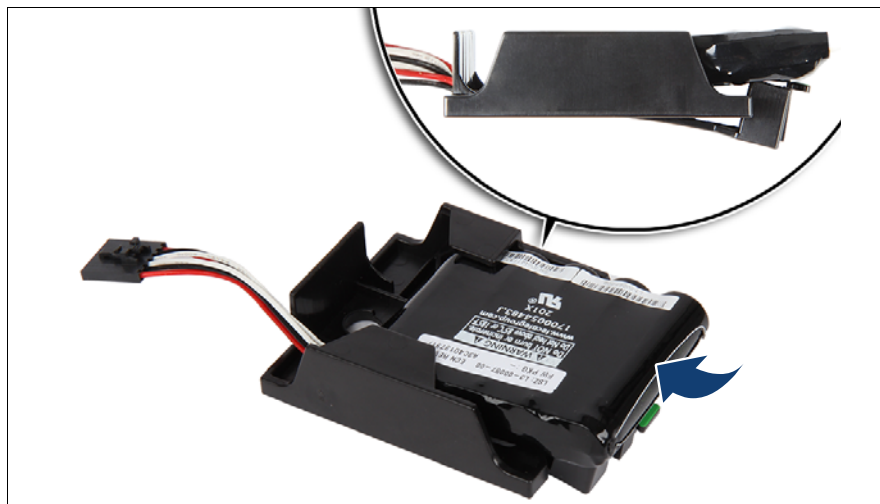


図 182: ホルダーへの FBU の取り付け (A)

- ▶ FBU をやや傾けながらホルダーの右側の保持ブラケットの下に合わせます。
- ▶ 所定の位置に固定されるまで FBU ユニットを押し込みます。



図 183: FBU のホルダーへの取り付け (B)

- ▶ FBU が FBU ホルダーに図のように正しく取り付けられていることを確認します。

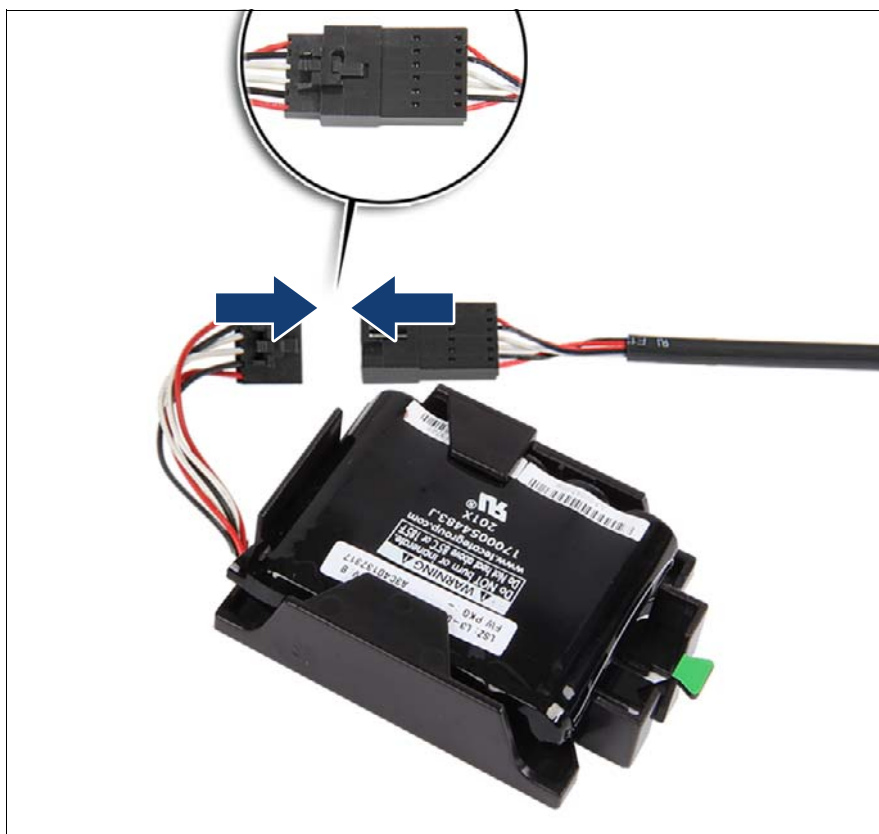


図 184: FBU への FBU アダプタケーブルの接続

- ▶ FBU のケーブルの端を FBU アダプタケーブルに接続します。

9.4.2.4 FBU の取り付け

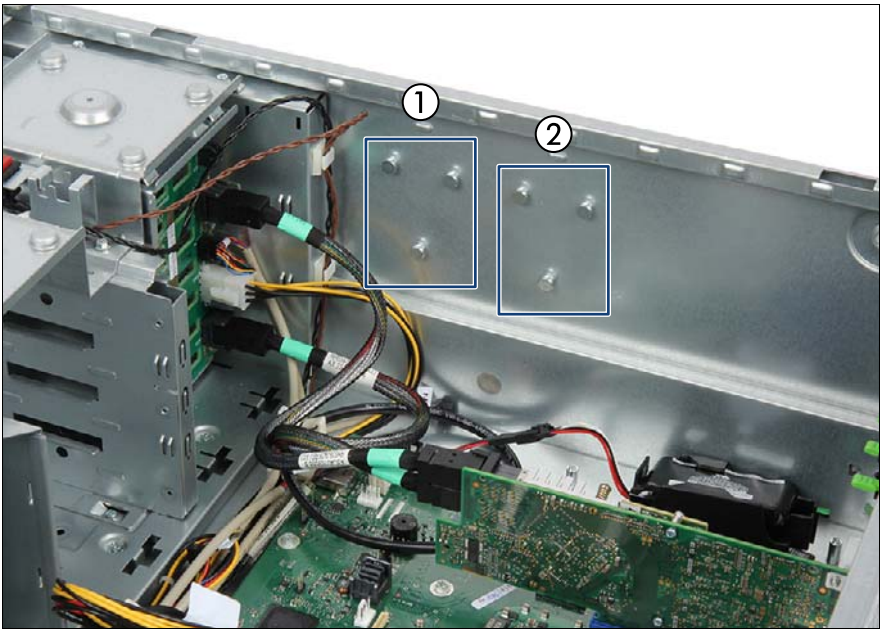


図 185: 肩付ネジのキャップの位置

i シャーシの肩付ネジのキャップと、ホルダーの鍵穴スロットの位置に注意してください。

位置	コンポーネント
1	FBU 1 の取り付け位置
2	FBU 2 の取り付け位置

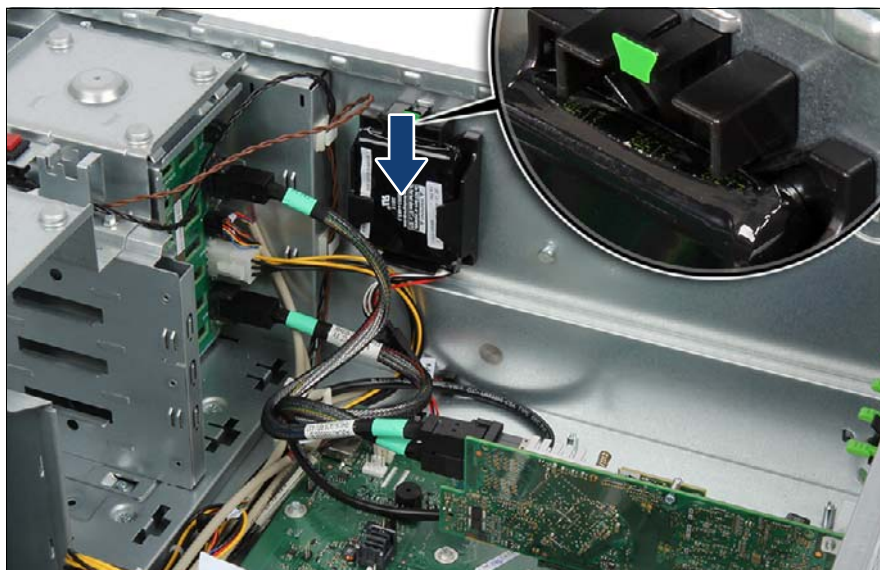


図 186: FBU ホルダーに取り付けられた FBU の取り付け

- ▶ 3 個の肩付ネジのキャップが、FBU ホルダーの鍵穴スロットの幅の広い方の終点に固定されるように、FBU ホルダーをシャーシに挿入します。
- ▶ FBU ホルダーを内側に下に最後までスライドさせます。
シャーシフロアの固定ボルトのキャップが、ホルダーの鍵穴スロットの幅の狭い方の終点に固定されます。
- ▶ FBU ホルダーのロックハンドルがカチッとハマっていることを確認します（拡大された部分を参照）。
- ▶ 図のように、FBU アダプタケーブルを配線します。

9.4.2.5 終了手順

- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り付けます：
[83 ページの「システムファンモジュールの取り扱い」](#)
- ▶ [69 ページの「サーバを閉じる」](#)
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[79 ページの「ラックにサーバを格納する」](#)
- ▶ ライザーカードスロットに取り付けられている拡張カードにすべての外部ケーブルを取り付け直します。

- ▶ 80 ページの「主電源へのサーバの接続」
- ▶ 82 ページの「サーバの電源投入」
- ▶ 該当する場合は、110 ページの「RAID コントローラファームウェアのアップデート」の項に記載されているように、FBU に接続されている RAID コントローラのファームウェアをアップデートします。
- ▶ 119 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」

9.4.3 FBU の取り外し



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



ハードウェア : 5 分

工具 : 工具不要



注意！

バッテリーバックアップユニットはゴミ箱に捨てないでください。バッテリーは、特別廃棄物についての自治体の規制に従って、廃棄する必要があります。
安全上の注意事項に関する詳細は、49 ページの「環境保護」の項を参照してください。

9.4.3.1 準備手順

- ▶ 51 ページの「故障したサーバの特定」
- ▶ 54 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 55 ページの「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 56 ページの「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ 60 ページの「サーバを開ける」

9.4.3.2 FBU の取り外し

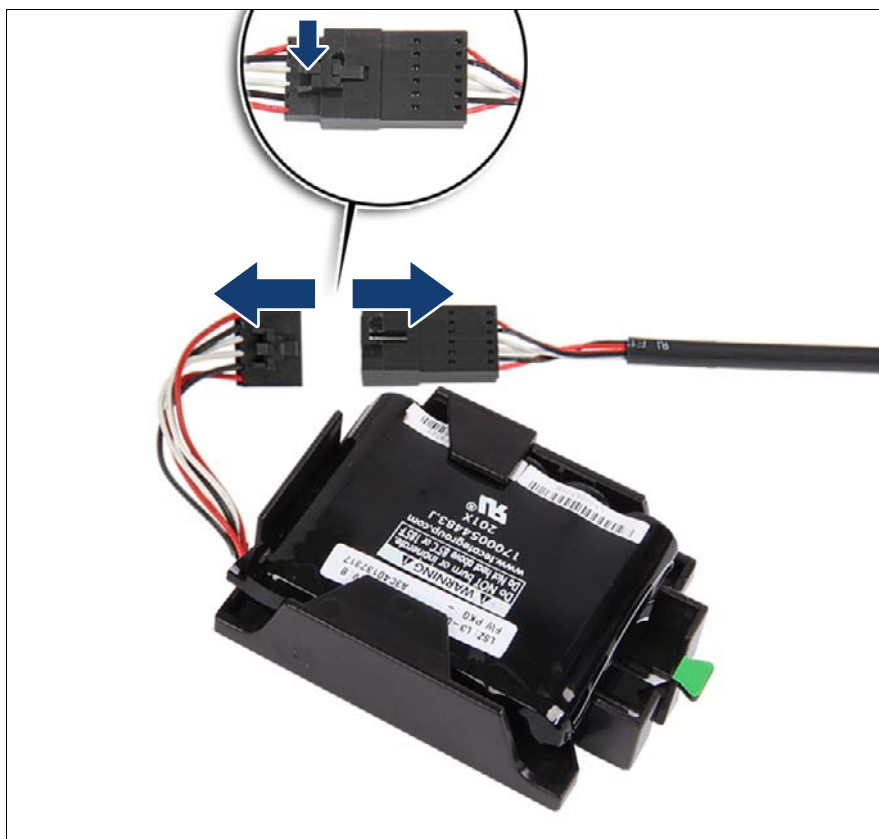


図 187: FBU ケーブルからの FBU アダプタケーブルの取り外し

- ▶ FPU ケーブルのロッキングラッチを押して（拡大された部分を参照）、FBU アダプタケーブルを取り外します。

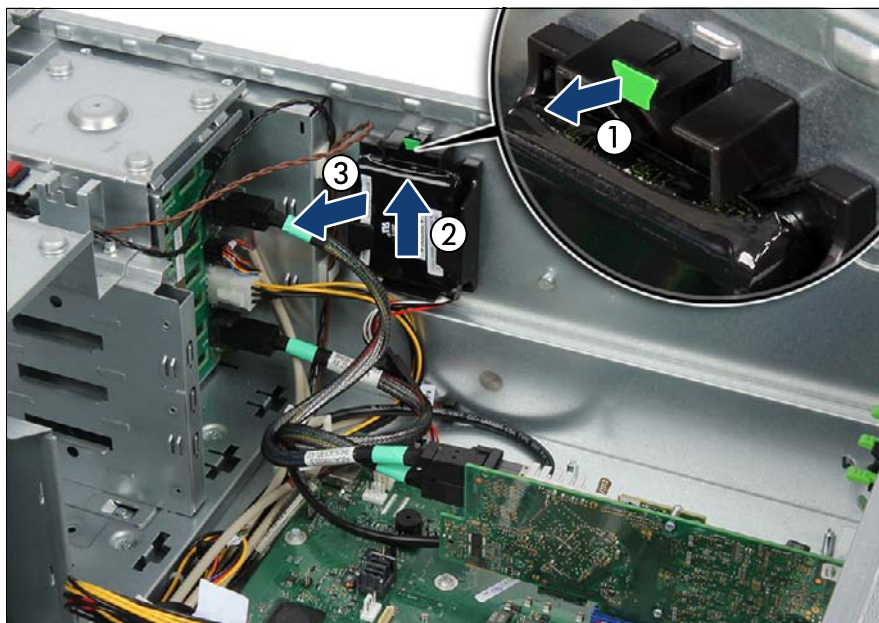


図 188: シャーシからの FBU ホルダーの取り外し

- ▶ FBU ホルダーを矢印の方向に最後までスライドさせながら (2)、FBU ホルダーの緑色のロックハンドルを持ち上げます (1)。

i その後、シャーシの肩付ネジのキャップが、FBU ホルダーの鍵穴スロットの幅の広い方の終点に固定されます。

- ▶ FBU ホルダーをシャーシから取り出します (3)。

9.4.3.3 終了手順

- ▶ 69 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
79 ページの「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 80 ページの「主電源へのサーバの接続」
- ▶ 82 ページの「サーバの電源投入」

9.4.4 FBU の交換



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



ハードウェア : 10 分

工具 : 工具不要



注意 !

バッテリーバックアップユニットはゴミ箱に捨てないでください。
バッテリーは、特別廃棄物についての自治体の規制に従って、廃棄する必要があります。

安全上の注意事項に関する詳細は、[49 ページ](#) の「**環境保護**」の項を参照してください。

9.4.4.1 準備手順

- ▶ [100 ページ](#) の「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ [51 ページ](#) の「故障したサーバの特定」
- ▶ [54 ページ](#) の「サーバのシャットダウン」
- ▶ [55 ページ](#) の「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[56 ページ](#) の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は : サーバを横向きにします。
- ▶ [60 ページ](#) の「サーバを開ける」
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り外します :
[83 ページ](#) の「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ [53 ページ](#) の「故障した部品の特定」

9.4.4.2 故障した FBU の取り外し

- ▶ [290 ページ](#) の「FBU の取り外し」の項に記載されているように、FBU とホルダーを取り外します。

9.4.4.3 FBU を FBU ホルダーから取り外す

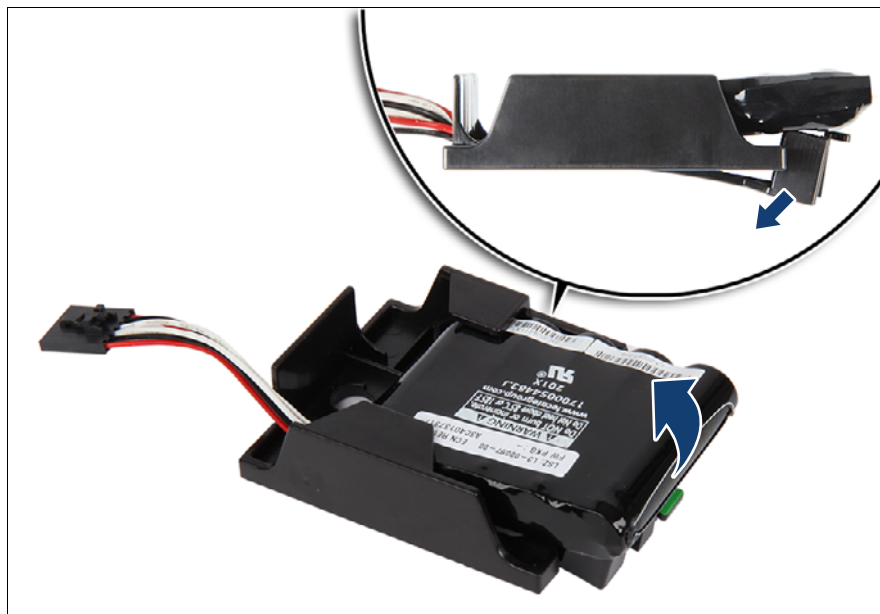


図 189: FBU を FBU ホルダーから取り外す

- ▶ FBU をやや傾けながらホルダーの保持ブラケットの下からスライドさせて取り外します。

9.4.4.4 新しい FBU の取り付け

- ▶ [286 ページの「FBU の準備」](#)の項に記載されるように、FBU を FBU ホルダーに取り付けます。
- ▶ [288 ページの「FBU の取り付け」](#)の項に記載されるように、FBU ホルダーに取り付けられた FBU を取り付けます。

9.4.4.5 終了手順

- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り付けます：
[83 ページの「システムファンモジュールの取り扱い」](#)
- ▶ [69 ページの「サーバを閉じる」](#)
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は

- 79 ページの「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 80 ページの「主電源へのサーバの接続」
- ▶ 82 ページの「サーバの電源投入」
- ▶ 該当する場合、110 ページの「RAID コントローラファームウェアのアップデート」
- ▶ 119 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」

9.4.5 TFM の交換



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



ハードウェア : 10 分

工具 : プラス PH1 / (+) No. 1 ドライバ

9.4.5.1 準備手順

- ▶ 51 ページの「故障したサーバの特定」
- ▶ 99 ページの「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 54 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 55 ページの「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ 取り外す拡張カードから外部ケーブルをすべて取り外します。
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
56 ページの「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は : サーバを横向きにします。
- ▶ 60 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り外します :
83 ページの「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ SAS RAID コントローラからの SAS ケーブルを取り外します。
- ▶ 274 ページの「標準スロットからの拡張カードの取り外し」の項に記載されているように、SAS RAID コントローラをスロットから取り外します。

9.4.5.2 TFM の取り外し



図 190: TFM からの FBU アダプタケーブルの取り外し

- ▶ TFM から FBU アダプタケーブルを取り外します。

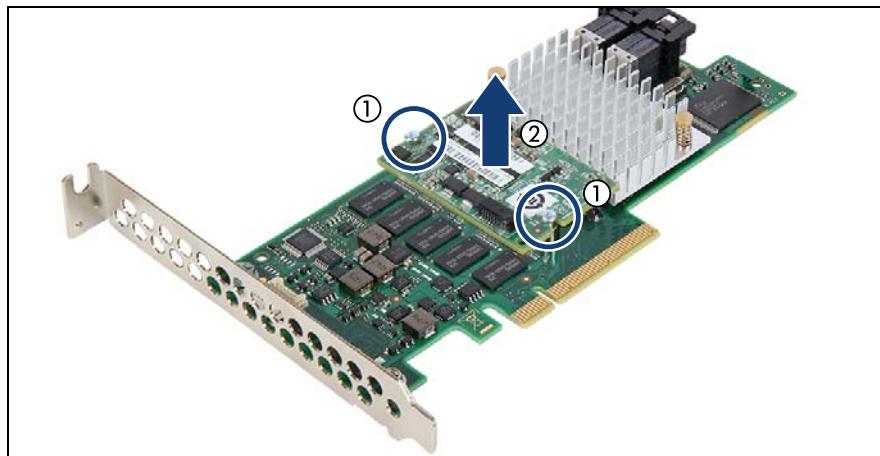


図 191: TFM の取り外し

- ▶ 2 本のネジを取り外します (1)。
- ▶ TFM を取り出します (2)。



TFM を交換する場合の注意：

2 本のスペーサーボルトは RAID コントローラに取り付けたままにできます。

9.4.5.3 新しい TFM の取り付け

- ▶ [284 ページ](#) の「TFM の取り付け」の項に記載されているように、TFM を既存の TFM スペーサーボルトに取り付けます。

9.4.5.4 終了手順

- ▶ [270 ページ](#) の「標準スロットの拡張カードの取り付け」の項に記載されているように、SAS RAID コントローラを取り付けます。
- ▶ SAS ケーブルを SAS RAID コントローラ上の元のコネクタに接続します。
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り付けます：
[83 ページ](#) の「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ [69 ページ](#) の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[79 ページ](#) の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ [80 ページ](#) の「主電源へのサーバの接続」
- ▶ [82 ページ](#) の「サーバの電源投入」
- ▶ 該当する場合、[110 ページ](#) の「RAID コントローラファームウェアのアップデート」
- ▶ [119 ページ](#) の「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」

10 メインメモリ

安全上の注意事項



注意！

- サポートしていない他メーカーのメモリモジュールは取り付けないでください。サポートしているメモリモジュールの詳細は、[299 ページ](#)の「**基本情報**」の項を参照してください。
- メモリモジュールは、シャットダウン後もしばらくは高温の状態が続きます。火傷しないように、コンポーネントが冷却されるのを待ってからメモリモジュールの取り付けや取り外しを行ってください。
- メモリモジュールの挿入と取り外しを繰り返さないでください。そうすると、故障が発生する可能性があります。
- メモリモジュールコネクタの固定クリップを押すと、取り付けられているメモリモジュールがイジェクトされます。破損を防止するために、力を入れすぎないように注意してメモリモジュールをイジェクトします。
- 詳細は、[39 ページ](#)の「**注意事項**」の章を参照してください。

10.1 基本情報

- － システムボードには、4 つのメモリスロットがあります。
- － システムには、最低 1 つのメモリモジュールを取り付ける必要があります。
- － サポートするメモリモジュール：
ECC 付き、unbuffered DDR4-2133 シングルランク（SR）またはデュアルランク（DR）UDIMM
- － サポートする容量：4 GB、8 GB、または 16 GB。
- － 最大 RAM 容量：64 GB

10.1.1 メモリの取り付け順序

- メモリスロット 1/ チャンネル A（DIMM-1A）から取り付けます。
- 両方のチャンネルでメモリスロット 1 に取り付けしてから、メモリスロット 2 に取り付けます。
- 容量の異なるメモリモジュールを使用する場合：
 - 容量の大きいモジュールから取り付けます。
 - モジュールはチャンネル内で容量の多い順に取り付けます。
- 速度の異なるメモリモジュールが使用されている場合は、最低のクロック速度がすべての DIMM に適用されます。

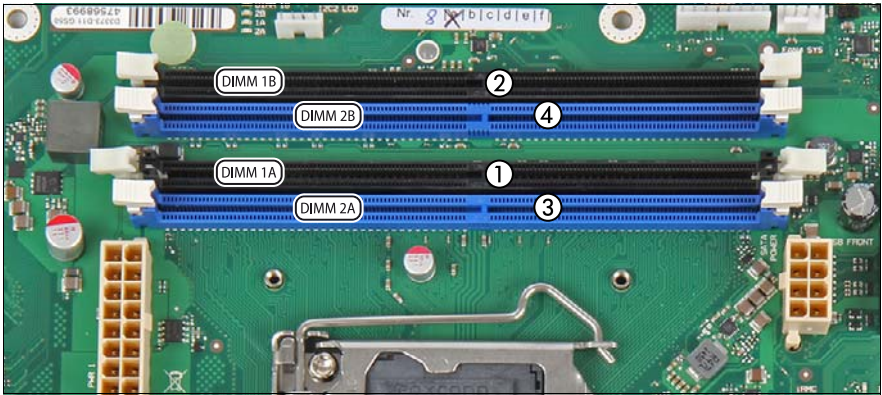


図 192: メモリの概観

チャンネル		A		B	
スロット ID		1A	2A	1B	2B
DIMM #	1	o			
	2	o		o	
	3	o	o	o	
	4	o	o	o	o

表 4: 取り付け順序 - ミラーチャンネルモード : 単一 CPU

10.1.2 動作モード

- 対称的なデュアルチャネル構成にすると、最大限のパフォーマンスを実現できます。このため、両方のチャネルに同じ容量のメモリを取り付けてください。DRAM デバイスのテクノロジー（1 Gbit / 2 Gbit / 4 Gbit）は、チャネルによって異なっていますがかまいません。
- 2 つのチャネルでメモリ容量が異なる場合、システムはデュアルチャネルの非対称モードで動作します。
- モードに関係なく、すべての DIMM は DIMM の SPD Data および選択された最高速度によって許容される周波数のうち、低い方の最高周波数で動作します。
- シングルチャネルモードは DIMM 1A に 1 個のメモリモジュールが取り付けられている場合に使用されます。

10.2 メモリモジュールの取り外し



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



ハードウェア : 5 分

工具 : 工具不要

10.2.1 準備手順

- ▶ [99 ページ](#) の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ [100 ページ](#) の「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ [51 ページ](#) の「故障したサーバの特定」
- ▶ [54 ページ](#) の「サーバのシャットダウン」
- ▶ [55 ページ](#) の「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は [56 ページ](#) の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合（サーバを横向きにします）：
- ▶ [60 ページ](#) の「サーバを開ける」

- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り外します：
[83 ページ](#) の「システムファンモジュールの取り扱い」

10.2.2 メモリモジュールの取り外し

- ▶ 目的のメモリスロットを特定します ([300 ページ](#) の「メモリの取り付け順序」の項を参照)。



注意！

メモリモジュールを取り外す場合は、動作可能な構成を保持してください。詳細は、[299 ページ](#) の「基本情報」の項を参照してください。

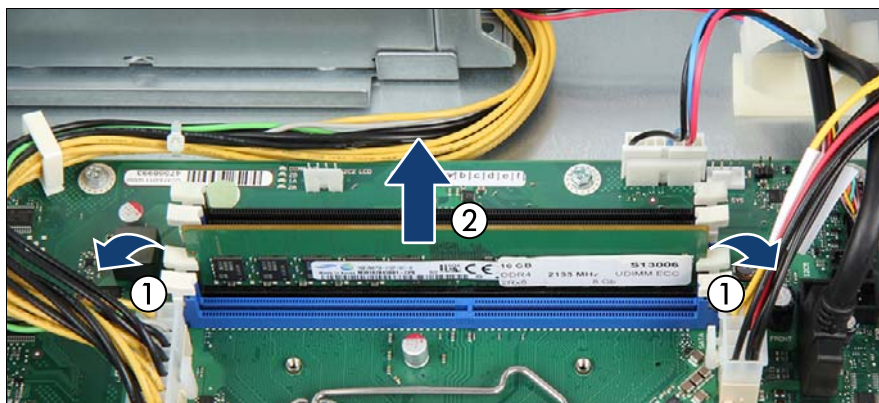


図 193: メモリモジュールの取り外し

- ▶ メモリモスロットの両端の固定クリップを押して、目的のメモリモジュールをイジェクトします (1)。
- ▶ イジェクトしたメモリモジュールを取り外します (2)。

10.2.3 終了手順

- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り付けます：
[83 ページ](#) の「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ [69 ページ](#) の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は

- 79 ページの「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 80 ページの「主電源へのサーバの接続」
- ▶ 82 ページの「サーバの電源投入」
- ▶ 該当する場合、107 ページの「システムボード BIOS と iRMC のアップデートまたはリカバリ」
- ▶ 119 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」
- ▶ 125 ページの「BitLocker 機能の再開」

10.3 メモリモジュールの取り付け



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



ハードウェア : 5 分

工具 : 工具不要

10.3.1 準備手順

- ▶ 99 ページの「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 100 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ 54 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
56 ページの「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合（サーバを横向きにします）：
- ▶ 60 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り外します：
83 ページの「システムファンモジュールの取り扱い」

10.3.2 メモリモジュールを取り付ける

- ▶ 適切なメモリスロットを特定します（300 ページの「メモリの取り付け順序」の項を参照）。

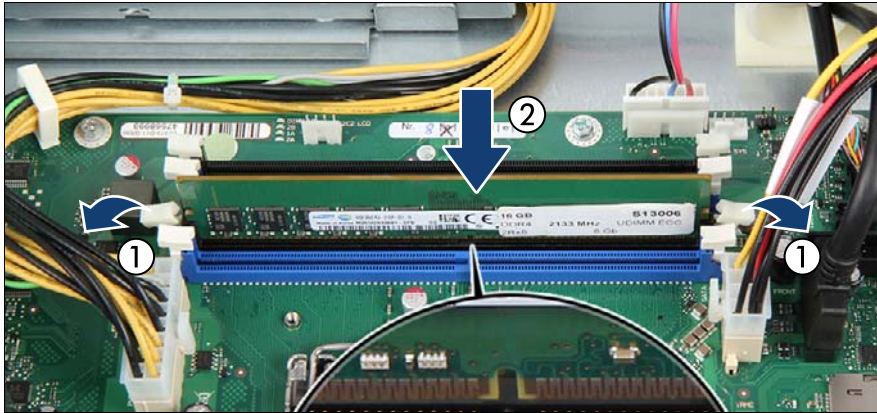


図 194: メモリモジュールの取り付け

- ▶ メモリスロットの両端の固定クリップを押します（1）。
- ▶ モジュールの下部の切り込みをスロットのクロスバーにそろえます（拡大部分を参照）。
- ▶ 固定クリップがモジュールの両端の切れ込みにカチッと音がして留まるまで、メモリモジュールを押し下げます（2）。

10.3.3 終了手順

- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り付けます：
83 ページの「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ 69 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
79 ページの「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 80 ページの「主電源へのサーバの接続」
- ▶ 82 ページの「サーバの電源投入」
- ▶ 該当する場合、107 ページの「システムボード BIOS と iRMC のアップデートまたはリカバリ」

- ▶ 119 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」
- ▶ 該当する場合、120 ページの「メモリモードの確認」
- ▶ 125 ページの「BitLocker 機能の再開」

10.4 メモリモジュールの交換



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



ハードウェア：5分
ソフトウェア：5分

工具： 工具不要

10.4.1 準備手順

- ▶ サーバ管理ソフトウェアを使用して、故障したメモリスロットを特定します。
- ▶ 99 ページの「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 100 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ 51 ページの「故障したサーバの特定」
- ▶ 54 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 55 ページの「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
56 ページの「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合（サーバを横向きにします）：
- ▶ 60 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り外します：
83 ページの「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ 53 ページの「故障した部品の特定」。

10.4.2 故障したメモリモジュールの取り外し

- ▶ [302 ページ](#) の「メモリモジュールの取り外し」の項に記載されているように、メモリモジュールを取り外します。

10.4.3 新しいメモリモジュールの取り付け

- ▶ [304 ページ](#) の「メモリモジュールを取り付ける」の項に記載されているように、メモリモジュールを取り付けます。

10.4.4 終了手順

- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り付けます：
[83 ページ](#) の「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ [69 ページ](#) の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[79 ページ](#) の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ [80 ページ](#) の「主電源へのサーバの接続」
- ▶ [82 ページ](#) の「サーバの電源投入」
- ▶ 該当する場合、[107 ページ](#) の「システムボード BIOS と iRMC のアップデートまたはリカバリ」
- ▶ [115 ページ](#) の「メモリモジュールまたはプロセッサの交換後のエラーステータスのリセット」
- ▶ [119 ページ](#) の「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」
- ▶ [120 ページ](#) の「交換した部品のシステム BIOS での有効化」
- ▶ [120 ページ](#) の「メモリモードの確認」
- ▶ [125 ページ](#) の「BitLocker 機能の再開」

11 プロセッサ

安全上の注意事項



注意！

- サポートしていないプロセッサは取り付けしないでください。サポートしているプロセッサの詳細は、[308 ページ](#)の「**基本情報**」の項を参照してください。
- 内部オプションの回路とはんだ付け部品は露出しているため、静電気の影響を受けやすくなっています。静電気に敏感なデバイス（ESD）を取り扱う際は、まず、接地された物（アース）に触れるなどして静電気の帯電を必ず放電してください。
- ボードやはんだ付け部品の電気回路に触れないでください。回路ボードを持つ際は、金属部分またはふちを持つようにしてください。
- プロセッサの取り外しまたは取り付け時には、プロセッサ・ソケットのスプリングコンタクトに触れたり曲げたりしないように注意してください。
- プロセッサの下側には絶対に触れないでください。指の油分などのわずかな汚れでも、プロセッサの動作に悪影響を及ぼしたり、プロセッサを破損させる可能性があります。
- 詳細は、[39 ページ](#)の「**注意事項**」の章を参照してください。

11.1 基本情報

システムボード D3373 は、インテル Xeon プロセッサのために 2 つのソケットを提供します。

11.1.1 サポートするプロセッサ

- インテル Xeon E3-12nnV5 または E3-12nnLV5 プロセッサシリーズ CPU
- ソケットタイプ: LGA 1150 パッケージ
- 熱設計電力 (TDP) クラス: 最大 80 W

11.2 プロセッサのアップグレードまたは交換



フィールド交換可能ユニット
(FRU)



ハードウェア: 15 分
ソフトウェア: 5 分

工具: プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ



注意!

プロセッサは静電気に非常に弱いため、慎重に扱う必要があります。プロセッサを保護スリーブまたはソケットから取り外した後は、導電性がなく帯電を防止できる場所に上下逆さに置いてください。プロセッサを押し付けないようにしてください。

11.2.1 準備手順

- ▶ [99 ページ](#) の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ [100 ページ](#) の「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ 該当する場合、[51 ページ](#) の「故障したサーバの特定」
- ▶ [54 ページ](#) の「サーバのシャットダウン」
- ▶ [55 ページ](#) の「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は

56 ページの「サーバをラックから引き出す」

- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ 60 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り外します：
83 ページの「システムファンモジュールの取り扱い」

11.2.2 プロセッサヒートシンクの取り外し

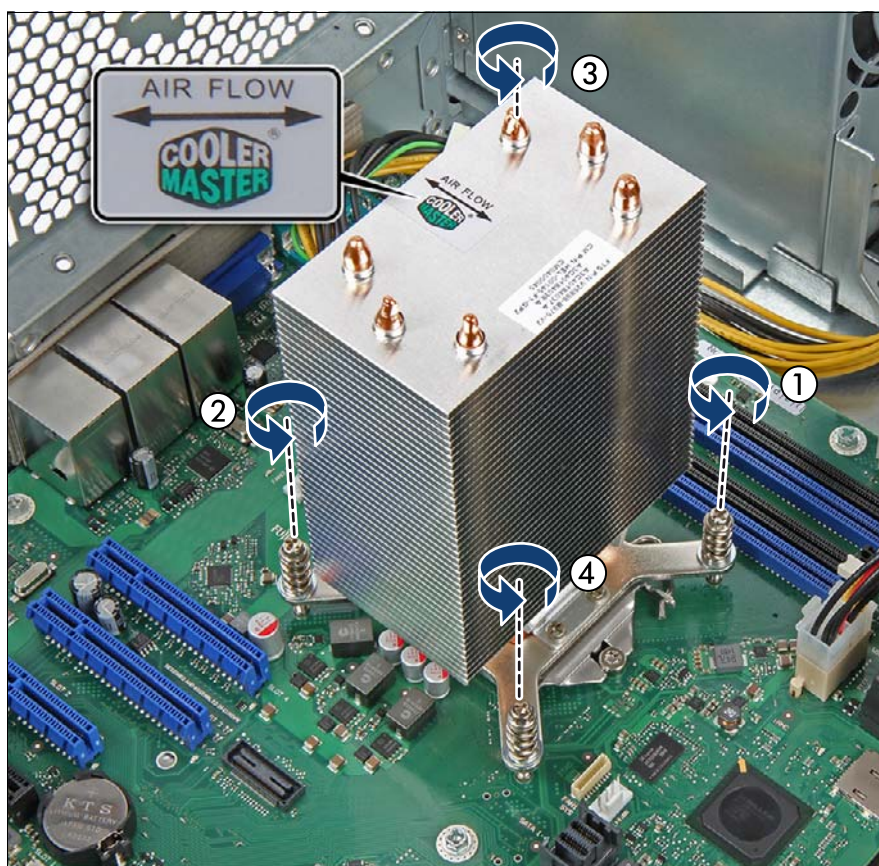


図 195: プロセッサヒートシンクの取り外し

- ▶ ヒートシンクの 4 本のネジを、対角線の順で緩めます (1-4)。

- ▶ ヒートシンクをそっと左右に動かして、プロセッサから取り外します。



この手順は、ヒートシンクとプロセッサとの間のサーマルペーストに粘着特性があるため必要です。



注意！

プロセッサソケット周辺のシステムボードのコンポーネントを破損しないように、特別な注意を払ってください。

- ▶ ヒートシンクをシャースィから持ち上げます。
- ▶ 糸くずの出ない布を使用して、ヒートシンクおよびプロセッサの表面に残っているサーマルペーストを完全に取り除きます。

11.2.3 プロセッサの取り外し

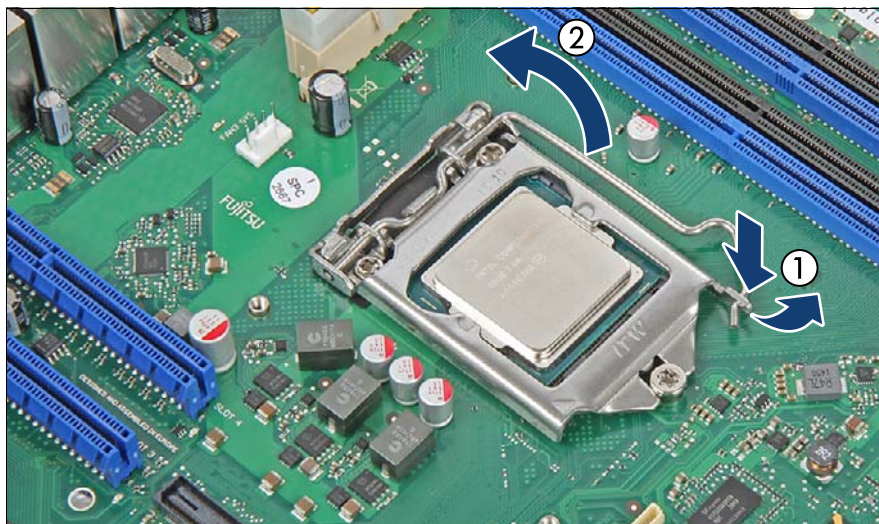


図 196: ソケットレバーのラッチを外す

- ▶ ソケットレバーを押し下げてソケットから外し、ソケットレバーのラッチを外します (1)。
- ▶ ソケットリリースレバーを後ろに倒します (2)。

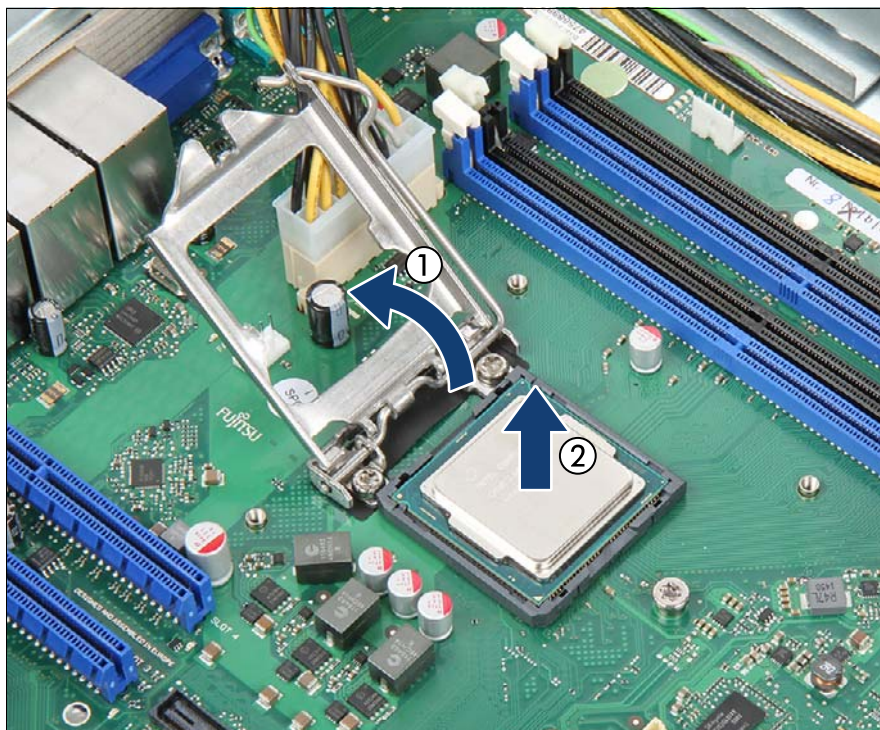


図 197: プロセッサの取り外し

- ▶ ソケットレバーを回転させ、ロードプレートをソケットから持ち上げます (1)。
- ▶ ロードプレートが完全に開いた位置にあるか確認します。
- ▶ 故障したプロセッサをそのソケットからゆっくりと垂直に取り外します (2)。



注意！

プロセッサ・ソケットのスプリングコンタクトに触れたり曲げたりしないように注意してください。

11.2.4 プロセッサを取り付ける

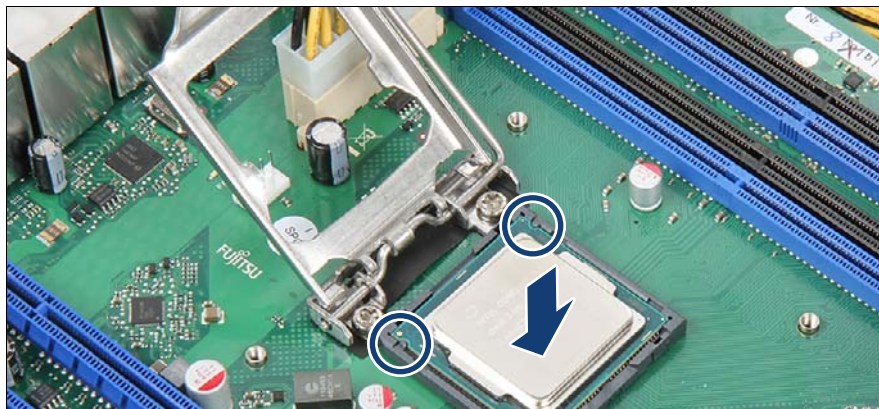


図 198: プロセッサを取り付ける

- ▶ プロセッサを親指と人差し指ではさんで持ちます。プロセッサの留め具がソケットのポストに合わさっていることを確認します（丸で囲んだ部分）。
- ▶ 傾けたりずらしたりせずに、プロセッサを真っすぐにソケットに降ろします。



注意！

- プロセッサがソケットに水平に取り付けられているかどうか確認します。
- プロセッサがソケットのピンに触れたり曲げないように注意してください。
- プロセッサの下側には絶対に触れないでください。指の油分などのわずかな汚れでも、プロセッサの動作に悪影響を及ぼしたり、プロセッサを破損させる可能性があります。
- プロセッサの縁を傷つけたり、へこませたりしないように注意してください。

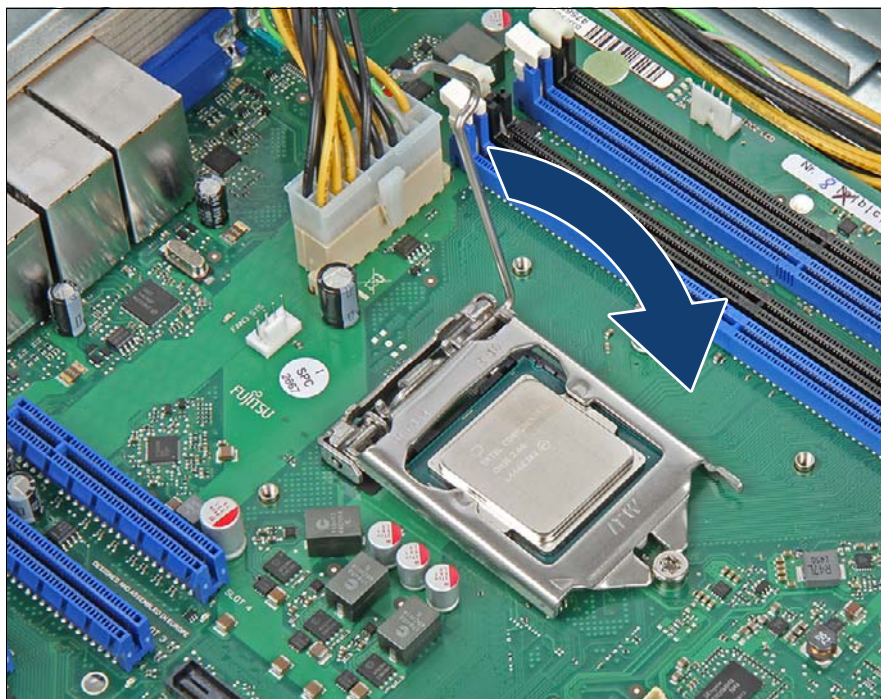


図 199: ロードプレートを閉じる (A)

- ▶ ソケットレバーを開位置にした状態で、プロセッサにロードプレートを降ろします。

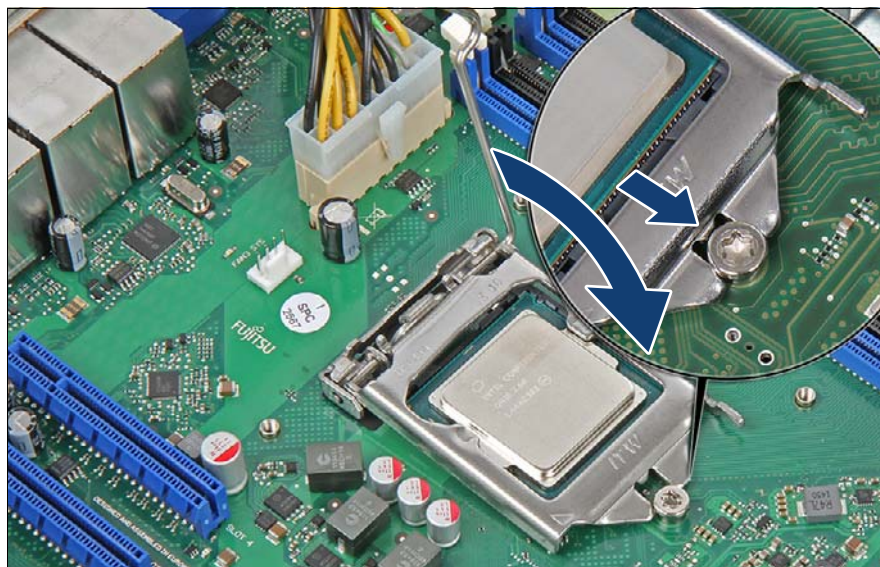


図 200: ロードプレートを閉じる (B)

- ▶ ソケットレバーを降ろせるように、ロードプレートの前端が肩付ネジの下に入り込むのを確認しながら、レバーを降ろします（拡大された部分を参照）。



図 201: ソケットレバーのラッチ留め

- ▶ ロードプレートのカムの下にソケットレバーをラッチ留めます。

11.2.5 サーマルペーストの塗布

- i** 日本市場では、サービスエンジニアは別途指定する手順に従ってください。
- i** プロセッサのアップグレードまたは交換キットに新しい CPU ヒートシンクが付属している場合はその下部の表面に、サーマルペーストがあらかじめ薄く塗布されています。この場合は、[317 ページの「プロセッサヒートシンクの取り付け」](#)の項に進みます。

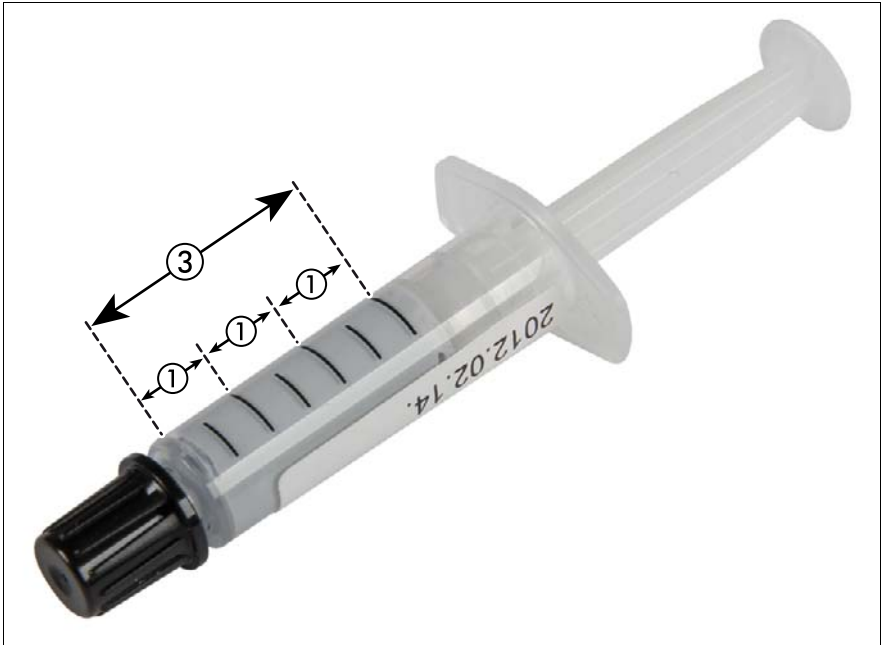


図 202: サーマルペーストの注射器

1 本のサーマルペーストの注射器（FTS-FSP:P304000004）に、プロセッサ 3 個分のサーマルペーストが入っています。

サーマルペーストの適量（1.0 g）を判断するために、注射器のグレー色の部分を等分に 3 分割します。

- i** サーマルペーストの塗布時に便利のように、注射器にマジックインキで目盛り線を付けます。



図 203: サーマルペーストの塗布

- ▶ 図のように、粒状の少量のサーマルペースト（1.0 g）（上記の説明を参照）をプロセッサの表面に塗布します。



注意！

タイプの異なるサーマルペーストを混ぜないでください。

11.2.6 プロセッサヒートシンクの取り付け

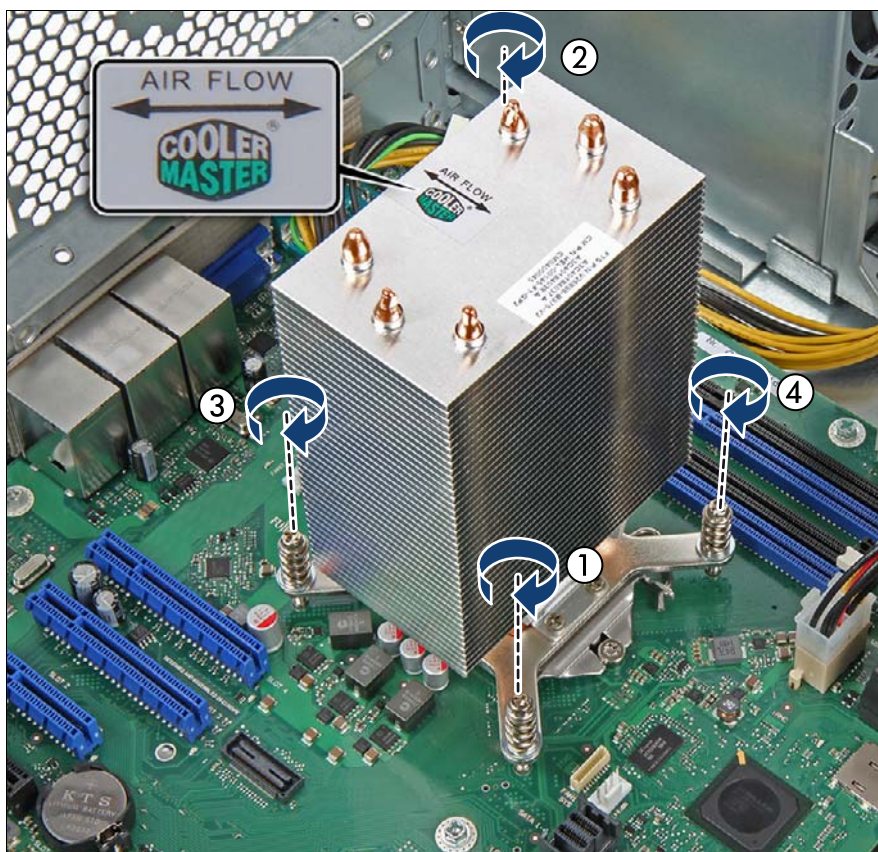


図 204: ヒートシンクの取り付け

- ▶ 図のように、ヒートシンクを 4 本のネジ穴に慎重に取り付けます。



注意！

- ヒートシンクのネジがネジ穴に正しく取り付けられているかどうか確認します。
 - ヒートシンクの冷却フィンがエアフローの方向と一致しているかどうか確認します。
- ▶ ヒートシンクの 4 本のネジ（ネジのトルク : 0.6 Nm、日本市場には適用されない）を、対角線の順で締めます（1 ～ 4）。

11.2.7 終了手順

- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り付けます：
[83 ページ](#) の「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ [69 ページ](#) の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[79 ページ](#) の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ [80 ページ](#) の「主電源へのサーバの接続」
- ▶ [82 ページ](#) の「サーバの電源投入」



CPU の交換またはアップグレードの後にシステムの電源を入れると、保守ランプが点滅し、エラーメッセージ「CPU has been changed」が表示されます。これは、CPU 構成が変更されたことを示すだけで、技術的な問題はありません。

保守ランプをオフにするには、次の手順に従います。

- ▶ システムを再起動して、画面に出力が表示されるまで待ちます。
 - ▶ **[F2]** ファンクションキーを押して BIOS に移行します。
割り当てられている場合は、BIOS のパスワードを入力して **[Enter]** キーを押します。
 - ▶ 「*Save & Exit*」メニューで、「*Save Changes and Exit*」または「*Save Changes and Reset*」を選択します。
 - ▶ 保守ランプの点滅が停止したことを確認します。この情報は、CPU 構成が変更されたことを示すだけで、技術的な問題はありません。
- ▶ 該当する場合、[107 ページ](#) の「システムボード BIOS と iRMC のアップデートまたはリカバリ」
 - ▶ [115 ページ](#) の「メモリモジュールまたはプロセッサの交換後のエラーステータスのリセット」
 - ▶ [119 ページ](#) の「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」
 - ▶ [120 ページ](#) の「交換した部品のシステム BIOS での有効化」
 - ▶ [125 ページ](#) の「BitLocker 機能の再開」

11.3 プロセッサヒートシンクの交換



フィールド交換可能ユニット
(FRU)



ハードウェア : 15 分

工具 : プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

11.3.1 準備手順

- ▶ 54 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 55 ページの「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
56 ページの「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ 60 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り外します：
83 ページの「システムファンモジュールの取り扱い」

11.3.2 プロセッサヒートシンクの交換

- ▶ 309 ページの「プロセッサヒートシンクの取り外し」の項に記載されているように、プロセッサヒートシンクを取り外します。
- ▶ 315 ページの「サーマルペーストの塗布」の項に記載されるように、サーマルペーストをプロセッサの表面に塗布します。
- ▶ 317 ページの「プロセッサヒートシンクの取り付け」の項に記載されているように、プロセッサヒートシンクを取り付けます。

11.3.3 終了手順

- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り付けます：
83 ページの「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ 69 ページの「サーバを閉じる」

- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
79 ページ の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 80 ページ の「主電源へのサーバの接続」
- ▶ 82 ページ の「サーバの電源投入」
- ▶ 120 ページ の「交換した部品のシステム BIOS での有効化」

12 アクセス可能なドライブ

安全上の注意事項



注意！

- アクセス可能なドライブを取り付ける前に、ドライブのユーザマニュアルを熟読してください。
- アクセス可能なドライブをサーバに挿入する際は、接続されているケーブルをはさんだり、引っ張ったりしないように注意してください。
- アクセス可能なドライブを取り付けるときは、ドライブの端を持ってください。ケースの上部に力を加えると、故障する場合があります。
- バックアップドライブを廃棄、輸送、返却する場合は、すべてのバックアップメディアがドライブから取り外されていることを確認してください。
- ボードやはんだ付け部品の電気回路に触れないでください。回路ボードを持つ際は、金属部分またはふちを持つようにしてください。
- 内部オプションの回路とはんだ付け部品は露出しているため、静電気の影響を受けやすくなっています。静電気に敏感なデバイス（ESD）を取り扱う際は、まず、接地された物（アース）に触れるなどして静電気の帯電を必ず放電してください。
- 安全上の注意事項に関する詳細は、[39 ページ](#)の「**注意事項**」の章を参照してください。

12.1 基本情報

アクセス可能なドライブベイ

PRIMERGY TX1330 M2 サーバには、光ディスクドライブおよびバックアップドライブ用の 5.25 インチアクセス可能ドライブベイが 3 つあります。



図 205: アクセス可能なドライブの取り付け順序（タワーサーバ）

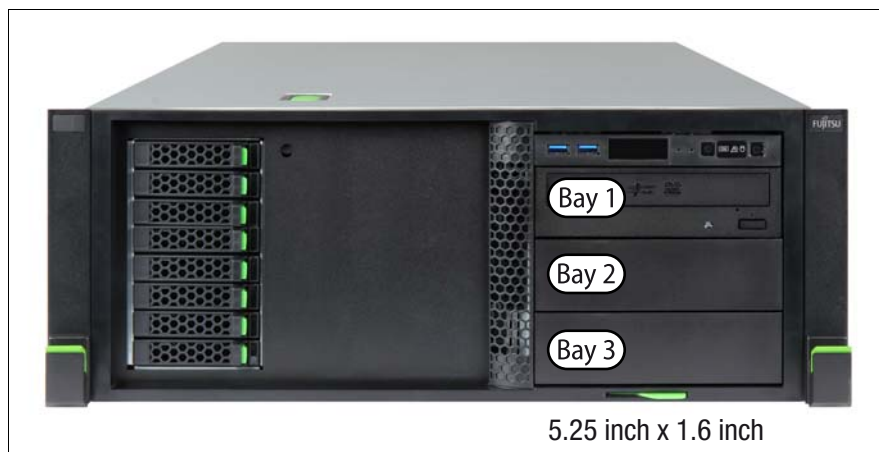


図 206: アクセス可能なドライブの取り付け順序（ラックサーバ）

アクセス可能なドライブの取り付け順序

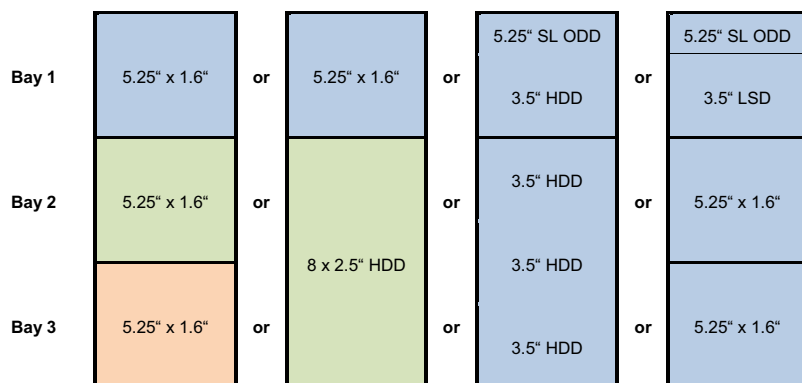


図 207: アクセス可能の設定

順序	アクセス可能なドライブ	ドライブベイ	最大	占有	インタフェース
1	光ディスクドライブ (フルハイト)	ベイ 1	1	1.6" x 5.25"	SATA
1	マルチベイの LSD		1	0.5" x 3.5"	I ² C bus
	マルチベイの薄型 ODD		1	0.5 x 5.25"	SATA
2	バックアップドライブ LTO3 HH Ultrium	ベイ 3 使用済みの場合はベイ 2 または 1	1	1.6" x 5.25"	SAS
2	バックアップドライブ LTO4 HH SAS (BM)		1	1.6" x 5.25"	SAS
2	バックアップドライブ LTO5 HH Ultrium		1	1.6" x 5.25"	SAS
2	バックアップドライブ LTO6 HH SAS (BM)		1	1.6" x 5.25"	SAS
2	バックアップドライブ DDS Gen 6		2	1.6" x 5.25"	USB 2.0
3	RDX バックアップドライブ	ベイ 3 使用済みの場合はベイ 2 または 1	1	1.6" x 5.25"	USB 2.0
					USB 3.0

表 5: アクセス可能なドライブの取り付け順序

アクセス可能なドライブ

順序	アクセス可能なドライブ	ドライブベイ	最大	占有	インタフェース
4	8 x 2.5 インチ HDD 拡張ボックス	ベイ 2 + 3	1	3.2" x 5.25"	SAS
4	4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックス	ベイ 1+2+3	1	4.8" x 5.25"	SAS
	4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスのウルトラスリム ODD				SATA

表 5: アクセス可能なドライブの取り付け順序

12.2 アクセス可能なドライブの取り付け



ユニットのアップグレードおよび修理 (URU)



ハードウェア : 10 分

工具: マイナスドライバ（アクセス可能なドライブの取り付け用ブラケットを曲げるため）

プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ（取り付けブラケットの取り付け用）

12.2.1 準備手順

- ▶ [54 ページ](#) の「サーバのシャットダウン」
- ▶ [55 ページ](#) の「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は [56 ページ](#) の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合（サーバを横向きにします）:
- ▶ [60 ページ](#) の「サーバを開ける」



フロントカバーは、アクセス可能なドライブのダミーカバーを取り外すまたは取り付け際にのみ、取り外す必要があります。

12.2.2 アクセス可能なドライブのダミーカバーの取り外し

- ▶ 93 ページの「アクセス可能なドライブのフィラーカバー」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブフィラーカバーを必要なベイから取り外します。
- ▶ 95 ページの「アクセス可能なドライブのカバー」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブカバーを取り外します。

12.2.3 RDX バックアップドライブへの取り付けブラケットの取り付け

この項は、日本市場の場合は該当しません。

バックアップドライブの取り付けブラケットは、取り付けキット S26361-F3753-E1（バックアップドライブとは別途注文）に付属しています。

i 修理中のバックアップドライブの交換時に使用できる新しい取り付けブラケットはありません。

- ▶ 必要に応じて、既存の取り付けブラケットをバックアップドライブから取り外してください。

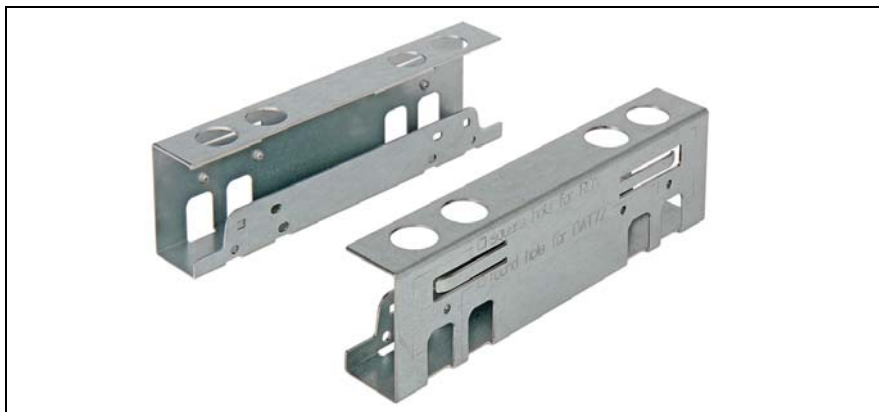


図 208: バックアップドライブの取り付けブラケット



図 209: バックアップドライブの取り付けブラケットのネジ穴

- ▶ 取り付けブラケットに刻印されたネジ穴の説明を確認してください。
 - ▶ RDX バックアップドライブには、角形のネジ穴を使用します（青色の矢印を参照）。



図 210: 取り付けブラケットの RDX バックアップドライブへの固定

- ▶ 図に示すように、バックアップドライブの取り付けブラケットを RDX バックアップドライブに、ブラケット 1 枚を 2 本のネジで固定します。

12.2.4 アクセス可能なドライブの取り付け



図 211: 右側の取り付けブラケット

- ▶ HDD 拡張ボックスを取り付けるため、目的のアクセス可能なドライブベイにある 4 つの取り付けブラケットが曲がっていないことを確認します。必要に応じて、取り付けブラケットを元の位置に曲げます（拡大された部分を参照）。
- ▶ [89 ページ](#) の「[アクセス可能なドライブのロックを開く](#)」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブロックを取り外します。



図 212: アクセス可能なドライブの取り付け

- ▶ アクセス可能なドライブを取り付けベイに差し込み、フロントパネルに揃うまでゆっくり押し込みます。



注意！

LTO ドライブを取り付ける場合、LTO ドライブをベイに押し込むときに、アクセス可能なドライブケースの背後で配線される電源ケーブルが引っ張られていないことを確認してください。

- ▶ 91 ページの「アクセス可能なドライブのロックを閉じる」の項に記載されているように、ロックを取り付けます。

12.2.4.1 RDX ドライブのケーブル配線

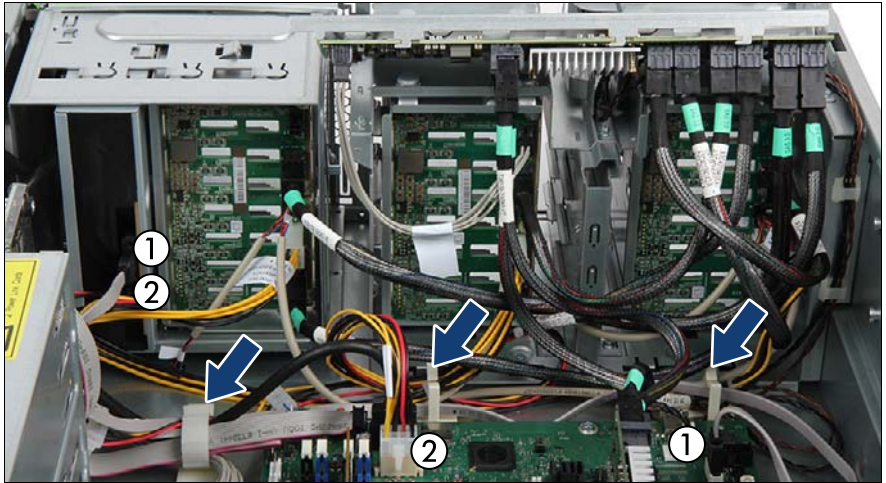


図 213: ODD ケーブルの接続の例

- ▶ システムボードコネクタ（SATA）5 に SATA ケーブル C3 を接続します（1）。
- ▶ システムボードコネクタの SATA POWER に電源ケーブル C5 を取り付けます（2）。



ケーブル接続の概要のまとめは、[436 ページ](#)の「[ケーブル図](#)」の項を参照してください。

- ▶ 図のように、ケーブルをケーブルガイドに通します（矢印を参照）。

12.2.5 終了手順

- ▶ [69 ページ](#)の「[サーバを閉じる](#)」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は [77 ページ](#)の「[ラックへのサーバの取り付け](#)」
- ▶ [80 ページ](#)の「[主電源へのサーバの接続](#)」
- ▶ [82 ページ](#)の「[サーバの電源投入](#)」
- ▶ 該当する場合、[112 ページ](#)の「[バックアップソフトウェアソリューションの検証と設定](#)」

12.3 アクセス可能なドライブの取り外し



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



平均作業時間：
10 分

工具： 工具不要

12.3.1 準備手順

- ▶ 51 ページの「故障したサーバの特定」
- ▶ 102 ページの「バックアップおよび光ディスクメディアの取り出し」
- ▶ 103 ページの「バックアップソフトウェアソリューションの検証と設定」
- ▶ 54 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
56 ページの「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 60 ページの「サーバを開ける」



フロントカバーは、アクセス可能なドライブのダミーカバーを取り付け際にのみ、取り外す必要があります。アクセス可能なドライブを取り外した後に交換する場合は、フロントカバーは取り付けたまにしてください。

12.3.2 アクセス可能なドライブの取り外し

- ▶ アクセス可能なドライブからすべてのケーブルを取り外します。
- ▶ 89 ページの「アクセス可能なドライブのロックを開く」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブロックを取り外します。



図 214: アクセス可能なドライブの取り外し

- ▶ アクセス可能なドライブを慎重に取り付けベイから取り外します。
- ▶ 91 ページの「アクセス可能なドライブのロックを閉じる」の項に記載されているように、ロックを取り付けます。

12.3.3 アクセス可能なドライブのダミーカバーの取り付け

- ▶ 該当する場合は、93 ページの「アクセス可能なドライブのフィラーカバー」の項に記載されているようにアクセス可能なドライブフィラーカバーを取り付けます。
- ▶ 該当する場合は、95 ページの「アクセス可能なドライブのカバー」の項に記載されているようにアクセス可能なドライブカバーを取り付けます。

12.3.4 終了手順

- ▶ 69 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 77 ページの「ラックへのサーバの取り付け」

- ▶ 80 ページの「主電源へのサーバの接続」
- ▶ 82 ページの「サーバの電源投入」
- ▶ 該当する場合、112 ページの「バックアップソフトウェアソリューションの検証と設定」

12.4 アクセス可能なドライブの交換



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



ハードウェア : 15 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ（取り付けブラケットの取り付け用）

12.4.1 準備手順

- ▶ 51 ページの「故障したサーバの特定」
- ▶ 102 ページの「バックアップおよび光ディスクメディアの取り出し」
- ▶ 103 ページの「バックアップソフトウェアソリューションの検証と設定」
- ▶ 54 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 55 ページの「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
56 ページの「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合（サーバを横向きにします）：
- ▶ 60 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 62 ページの「ラックフロントカバーの取り外し」（ラックサーバ）または
68 ページの「フロントカバーの取り外し」（タワーサーバ）



フロントカバーの取り外しは、アクセス可能なドライブを交換する際には不要です。

12.4.2 故障のあるアクセス可能なドライブの取り外し

- ▶ アクセス可能なドライブからすべてのケーブルを取り外します。
- ▶ [330 ページ](#) の「[アクセス可能なドライブの取り外し](#)」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブを取り外します。

12.4.3 新しいアクセス可能なドライブの取り付け

- ▶ [327 ページ](#) の「[アクセス可能なドライブの取り付け](#)」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブを取り付けます。
- ▶ [433 ページ](#) の「[ケーブル配線](#)」の項に記載されているように、すべてのケーブルを元のアクセス可能なドライブのコネクタに再び取り付けます。

12.4.4 終了手順

- ▶ [69 ページ](#) の「[サーバを閉じる](#)」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は [77 ページ](#) の「[ラックへのサーバの取り付け](#)」
- ▶ [80 ページ](#) の「[主電源へのサーバの接続](#)」
- ▶ [82 ページ](#) の「[サーバの電源投入](#)」
- ▶ 該当する場合、[112 ページ](#) の「[バックアップソフトウェアソリューションの検証と設定](#)」

12.5 マルチベイボックスの薄型 ODD と LSD

12.5.1 薄型 ODD または LSD の取り付け



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



平均作業時間：
10 分

工具： - プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ
- マイナスドライバ（アクセス可能なドライブの取り付け用ブラケットを曲げるため）

12.5.1.1 準備手順

- ▶ [54 ページ](#) の「サーバのシャットダウン」
- ▶ [55 ページ](#) の「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[56 ページ](#) の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ [60 ページ](#) の「サーバを開ける」



フロントカバーは、アクセス可能なドライブのダミーカバーを取り外す際にのみ、取り外す必要があります。マルチベイボックスがサーバに取り付け済みで、薄型 ODD または LSD モジュールを取り付けるために取り外される予定の場合は、この手順を省略します。

- ▶ [341 ページ](#) の「マルチベイボックスの取り外し」（該当する場合）

12.5.1.2 薄型 ODD のマルチベイボックスへの取り付け

- ▶ ロックレバーを押し上げて、薄型 ODD ダミーモジュールを外します（[図 224](#) を参照）。
- ▶ マルチベイモジュールの内側から、ODD ダミーモジュールを押してベイから引き出します。

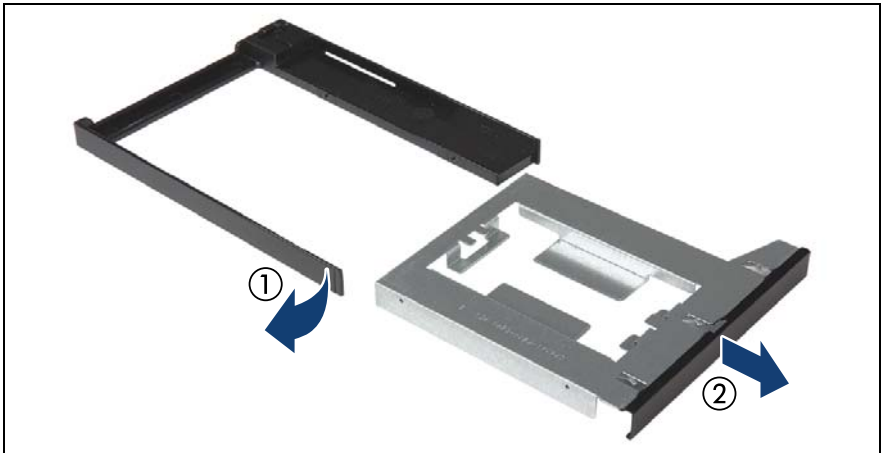


図 215: 薄型 ODD ダミーモジュールの分解

- ▶ 薄型 ODD ダミーを薄型 ODD 取り付けフレームから切り離し (1)、取り外します (2)。

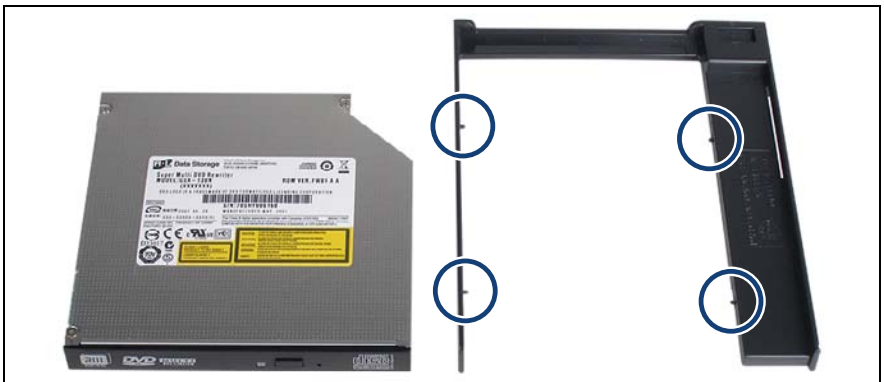


図 216: 薄型 ODD の取り付けフレームへの取り付け

- ▶ 薄型 ODD を薄型 ODD 取り付けフレームに合わせます。
- ▶ フレームの 4 本のピン（丸で囲んだ部分）がドライブのネジ穴にはまっていることを確認します。
- ▶ ODD が取り付けフレームに図のように正しく取り付けられていることを確認します。



図 217: 薄型 ODD モジュールのマルチベイボックスへの取り付け

- ▶ 薄型 ODD モジュールをマルチベイボックスに挿入して (1)、ロックレバー (2) が固定されるまで押し込みます。



図 218: 薄型 ODD の取り付けフレームへの取り付け

- ▶ SATA 電源ケーブル (1) と SATA ケーブル (2) を薄型 ODD に接続します。

12.5.1.3 LSD モジュールのマルチベイボックスへの取り付け

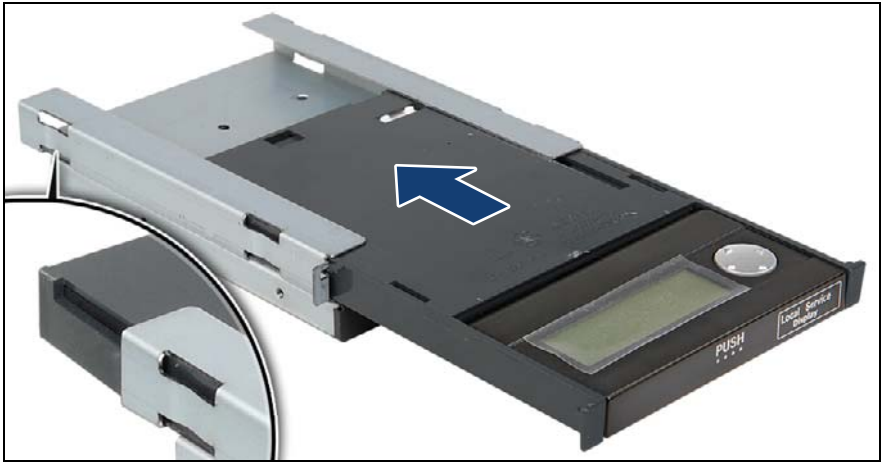


図 219: LSD モジュールの 3.5 インチ取り付けフレームへの挿入

- ▶ 前面から、LSD モジュールを 3.5 インチ取り付けフレームにロックングラッチがはまるまでスライドさせます（拡大部分を参照）。

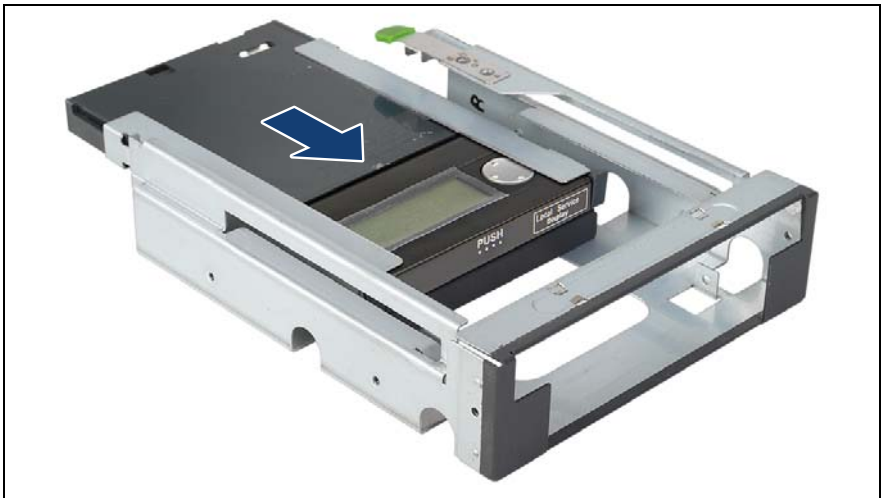


図 220: 3.5 インチ取り付けフレームのマルチベイボックスへの取り付け（A）

- ▶ 背面から、3.5 インチ取り付けフレームをマルチベイボックスにスライドさせます。

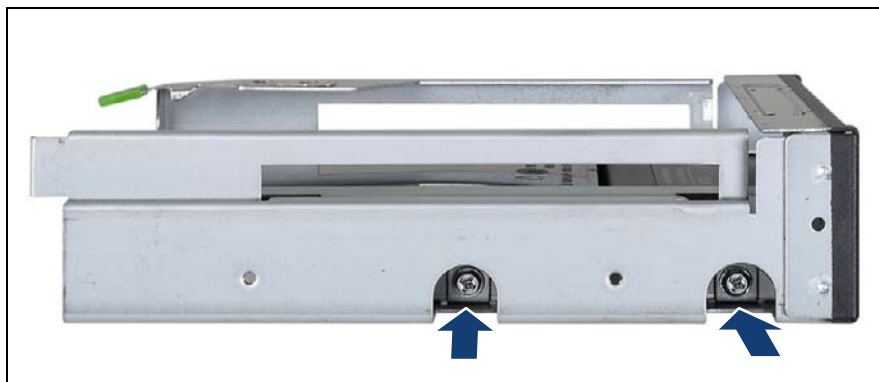


図 221: 3.5 インチ取り付けフレームのマルチベイボックスへの取り付け (B)

- ▶ 取り付けフレームをマルチベイボックスの両側に 2 本のネジ (M3 x 6 mm) で固定します。
- ▶ マルチベイボックスをシャーシに取り付ける前に、LSD ケーブルを LSD モジュールに接続します。

12.5.1.4 アクセス可能なドライブのダミーカバーの取り外し

- ▶ 必要に応じて、93 ページの「アクセス可能なドライブのフィラーカバー」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブフィラーカバーを取り付けベイ 1 から取り外します。
- ▶ 必要に応じて、95 ページの「アクセス可能なドライブのカバー」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブカバーを取り付けベイ 1 から取り外します。

12.5.1.5 マルチベイボックスの取り付け

- ▶ 取り付けベイの 4 つの取り付けブラケットが曲がっていないことを確認します (図 211 を参照)。
- ▶ 89 ページの「アクセス可能なドライブのロックを開く」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブロックを取り外します。



図 222: マルチベイボックスの挿入

- ▶ マルチベイボックスを取り付けベイ 1 に差し込み、フロントパネルに揃うまでゆっくり押し込みます (1)。
- ▶ ロッキングバー (2) を閉じてロックします (3)。
- ▶ LSD、SATA、電源ケーブルを接続します (436 ページの「ケーブル図」の項を参照)。

12.5.1.6 終了手順

- ▶ 69 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 77 ページの「ラックへのサーバの取り付け」
- ▶ 80 ページの「主電源へのサーバの接続」
- ▶ 82 ページの「サーバの電源投入」

12.5.2 薄型 ODD または LSD の取り外し



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



平均作業時間：
10 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

12.5.2.1 準備手順

- ▶ 102 ページ の「バックアップおよび光ディスクメディアの取り出し」
- ▶ 54 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 55 ページ の「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
56 ページ の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 60 ページ の「サーバを開ける」



フロントカバーは、アクセス可能なドライブのダミーカバーを取り外すまたは取り付け際にのみ、取り外す必要があります。薄型 ODD または LSD モジュールを取り外した後にマルチベイを再び取り付ける場合は、フロントカバーを取り付けたままにできます。

- ▶ 341 ページ の「マルチベイボックスの取り外し」（該当する場合）

12.5.2.2 マルチベイボックスの取り外し

- ▶ すべてのケーブルを薄型 ODD から取り外します。
- ▶ LSD ケーブルをシステムボードコネクタ SMB 1 から取り外します。
- ▶ 89 ページの「アクセス可能なドライブのロックを開く」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブブロックを取り外します。

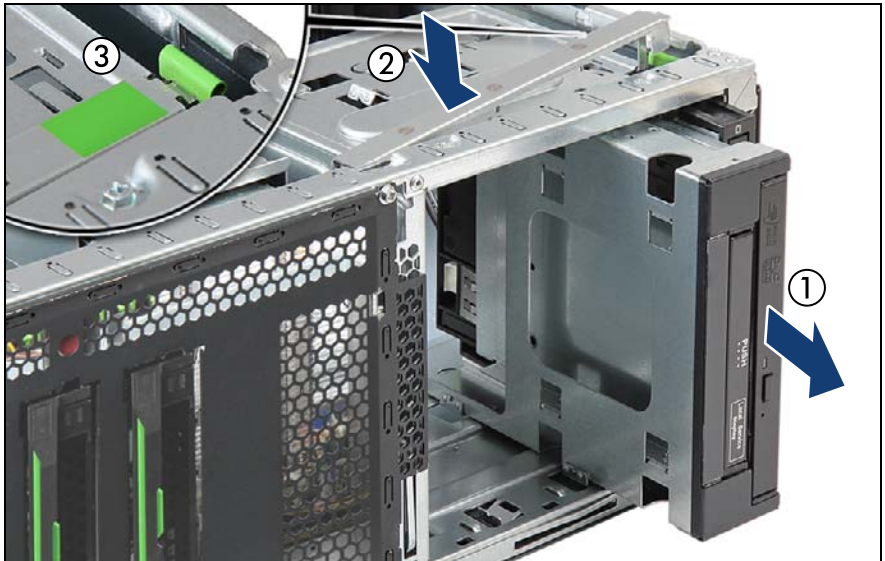


図 223: マルチベイボックスの取り外し

- ▶ マルチベイボックスを慎重に取り付けベイから取り外します。
- ▶ ロッキングバー (2) を閉じてロックします (3)。

12.5.2.3 薄型 ODD のマルチベイボックスからの取り外し

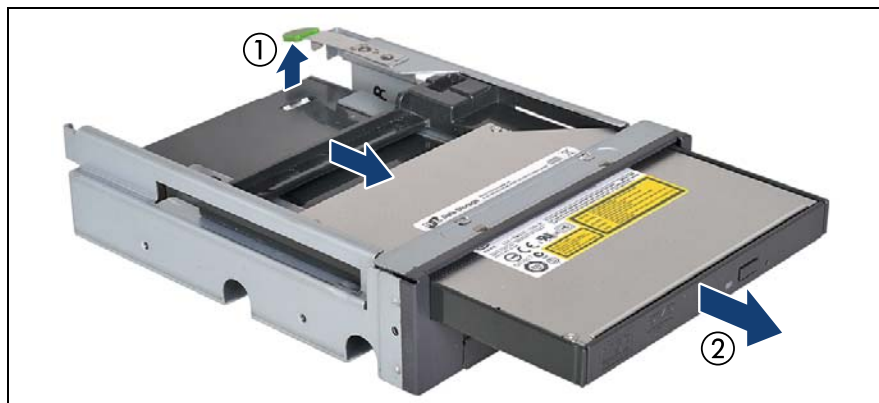


図 224: 薄型 ODD のマルチベイボックスからの取り外し

- ▶ ロッキングタブを押し上げて、薄型 ODD モジュールを外します (1)。
- ▶ マルチベイモジュールの内側から、薄型 ODD モジュールを押してベイから引き出します (2)。

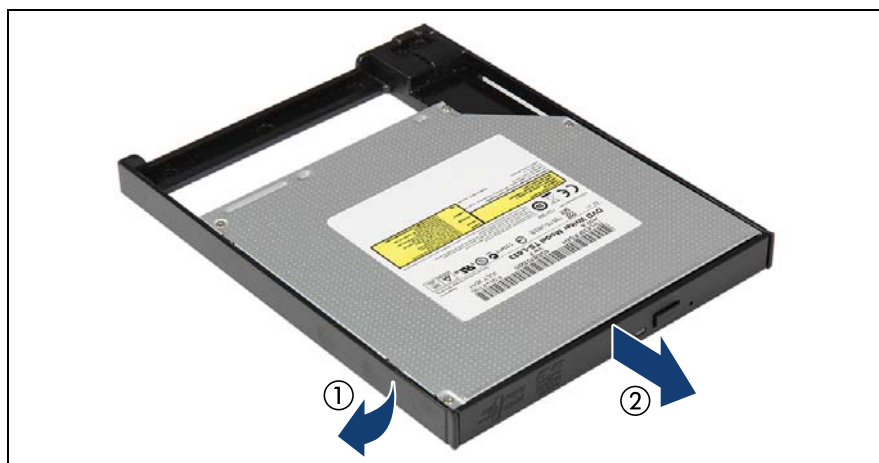


図 225: 薄型 ODD を取り付けフレームから取り外します。

- ▶ 薄型 ODD を取り付けフレームから切り離して (1)、取り外します (2)。

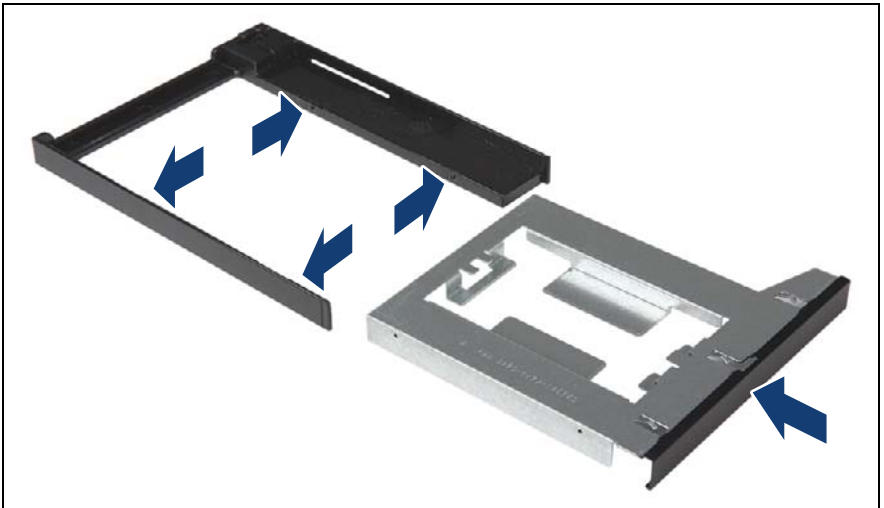


図 226: 薄型 ODD ダミーインサートの取り付けフレームへの取り付け

- ▶ 薄型 ODD ダミーインサートを薄型 ODD 取り付けフレームに合わせます。
- ▶ フレームの 4 本のピン（矢印を参照）がダミーインサートの側面の穴にはまっていることを確認します。
- ▶ 薄型 ODD ダミーモジュールをマルチベイボックスに挿入して、ロックレバーが固定されるまで押し込みます（図 217 を参照）。

12.5.2.4 LSD モジュールのマルチベイボックスからの取り外し

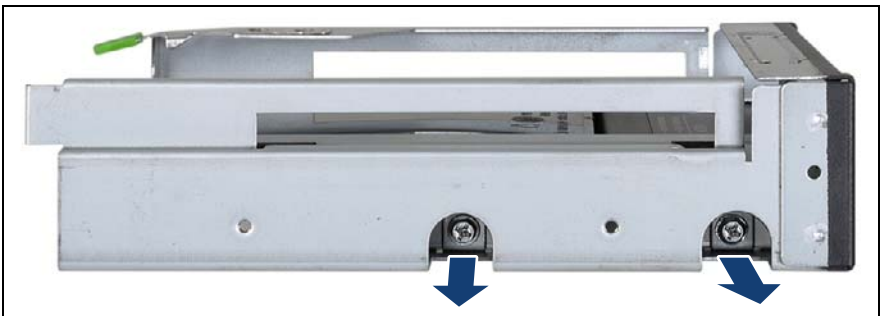


図 227: 3.5 インチ取り付けフレームのマルチベイボックスからの取り外し (A)

- ▶ マルチベイボックスの両側の 2 本のネジを取り外して、3.5 インチ取り付けベイを切り離します。

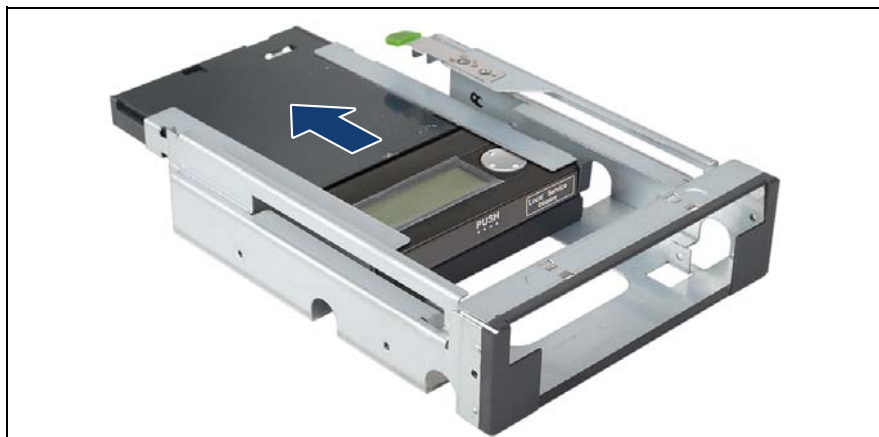


図 228: 3.5 インチ取り付けフレームのマルチベイボックスからの取り外し (B)

- ▶ 図のように、3.5 インチ取り付けフレームをマルチベイボックスからスライドさせて取り外します。

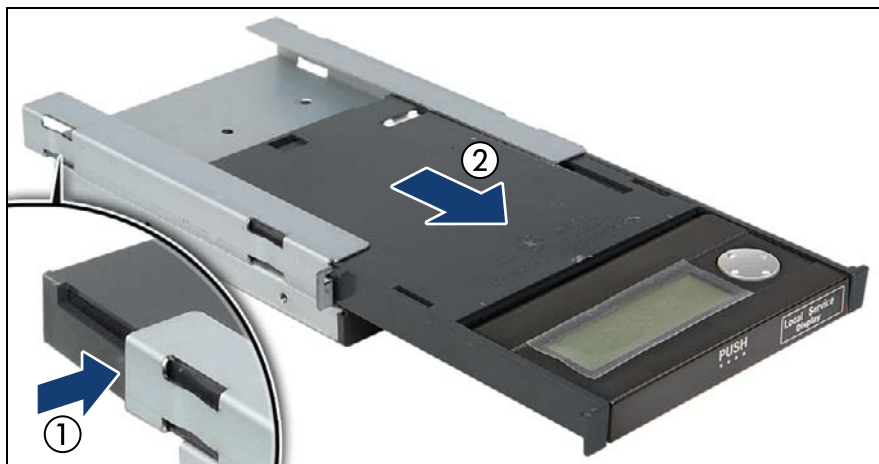


図 229: LSD モジュールの 3.5 インチ取り付けフレームからの取り外し

- ▶ ロッキングラッチを押して（拡大された部分を参照）、LSD モジュールを切り離します (1)。
- ▶ LSD モジュールを 3.5 インチ取り付けフレームから引き出します (2)。
- ▶ 取り外した LSD モジュールを新しいモジュールと交換しない場合は、LSD ダミーカバーを再び取り付けます。

12.5.2.5 マルチベイボックスの取り付け

- ▶ 338 ページの「マルチベイボックスの取り付け」の項に記載されているように、マルチベイボックスを取り付けます。

12.5.2.6 終了手順

- ▶ 69 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 77 ページの「ラックへのサーバの取り付け」
- ▶ 80 ページの「主電源へのサーバの接続」
- ▶ 82 ページの「サーバの電源投入」

12.5.3 薄型 ODD または LSD の交換



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



平均作業時間：
10 分

工具： – プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ
– マイナスドライバ（アクセス可能なドライブの取り付け用ブラケットを曲げるため）

12.5.3.1 準備手順

- ▶ 51 ページの「故障したサーバの特定」
- ▶ 102 ページの「バックアップおよび光ディスクメディアの取り出し」
- ▶ 54 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 55 ページの「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 56 ページの「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 60 ページの「サーバを開ける」



フロントカバーの取り外しは、マルチベイボックスの薄型 ODD または LSD を交換する際には不要です。

- ▶ [341 ページ](#) の「マルチベイボックスの取り外し」

12.5.3.2 故障した薄型 ODD の取り外し

- ▶ [342 ページ](#) の「薄型 ODD のマルチベイボックスからの取り外し」の項に記載されているように、薄型 ODD をマルチベイボックスから取り外します。

12.5.3.3 故障した LSD モジュールの取り外し

- ▶ [343 ページ](#) の「LSD モジュールのマルチベイボックスからの取り外し」の項に記載されているように、マルチベイボックスから LSD モジュールを取り外します。

12.5.3.4 新しい薄型 ODD の取り付け

- ▶ [334 ページ](#) の「薄型 ODD のマルチベイボックスへの取り付け」の項に記載されているように、薄型 ODD をマルチベイボックスに取り付けます。

12.5.3.5 新しい LSD モジュールの取り付け

- ▶ [337 ページ](#) の「LSD モジュールのマルチベイボックスへの取り付け」の項に記載されているように、マルチベイボックスに LSD モジュールを取り付けます。

12.5.3.6 終了手順

- ▶ [338 ページ](#) の「マルチベイボックスの取り付け」
- ▶ [69 ページ](#) の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は [77 ページ](#) の「ラックへのサーバの取り付け」
- ▶ [80 ページ](#) の「主電源へのサーバの接続」
- ▶ [82 ページ](#) の「サーバの電源投入」
- ▶ 該当する場合、[103 ページ](#) の「バックアップソフトウェアソリューションの検証と設定」

12.6 4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスのウルトラスリム ODD

12.6.1 ウルトラスリム ODD の取り付け



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



平均作業時間：
10 分

工具： – プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ
– マイナスドライバ（アクセス可能なドライブの取り付け用ブラケットを曲げるため）

12.6.1.1 準備手順

- ▶ 54 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 55 ページの「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
56 ページの「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 60 ページの「サーバを開ける」



フロントカバーは、アクセス可能なドライブのダミーカバーを取り外す際にのみ、取り外す必要があります。HDD 拡張ボックスがサーバに取り付け済みで、ウルトラスリム ODD を取り付けるために取り外される予定の場合は、この手順を省略します。

- ▶ 341 ページの「マルチベイボックスの取り外し」
- ▶ 239 ページの「4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し」（該当する場合）

12.6.1.2 ウルトラスリム ODD の HDD 拡張ボックスへの取り付け



図 230: ウルトラスリム ODD ダミーカバーの取り外し

- ▶ ウルトラスリム ODD ダミーカバーを取り外します。



注意！

ダミーカバーは今後使うかもしれないので、保管しておいてください。ウルトラスリム ODD を取り外して、すぐに新しい電源モジュールに交換しない場合、該当する EMC 指令に準拠し、かつ冷却要件を満たすために、ウルトラスリム ODD ダミーカバーをスロットに取り付けてください。

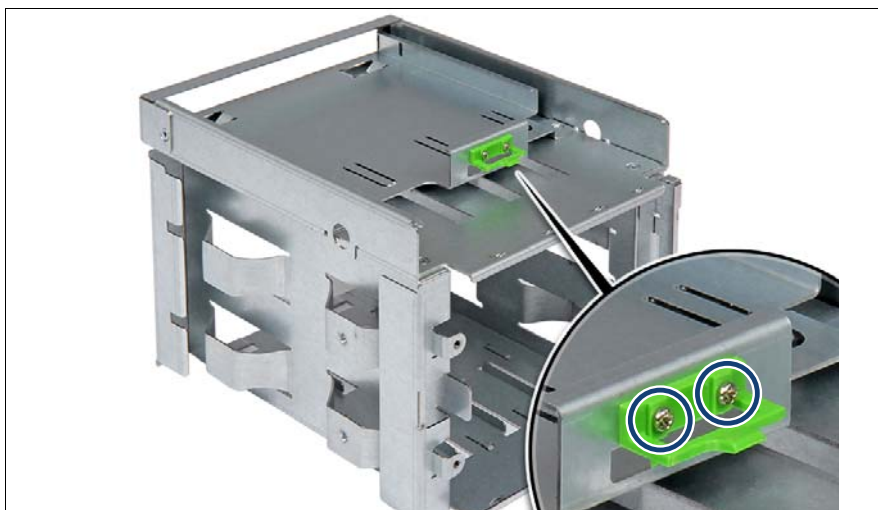


図 231: ウルトラスリム ODD ロッキングラッチの取り外し

- ▶ ロッキングラッチから 2 本のネジを取り外します（丸で囲んだ部分）。
- ▶ ロッキングラッチを取り外します。

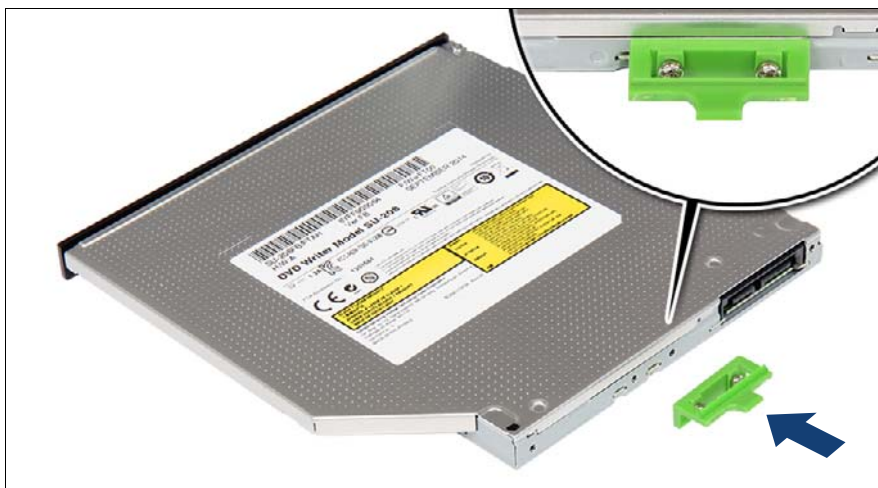


図 232: ウルトラスリム ODD へのロッキングラッチの取り付け

- ▶ 元の 2 本のネジでロッキングラッチをウルトラスリム ODD に固定します（拡大された部分を参照）。

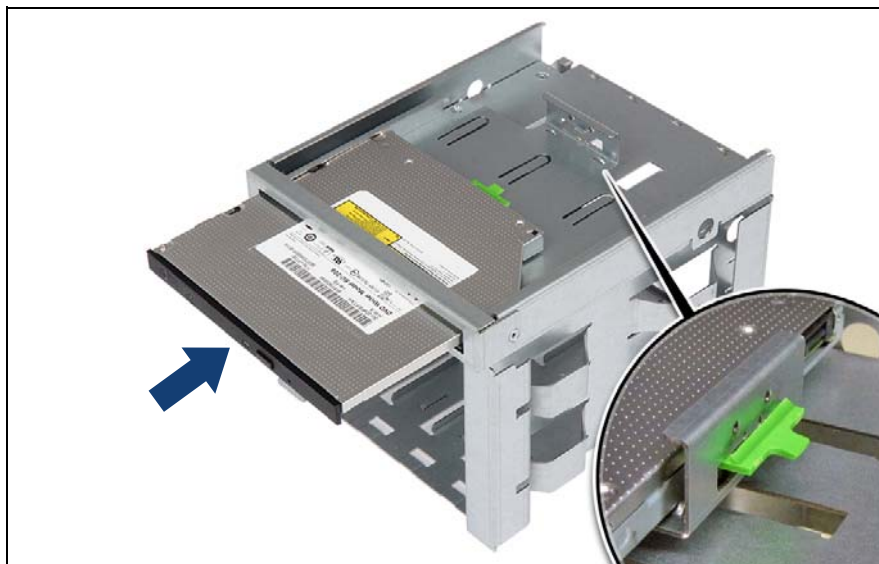


図 233: ウルトラスリム ODD の HDD 拡張ボックスへの取り付け

- ▶ ウルトラスリム ODD をベイに差し込み、所定の位置にはまるまでスライドさせます（拡大された部分を参照）。



図 234: ウルトラスリム ODD へのケーブルの接続

- ▶ 電源ケーブル C5（1）と SATA ケーブル C3（2）をウルトラスリム ODD に接続します。

12.6.1.3 4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け

- ▶ [235 ページ](#) の「[4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け](#)」の項に記載されているように、4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスを取り付けます。
- ▶ ウルトラスリム ODD の電源ケーブル C5 をシステムボードコネクタの SATA POWER に接続します（[436 ページ](#) の「[ケーブル図](#)」の項を参照）。
- ▶ 必要に応じて、ウルトラスリム ODD の SATA ケーブル C3 をシステムボードコネクタ（SATA）5 に接続します。配線は標準 ODD と同じです（[図 213](#) と [436 ページ](#) の「[ケーブル図](#)」の項を参照）。

12.6.1.4 終了手順

- ▶ [69 ページ](#) の「[サーバを閉じる](#)」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は [77 ページ](#) の「[ラックへのサーバの取り付け](#)」
- ▶ [80 ページ](#) の「[主電源へのサーバの接続](#)」
- ▶ [82 ページ](#) の「[サーバの電源投入](#)」

12.6.2 ウルトラスリム ODD の取り外し



ユニットのアップグレードお
よび修理
(URU)



平均作業時間：
10 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

12.6.2.1 準備手順

- ▶ [102 ページ](#) の「バックアップおよび光ディスクメディアの取り出し」
- ▶ [54 ページ](#) の「サーバのシャットダウン」
- ▶ [55 ページ](#) の「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[56 ページ](#) の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ [60 ページ](#) の「サーバを開ける」



フロントカバーは、アクセス可能なドライブのダミーカバーを取り外すまたは取り付け際にのみ、取り外す必要があります。ウルトラスリム ODD を取り外した後に HDD 拡張ボックスを再び取り付ける場合は、フロントカバーを取り付けたままにできます。

12.6.2.2 4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し

- ▶ [239 ページ](#) の「[4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し](#)」の項に記載されているように、4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスを取り外します。

12.6.2.3 ウルトラスリム ODD の拡張ボックスからの取り外し

- ▶ 電源ケーブルと SATA ケーブルをウルトラスリム ODD から取り外します（[図 234](#) を参照）。

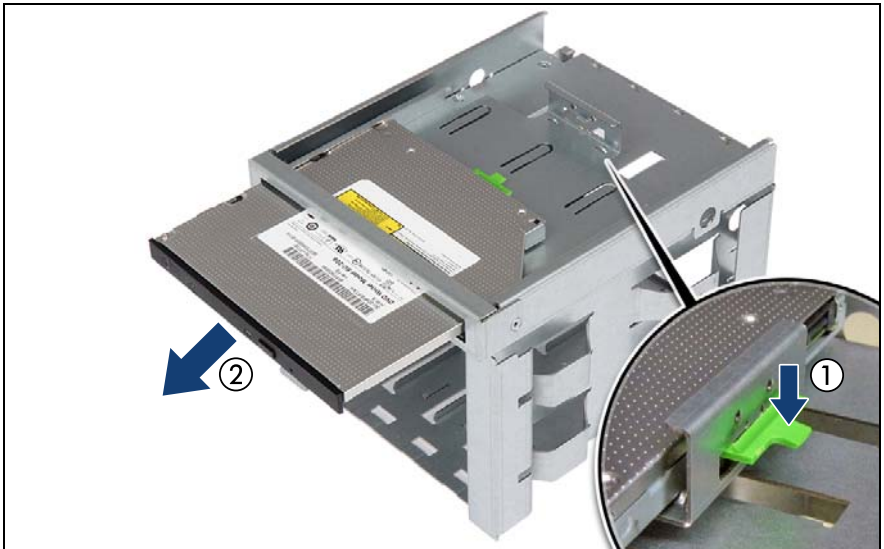


図 235: ウルトラスリム ODD の拡張ボックスからの取り外し

- ▶ ロッキングラッチを降ろします (1)。
- ▶ ウルトラスリム ODD を取り出します (2)。



図 236: ウルトラスリム ODD からのロッキングラッチの取り出し

- ▶ 2 本のネジを取り外します (1)。
- ▶ ロッキングラッチを取り外します (2)。

アクセス可能なドライブ

- ▶ 取り外したウルトラスリム ODD を新しいドライブで交換しない場合は、次の手順に従います。
 - ▶ HDD ケージへの元の 2 本のネジで、ロッキングラッチをウルトラスリム ODD に固定します（図 231 を参照）。
 - ▶ ウルトラスリム ODD ダミーカバーを挿入します（図 230 を参照）。

12.6.2.4 4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け

- ▶ 233 ページの「4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け」の項に記載されているように、4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスを取り付けます。

12.6.2.5 終了手順

- ▶ 69 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 77 ページの「ラックへのサーバの取り付け」
- ▶ 80 ページの「主電源へのサーバの接続」
- ▶ 82 ページの「サーバの電源投入」

12.6.3 ウルトラスリム ODD の交換



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



平均作業時間：
10 分

工具： – プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ
– マイナスドライバ（アクセス可能なドライブの取り付け用ブラケットを曲げるため）

12.6.3.1 準備手順

- ▶ 51 ページの「故障したサーバの特定」
- ▶ 102 ページの「バックアップおよび光ディスクメディアの取り出し」
- ▶ 54 ページの「サーバのシャットダウン」

- ▶ 55 ページの「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
56 ページの「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 60 ページの「サーバを開ける」



フロントカバーの取り外しは、4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスの
ウルトラスリム ODD を交換する際には不要です。

12.6.3.2 故障したウルトラスリム ODD の取り外し

- ▶ 239 ページの「4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し」の項に記載されているように、4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスを取り外します。
- ▶ 352 ページの「ウルトラスリム ODD の拡張ボックスからの取り外し」の項に記載されているように、ウルトラスリム ODD を取り外します。

12.6.3.3 新しいウルトラスリム ODD の取り付け

- ▶ 348 ページの「ウルトラスリム ODD の HDD 拡張ボックスへの取り付け」の項に記載されているように、ウルトラスリム ODD を取り付けます。
- ▶ 235 ページの「4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け」の項に記載されているように、4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスを取り付けます。

12.6.3.4 終了手順

- ▶ 69 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
77 ページの「ラックへのサーバの取り付け」
- ▶ 80 ページの「主電源へのサーバの接続」
- ▶ 82 ページの「サーバの電源投入」

12.7 ウルトラスリム ODD アダプタの中のウルトラスリム ODD

12.7.1 ウルトラスリム ODD の取り付け



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



平均作業時間：
10 分

工具： - プラス PH0 / (+) No. 0 ドライバ
- マイナスドライバ（アクセス可能なドライブの取り付け用ブラケットを曲げるため）

12.7.1.1 準備手順

- ▶ [54 ページ](#) の「サーバのシャットダウン」
- ▶ [55 ページ](#) の「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[56 ページ](#) の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ [60 ページ](#) の「サーバを開ける」



フロントカバーは、アクセス可能なドライブのダミーカバーを取り外す際にのみ、取り外す必要があります。

12.7.1.2 ウルトラスリム ODD のウルトラスリム ODD アダプタへの取り付け



図 237: ウルトラスリム ODD ダミーカバーの取り外し - ウルトラスリム ODD アダプタ

- ▶ ウルトラスリム ODD ダミーカバーを取り外します。



注意！

ダミーカバーは今後使うかもしれないので、保管しておいてください。ウルトラスリム ODD を取り外して、すぐに新しい電源モジュールに交換しない場合、該当する EMC 指令に準拠し、かつ冷却要件を満たすために、ウルトラスリム ODD ダミーカバーをスロットに取り付けてください。



図 238: ウルトラスリム ODD のウルトラスリム ODD アダプタへの取り付け (A)

- ▶ ウルトラスリム ODD をベイに挿入します。



図 239: ウルトラスリム ODD のウルトラスリム ODD アダプタへの取り付け (B)

- ▶ ウルトラスリム ODD を 2 本のネジでウルトラスリム ODD アダプタに固定します (丸で囲んだ部分)。
- ▶ 電源ケーブル C5 と SATA ケーブル C3 をウルトラスリム ODD に接続します (図 234 を参照)。

12.7.1.3 ウルトラスリム ODD アダプタの取り付け

- ▶ 327 ページの「アクセス可能なドライブの取り付け」の項に記載されているように、ウルトラスリム ODD アダプタを取り付けます。
- ▶ ウルトラスリム ODD の電源ケーブル C5 をシステムボードコネクタの SATA POWER に接続します (436 ページの「ケーブル図」の項を参照)。
- ▶ 必要に応じて、ウルトラスリム ODD の SATA ケーブル C3 をシステムボードコネクタ (SATA) 5 に接続します。配線は標準 ODD と同じです (図 213 と 436 ページの「ケーブル図」の項を参照)。

12.7.1.4 終了手順

- ▶ 69 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 77 ページの「ラックへのサーバの取り付け」
- ▶ 80 ページの「主電源へのサーバの接続」
- ▶ 82 ページの「サーバの電源投入」

12.7.2 ウルトラスリム ODD の取り外し



ユニットのアップグレードお
よび修理
(URU)



平均作業時間：
10 分

工具： プラス PH0 / (+) No. 0 ドライバ

12.7.2.1 準備手順

- ▶ 102 ページの「バックアップおよび光ディスクメディアの取り出し」
- ▶ 54 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 55 ページの「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
56 ページの「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 60 ページの「サーバを開ける」



フロントカバーは、アクセス可能なドライブのダミーカバーを取り外すまたは取り付け際にのみ、取り外す必要があります。

12.7.2.2 ウルトラスリム ODD アダプタの取り外し

- ▶ 330 ページの「アクセス可能なドライブの取り外し」の項に記載されているように、ウルトラスリム ODD アダプタを取り外します。

12.7.2.3 ウルトラスリム ODD のウルトラスリム ODD アダプタからの取り外し

- ▶ 電源ケーブルと SATA ケーブルをウルトラスリム ODD から取り外します (図 234 を参照)。

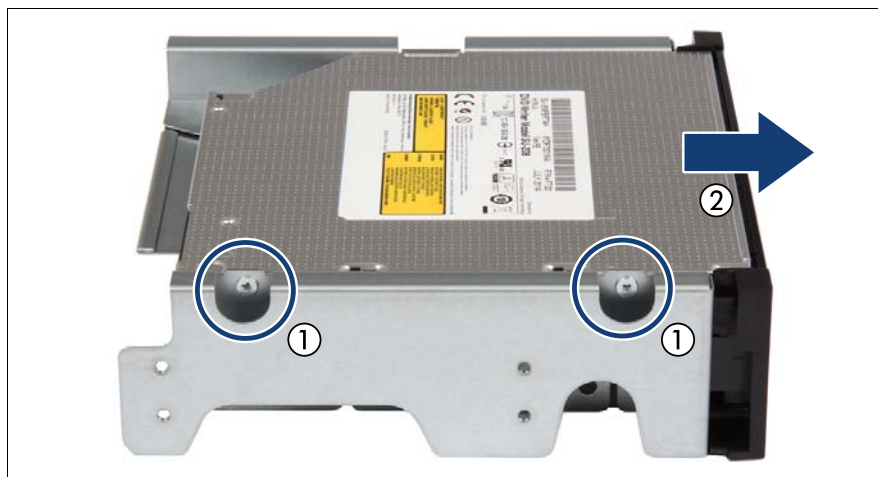


図 240: ウルトラスリム ODD のウルトラスリム ODD アダプタからの取り外し

- ▶ 2 本のネジを取り外します (1)。
- ▶ ウルトラスリム ODD を取り出します (2)。
- ▶ 取り外したウルトラスリム ODD を新しいドライブで交換しない場合は、次の手順に従います。
 - ▶ ウルトラスリム ODD ダミーカバーを挿入します (図 237 を参照)。

12.7.2.4 ウルトラスリム ODD アダプタの取り付け

- ▶ 327 ページの「アクセス可能なドライブの取り付け」の項に記載されているように、ウルトラスリム ODD アダプタを取り付けます。

12.7.2.5 終了手順

- ▶ 69 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 77 ページの「ラックへのサーバの取り付け」
- ▶ 80 ページの「主電源へのサーバの接続」
- ▶ 82 ページの「サーバの電源投入」

12.7.3 ウルトラスリム ODD の交換



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



平均作業時間：
10 分

工具： – プラス PH0 / (+) No. 0 ドライバ
– マイナスドライバ（アクセス可能なドライブの取り付け用ブラケットを曲げるため）

12.7.3.1 準備手順

- ▶ 51 ページの「故障したサーバの特定」
- ▶ 102 ページの「バックアップおよび光ディスクメディアの取り出し」
- ▶ 54 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 55 ページの「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
56 ページの「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 60 ページの「サーバを開ける」



フロントカバーの取り外しは、ウルトラスリム ODD を交換する際には不要です。

12.7.3.2 故障したウルトラスリム ODD の取り外し

- ▶ 330 ページの「アクセス可能なドライブの取り外し」の項に記載されているように、ウルトラスリム ODD アダプタを取り外します。
- ▶ 359 ページの「ウルトラスリム ODD のウルトラスリム ODD アダプタからの取り外し」の項に記載されているように、ウルトラスリム ODD を取り外します。

12.7.3.3 新しいウルトラスリム ODD の取り付け

- ▶ 357 ページの「ウルトラスリム ODD のウルトラスリム ODD アダプタへの取り付け」の項に記載されているように、ウルトラスリム ODD を取り付けます。

- ▶ [327 ページ](#) の「[アクセス可能なドライブの取り付け](#)」の項に記載されているように、ウルTRASリム ODD アダプタを取り付けます。

12.7.3.4 終了手順

- ▶ [69 ページ](#) の「[サーバを閉じる](#)」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[77 ページ](#) の「[ラックへのサーバの取り付け](#)」
- ▶ [80 ページ](#) の「[主電源へのサーバの接続](#)」
- ▶ [82 ページ](#) の「[サーバの電源投入](#)」

13 フロントパネルモジュール

安全上の注意事項



注意！

- フロントパネルモジュールをサーバに挿入する際は、接続されているケーブルをはさんだり、引っ張ったりしないように注意してください。
- 内部オプションの回路とはんだ付け部品は露出しているため、静電気の影響を受けやすくなっています。静電気に敏感なデバイス（ESD）を取り扱う際は、まず、接地された物（アース）に触れるなどして静電気の帯電を必ず放電してください。
- ボードやはんだ付け部品の電気回路に触れないでください。回路ボードを持つ際は、金属部分またはふちを持つようにしてください。
- 詳細は、[39 ページ](#)の「**注意事項**」の章を参照してください。

13.1 フロントパネルモジュールの交換



フィールド交換可能ユニット
(FRU)



ハードウェア : 10 分
ソフトウェア : 5 分

工具: プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ (ラックフロントカバーの取り外し用)

その他の手順: 工具不要

システム情報のバックアップ / 復元に関する注意事項



フロントパネルモジュールには、サーバ名やモデル、サーバ本体のタイプ、シリアル番号、製造データなどのシステム情報が格納されているシャーシ ID EPROM が装着されています。

システムボードの交換時にデフォルト以外の設定が損失しないように、重要なシステム構成データのバックアップコピーがシステムボード NVRAM からシャーシ ID EPROM に自動的に保存されます。システムボードを交換した後、バックアップデータはシャーシ ID ボードから新しいシステムボードに復元されます。



注意！

このような理由から、フロントパネルモジュールとシステムボードは同時に交換しないでください！同時に交換すると、システムボードへのシステム構成データの復元が失敗します。

13.1.1 準備手順

- ▶ [99 ページ](#) の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ [100 ページ](#) の「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ [51 ページ](#) の「故障したサーバの特定」
- ▶ [54 ページ](#) の「サーバのシャットダウン」
- ▶ [55 ページ](#) の「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[56 ページ](#) の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合（サーバを横向きにします）:

- ▶ 60 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り外します：
83 ページの「システムファンモジュールの取り扱い」

13.1.2 故障したフロントパネルモジュールの取り外し

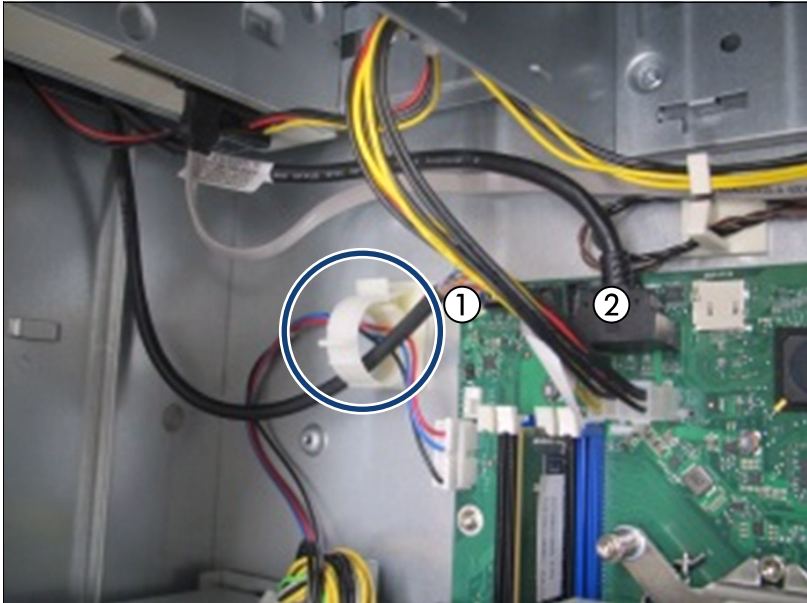


図 241: システムボードからのケーブルの取り外し

- ▶ システムボードからフロントパネルケーブルを取り外します (1)。
- ▶ システムボードからフロント USB ケーブルを取り外します (2)。
- ▶ フロントパネルケーブルをケーブルガイドから取り外します (丸で囲んだ部分)。

フロントパネルモジュールの取り外し

i フロントパネルをロック解除および固定する方法を、ラックサーバを例にして示します。タワーサーバの場合、アクセス可能なドライブのロックはドライブベイの上面にあります。詳細は、89 ページの「[アクセス可能なドライブのロックを開く](#)」の項を参照してください。

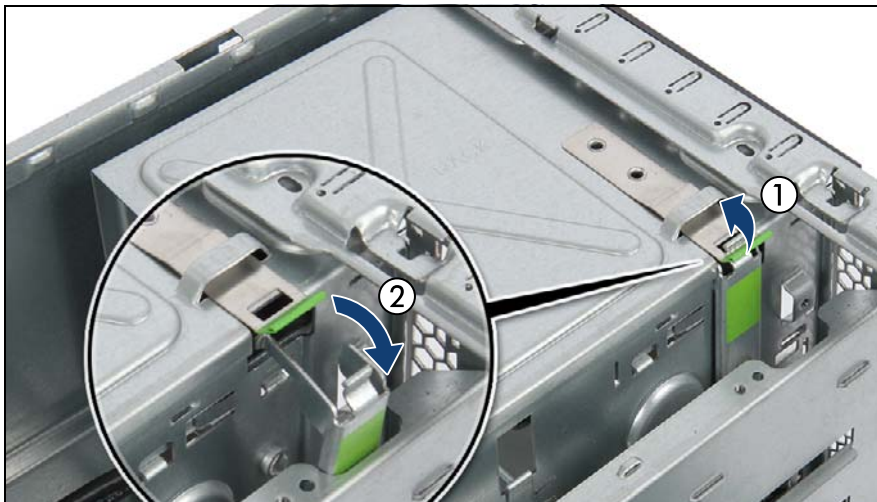


図 242: アクセス可能なドライブのロックを開く

i フロントパネルモジュールを交換するために、フロントカバー（タワーサーバ）/ラックフロントカバー（ラックサーバ）を取り外す必要はありません。図では、フロントカバー/ラックフロントカバーは、図示の目的のためのみに取り外されています。

- ▶ ロッキングラッチを引き上げて、アクセス可能なドライブのロックを外します（1）。
- ▶ アクセス可能なドライブのロックを開きます（2）。

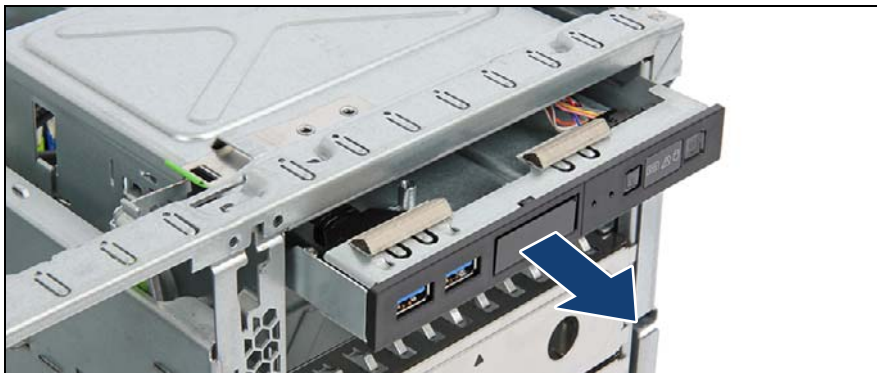


図 243: フロントパネルモジュールの取り外し

- ▶ フロントパネルモジュールを引き出します。

13.1.3 フロントパネルモジュールからのケーブルの取り外し

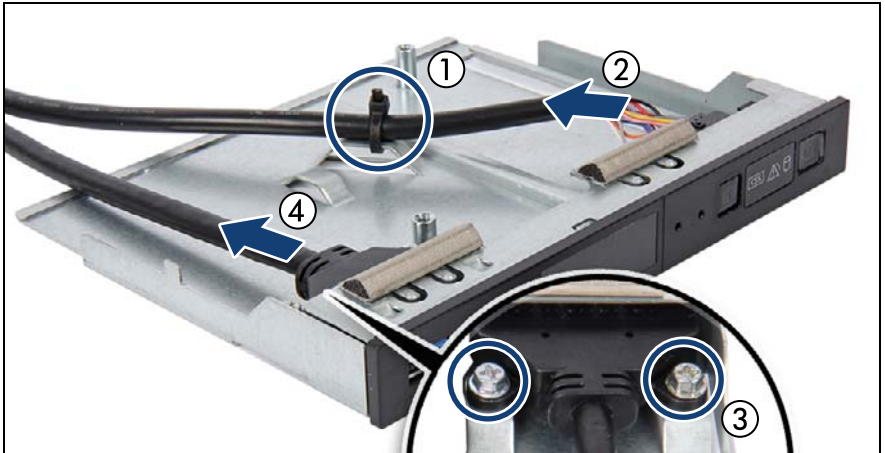


図 244: フロントパネルケーブルの取り外し

- ▶ リリースタイ（1）を開いて、フロントパネルケーブルを取り外します（2）。
- ▶ 2本のネジを外し（3）、前面 USB ケーブルを取り外します（4）。

13.1.4 フロントパネルモジュールへのケーブルの接続

- ▶ フロントパネルケーブルを新しいフロントパネルモジュールに接続します。（図 244 を参照）。
（フロントパネルケーブルはリリースタイで固定する必要はありません）
- ▶ フロント USB ケーブルを新しいフロントパネルモジュールに接続して、2本のネジで固定します（図 244 を参照）。

13.1.5 フロントパネルモジュールの取り付け

フロントパネルモジュールの取り付け



図 245: フロントパネルモジュールの取り付け

- ▶ フロントパネルモジュールを取り付けベイに挿入し、フロントパネルフレームにある前面のネジ穴がロッキングバーのセンタリングピンに合うまで、ゆっくりと押し込みます。



図 246: アクセス可能なドライブのロックを閉じる（ラックサーバ）

- ▶ 所定の位置にはまるまで、ロック（1）を押し込みます（2）（拡大された部分を参照）。

システムボードへのフロントパネルケーブルの接続

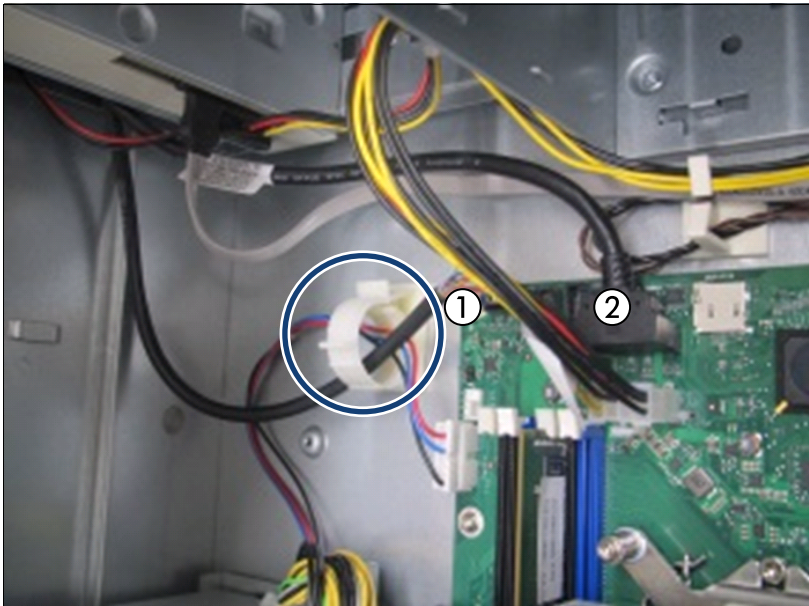


図 247: システムボードへのフロントパネルケーブルの接続

- ▶ フロントパネルケーブルをケーブルガイドへ通します（丸で囲んだ部分）。
- ▶ システムボードにフロントパネルケーブルを接続します (1)。
- ▶ システムボードに前面 USB ケーブルを接続します (2)。

13.1.6 終了手順

- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り付けます：
[83 ページの「システムファンモジュールの取り扱い」](#)
- ▶ [69 ページの「サーバを閉じる」](#)
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[79 ページの「ラックにサーバを格納する」](#)
- ▶ [80 ページの「主電源へのサーバの接続」](#)
- ▶ [82 ページの「サーバの電源投入」](#)
- ▶ [109 ページの「システム情報のバックアップ / 復元の確認」](#)

- ▶ フロントパネルボードに取り付けられていシャーシ ID EPROM に、サーバのシステム情報を格納します。*ChassisId_Prom* Tool の取得および使用方法の詳細は、[128 ページ](#) の「[シャーシ ID Prom Tool の使用](#)」の項を参照してください。
- ▶ [119 ページ](#) の「[SVOM Boot Watchdog 機能の有効化](#)」
- ▶ [125 ページ](#) の「[BitLocker 機能の再開](#)」

14 システムボードとコンポーネント

安全上の注意事項



注意！

- サーバ内のデバイスおよびコンポーネントは、シャットダウン後もしばらくは高温の状態が続きます。サーバのシャットダウン後、高温になっているコンポーネントが冷却されるのを待ってから内部オプションの取り付けや取り外しを行ってください。
- 内部オプションの回路とはんだ付け部品は露出しているため、静電気の影響を受けやすくなっています。静電気に敏感なデバイス（ESD）を取り扱う際は、まず、接地された物（アース）に触れるなどして静電気の帯電を必ず放電してください。
- ボードやはんだ付け部品の電気回路に触れないでください。回路ボードを持つ際は、金属部分またはふちを持つようにしてください。
- 詳細は、[39 ページ](#)の「**注意事項**」の章を参照してください。

14.1 基本情報

この項では、システムボードと以下のコンポーネントについて説明します。

- CMOS バッテリー

CMOS メモリ（揮発性 BIOS メモリ）およびリアルタイムクロックは、コイン型リチウム電池（CMOS バッテリー）で動きます。この電池の寿命は最大 10 年間で、周辺温度および使用状況によって異なります。

CMOS バッテリーが枯渇したり、最小電圧レベルを下回った場合は、直ちに交換する必要があります。

- UFM（USB Flash Module）

サーバには、USB Flash Module（UFM）を搭載できます。

- TPM（Trusted Platform Module）

システムボードには、オプションで TPM（Trusted Platform Module）が搭載されます。このモジュールは、他メーカーのプログラムによるキー情報の保存を可能にします（Windows Bitlocker Drive Encryption を使用したドライブの暗号化など）。

- SATA DOM

Innodisk の SATADOM (Serial ATA Disk on Module) を使用すると内部 SSD が提供されます。この SSD は、データストレージデバイスのブートデバイスとして設定できます。

- iRMC microSD カード

iRMC の embedded Lifecycle Management (eLCM) 機能を使用するには、iRMC microSD カードが必要です。

14.2 CMOS バッテリー

14.2.1 CMOS バッテリーの交換



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



ハードウェア : 5 分

工具: 工具不要 (推奨: ようじを使用)

安全上の注意事項



注意!

- CMOS バッテリーは、まったく同じバッテリーか、メーカーが推奨する型のバッテリーと交換する必要があります。
- リチウムバッテリーは、子どもの手の届かない場所に置いてください。
- バッテリーはゴミ箱に捨てないでくださいリチウムバッテリーは、特別廃棄物についての自治体の規制に従って、廃棄する必要があります。
- 安全情報の詳細は、サーバのオペレーティングマニュアルの「環境保護」の項を参照してください。
- CMOS バッテリーは、必ずプラス極を上に向けて挿入してください。

14.2.1.1 準備手順

- ▶ 51 ページの「故障したサーバの特定」
- ▶ 54 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 55 ページの「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
56 ページの「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合（サーバを横向きにします）：
- ▶ 60 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り外します：
83 ページの「システムファンモジュールの取り扱い」

14.2.1.2 故障した CMOS バッテリーの交換

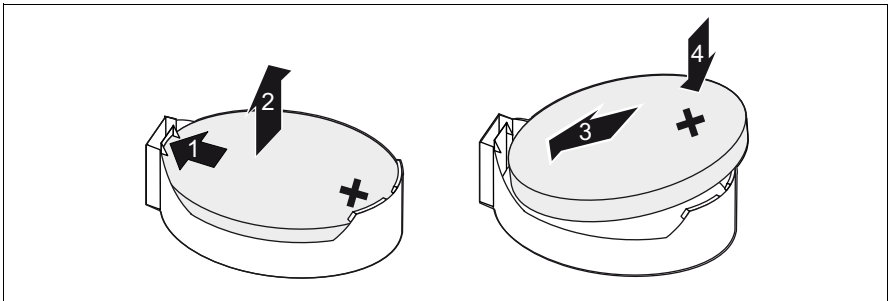


図 248: CMOS バッテリーの交換

- ▶ ロックしているバネを矢印（1）の方向に押すと、CMOS バッテリーがソケットの外に飛び出します。
- ▶ CMOS バッテリーを取り外します（2）。



注意！

ドライバなどの先の尖った物は、滑らせる場合にシステムボードのコンポーネントを破損することがあります。

工具を使用しないと CMOS バッテリーを取り出せない場合は、ようじをお使いください。

- ▶ 同じ型の CMOS バッテリーをソケットに挿入します（3 と 4）。

14.2.1.3 終了手順

- ▶ CMOS バッテリーは、特別廃棄物についての自治体の規制に従って、廃棄する必要があります。
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り付けます：
[83 ページ の「システムファンモジュールの取り扱い」](#)
- ▶ [69 ページ の「サーバを閉じる」](#)
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[79 ページ の「ラックにサーバを格納する」](#)
- ▶ [80 ページ の「主電源へのサーバの接続」](#)
- ▶ [82 ページ の「サーバの電源投入」](#)
- ▶ [109 ページ の「システム情報のバックアップ / 復元の確認」](#)
- ▶ [121 ページ の「システム時刻設定の確認」](#)

14.3 USB Flash Module (UFM)

14.3.1 UFM の取り付け



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



平均作業時間：
10 分

工具： 工具不要

14.3.1.1 準備手順

- ▶ [99 ページ の「BitLocker 機能の中断」](#)
- ▶ [100 ページ の「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」](#)
- ▶ [51 ページ の「故障したサーバの特定」](#)
- ▶ [54 ページ の「サーバのシャットダウン」](#)
- ▶ [55 ページ の「主電源からサーバの取り外し」](#)
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は

56 ページの「サーバをラックから引き出す」

- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ 60 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り外します：
83 ページの「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ 該当する場合は、の項に記載されるようにエキスパンダボードを取り外します。
252 ページの「SAS エキスパンダボードの取り外し」

14.3.1.2 UFM の取り付け

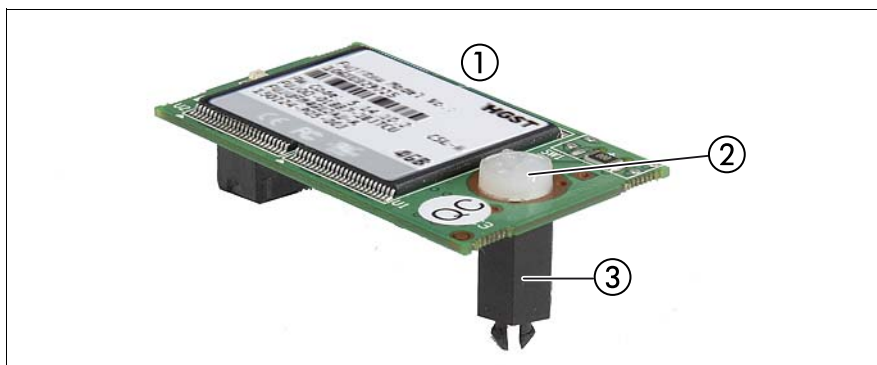


図 249: UFM キット

事前に組み立てられている UFM フラッシュモジュールキット：

1	USB Flash Module (UFM)	3	UFM スペーサー
2	UFM 用ナイロン製ネジ		

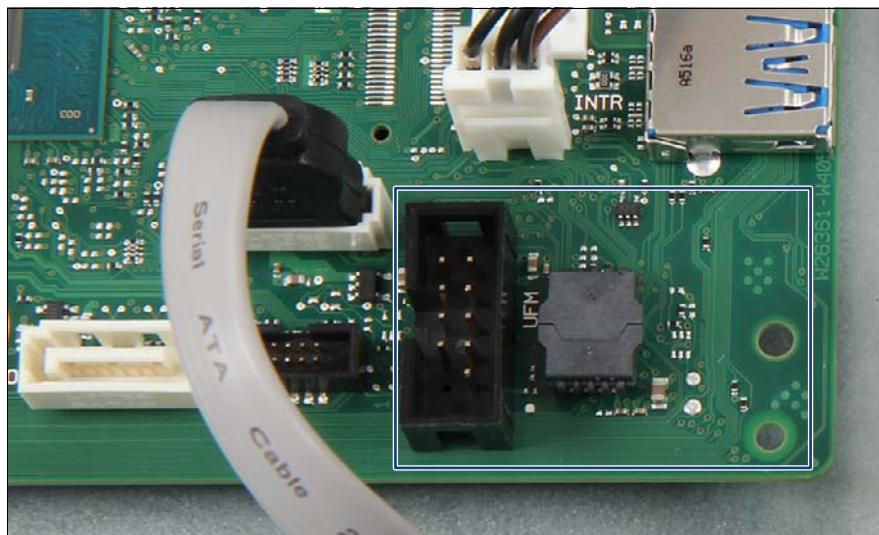


図 250: UFM の搭載位置

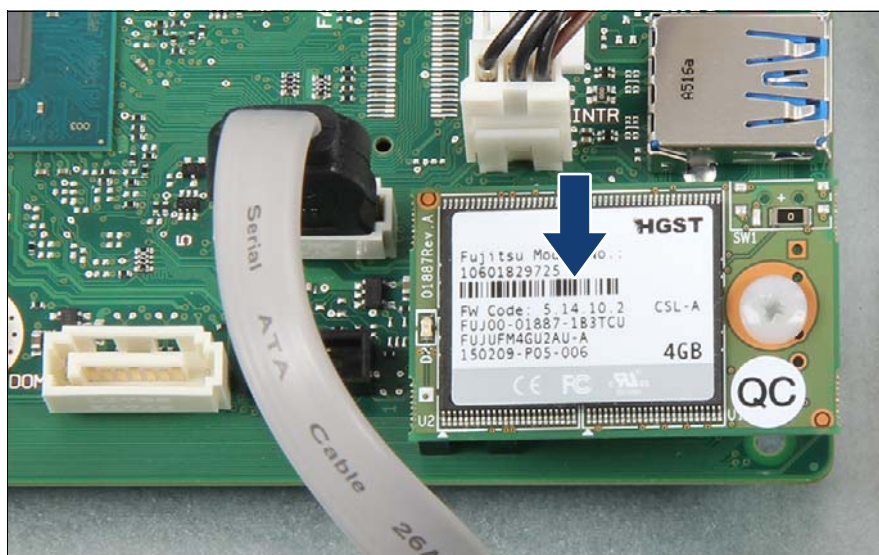


図 251: UFM の取り付け

- ▶ システムボードに UFM を取り付けます。UFM スペーサーが、システムボード上の穴にカチッとハマる必要があります。

14.3.1.3 終了手順

- ▶ 該当する場合は、[245 ページ](#)の「SAS エクスパンダボードの取り付け」の項に記載されているようにエクスパンダボードを取り付けます。
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り付けます：[83 ページ](#)の「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ [69 ページ](#)の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は[79 ページ](#)の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ [80 ページ](#)の「主電源へのサーバの接続」
- ▶ [82 ページ](#)の「サーバの電源投入」
- ▶ [119 ページ](#)の「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」
- ▶ [125 ページ](#)の「BitLocker 機能の再開」

14.3.1.4 ソフトウェアの構成

ESXi 構成を設定するには、VMware ESXi Recovery Tools CD が必要です。次の [https](https://globalpartners.ts.fujitsu.com/com/service/ps/Servers/PRIMERGY/Pages/default.aspx) アドレスの Fujitsu のサービスパートナーポータルから CD の ISO イメージをダウンロードできます。

<https://globalpartners.ts.fujitsu.com/com/service/ps/Servers/PRIMERGY/Pages/default.aspx>. (世界市場の場合)

<http://support.ts.fujitsu.com/Download/> (日本市場)

- ▶ サインインしてご利用の PRIMERGY サーバを選択します。
- ▶ 「Software & Tools Documentation」 というカテゴリを選択します。
- ▶ 「Tools」 のリストから必要な ESXi Recovery CD ISO イメージをダウンロードします。
- ▶ 解凍してイメージを CD に焼きます。
- ▶ 他の USB ストレージデバイスが、UFM の他にサーバに接続されていないことを確認します。
- ▶ Recovery Tools CD を CD/DVD ドライブに挿入してサーバをリブートします。
サーバが Recovery Tools CD からブートします。
- ▶ 画面の指示に従ってインストールを開始します。

フラッシュプロセスが完了すると、システムをリブートするように指示されます。

14.3.2 UFM の取り外し



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



平均作業時間：
5 分

工具：	– プラス PH1 / (+) No. 1 ドライバ
	– ロングノーズプライヤー
	– コンビネーションプライヤー

14.3.2.1 準備手順

- ▶ [99 ページ](#) の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ [51 ページ](#) の「故障したサーバの特定」
- ▶ [54 ページ](#) の「サーバのシャットダウン」
- ▶ [55 ページ](#) の「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[56 ページ](#) の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ [60 ページ](#) の「サーバを開ける」
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り外します：
[83 ページ](#) の「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ 該当する場合は、の項に記載されるようにエキスパンダボードを取り外します。[252 ページ](#) の「SAS エキスパンダボードの取り外し」

14.3.2.2 UFM の取り外し



図 252: UFM の取り外し

- ▶ ナイロン製ネジを取り外します (1)。
- ▶ UFM を外し、取り外します (2)。
UFM スペーサーはシステムボードに残ります。

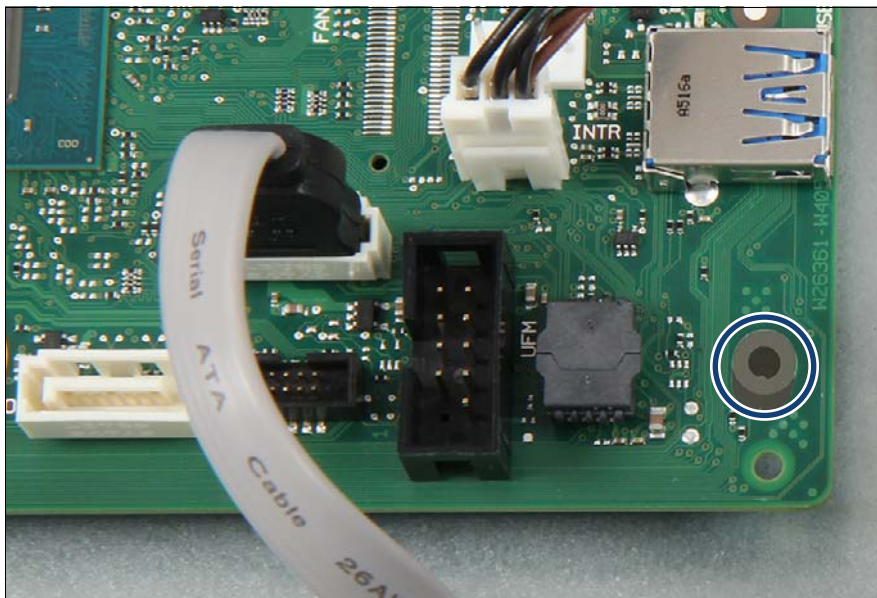


図 253: UFM スペースの取り外し



注意！

UFM には、ユーザ情報（IP アドレス、ライセンスなど）が含まれます。UFM を交換したら、故障した UFM をユーザに返却し、破棄するように伝えます。ユーザから故障した UFM の破棄を依頼された場合、次の手順に従って UFM を割って破棄してください。



図 254: 工具



図 255: 割り方

- ▶ ロングノーズプライヤーとコンビネーションプライヤーを使用して、写真のように UFM を半分に割ります。

14.3.2.3 終了手順

- ▶ 該当する場合は、[245 ページ](#)の「SAS エクスパンダボードの取り付け」の項に記載されているようにエクスパンダボードを取り付けます。
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り付けます：[83 ページ](#)の「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ [69 ページ](#)の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は [79 ページ](#)の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ [80 ページ](#)の「主電源へのサーバの接続」
- ▶ [82 ページ](#)の「サーバの電源投入」
- ▶ [125 ページ](#)の「BitLocker 機能の再開」

14.3.3 UFM の交換



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



平均作業時間：
15 分

工具： - プラス PH1 / (+) No. 1 ドライバ
- ロングノーズプライヤー
- コンビネーションプライヤー

14.3.3.1 準備手順

- ▶ [99 ページ](#) の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ [100 ページ](#) の「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ [51 ページ](#) の「故障したサーバの特定」
- ▶ [54 ページ](#) の「サーバのシャットダウン」
- ▶ [55 ページ](#) の「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[56 ページ](#) の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ [60 ページ](#) の「サーバを開ける」
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り外します：
[83 ページ](#) の「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ 該当する場合は、の項に記載されるようにエキスパンダボードを取り外します。[252 ページ](#) の「SAS エキスパンダボードの取り外し」

14.3.3.2 故障した UFM の取り外し

- ▶ [378 ページ](#) の「UFM の取り外し」の項に記載されているように、システムボードから UFM を取り外します。
- ▶ UFM スペーサーはシステムボードに残ります。

14.3.3.3 新しい UFM の取り付け

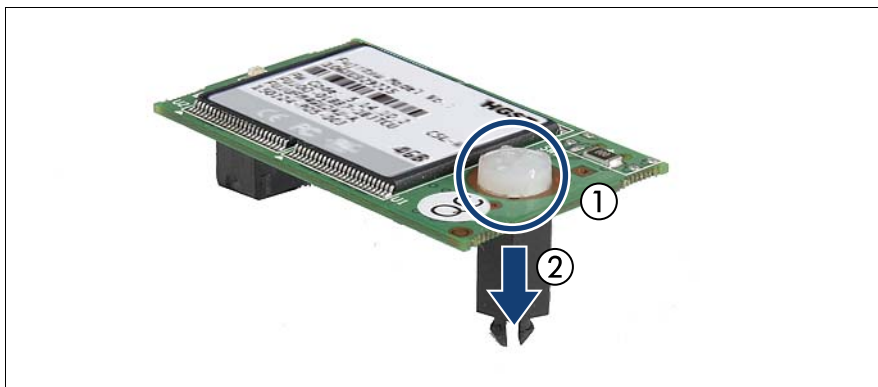


図 256: UFM スペーサーの取り外し

- ▶ 新しい UFM からナイロン製ネジを取り外します (1)。
- ▶ UFM スペーサーを取り外します (2)。



図 257: UFM の取り付け

- ▶ UFM をシステムボードと残っている UFM スペーサーに接続します (1)。
- ▶ UFM をナイロン製ネジで UFM スペーサーに固定します (2)。

14.3.3.4 終了手順

- ▶ 該当する場合は、[245 ページの「SAS エクスパンダボードの取り付け」](#)の項に記載されているようにエクスパンダボードを取り付けます。
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り付けます：
[83 ページの「システムファンモジュールの取り扱い」](#)
- ▶ [69 ページの「サーバを閉じる」](#)
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[79 ページの「ラックにサーバを格納する」](#)
- ▶ [80 ページの「主電源へのサーバの接続」](#)
- ▶ [82 ページの「サーバの電源投入」](#)
- ▶ [119 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」](#)
- ▶ [125 ページの「BitLocker 機能の再開」](#)

14.3.3.5 ソフトウェアの構成

ESXi 構成を設定するには、VMware ESXi Recovery Tools CD が必要です。次の [https アドレスの Fujitsu のサービスパートナーポータル](https://globalpartners.ts.fujitsu.com/com/service/ps/Servers/PRIMERGY/Pages/default.aspx)から CD の ISO イメージをダウンロードできます。

[https://globalpartners.ts.fujitsu.com/com/service/ps/Servers/PRIMERGY/](https://globalpartners.ts.fujitsu.com/com/service/ps/Servers/PRIMERGY/Pages/default.aspx)

[Pages/default.aspx](https://globalpartners.ts.fujitsu.com/com/service/ps/Servers/PRIMERGY/Pages/default.aspx). (世界市場の場合)

<http://support.ts.fujitsu.com/Download/> (日本市場)

- ▶ サインインしてご利用の PRIMERGY サーバを選択します。
- ▶ 「*Software & Tools Documentation*」というカテゴリを選択します。
- ▶ 「*Tools*」のリストから必要な ESXi Recovery CD ISO イメージをダウンロードします。
- ▶ 解凍してイメージを CD に焼きます。
- ▶ 他の USB ストレージデバイスが、UFM の他にサーバに接続されていないことを確認します。
- ▶ Recovery Tools CD を CD/DVD ドライブに挿入してサーバをリブートします。
サーバが Recovery Tools CD からブートします。
- ▶ 画面の指示に従ってインストールを開始します。

フラッシュプロセスが完了すると、システムをリブートするように指示されます。

14.4 Trusted Platform Module (TPM)

14.4.1 TPM の取り付け



フィールド交換可能ユニット
(FRU)



ハードウェア : 5 分
ソフトウェア : 5 分

工具：

- ビットドライバ
- TPM ビットインサート (*)

(*) 日本市場の場合：

- TPM モジュール取付工具 (S26361-F3552-L909)

14.4.1.1 準備手順

- ▶ [99 ページ](#) の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ [51 ページ](#) の「故障したサーバの特定」
- ▶ [54 ページ](#) の「サーバのシャットダウン」
- ▶ [55 ページ](#) の「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[56 ページ](#) の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ [60 ページ](#) の「サーバを開ける」
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り外します：
[83 ページ](#) の「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ 該当する場合は、の項に記載されるようにエキスパンダボードを取り外します。[252 ページ](#) の「SAS エキスパンダボードの取り外し」

14.4.1.2 TPM の取り付け

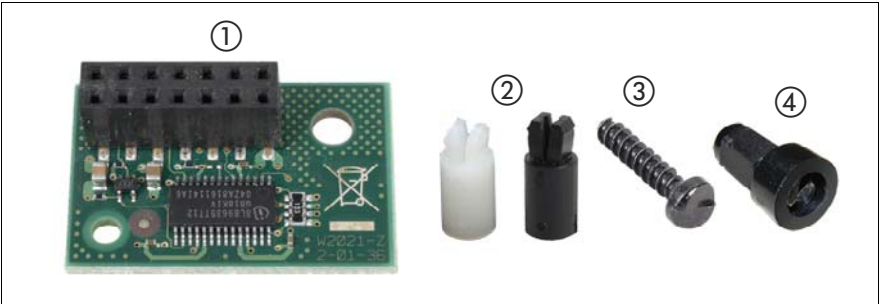


図 258: TPM 取り付けキット

1	TPM (Trusted Platform Module)	3	TPM 専用ネジ
2	TPM スペースー <div><div>i</div><div>黒色の TPM スペースーはこのサーバには使用されません。</div></div>	4	TPM 用特殊ネジで使用する TPM ビットインサート

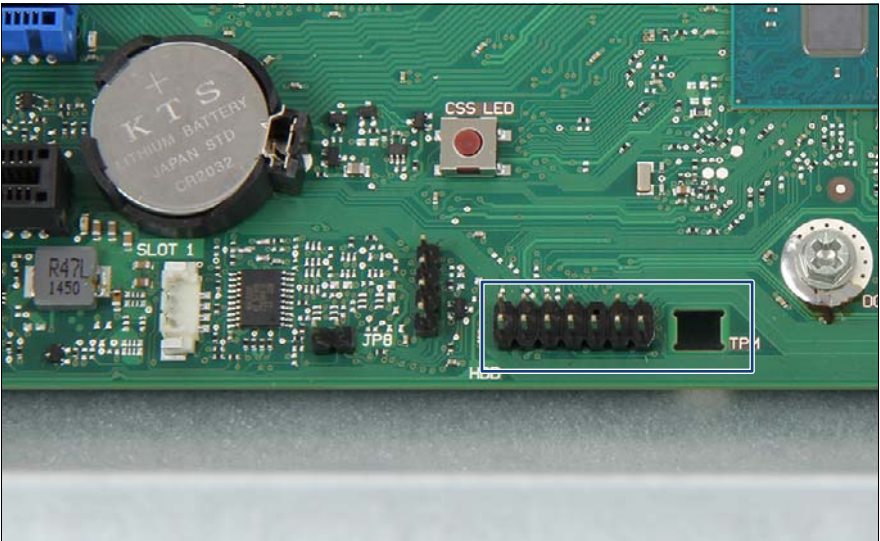


図 259: TPM の取り付け位置

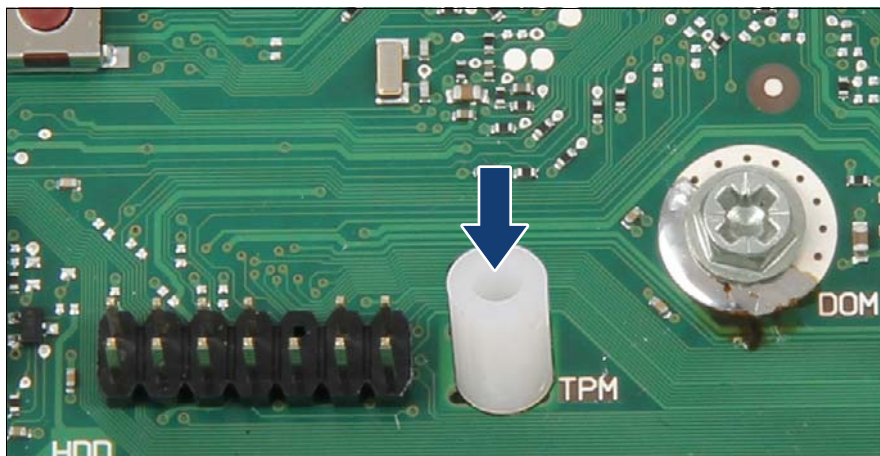


図 260: TPM スペースの取り付け

- ▶ TPM スペースをシステムボードの穴にはめ込みます。



図 261: TPM ビットインサート

- ▶ TPM ビットインサートまたは TPM モジュール取付工具（日本市場向け）にビットドライバを取り付けます。

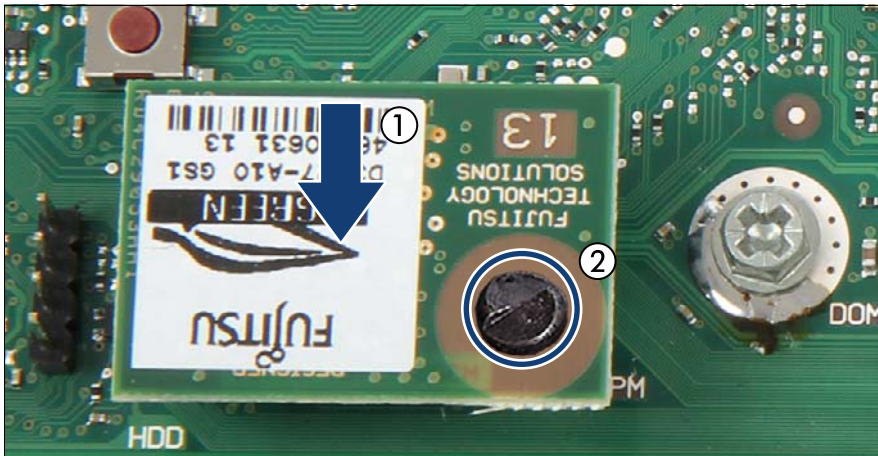


図 262: TPM の固定

- ▶ TPM をシステムボードに接続します (1)。
- ▶ TPM ビットインサートまたは TPM モジュール取付工具 (日本市場向け) を使用して、TPM 用の特殊なネジで TPM を固定します (2)。



注意！

ネジをきつく締めすぎないでください。ネジ頭が TPM に軽く触れたら締めるのをやめます (トルク値 0.6 Nm)。

14.4.1.3 終了手順

- ▶ 該当する場合は、[245 ページ](#) の「SAS エクスパンダボードの取り付け」の項に記載されているようにエクスパンダボードを取り付けます。
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り付けます：
[83 ページ](#) の「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ [69 ページ](#) の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[79 ページ](#) の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ [80 ページ](#) の「主電源へのサーバの接続」
- ▶ [82 ページ](#) の「サーバの電源投入」
- ▶ TPM をシステムボード BIOS で有効にします。次の手順に従います。
 - ▶ サーバの電源を入れるか、再起動します。

- ▶ スタートアップ画面が表示されたらすぐに **[F2]** ファンクションキーを押して、BIOS へ移動します。
- ▶ 「Advanced」メニューを選択します。
- ▶ 「Trusted Computing」サブメニューを選択します。
- ▶ 「TPM Support」と「TPM State」の設定を「Enabled」に設定します。
- ▶ 「Pending TPM operation」で目的の TPM の動作モードを選択します。
- ▶ 変更を保存して BIOS を終了します。



BIOS にアクセスして設定を変更する方法については、対応する BIOS セットアップユーティリティリファレンスマニュアルを参照してください。

- ▶ [125 ページ](#) の「BitLocker 機能の再開」

14.4.2 TPM の取り外し



フィールド交換可能ユニット
(FRU)



ハードウェア : 30 分

工具： システムボードの取り外し：

- プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

TPM の取り外し：

- ビットドライバ
- フラットノーズプライヤー
- TPM ビットインサート^(*)

^(*) 日本市場の場合：

- TPM モジュール取付工具 (S26361-F3552-L909)



注意！

TPM のバックアップコピーを提供するように、お客様に依頼してください。セキュリティ上の理由から、TPM はお客様によって復元 / 再保存する必要があります。新しいシステムボードを取り付けたら、TPM を有効にする必要があります。TPM データをクリアすることはできません。

お客様のもとにバックアップコピーがない場合は、TPM ボードを交換すると、すべてのデータが失われることを知らせてください。

14.4.2.1 準備手順

- ▶ TPM を取り外す前に、コンピュータの BitLocker 保護を解除し、ボリュームを復号化する必要があります。

システム管理者に連絡して、コントロールパネルまたは Windows エクスプローラーから BitLocker セットアップウィザードを使用して BitLocker 保護を無効にします。

- ▶ 「スタート」ボタンをクリックして、「コントロールパネル」から「セキュリティ」を選択し、「Bitlocker ドライブ暗号化」をクリックして、Bitlocker ドライブ暗号化を開きます。



管理者権限が必要です。管理者パスワードまたは確認を求められた場合は、パスワードを入力するか、確認します。

- ▶ BitLocker を無効にしてボリュームを復号化するには、「Turn Off BitLocker」をクリックし、次に「Decrypt the volume」をクリックします。



ボリュームの復号化には時間がかかることがあります。ボリュームを復号化すると、コンピュータに保存されたすべての情報が復号化されます。

BitLocker ドライブ暗号化を無効にする方法については、Microsoft のサポート技術情報を参照してください。

Fujitsu のサービスパートナーは、Fujitsu Extranet Web ページで詳細情報をご確認ください（日本語版もあります）。

- ▶ システムボード BIOS で TPM を無効にします。次の手順に従います。
 - ▶ サーバの電源を入れるか、再起動します。
 - ▶ スタートアップ画面が表示されたらすぐに **[F2]** ファンクションキーを押して、BIOS へ移動します。
 - ▶ 「Advanced」メニューを選択します。
 - ▶ 「Trusted Computing」サブメニューを選択します。
 - ▶ 「TPM Support」と「TPM State」の設定を「Disabled」に設定します。
 - ▶ 変更を保存して BIOS を終了します。



BIOS にアクセスして設定を変更する方法については、対応する BIOS セットアップユーティリティリファレンスマニュアルを参照してください。

- ▶ 51 ページの「故障したサーバの特定」
- ▶ 54 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 55 ページの「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
56 ページの「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ 60 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り外します：
83 ページの「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ 該当する場合は、の項に記載されるようにエキスパンダボードを取り外します。
252 ページの「SAS エキスパンダボードの取り外し」

14.4.2.2 TPM ボードの取り外し

- ▶ 411 ページの「故障したシステムボードの取り外し」の項に記載されているように、システムボードを取り外します。
- ▶ 帯電を防止できる柔らかい場所にシステムボードを、コンポーネント側を下向きにして置きます。

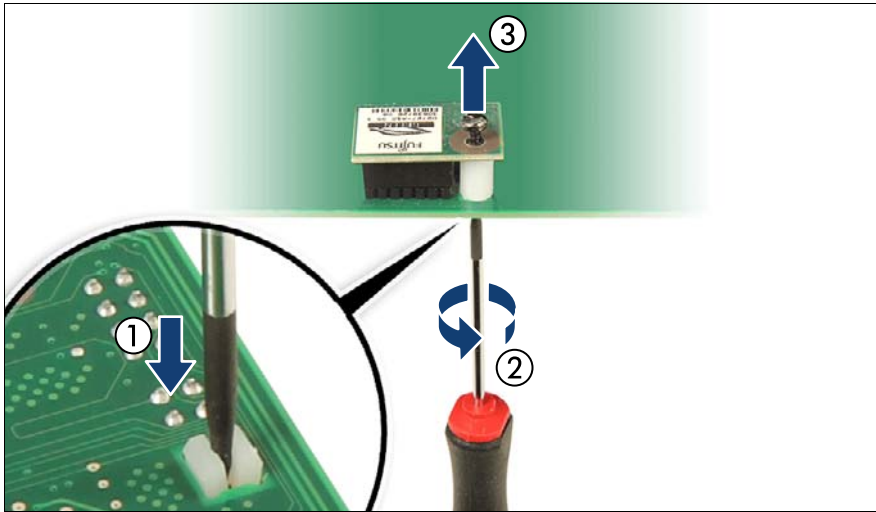


図 263: TPM 用ネジの取り外し

- ▶ TPM 用ネジの溝入りの下端を探します (1)。
- ▶ 細いマイナスドライバー（時計屋用のドライバーなど）または TPM 用精密マイナスドライバ（日本市場向け）を使用して TPM 用ネジを慎重に緩めます (2)。



注意！

取り外しには、ネジを必ず**時計回りで**回してください。

ネジが回り始めるまで、ゆっくりと慎重にネジへの圧力を上げます。ネジを緩めるときの力はできるだけ小さくしてください。

逆に回した場合、金属の細い縦溝が破損し、ネジを外すことができません。

- ▶ TPM 用ネジを取り外します (3)。
- ▶ システムボードの上面にある、TPM を取り外します。

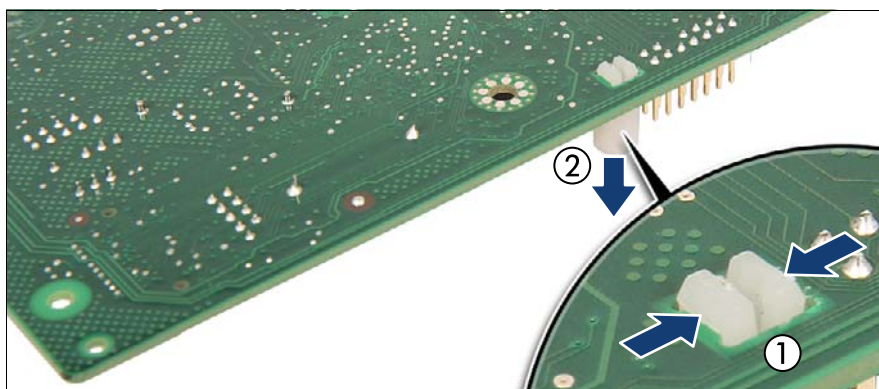


図 264: TPM スペースの取り外し

- ▶ フラットノーズプライヤーを使用して、TPM スペースのフックを両側から押し（1 の拡大された部分を参照）、システムボードから取り外します（2）。



TPM を交換する場合、TPM スペースをシステムボードに残したままにできます。

14.4.2.3 終了手順

- ▶ [414 ページ](#) の「新しいシステムボードの取り付け」
- ▶ 該当する場合は、[245 ページ](#) の「SAS エクスパンダボードの取り付け」の項に記載されているようにエクスパンダボードを取り付けます。
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り付けます：
[83 ページ](#) の「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ [69 ページ](#) の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[79 ページ](#) の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ [80 ページ](#) の「主電源へのサーバの接続」
- ▶ [82 ページ](#) の「サーバの電源投入」

14.4.3 TPM の交換



フィールド交換可能ユニット
(FRU)



ハードウェア : 40 分

工具： システムボードの取り外し：

- プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

TPM の交換：

- ビットドライバ
- TPM ビットインサート (*)
- 細いマイナスドライバー (2 x 0.4 mm) (*)
- フラットノーズプライヤー

(*) 日本市場の場合：

- TPM 用精密マイナスドライバー (CWZ8291A)
- TPM モジュール取付工具 (S26361-F3552-L909)



注意！

TPM のバックアップコピーを提供するように、お客様に依頼してください。セキュリティ上の理由から、TPM はお客様によって復元 / 再保存する必要があります。新しいシステムボードを取り付けたら、TPM を有効にする必要があります。TPM データをクリアすることはできません。

お客様のもとにバックアップコピーがない場合は、TPM ボードを交換すると、すべてのデータが失われることを知らせてください。

14.4.3.1 準備手順

- ▶ [99 ページ](#) の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ [51 ページ](#) の「故障したサーバの特定」
- ▶ [54 ページ](#) の「サーバのシャットダウン」
- ▶ [55 ページ](#) の「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[56 ページ](#) の「サーバをラックから引き出す」

- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ [60 ページの「サーバを開ける」](#)
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り外します：
[83 ページの「システムファンモジュールの取り扱い」](#)
- ▶ 該当する場合は、の項に記載されるようにエキスパンダボードを取り外します。[252 ページの「SAS エキスパンダボードの取り外し」](#)

14.4.3.2 故障した TPM の取り外し

- ▶ [389 ページの「TPM の取り外し」](#)の項に記載されているように、TPM を取り外します。
- ▶ 故障している TPM を取り外す場合は、システムボードに TPM スペーサーを残します。

14.4.3.3 新しい TPM の取り付け

- ▶ TPM スペーサーは、システムボード上にすでにあります。
- ▶ [385 ページの「TPM の取り付け」](#)の項に記載されているように、TPM を取りつけます。

14.4.3.4 終了手順

- ▶ 該当する場合は、[245 ページの「SAS エキスパンダボードの取り付け」](#)の項に記載されているようにエキスパンダボードを取り付けます。
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り付けます：
[83 ページの「システムファンモジュールの取り扱い」](#)
- ▶ [69 ページの「サーバを閉じる」](#)
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[79 ページの「ラックにサーバを格納する」](#)
- ▶ [80 ページの「主電源へのサーバの接続」](#)
- ▶ [82 ページの「サーバの電源投入」](#)
- ▶ [125 ページの「BitLocker 機能の再開」](#)

14.5 SATA DOM



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



平均作業時間：
5 分

工具： 工具不要

14.5.1 SATA DOM の取り付け

14.5.1.1 準備手順

- ▶ [54 ページ](#) の「サーバのシャットダウン」
- ▶ [55 ページ](#) の「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[56 ページ](#) の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ [60 ページ](#) の「サーバを開ける」
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り外します：
[83 ページ](#) の「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ 該当する場合は、の項に記載されるようにエキスパンダボードを取り外します。[252 ページ](#) の「SAS エキスパンダボードの取り外し」

14.5.1.2 SATA DOM の取り付け



図 265: SATA DOM

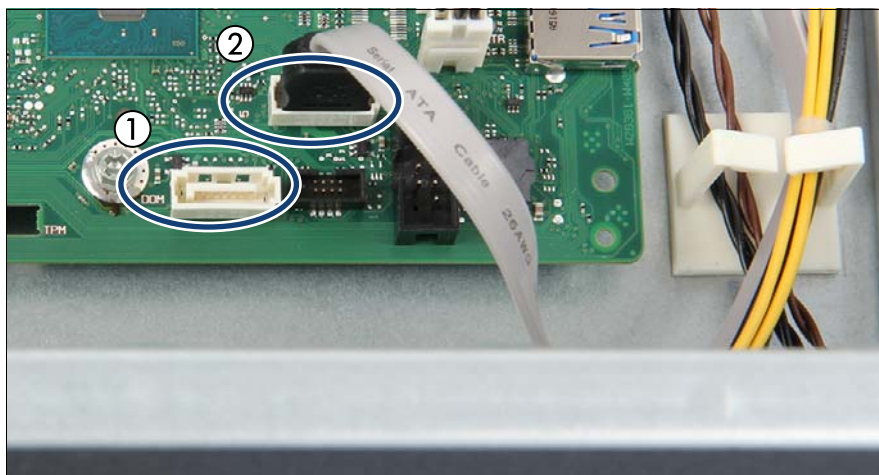


図 266: SATA DOM の位置

1	1 つ目の SATA DOM の位置
2	2 つ目の SATA DOM の位置 (UFM が接続されていない場合のみ使用可能)

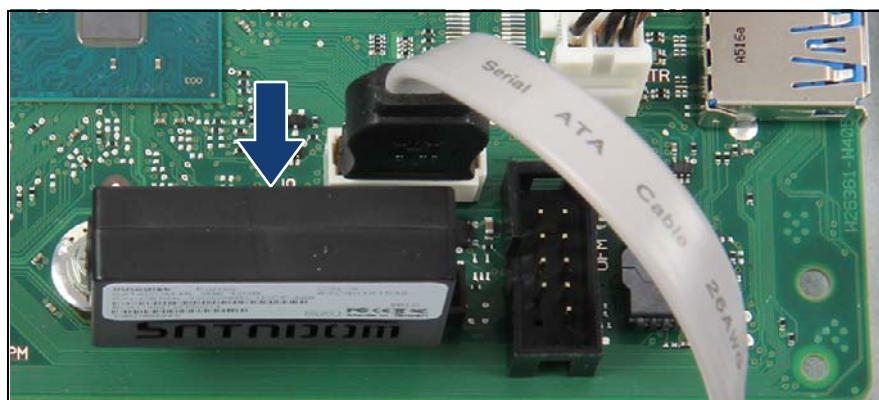


図 267: SATA DOM の取り付け

- ▶ SATA DOM を、システムボードのコネクタ DOM に接続します。

14.5.1.3 終了手順

- ▶ 該当する場合は、[245 ページ](#)の「SAS エクスパンダボードの取り付け」の項に記載されているようにエクスパンダボードを取り付けます。
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り付けます：[83 ページ](#)の「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ [69 ページ](#)の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は[79 ページ](#)の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ [80 ページ](#)の「主電源へのサーバの接続」
- ▶ [82 ページ](#)の「サーバの電源投入」
- ▶ [109 ページ](#)の「システム情報のバックアップ / 復元の確認」

14.5.2 SATA DOM の取り外し



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



平均作業時間：
5 分

工具： 工具不要

14.5.2.1 準備手順

- ▶ 54 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 55 ページの「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
56 ページの「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ 60 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り外します：
83 ページの「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ 該当する場合は、の項に記載されるようにエキスパンダボードを取り外します。
252 ページの「SAS エキスパンダボードの取り外し」

14.5.2.2 SATA DOM の取り外し

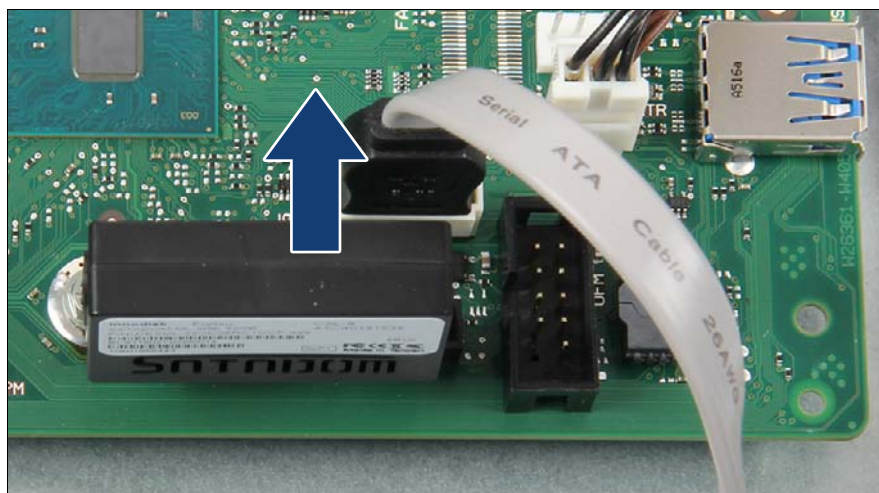


図 268: SATA DOM の取り外し

- ▶ SATA DOM をコネクタから取り外します。

14.5.2.3 終了手順

- ▶ 該当する場合は、[245 ページ](#)の「SAS エキスパンダボードの取り付け」の項に記載されているようにエキスパンダボードを取り付けます。
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り付けます：
[83 ページ](#)の「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ [69 ページ](#)の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[79 ページ](#)の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ [80 ページ](#)の「主電源へのサーバの接続」
- ▶ [82 ページ](#)の「サーバの電源投入」
- ▶ [109 ページ](#)の「システム情報のバックアップ / 復元の確認」

14.5.3 SATA DOM ケーブル の交換



ユニットのアップグレードお
よび修理
(URU)



平均作業時間：
5 分

工具： 工具不要

14.5.3.1 準備手順

- ▶ 51 ページ の「故障したサーバの特定」
- ▶ 54 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 55 ページ の「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
56 ページ の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ 60 ページ の「サーバを開ける」
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り外します：
83 ページ の「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ 該当する場合は、の項に記載されるようにエキスパンダボードを取り外し
ます。252 ページ の「SAS エキスパンダボードの取り外し」

14.5.3.2 SATA DOM ケーブル の交換

- ▶ 400 ページ の「SATA DOM の取り外し」
- ▶ 397 ページ の「SATA DOM の取り付け」

14.5.3.3 終了手順

- ▶ 該当する場合は、245 ページ の「SAS エキスパンダボードの取り付け」
の項に記載されているようにエキスパンダボードを取り付けます。
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り付けます：
83 ページ の「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ 69 ページ の「サーバを閉じる」

- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[79 ページ](#) の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ [80 ページ](#) の「主電源へのサーバの接続」
- ▶ [82 ページ](#) の「サーバの電源投入」
- ▶ [109 ページ](#) の「システム情報のバックアップ / 復元の確認」

14.6 iRMC microSD カード



iRMC の embedded Lifecycle Management (eLCM) 機能を使用するには、iRMC microSD カードが必要です。iRMC microSD カードと共に必ず購入され、iRMC Web フロントエンドでアクティブ化された有効な eLCM ライセンスキーが必要です。

詳細は、『ServerView embedded Lifecycle Management (eLCM)』ユーザガイドを参照してください。

14.6.1 iRMC microSD カードの取り付け



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



平均作業時間：
5 分

工具： 工具不要

14.6.1.1 準備手順

- ▶ [54 ページ](#) の「サーバのシャットダウン」
- ▶ [55 ページ](#) の「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[56 ページ](#) の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ [60 ページ](#) の「サーバを開ける」
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り外します：
[83 ページ](#) の「システムファンモジュールの取り扱い」

- ▶ 該当する場合は、の項に記載されるようにエキスパンダボードを取り外します。[252 ページ](#) の「SAS エキスパンダボードの取り外し」
- ▶ [274 ページ](#) の「標準スロットからの拡張カードの取り外し」

14.6.1.2 iRMC microSD カードの取り付け



図 269: iRMC microSD カード

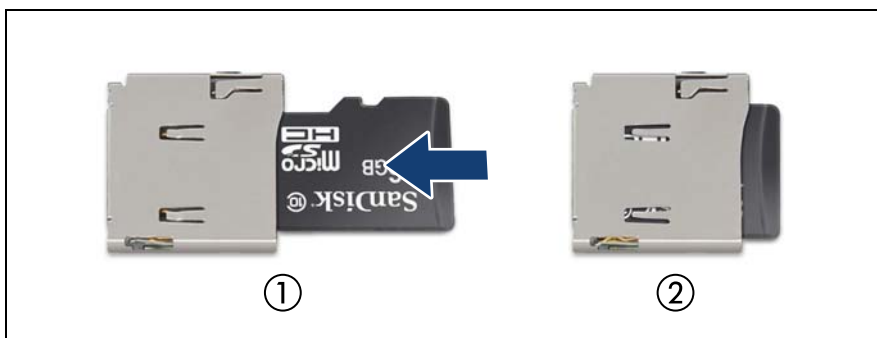


図 270: iRMC microSD カードの取り付け

- ▶ 所定の位置に固定されるまで (2)、ラベルを上に向けて iRMC microSD カードを microSD カードのスロット (1) に挿入します。



microSD カードのスロットのオンボード位置は、[466 ページ](#) の「システムボードのコネクタと表示ランプ」の項に記載されています。

14.6.1.3 終了手順

- ▶ [270 ページ](#) の「標準スロットの拡張カードの取り付け」

- ▶ 該当する場合は、[245 ページ](#)の「SAS エクスパンダボードの取り付け」の項に記載されているようにエクスパンダボードを取り付けます。
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り付けます：
[83 ページ](#)の「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ [69 ページ](#)の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[79 ページ](#)の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ [80 ページ](#)の「主電源へのサーバの接続」
- ▶ [82 ページ](#)の「サーバの電源投入」

14.6.2 iRMC microSD カードの取り外し



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



平均作業時間：
5 分

工具： サイドカuttingプライヤー

14.6.2.1 準備手順

- ▶ [54 ページ](#)の「サーバのシャットダウン」
- ▶ [55 ページ](#)の「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[56 ページ](#)の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ [60 ページ](#)の「サーバを開ける」
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り外します：
[83 ページ](#)の「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ 該当する場合は、の項に記載されるようにエクスパンダボードを取り外します。[252 ページ](#)の「SAS エクスパンダボードの取り外し」
- ▶ [274 ページ](#)の「標準スロットからの拡張カードの取り外し」

14.6.2.2 iRMC microSD カードの取り外し

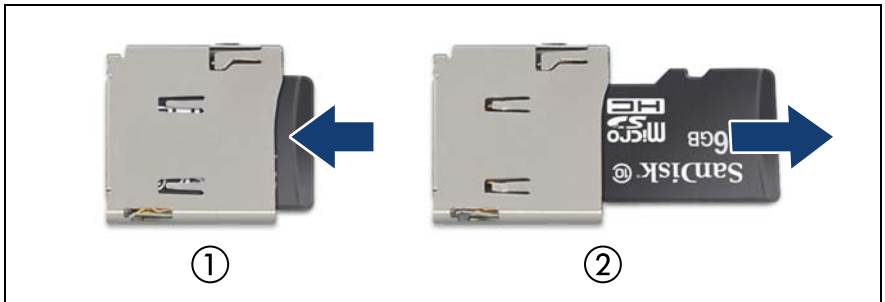


図 271: iRMC microSD カードの取り外し

- ▶ iRMC microSD カードを取り出すために、ゆっくり押し込んで、離します (1)。
- ▶ iRMC microSD カードをまっすぐスロットから引き出します (2)。

故障した iRMC microSD カードの破壊



注意！

iRMC microSD カードには、ユーザ情報が含まれています。iRMC microSD カードを交換したら、故障したカードをユーザに返却してください。故障した iRMC microSD カードの廃棄をユーザに依頼された場合は、次の手順に従います。

- ▶ サイドカッティングプライヤーを使用して、iRMC microSD カードを 2 つに割ります。

14.6.2.3 終了手順

- ▶ [270 ページ](#) の「標準スロットの拡張カードの取り付け」
- ▶ 該当する場合は、[245 ページ](#) の「SAS エキスパンダボードの取り付け」の項に記載されているようにエキスパンダボードを取り付けます。
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り付けます：
[83 ページ](#) の「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ [69 ページ](#) の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[79 ページ](#) の「ラックにサーバを格納する」

- ▶ [80 ページ](#) の「主電源へのサーバの接続」
- ▶ [82 ページ](#) の「サーバの電源投入」

14.6.3 iRMC microSD カードの交換



ユニットのアップグレードおよび修理
(URU)



平均作業時間：
5 分

工具： サイドカuttingプライヤー

14.6.3.1 準備手順

- ▶ [54 ページ](#) の「サーバのシャットダウン」
- ▶ [55 ページ](#) の「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[56 ページ](#) の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ [60 ページ](#) の「サーバを開ける」
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り外します：
[83 ページ](#) の「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ 該当する場合は、の項に記載されるようにエキスパンダボードを取り外します。[252 ページ](#) の「SAS エキスパンダボードの取り外し」
- ▶ [274 ページ](#) の「標準スロットからの拡張カードの取り外し」

14.6.3.2 iRMC microSD カードの交換

- ▶ [404 ページ](#) の「iRMC microSD カードの取り外し」の項に記載されているように、故障している iRMC microSD カードを取り外します。
- ▶ [402 ページ](#) の「iRMC microSD カードの取り付け」の項に記載されているように、新しい iRMC microSD カードを取り付けます。

14.6.3.3 終了手順

- ▶ 270 ページ の「標準スロットの拡張カードの取り付け」
- ▶ 該当する場合は、245 ページ の「SAS エクスパンダボードの取り付け」の項に記載されているようにエクスパンダボードを取り付けます。
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り付けます：
83 ページ の「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ 69 ページ の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
79 ページ の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 80 ページ の「主電源へのサーバの接続」
- ▶ 82 ページ の「サーバの電源投入」

14.7 システムボード

14.7.1 システムボードの交換



フィールド交換可能ユニット
(FRU)



ハードウェア : 50 分
ソフトウェア : 10 分

工具： システムボードの交換：

- プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ
- プロセッサソケットのスプリングを検査するための拡大鏡（推奨）

TPM の交換：

- ビットドライバ
- TPM ビットインサート (*)
- 細いマイナスドライバー (2 x 0.4 mm) (*)
- コンビネーションプライヤーおよびフラットノーズプライヤー

(*) 日本市場の場合：

- TPM 用精密マイナスドライバー (CWZ8291A)
- TPM モジュール取付工具 (S26361-F3552-L909)

UFM が取り付けられている場合：

- プラス PH1 / (+) No. 1 ドライバ

TPM に関する注意事項



システムボードには、オプションで TPM (Trusted Platform Module) を搭載できます。このモジュールは、他メーカーのプログラムによるキー情報の保存を可能にします（たとえば、Windows Bitlocker Drive Encryption を使用したドライブの暗号化）。

TPM 機能を使用している場合は、故障したシステムボードから TPM を取り外して新しいシステムボードに接続する必要があります。詳細は、[394 ページ](#) の「[TPM の交換](#)」の項を参照してください。

TPM はシステム BIOS でアクティブ化されます。

**注意！**

- システムボードを交換する前に、お客様に TPM 機能を使用しているかどうか確認してください。
- TPM 機能を使用している場合は、古いシステムボードから TPM を取り外して新しいシステムボードに取り付ける必要があります。

TPM のバックアップコピーを提供するように、お客様に依頼してください。セキュリティ上の理由から、TPM はお客様によって復元 / 再保存する必要があります。新しいシステムボードを取り付けたら、TPM を有効にする必要があります。TPM データをクリアすることはできません。

お客様のもとにバックアップコピーがない場合は、TPM ボードを交換すると、すべてのデータが失われることをお知らせください。

システム情報のバックアップ / 復元に関する注意事項

フロントパネルモジュールには、サーバ名やモデル、サーバ本体のタイプ、シリアル番号、製造データなどのシステム情報が格納されているシャーシ ID EPROM が装着されています。

システムボードの交換時にデフォルト以外の設定が損失しないように、重要なシステム構成データのバックアップコピーがシステムボード NVRAM からシャーシ ID EPROM に自動的に保存されます。システムボードを交換した後、バックアップデータはシャーシ ID ボードから新しいシステムボードに復元されます。

**注意！**

- このような理由から、フロントパネルモジュールとシステムボードは同時に交換しないでください！同時に交換すると、システムボードへのシステム構成データの復元が失敗します。
- 故障したシステムボードを以前の BIOS バージョンに交換した後、システム情報は自動的に復元されません。可能な場合は、交換する前に現行のすべての BIOS 設定を書き留めておいてください。詳細は、[410 ページの「準備手順」](#)の項を参照してください。

ネットワーク設定のリカバリに関する注記

ネットワークコントローラまたはシステムボードを交換すると、オペレーティングシステムのネットワーク構成設定は失われ、デフォルト値に置き換えられます。これは全ての静的 IP アドレスと LAN チューニング設定に適用されます。

ネットワークコントローラやシステムボードを交換する前に、現在のネットワーク設定を書き留めておきます。

14.7.1.1 準備手順

- ▶ [51 ページ](#) の「故障したサーバの特定」
- ▶ [409 ページ](#) の「ネットワーク設定のリカバリに関する注記」
- ▶ [99 ページ](#) の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ [100 ページ](#) の「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ [54 ページ](#) の「サーバのシャットダウン」
- ▶ [55 ページ](#) の「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ 外部のケーブルをすべて取り外します。
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
[56 ページ](#) の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ [60 ページ](#) の「サーバを開ける」
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り外します：
[83 ページ](#) の「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ 該当する場合は、の項に記載されるようにエキスパンダボードを取り外します。[252 ページ](#) の「SAS エキスパンダボードの取り外し」
- ▶ 関連する項に示すように、以下のコンポーネントをシステムボードから取り外します。
 - ヒートシンク：[309 ページ](#) の「プロセッサヒートシンクの取り外し」この時点では、プロセッサを故障したボードに取り付けたままにします。
 - メモリモジュール：[301 ページ](#) の「メモリモジュールの取り外し」再組み立てのときのために、メモリモジュールの取り付け位置を必ずメモしておいてください。
 - 拡張カード：
該当する場合は、ライザーカードを取り外します。
[274 ページ](#) の「標準スロットからの拡張カードの取り外し」

i 再組み立てのときのために、コントローラの取り付け位置とケーブル接続を必ずメモしておいてください。

- UFM: [378 ページ](#) の「UFM の取り外し」

i UFM ボードスペーサーを故障したシステムボードから取り外し、UFM ネジで UFM に固定します。

- SATA DOM: [399 ページ](#) の「SATA DOM の取り外し」
- iRMC microSD カード: [404 ページ](#) の「iRMC microSD カードの取り外し」

14.7.1.2 故障したシステムボードの取り外し

- ▶ すべてのケーブルをシステムボードから取り外します。

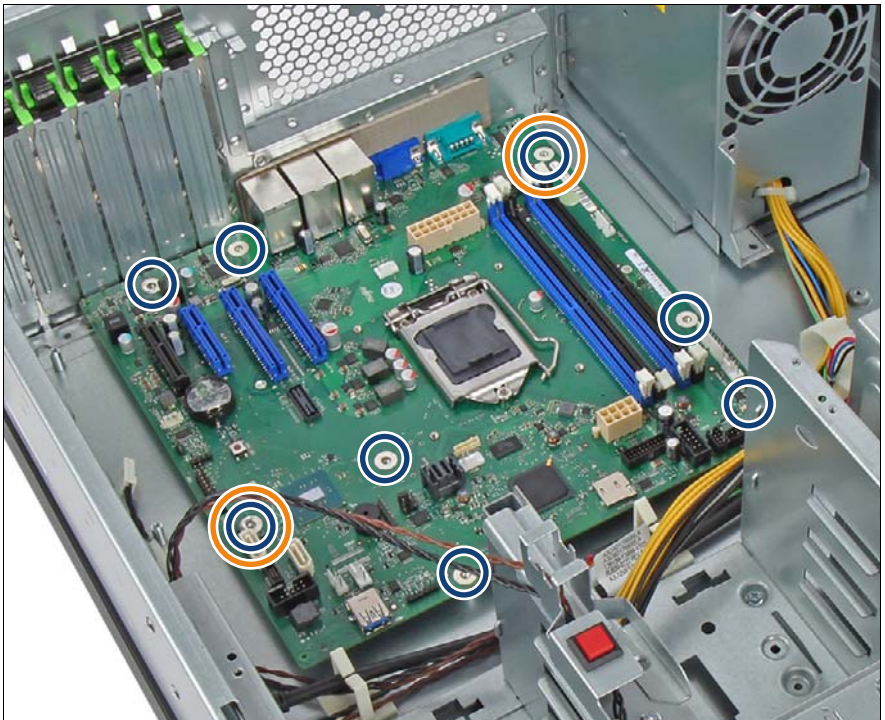


図 272: システムボードをネジで固定する

- ▶ システムボードから 8 本のネジを取り外します（丸で囲んだ部分、オレンジ色の丸はセンタリングボルトの位置を示します）。

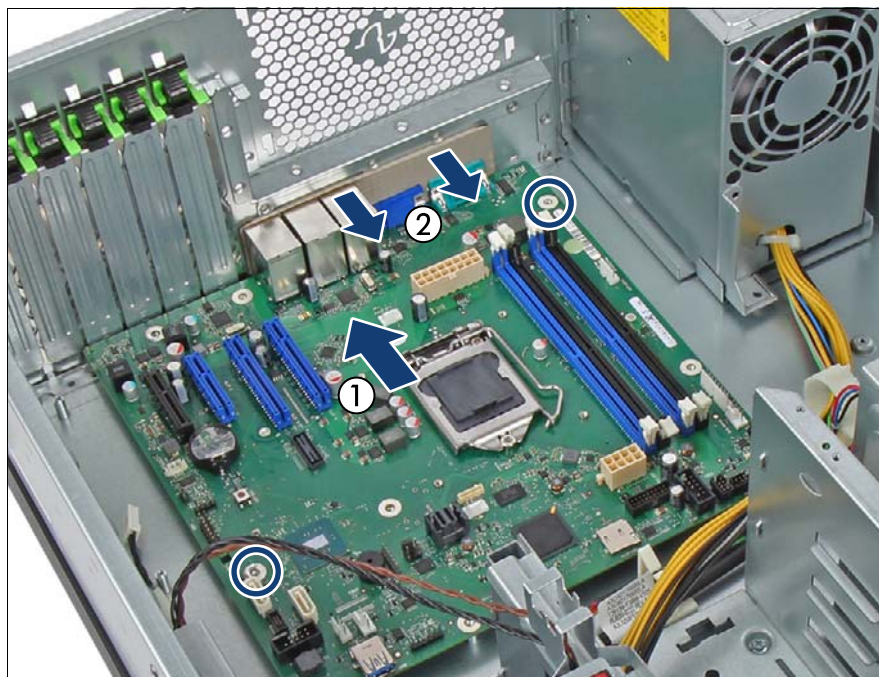


図 273: システムボードの取り外し

- ▶ メモリモジュールのイジェクターと PCI スロット (1) でシステムボードを少し持ち上げ、センタリングボルトから外します (丸で囲んだ部分)。
- ▶ プラグシエルがコネクタパネルの切り込みから外れるまで、システムボードをサーバの前面に向かってゆっくりずらします (2)。

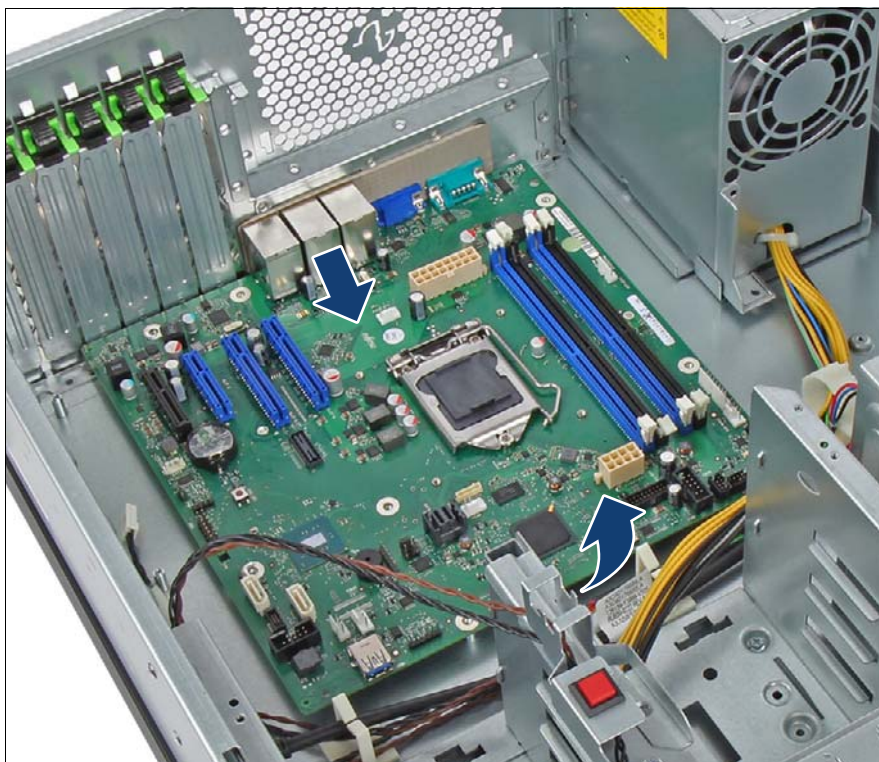


図 274: システムボードの取り外し

- ▶ 故障しているシステムボードのメモリモジュールイジェクターと PCI スロットを持ち、やや傾けながらシャーシの中から取り出します。
- ▶ 該当する場合は、[391 ページ](#) の「[TPM ボードの取り外し](#)」の項に記載されているように TPM を取り外します。

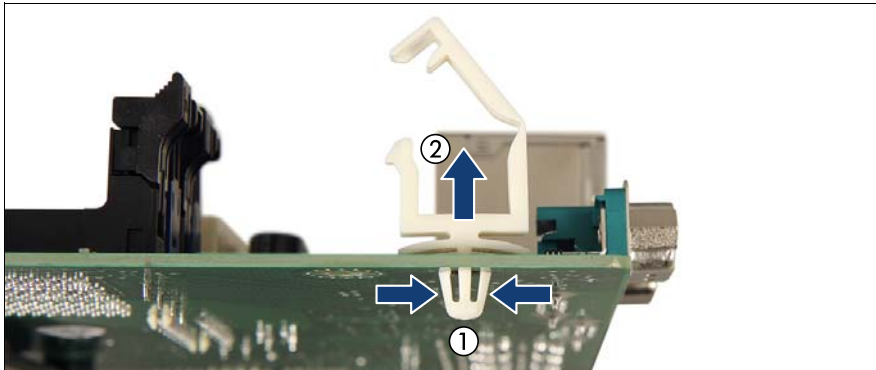


図 275: 電源ケーブルクランプの取り外し

- ▶ サキボソペンチを使用して、電源ケーブルクランプのフックを両側から押し (1)、故障しているシステムボードから取り外します (2)。

14.7.1.3 新しいシステムボードの取り付け

- ▶ 新しいシステムボードの設定を確認します (詳細は [480 ページ](#) の「[ジャンプ設定](#)」を参照)。
- ▶ メモリモジュールのイジェクターと PCI スロットでシステムボードを持ちます。



注意！

システムボードは必ず両手で持ってください。

システムボードを片側だけ持ち上げたり、ヒートシンクから持ち上げたりしないでください。ソケットとシステムボードの間にあるはんだ結合部が引っ張られ、破損や不具合が発生する可能性が高くなります。

EMC 指令への準拠、および冷却の要件と防火対策のために不可欠な EMI スプリングを破損しないでください。

- ▶ やや傾けながら、システムボードをシャーシの中に降ろします。
- ▶ プラグシェルがコネクタパネルの切り込みにはめ込まれるまで、システムボードをサーバの背面に向かってゆっくりずらしします。
- ▶ システムボードを調節します (図 [272](#) のオレンジ色の丸はセンタリングボルトを示します)。

- ▶ システムボードを 8 本のネジで固定します（図 272 の丸で囲んだ部分）。



ネジのトルク : 0.6 Nm（日本市場には適用されません）
ネジは対角線パターンで締めてください。

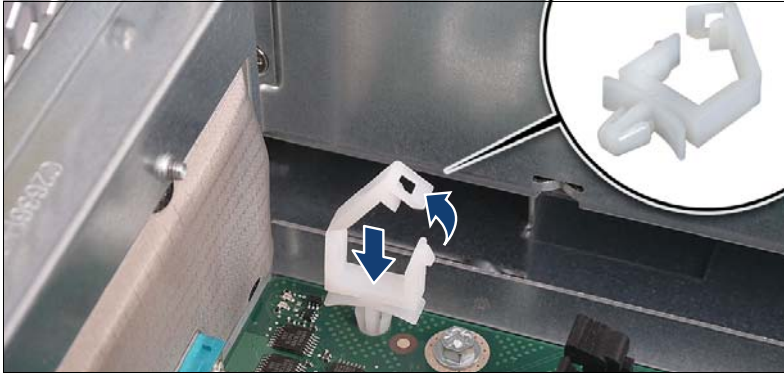


図 276: 電源ケーブルクランプの取り付け

- ▶ 電源ケーブルクランプを、カチッという音がするまで押し下げます。
- ▶ 310 ページの「プロセッサの取り外し」の項に記載されているように、故障したシステムボードからプロセッサを取り外します。
- ▶ 新しいシステムボードのプロセッサ・ソケットからプラスチック製保護カバーを取り外し、故障しているシステムボードのソケットに取り付けます。故障しているシステムボードは予備部品庫に戻されます。




返却されたシステムボードにこのカバーがない場合、廃棄の対象になる可能性があります。

- ▶ 312 ページの「プロセッサを取り付ける」の項に記載されているように、新しいシステムボードにプロセッサを取り付けます。
- ▶ すべてのケーブルをシステムボードに再び接続します。
 - フロントパネルケーブル
 - 前面 USB ケーブル
 - HDD バックプレーン用電源ケーブル
 - HDD バックプレーン用 SATA ケーブル
 - ODD 用 SATA ケーブル（該当する場合）
 - ODD 用電源ケーブル（該当する場合）
 - OOB ケーブル（該当する場合）
 - I²C バスケーブル（該当する場合）


配線は 436 ページの「ケーブル図」の項を参照してください。

14.7.1.4 終了手順


- ▶ 関連する項に示すように、残りすべてのシステムボードのコンポーネントを再び取り付けます。
 - ヒートシンク : 317 ページ の「プロセッサヒートシンクの取り付け」
 - メモリモジュール : 304 ページ の「メモリモジュールを取り付ける」
 - 拡張カード : 270 ページ の「標準スロットの拡張カードの取り付け」
該当する場合は、ライザーカードを接続します。
 - UFM (該当する場合) : 374 ページ の「UFM の取り付け」
 - TPM (該当する場合) : 385 ページ の「TPM の取り付け」
 - SATA DOM (該当する場合) : 396 ページ の「SATA DOM の取り付け」
 - iRMC microSD カード (該当する場合) : 402 ページ の「iRMC microSD カードの取り付け」

 すべてのコンポーネントを元のスロットに取り付けます。

- ▶ 該当する場合は、次の項に記載されるようにエキスパンダボードを取り付けます : 245 ページ の「SAS エキスパンダボードの取り付け」
- ▶ 次の項に記載されるように、システムファンモジュールを取り付けます : 83 ページ の「システムファンモジュールの取り扱い」
- ▶ 69 ページ の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 79 ページ の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 該当する場合は、システム BIOS の「Security」>「TPM (Security Chip Setting)」>「Security Chip」で TPM 機能をアクティブ化します。詳細は、『BIOS セットアップユーティリティ』リファレンスマニュアルを参照してください。
- ▶ 外部のケーブルをすべて再び接続します。
- ▶ 80 ページ の「主電源へのサーバの接続」
- ▶ 82 ページ の「サーバの電源投入」

 CPU の交換またはアップグレードの後にシステムの電源を入れると、保守ランプが点滅し、エラーメッセージ「CPU has been changed」が表示されます。これは、CPU 構成が変更されたことを示すだけで、技術的な問題はありません。

保守ランプをオフにするには、次の手順に従います。

- ▶ システムを再起動して、画面に出力が表示されるまで待ちます。
 - ▶ **[F2]** ファンクションキーを押して BIOS に移行します。
割り当てられている場合は、BIOS のパスワードを入力して **[Enter]** キーを押します。
 - ▶ 「*Save & Exit*」メニューで、「*Save Changes and Exit*」または「*Save Changes and Reset*」を選択します。
 - ▶ 保守ランプの点滅が停止したことを確認します。この情報は、CPU 構成が変更されたことを示すだけで、技術的な問題はありません。
- ▶ 107 ページの「システムボード BIOS と iRMC のアップデートまたはリカバリ」
 - ▶ 109 ページの「システム情報のバックアップ / 復元の確認」
 - ▶ 顧客の BIOS 設定が自動的に復元されない場合は、設定を手動で変更してください（「準備手順」で収集された情報を使用）。BIOS のバージョンが不明な場合は、すべての BIOS 設定とパスワードを設定し直すよう、顧客に伝えてください。
 - ▶ 121 ページの「システム時刻設定の確認」
 - ▶ 127 ページの「変更された MAC/WWN アドレスの検索」
 - ▶ 124 ページの「Linux 環境での NIC 構成ファイルのアップデート」
 - ▶ 119 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」
 - ▶ 125 ページの「BitLocker 機能の再開」
 - ▶ 交換したコントローラ（拡張カードまたはオンボード）の元の構成に従って、オペレーティングシステムのネットワーク設定を再構成します。
-  ネットワーク設定の構成は、お客様が行います。詳細は、409 ページの「ネットワーク設定のリカバリに関する注記」の項を参照してください。
- ▶ 該当する場合、130 ページの「システムボードの交換後」

15 タワーモデルをラックモデルに変換する



フィールド交換可能ユニット
(FRU)



ハードウェア : 20 分

工具 : - プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ
- マイナスドライバー

安全上の注意事項



注意 !

- 詳細は、[39 ページ](#) の「**注意事項**」の章を参照してください。

15.1 準備手順

- ▶ [54 ページ](#) の「サーバのシャットダウン」
- ▶ [55 ページ](#) の「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ 外部のケーブルをすべて取り外します。
- ▶ [60 ページ](#) の「サーバを開ける」



フロントカバーは不要になります。

15.2 タワーモデルをラックモデルに変換する

右側のサイドカバーの取り外し



図 277: 右側のサイドカバーの取り外し (A)

- ▶ サーバの背面の 2 本のネジを取り外します (丸で囲んだ部分)。

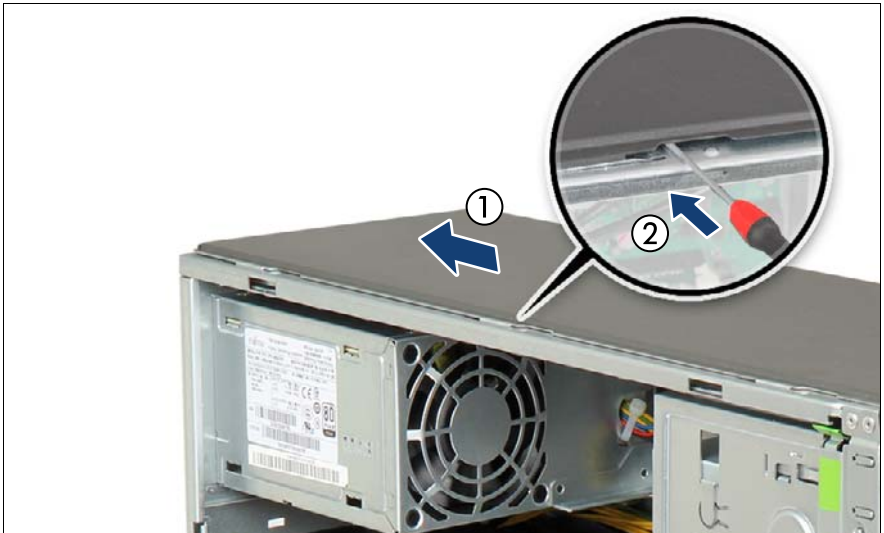


図 278: 右側のサイドカバーの取り外し (B)

- ▶ 右側のカバーをサーバ背面方向に最後までスライドさせます (1)。
- ▶ 右側のサイドカバーの 3 つのフックをシャーシの上端のスロットから外します。
 - ▶ マイナスドライバーをてことして使用して、外れるまでロッキングタブを持ち上げます (2)。
 - ▶ 右側のサイドカバーの両端を引き上げて、左右のフックをシャーシの上端のスロットから外します。
- ▶ すべてのケーブルとコンポーネントがサーバ内部に正しく固定され、緩んだ部分がないことを確認します。
- ▶ サーバをゆっくりと裏返します。

i 最大構成のサーバを裏返すには、最低 2 人必要です。作業しやすくするために、ハードディスクドライブと電源モジュールを取り外します。
- ▶ 右側のサイドカバーを持ち上げて取り外します。

i 右側のサイドカバーは不要になります。
- ▶ サーバは上下逆のままにします。

グライダー脚の取り外し

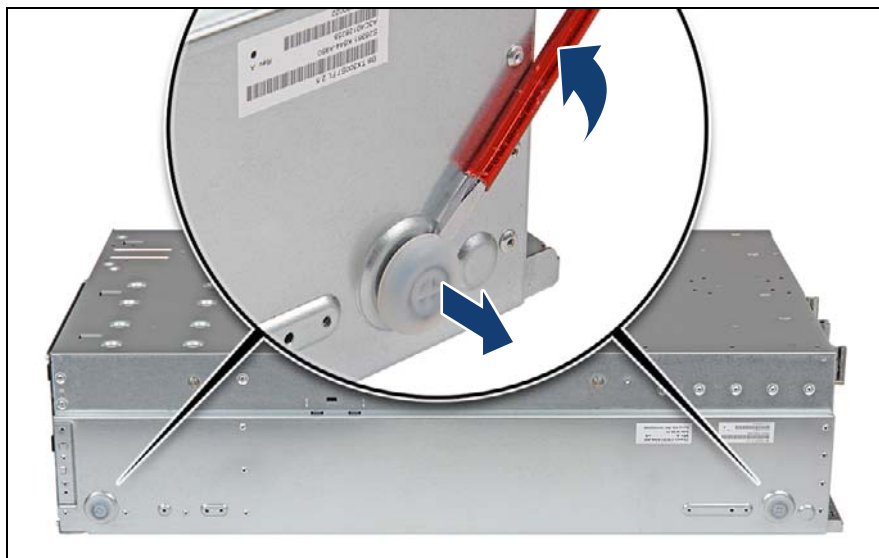


図 279: ゴム脚の取り外し

- ▶ マイナスドライバーをてことして使用して、外れるまで各ゴム脚を少し持ち上げます。
- ▶ サーバを横向きに置きます。



最大構成のサーバを裏返すには、最低 2 人必要です。作業しやすくするために、ハードディスクドライブと電源ユニットを取り外します。

アクセス可能なドライブケースの取り外し

- ▶ 365 ページの「故障したフロントパネルモジュールの取り外し」の項に記載されているように、フロントパネルモジュールを取り外します。
- ▶ 該当する場合は、330 ページの「アクセス可能なドライブの取り外し」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブをすべて取り外します。
- ▶ 該当する場合は、223 ページの「HDD 拡張ボックス」の項に記載されているように、HDD 拡張ボックスを取り外します。



図 280: アクセス可能なドライブケースを取り外す (A)

- ▶ 図のように、サーバの下部の 2 本のネジを取り外します。
- ▶ サーバを横向きに置きます。



最大構成のサーバを裏返すには、最低 2 人必要です。作業しやすくするために、ハードディスクドライブと電源ユニットを取り外します。

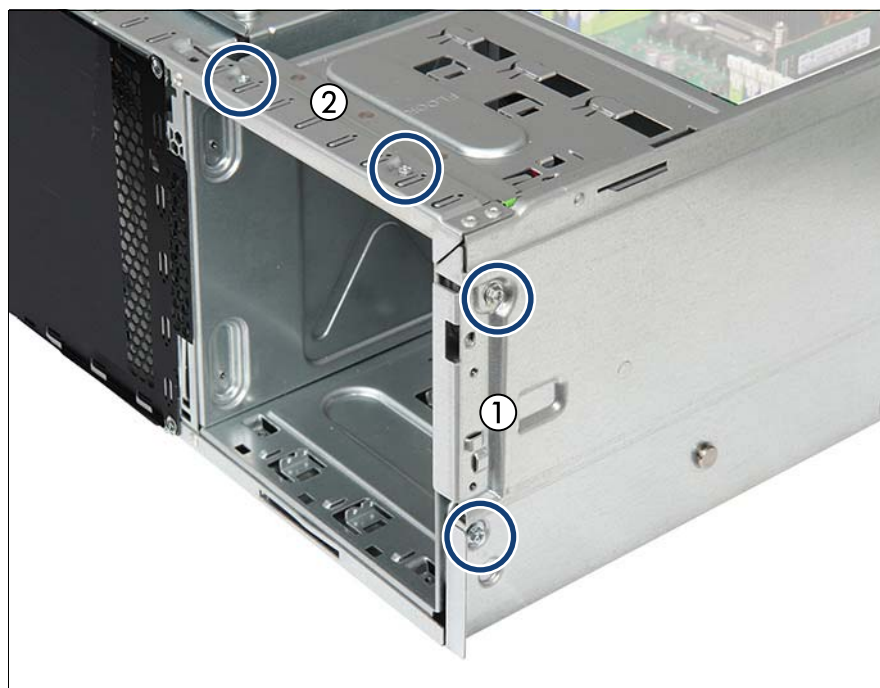


図 281: アクセス可能なドライブケージを取り外す (B)

- ▶ シャーシの右端から 2 本のネジを取り外します (1)。
- ▶ シャーシの上端の 2 本のネジを取り外します (2)。

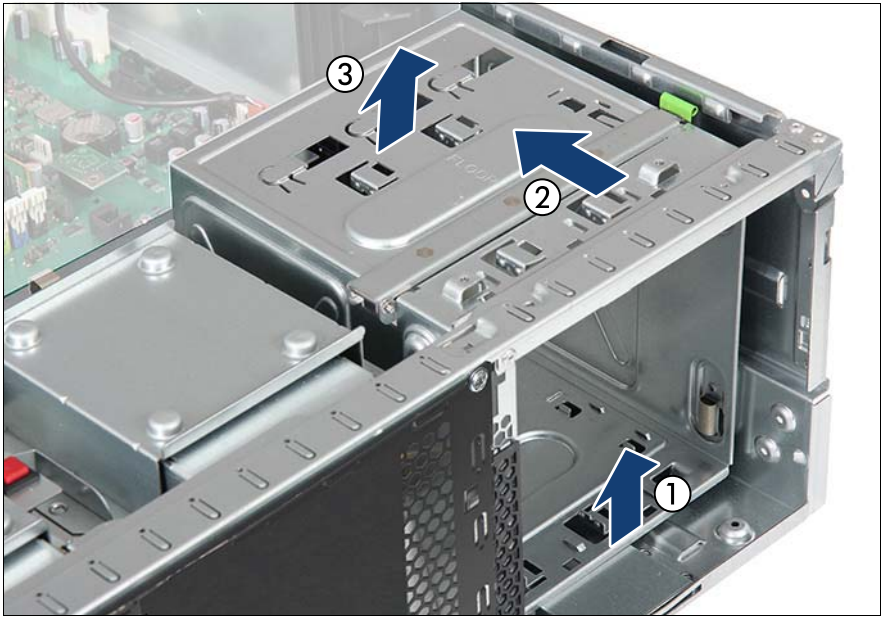


図 282: アクセス可能なドライブケースの取り外し

- ▶ アクセス可能なドライブケースを少し持ち上げ、その前面の下端をシャーシフロアのスロットから取り外します (1)。
- ▶ 図のように、アクセス可能なドライブカバーをシャーシフレームの下からスライドさせます (2)。
- ▶ アクセス可能なドライブケースをシャーシから持ち上げます (3)。

アクセス可能なドライブページへの変更

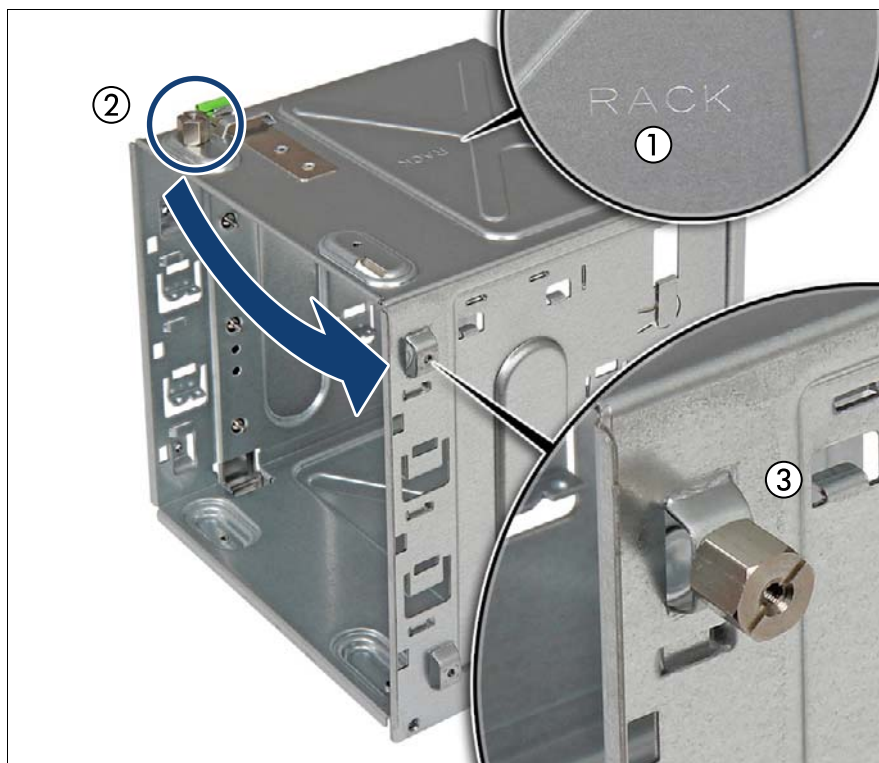


図 283: アクセス可能なドライブページへの変更

- ▶ 「RACK」というマークが上を向くように、アクセス可能なドライブページを回転させます（1、拡大された部分を参照）。
- ▶ ネジ穴付きボルトをアクセス可能なドライブページの上端から取り外します（2）。
- ▶ 図のように、アクセス可能なドライブページの端にネジ穴付きボルトを再び取り付けます（3、拡大された部分を参照）。

アクセス可能なドライブの再取り付け

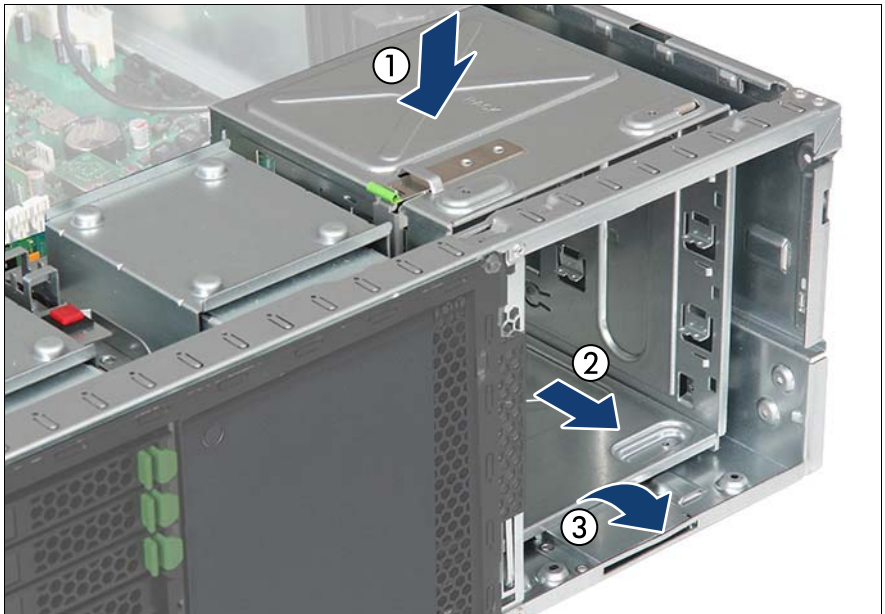


図 284: アクセス可能なドライブケースの取り付け

- ▶ 「RACK」というマークが上を向くように、アクセス可能なドライブケースをシャーシに降ろします (1)。
- ▶ アクセス可能なドライブケースをサーバ前面方向に最後までスライドさせます (2)。
- ▶ アクセス可能なドライブケースの前面の下端が、シャーシフロアのスロットに正しく固定されていることを確認します (3)。



図 285: アクセス可能なドライブケージを固定する (A)

- ▶ アクセス可能なドライブケージを 2 本のネジでシャーシの右端に固定します (1)。
- ▶ アクセス可能なドライブケージを 2 本のネジでシャーシの上端に固定します (2)。
- ▶ すべてのケーブルとコンポーネントがサーバ内部に正しく固定され、緩んだ部分がないことを確認します。



図 286: アクセス可能なドライブケースを固定する (B)

- ▶ サーバをゆっくりと裏返します。

i 最大構成のサーバを裏返すには、最低 2 人必要です。作業しやすくするために、ハードディスクドライブと電源モジュールを取り外します。

- ▶ アクセス可能なドライブケースを 2 本のネジでシャーシの底面に固定します (丸で囲んだ部分)。

i 正しいネジの位置に注意してください。タワー構成で使用される右側のネジ穴は、空いたままになります。

- ▶ 368 ページの「フロントパネルモジュールの取り付け」の項に記載されているように、フロントパネルを再び取り付けます (90° 回転させます)。
- ▶ 327 ページの「アクセス可能なドライブの取り付け」の項に記載されるように、アクセス可能なドライブを元のベイにすべて再取り付けします (90 度回転)。
- ▶ 230 ページの「アクセス可能なドライブのダミーカバーの取り付け」の項に記載されるように、アクセス可能なドライブフィルターカバーおよびフロントカバーをすべて再び取り付けます。
- ▶ 該当する場合は、223 ページの「HDD 拡張ボックス」の項に記載されているように、HDD 拡張ボックスを取り付けます。

イントリュージョンスイッチの準備

- ▶ 453 ページの「イントリュージョンスイッチケーブルの取り外し」の項に記載されているように、イントリュージョンスイッチを取り外します。

i イントリュージョンスイッチケーブルをシステムボードから取り外す必要はありません。

タワーモデルをラックモデルに変換する

- ▶ 456 ページの「イントリュージョンスイッチケーブルの取り外し」の項に記載されるように、ゴム製のバンパーを前面のイントリュージョンスイッチに取り付けて、イントリュージョンスイッチモジュールを再び取り付けます。

ラックフロントカバーの組み立て



図 287: クイックリリースレバー付きラック取り付け用ブラケット



ラックフロントカバーは、プラスチック製フレームと、2つのクイックリリースレバー付きラック取り付け用ブラケットで構成されます。

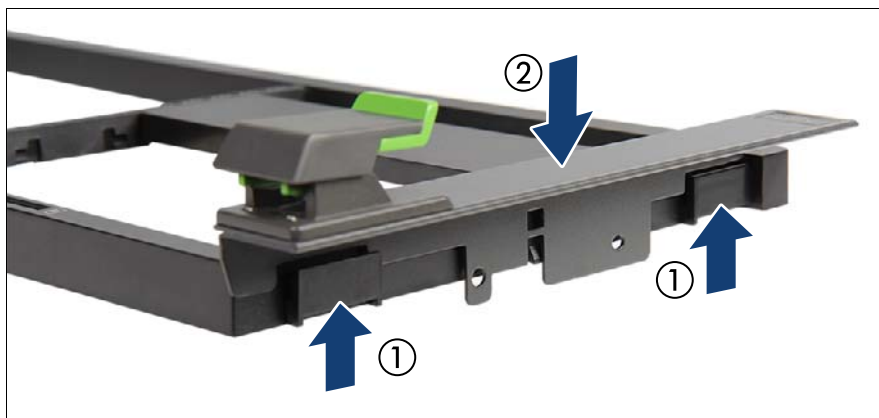


図 288: ラック取り付け用ブラケットを取り付ける

- ▶ FUJITSU ロゴ付きのラック取り付け用ブラケットを、ラックの前面ベゼルの右側にある 2 つのフックに合わせます (1)。
- ▶ ラック取り付け用ブラケットがラックの前面ベゼルに完全に固定されるまで、しっかり押し下げます (2)。
- ▶ 2 つ目のラック取り付け用ブラケットを、ラックの前面ベゼルの左側に同様にして取り付けます。



図 289: アクセス可能なドライブのダミーカバーの取り付け

- ▶ 該当する場合は、すべてのアクセス可能なドライブのダミーカバーを元のベイにすべて再び取り付けます (90 度回転)。
- ▶ アクセス可能なドライブフィラーカバーが空いている各ドライブベイに取り付けられていることを確認します。
- ▶ フロントカバーを裏返します。
- ▶ アクセス可能なドライブカバーの片方の端にある 2 つの突起を、フロントカバーの右内側の端に結合します (1)。
- ▶ 所定の位置にはまるまで、アクセス可能なドライブカバーを倒します (2)。



準備手順のときにフロントカバーから取り外したダミーカバーを使用します。

- ▶ 69 ページの「ラックフロントカバーの取り付け」の項に記載されているように、ラックフロントカバーを取り付けます。

15.3 終了手順

- ▶ 69 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ 『Rack Mounting Kit - RMK-F2 Drop-In』の取り付け手順に記載されているように、サポートブラケットとラック取り付けレールをラックに取り付けます。



ドキュメントは、オンラインで入手できます
(<http://manuals.ts.fujitsu.com> (日本市場向け:
<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/>))。ラック取り付けキットに、印刷されたポスターが付属しています。

- ▶ 77 ページの「ラックへのサーバの取り付け」
- ▶ 外部のケーブルをすべて再び接続します。
- ▶ 80 ページの「主電源へのサーバの接続」
- ▶ 82 ページの「サーバの電源投入」
- ▶ フロントパネルボードに取り付けられているシャーシ ID EPROM 上のサーバのシャーシ情報をアップデートします。ChassisId_Prom Tool の取得および使用方法の詳細は、128 ページの「シャーシ ID Prom Tool の使用」の項を参照してください。
- ▶ 131 ページの「シャーシモデルの指定」の項に記載されているように、シャーシモデルの設定を「ラックサーバ」に変更します。

16 ケーブル配線

安全上の注意事項



注意！

- ケーブルを取り外す際は、必ずコネクタを持って取り外してください。ケーブル部分を引っ張って取り外さないでください。
- システムコンポーネントの交換時に、ケーブルが擦りむけたり、歪んでいたり、破損していないことを確認してください。
- シールドが破損しているケーブルは、直ちに交換してください。
- 必ずシールドケーブルを使用してください。

16.1 使用ケーブルのリスト

i ケーブルリストの番号は、配線図に示される番号に対応します。

番号	名称	番号	配線
基本			
C1	CBL_FRONTANEL	T26139-Y4015-V301	フロントパネルモジュールからシステムボード
C2	CBL_USB30_415	T26139-Y3999-V501	フロントパネルモジュールからシステムボード
C3	CBL_MoBo_DVD	T26139-Y3928-V205	ODD - システムボード
C4	CBL_Intruision_Sw	T26139-Y3922-V121	サーバサイドおよび前面からシステムボード
C5	CBL_MoBo_DRV_Pwr	T26139-Y4012-V503	4x 2.5 インチ SAS BPL からシステムボード
C19	CBL_SAS_320	T26139-Y4040-V7	SAS BPL からシステムボード SAS BPL からコントローラ SAS エキスパンダボードからコントローラ
アクセス可能なドライブ			
C21	CBL_SAS_Dev_PwSig_700	T26139-Y4044-V2	SAS バックアップドライブからシステムボード SAS 3.0 スロット 2/3
C22	CBL_USB30_Dev	T26139-Y4039-A80	USB 3.0 バックアップドライブから USB 3.0 エンジェルアダプタ
C23	CBL_OOB_4Bpl	T26139-Y4015-V607	SAS BPL からシステムボード
C40	CBL_LVD_700	T26139-Y3718-V301	LSD- システムボード
C41	USB3_adapter_angle	T26139-Y3999-V506	システムボードからケーブル C22
冗長 PSU			
C10	CBL_PDB_MoBo_Pwr	T26139-Y3952-V611	冗長 PSU からシステムボード
C11	CBL_PDB_MoBo_Sig	T26139-Y3956-V2	冗長 PSU からシステムボード
C12	CBL_PWR_12P_2x6P	T26139-Y3939-V207	冗長 PSU から SAS BPL 2 および SAS BPL 3
その他のオプション			

表 6: 使用ケーブルのリスト

番号	名称	番号	配線
C32	CBL_FBU03_550	T26139-Y4031-V102	FBU から TFM サーバ前面からシステムボード
C33	CBL_BPL_RisCrd_Pwr	T26139-Y4029-V202	SAS BPL からライザーボード
C34	CBL_SAS_Exp_Pwr	T26139-Y3959-V354	SAS エクスパンダボードから SAS BPL 2
C35	CBL_SAS_250	T26139-Y4040-V42	SAS エクスパンダボードから SAS BPL 3
C36	CBL_SAS_470	T26139-Y4040-V8	SAS エクスパンダボードから SAS BPL 1 および SAS BPL 2

表 6: 使用ケーブルのリスト

16.2 ケーブル図

16.2.1 基本的なケーブル配線

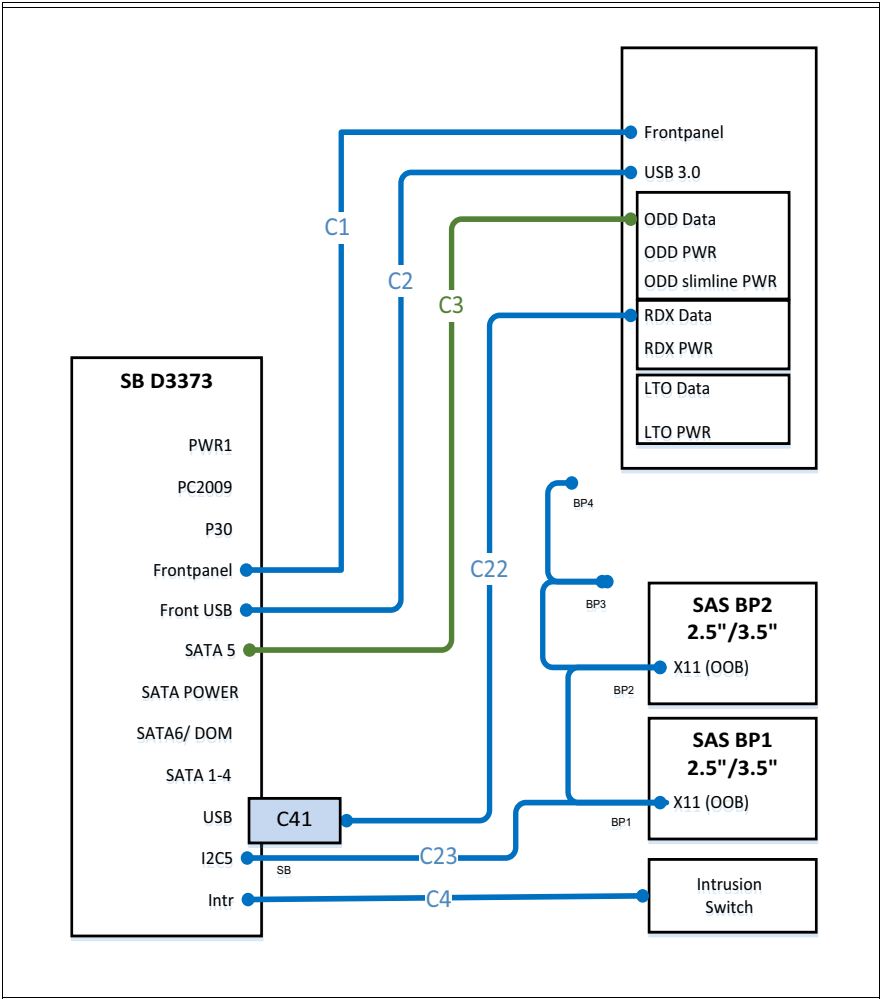


図 290: 操作パネル、イントリュージョンスイッチ、ODD、OOB、2 × HDD バックプレーン

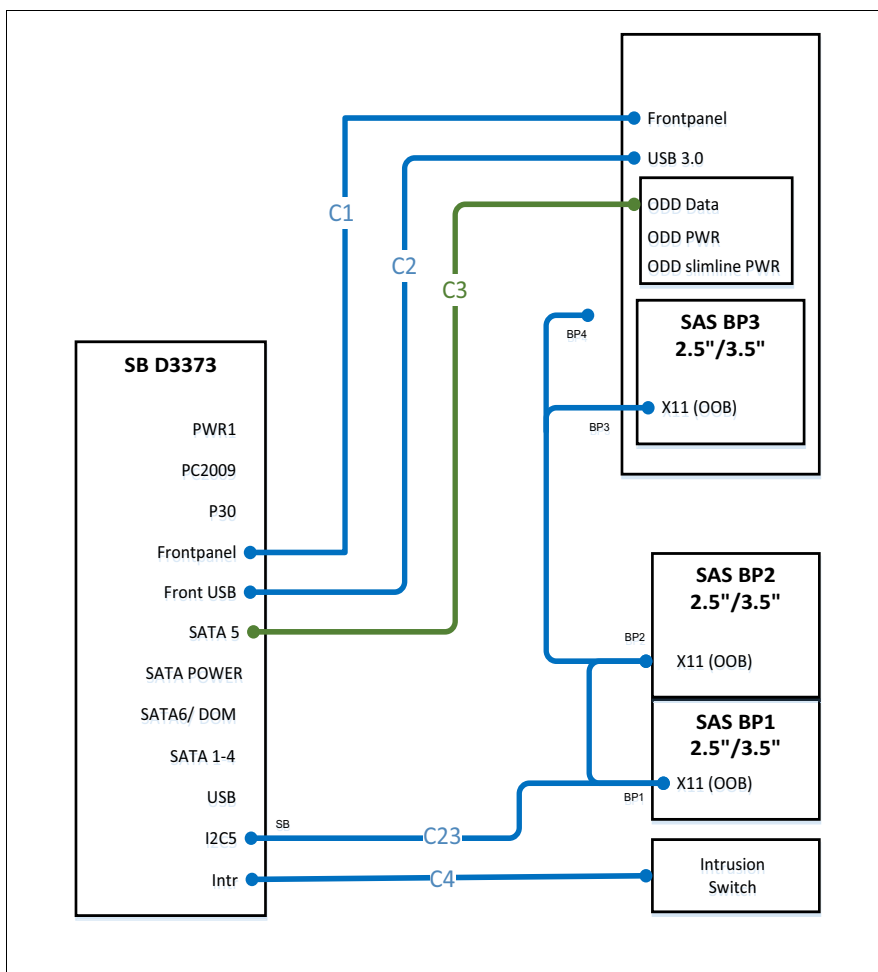


図 291: 操作パネル、イントリュージョンスイッチ、ODD、OOB、3 × HDD バックプレーン

16.2.2 電源ケーブル配線

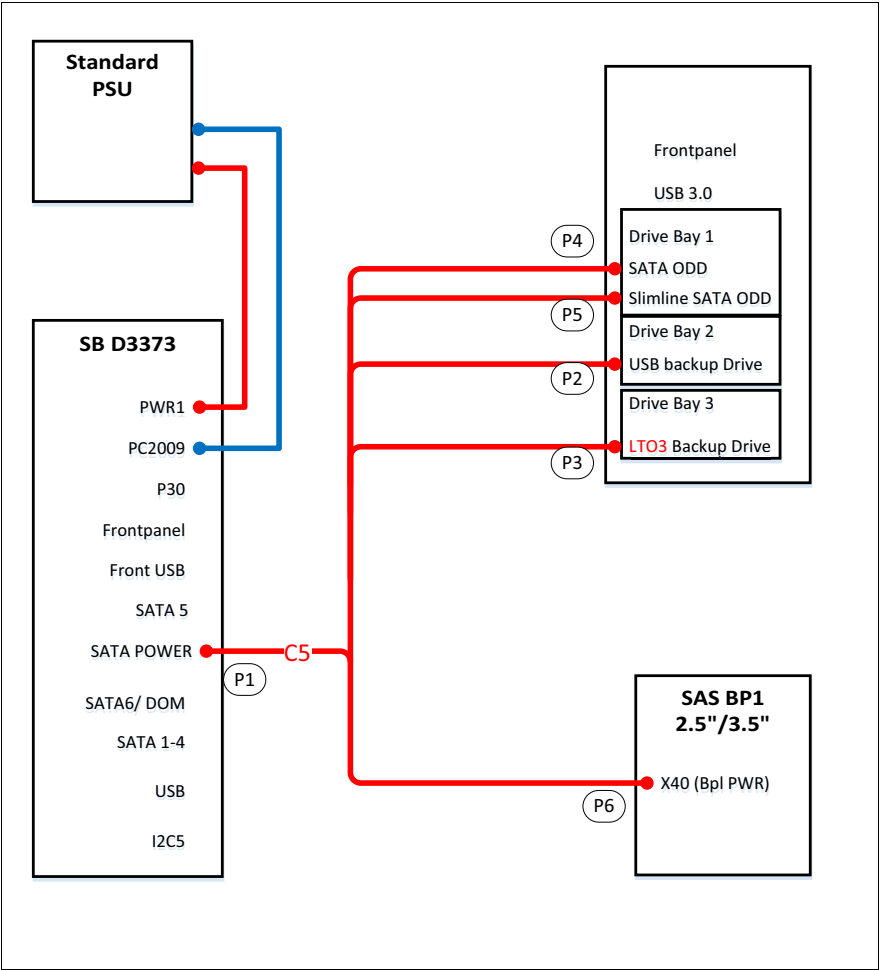


図 292: 標準 PSU

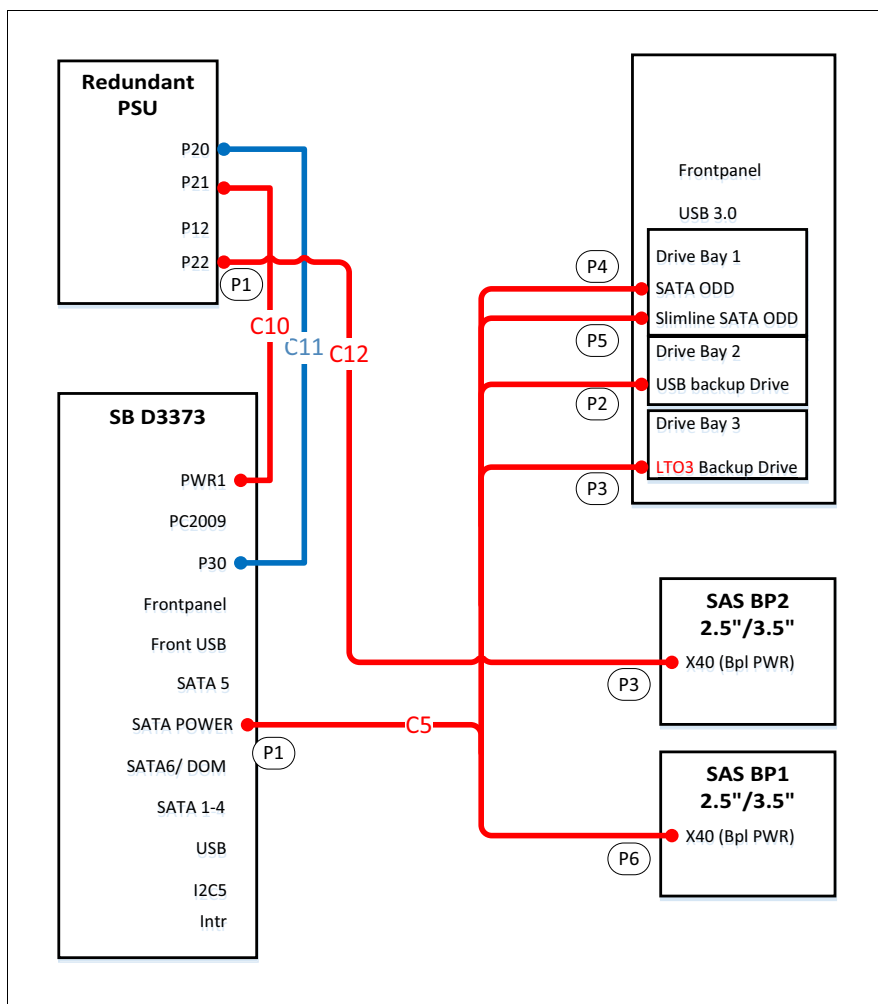


図 293: 2 × HDD バックプレーン付き冗長 PSU

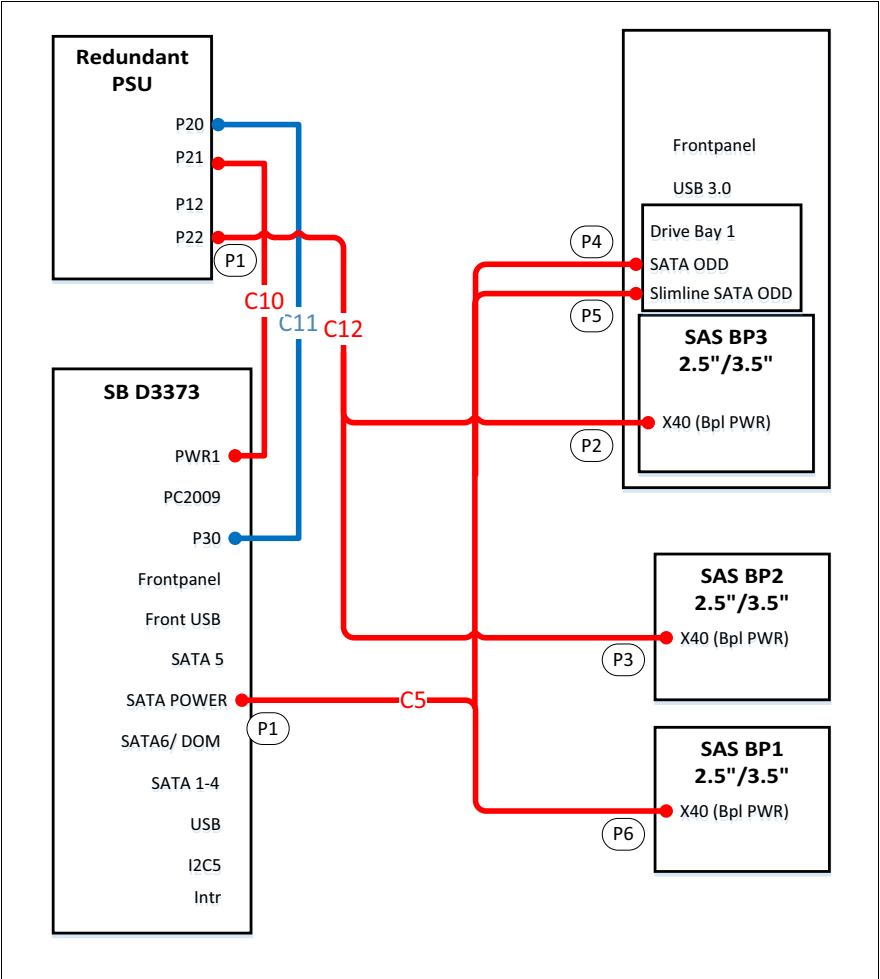


図 294: 3 × HDD バックプレーン付き冗長 PSU

16.2.3 HDD サブシステムのケーブル配線

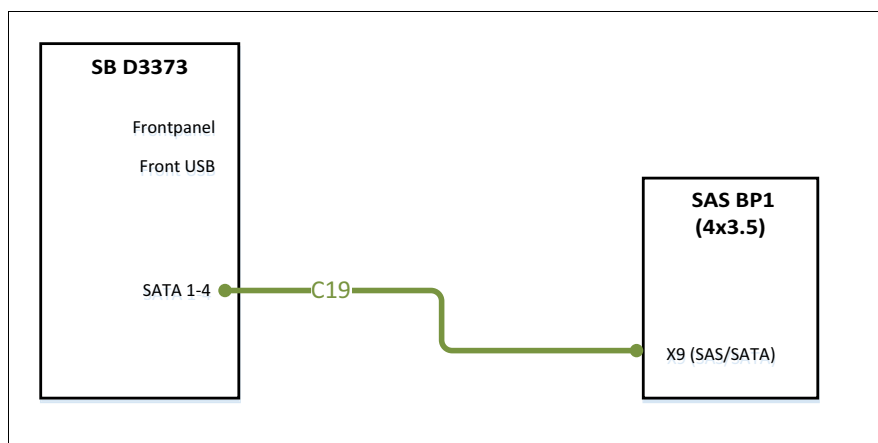


図 295: 1x4 3.5 インチ SATA HDD サブシステム

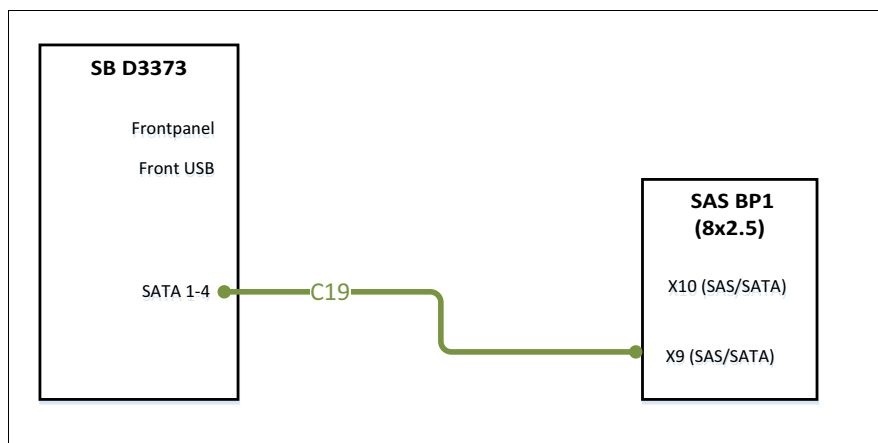


図 296: 1x8 3.5 インチ SATA HDD サブシステム

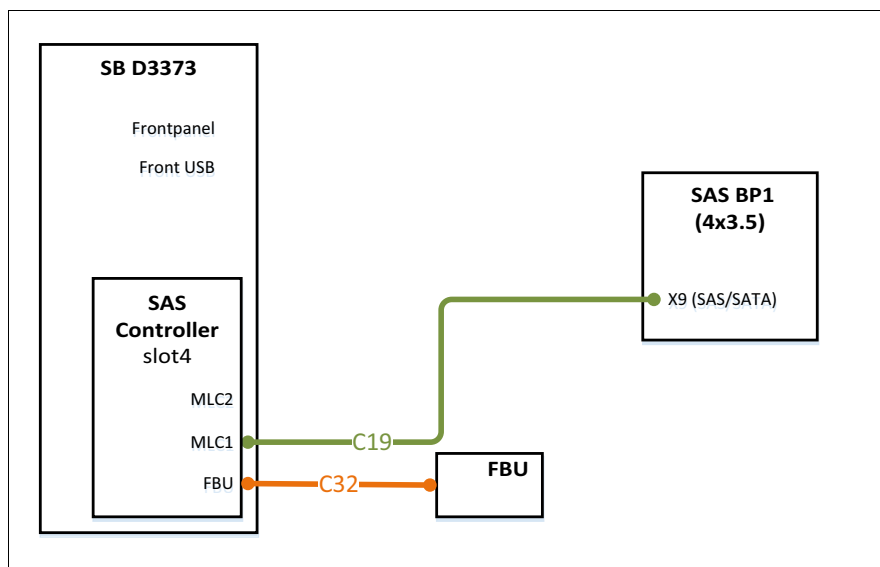


図 297: 1x4 3.5 インチ SAS HDD サブシステム

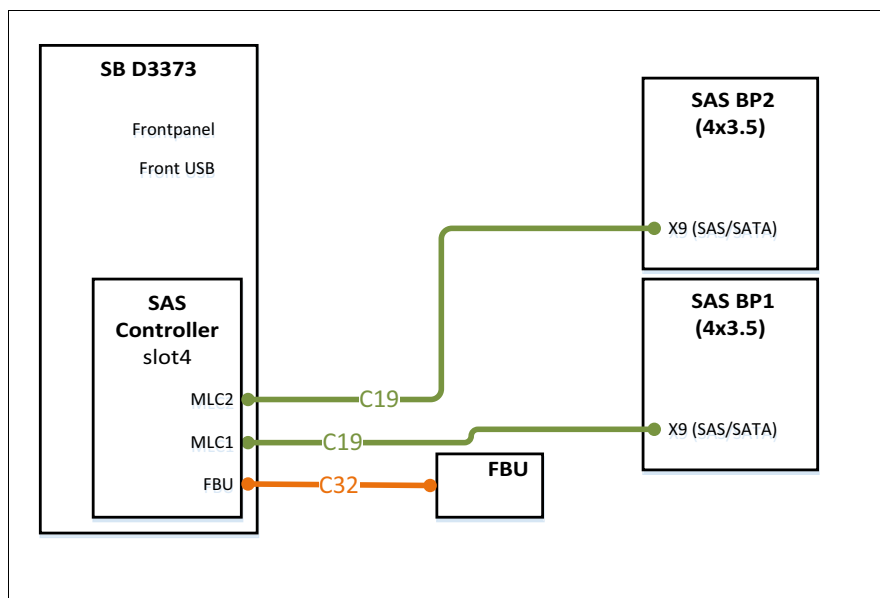


図 298: 2x4 3.5 インチ SAS HDD サブシステム

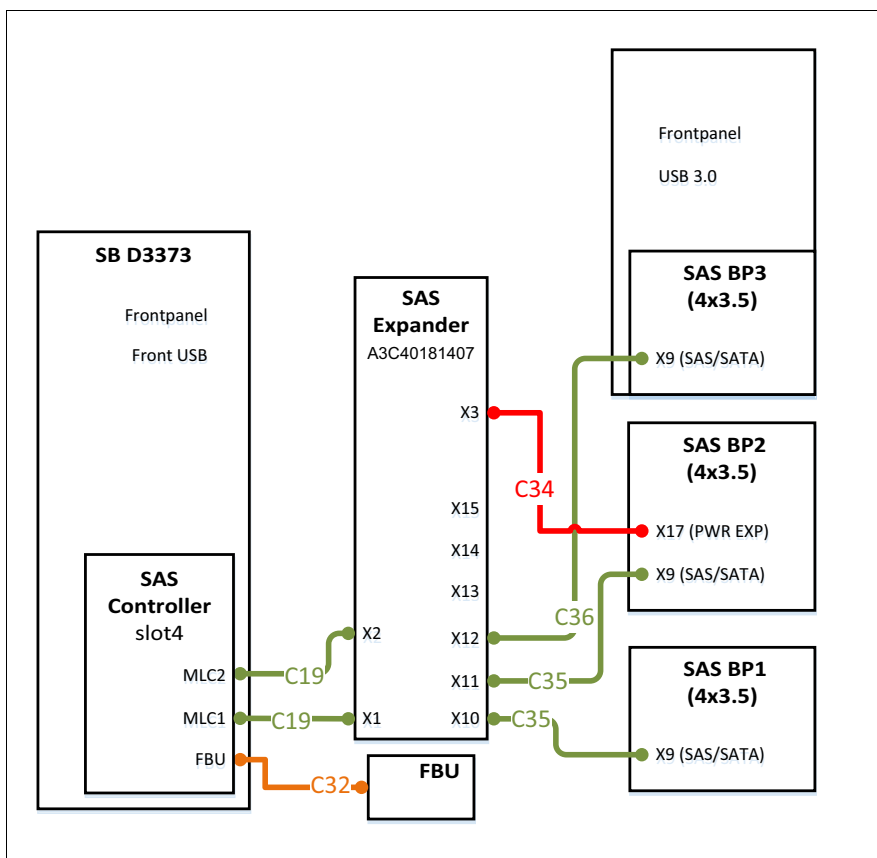


図 299: 3x4 3.5 インチ SAS HDD サブシステム

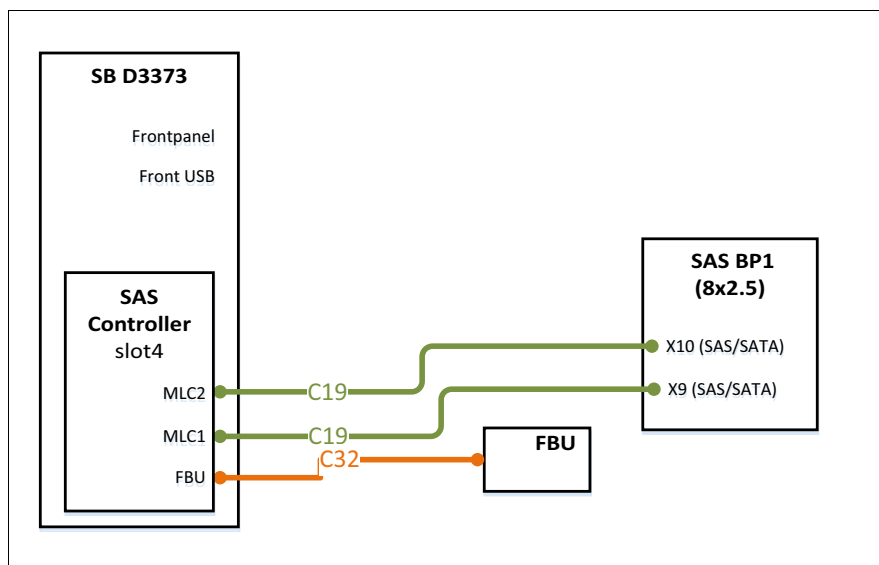


図 300: 1x8 2.5 インチ SAS3.0 HDD サブシステム

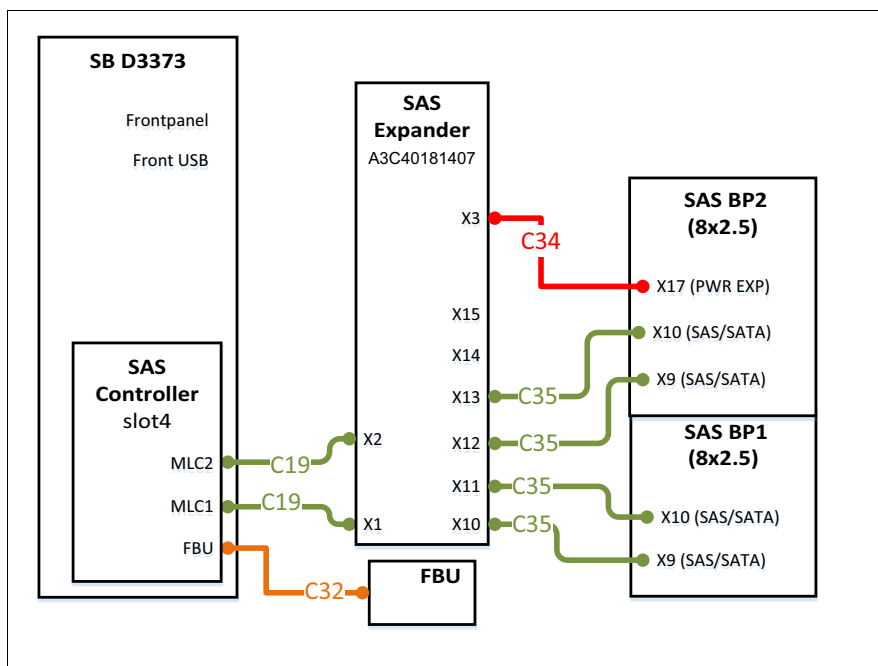


図 301: 2x8 2.5 インチ SAS3.0 HDD サブシステム (エキスパンダ付き)

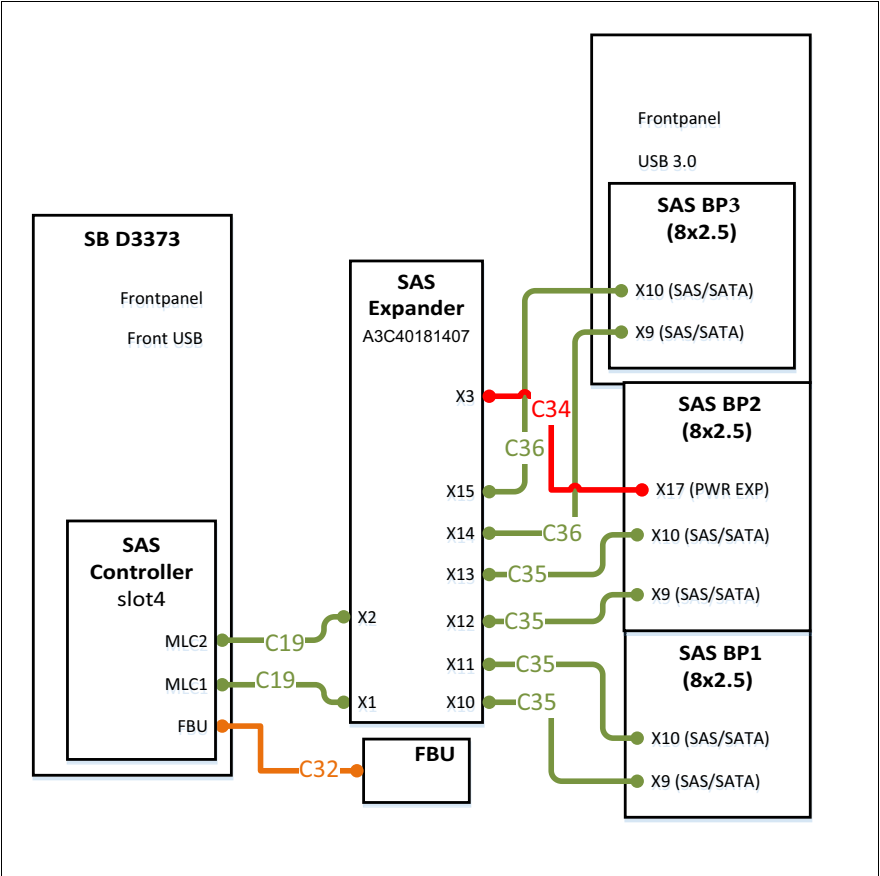


図 302: 3x8 2.5 インチ SAS3.0 HDD サブシステム (エキスパンダ付き)

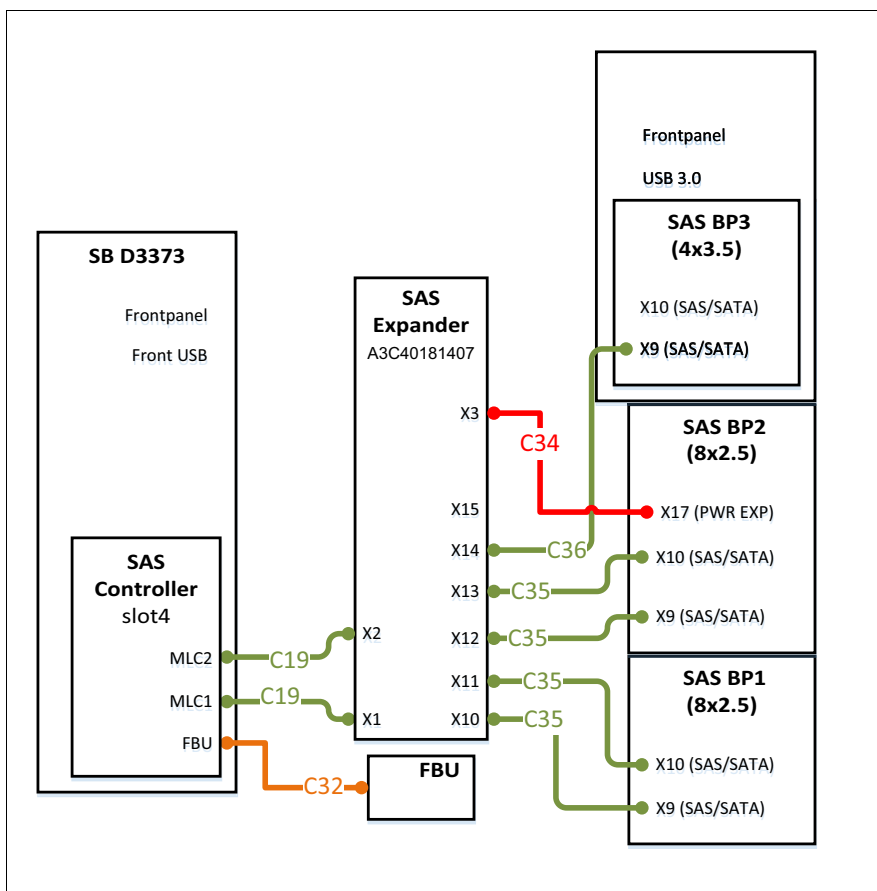


図 303: 2x8 2.5 インチ / 1x4 3.5 インチ SAS3.0 HDD サブシステム (エクスパンダ付き)

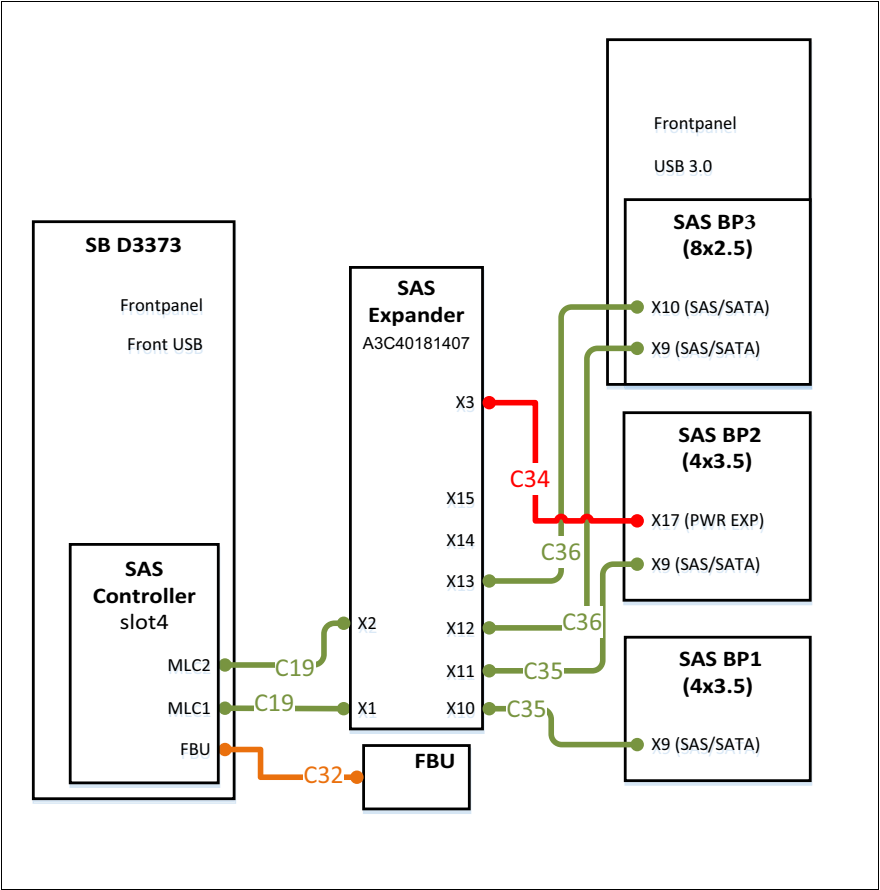


図 304: 2x4 3.5 インチ /1x8 2.5 インチ SAS3.0 HDD サブシステム（エキスパンダ付き）

16.2.4 オプションのケーブル配線

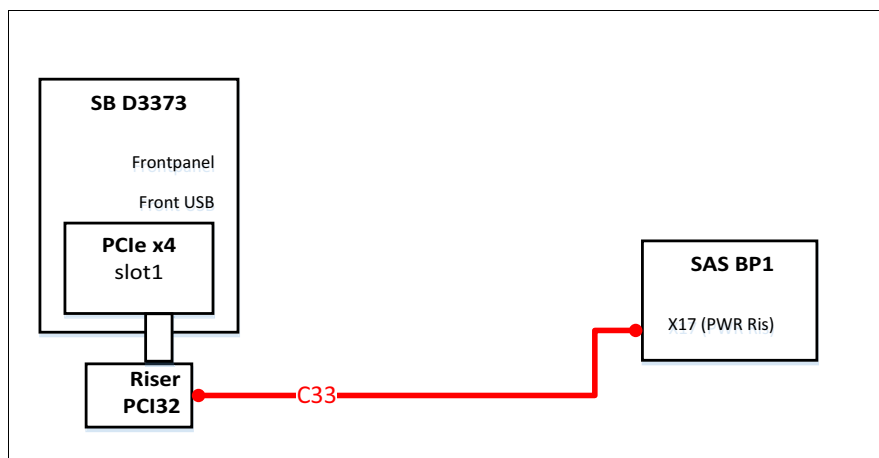


図 305: ライザーカード

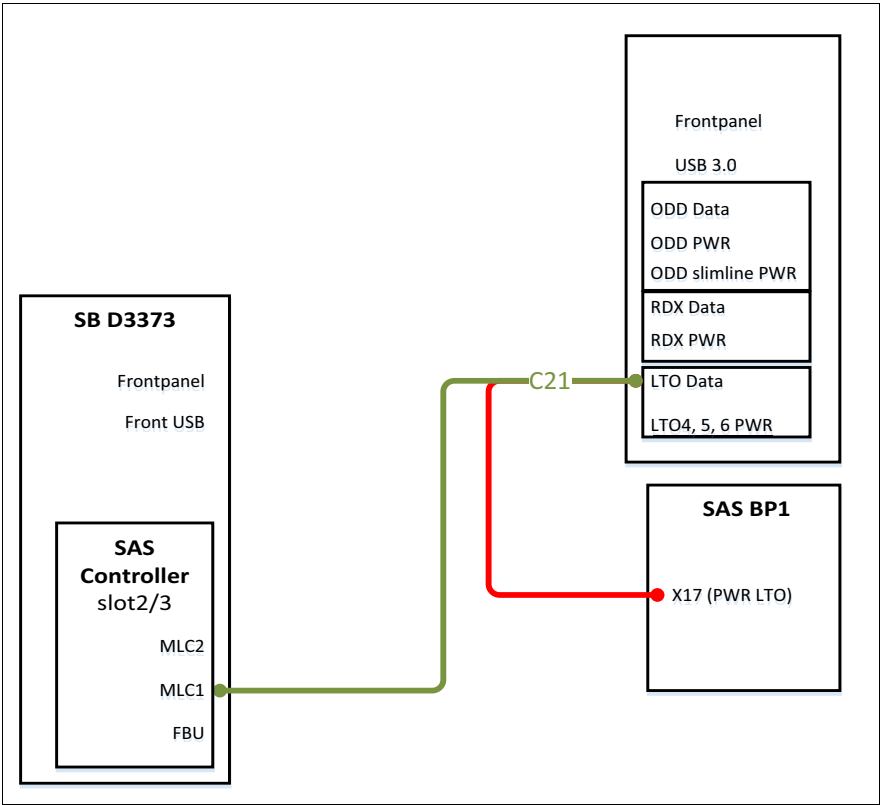


図 306: アクセス可能なドライブ LTO

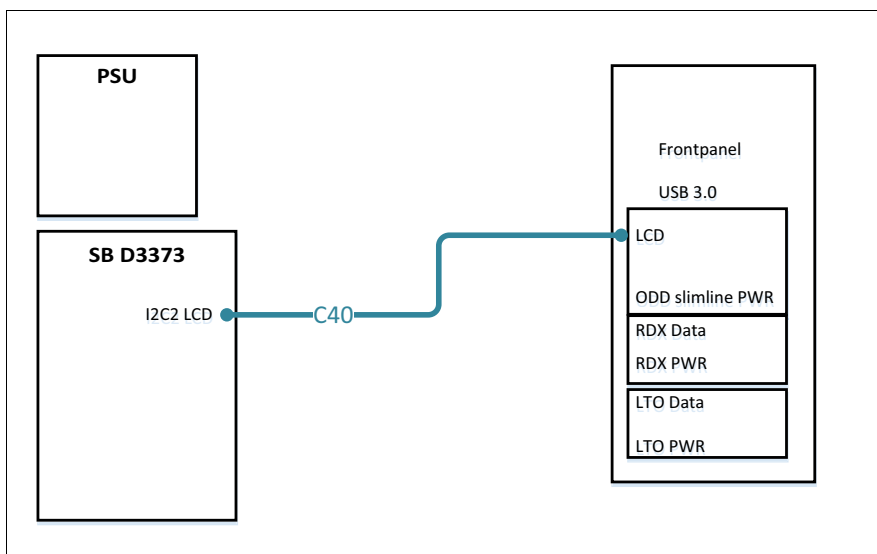


図 307: Local Service Display

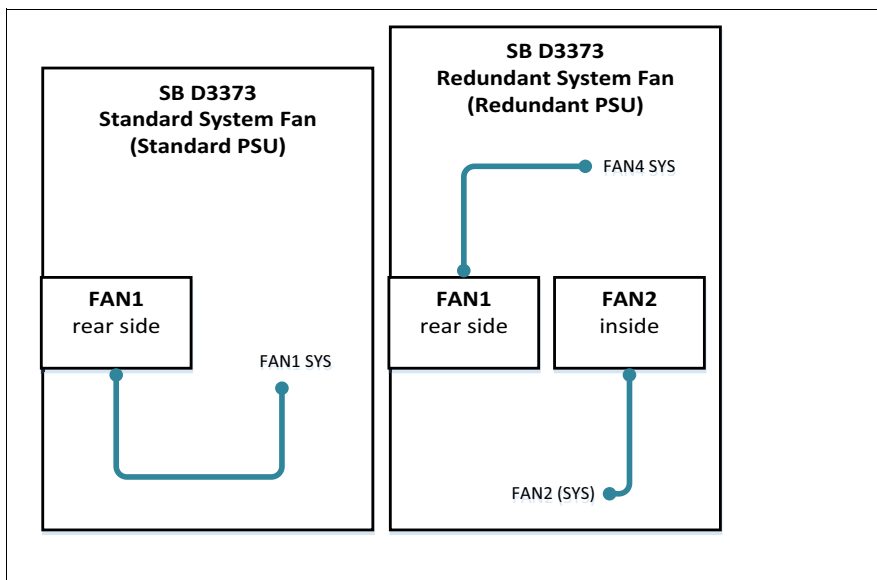


図 308: システムファン

16.3 イントリュージョンスイッチケーブルの交換



フィールド交換可能ユニット
(FRU)



ハードウェア : 10 分

工具 : プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

16.3.1 準備手順

- ▶ 51 ページ の「故障したサーバの特定」
- ▶ 54 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 55 ページ の「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
56 ページ の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合（サーバを横向きにします）：
- ▶ 60 ページ の「サーバを開ける」

16.3.2 イントリュージョンスイッチケーブルの取り外し

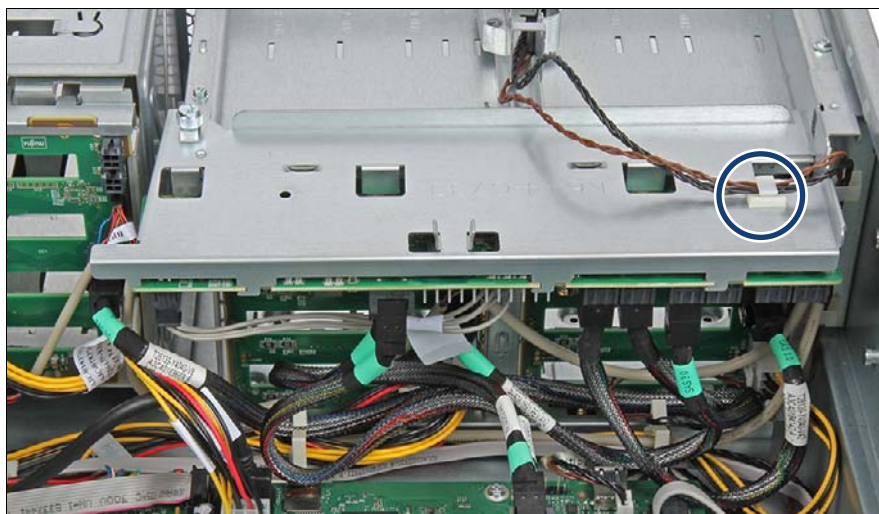


図 309: イントリュージョンスイッチケーブルのケーブルクランプからの取り外し

- ▶ 該当する場合は、イントリュージョンスイッチケーブルをエキスパンダボードのケーブルクランプから取り外します（丸で囲んだ部分）。

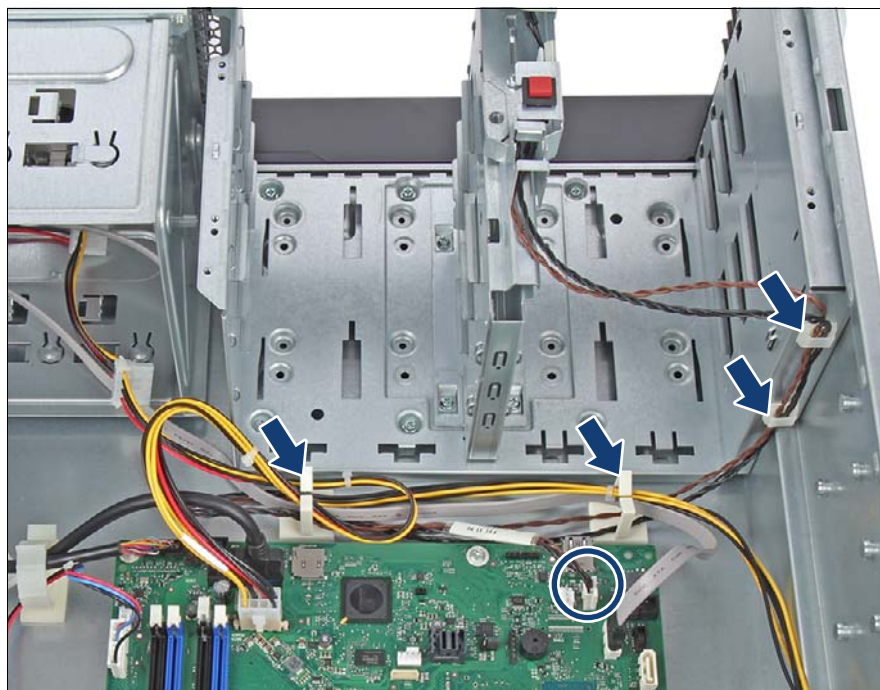


図 310: イントリュジョンスイッチケーブルの取り外し

- ▶ イントリュジョンスイッチケーブルをシステムボードから取り外します（丸で囲んだ部分）。
- ▶ 2つのケーブルガイドおよび2つのケーブルクランプから、イントリュジョンスイッチケーブルを取り外します（矢印を参照）。

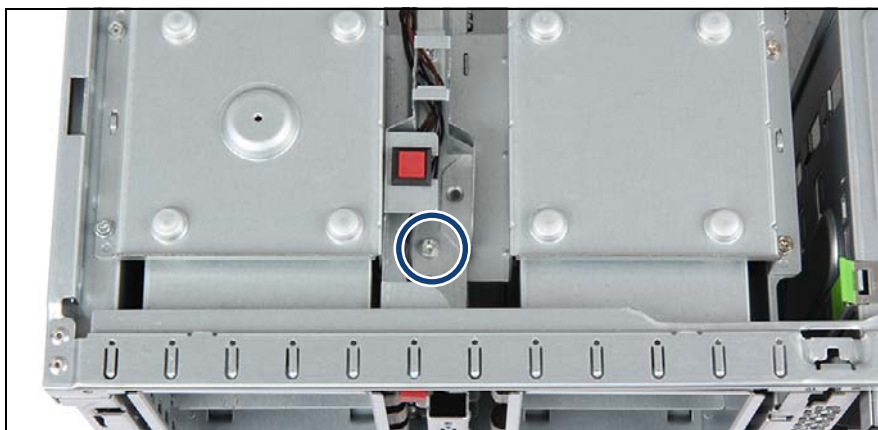


図 311: イントリュージョンスイッチホルダーの取り外し (A)

- ▶ 図のように、イントリュージョンスイッチホルダーから 1 本のネジを取り外します。



イントリュージョンスイッチケーブルの交換については、2.5 インチ HDD モデルの例で説明されています。3.5 インチ HDD モデルの場合、HDD ベイのトップカバーが少し異なりますが、手順は同じです。

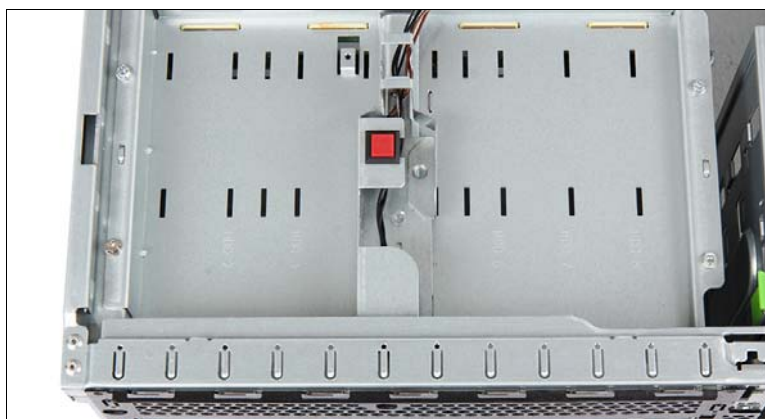


図 312: 3.5 インチ HDD 構成の HDD ベイトップカバー

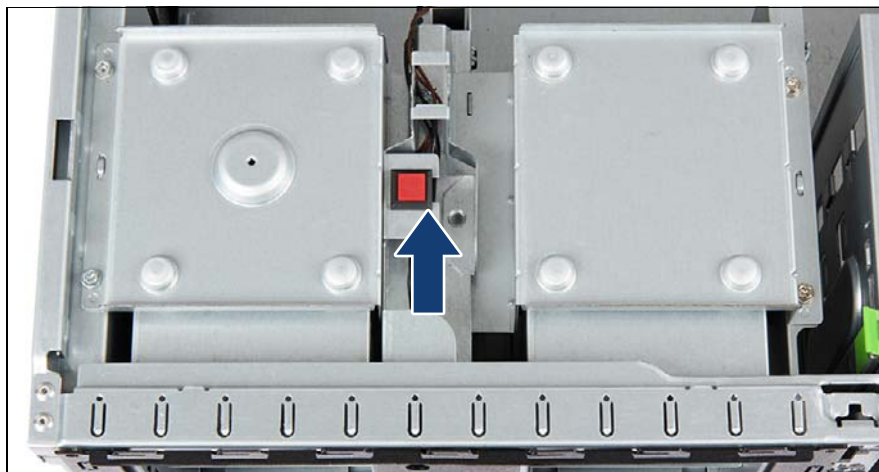


図 313: イントリュージョンスイッチケーブルの取り外し (B)

- ▶ イントリュージョンスイッチホルダーが HDD ベイのトップカバーから外れるまで、後ろにスライドさせます。
- ▶ 故障したイントリュージョンスイッチホルダーを取り外します。

16.3.3 イントリュージョンスイッチケーブルの取り外し



ゴム製のバンパーは、ラックサーバ構成の場合にのみ必要です。

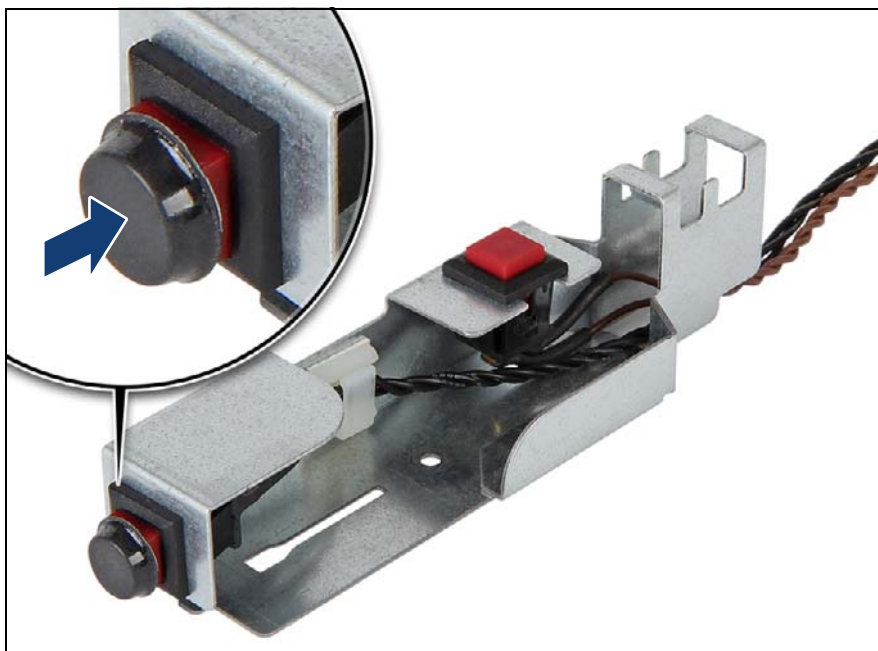


図 314: ゴム製のバンパーの前面イントリュージョンスイッチへの取り付け



ラックサーバ構成の場合、次の説明のように、ゴム製のバンパーを前面イントリュージョンスイッチへ取り付ける必要があります。タワーサーバを使用する場合は、この手順はスキップしてください。

- ▶ 図のように、ゴム製のバンパー（C26192-Y26-C43）を前面イントリュージョンスイッチへ取り付けます。

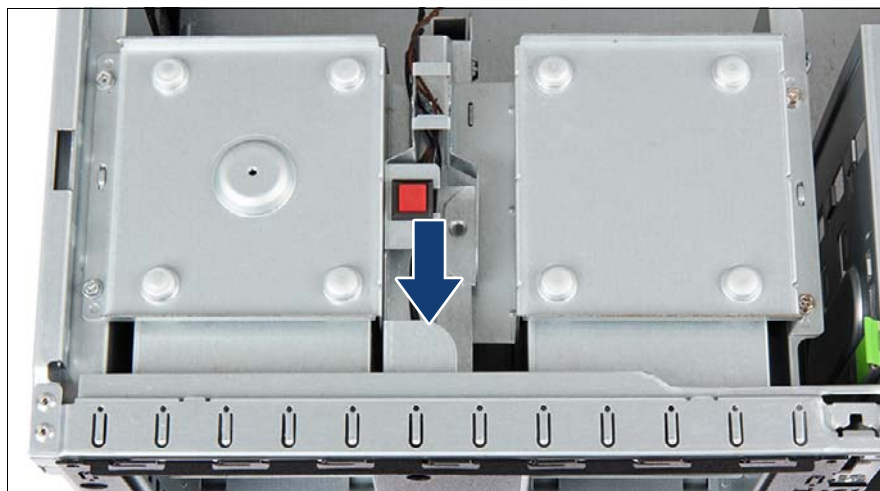


図 315: イントリュージョンスイッチケーブルの取り外し (A)

- ▶ 新しいイントリュージョンスイッチホルダーを HDD ベイのトップカバーへ置きます。
- ▶ イントリュージョンスイッチホルダーを、最後までシャーシ前面の縁の下にスライドさせます。

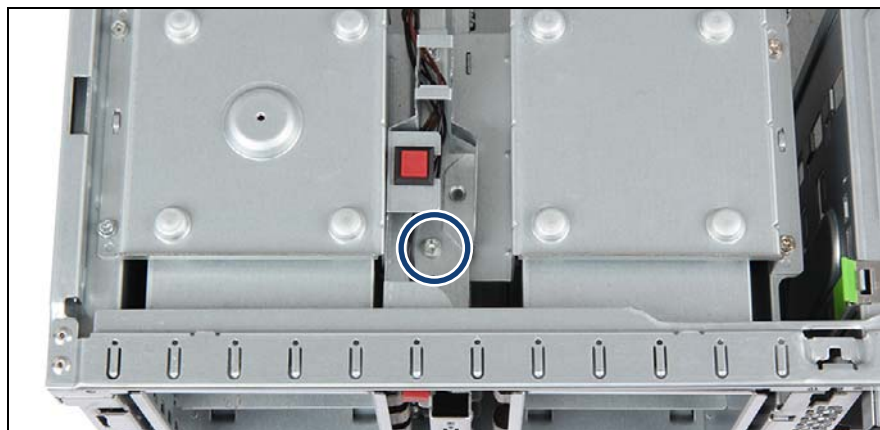


図 316: イントリュージョンスイッチケーブルの取り外し (B)

- ▶ ネジ 1 本で、イントリュージョンスイッチホルダーを HDD ベイのトップカバーに固定します。

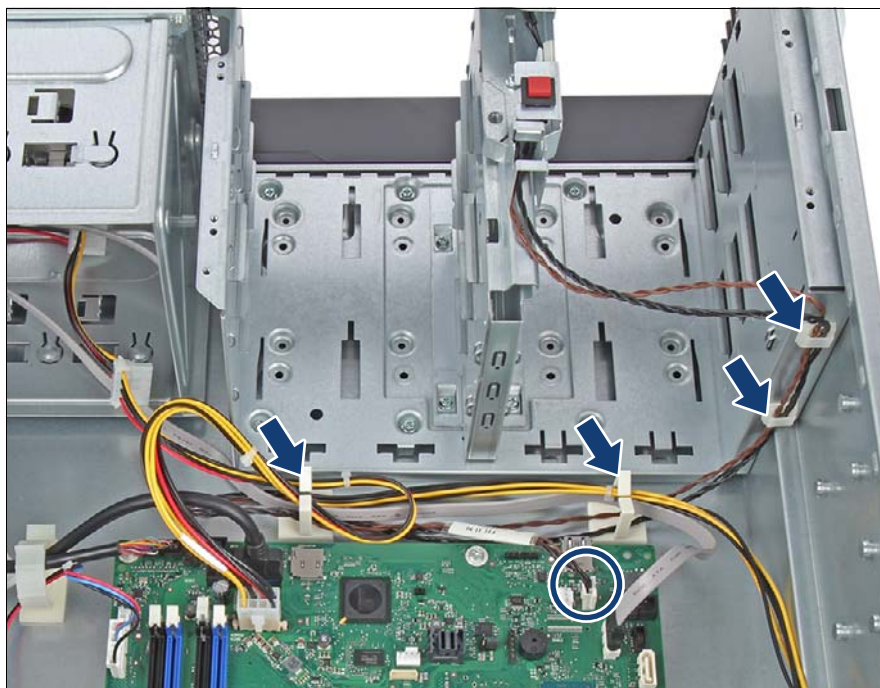


図 317: イントリュージョンスイッチケーブルの取り外し

- ▶ イントリュージョンスイッチケーブルをケーブルクランプおよびケーブルガイドに通します（矢印を参照）。
- ▶ イントリュージョンスイッチケーブルをシステムボードに接続します（丸で囲んだ部分）。

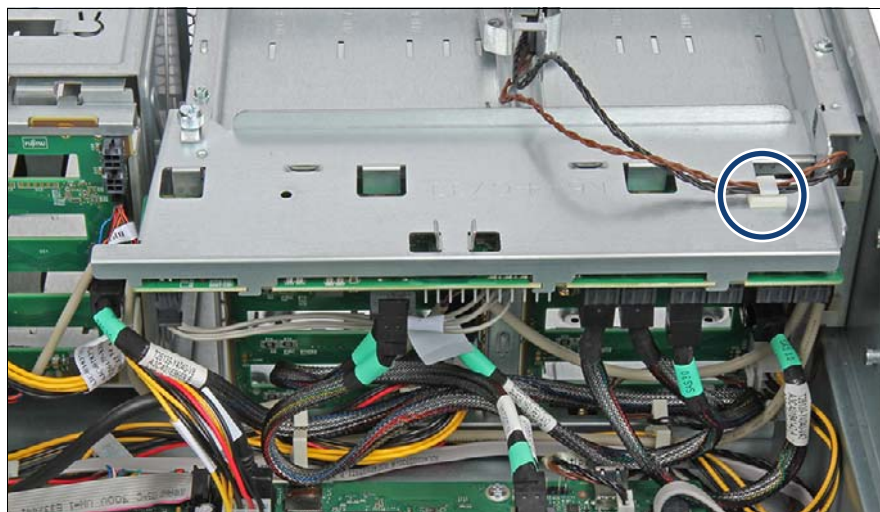


図 318: イントリュージョンスイッチケーブルのケーブルクランプからの取り外し

- ▶ 該当する場合は、イントリュージョンスイッチケーブルをエキスパンダボードのケーブルクランプに通します（丸で囲んだ部分）。

16.3.4 終了手順

- ▶ 69 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は
79 ページの「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 80 ページの「主電源へのサーバの接続」
- ▶ 82 ページの「サーバの電源投入」

17 付録

17.1 装置概観

17.1.1 サーバ前面

2.5 インチ HDD/SSD モデル

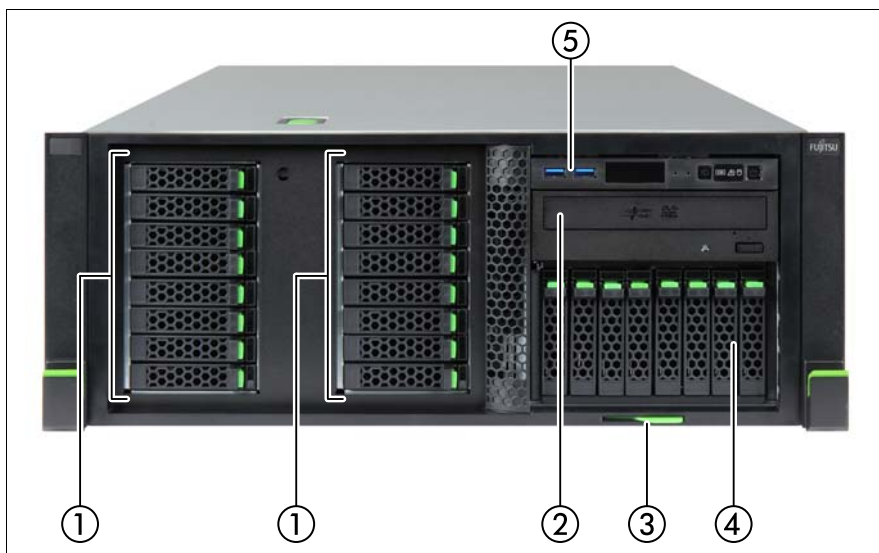


図 319: サーバ前面 2.5 インチ HDD/SSD モデル - RX2560 M1 の例

位置	コンポーネント
1	2.5 インチハードディスクドライブ /Solid State Drive/ ダミーモジュール
2	光ディスクドライブ / 5.25 インチダミーモジュール
3	ID カード
4	8x 2.5 インチ HDD 拡張ボックス /8x 2.5 インチ PCIe SSD 拡張ボックス
5	フロントパネルモジュール : 2 x USB 3.0 コネクタ

3.5 インチ HDD モデル

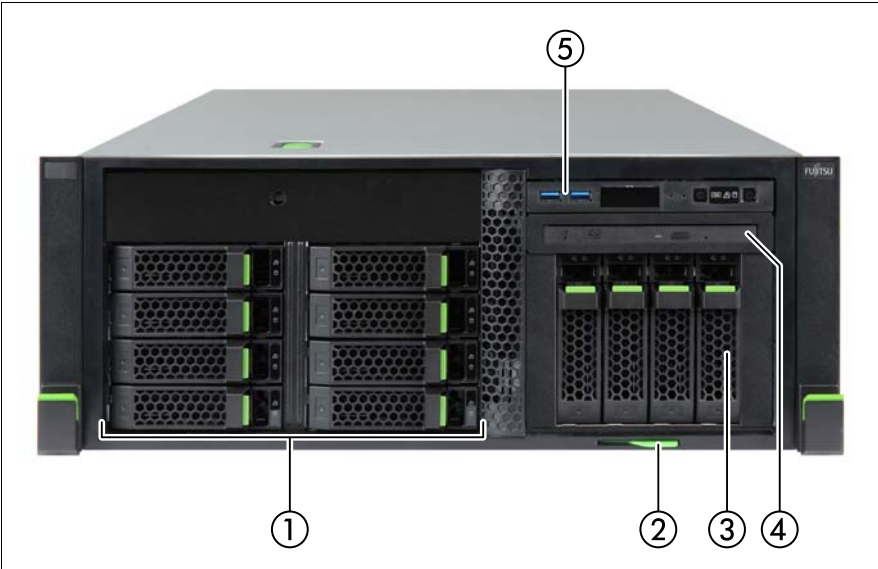


図 320: サーバ前面 3.5 インチ HDD モデル - RX2560 M1 の例

位置	コンポーネント
1	3.5 インチハードディスクドライブ / ダミーモジュール
2	ID カード
3	4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックス
4	光ディスクドライブ
5	フロントパネルモジュール : 2 x USB 3.0 コネクタ

17.1.2 サーバ背面

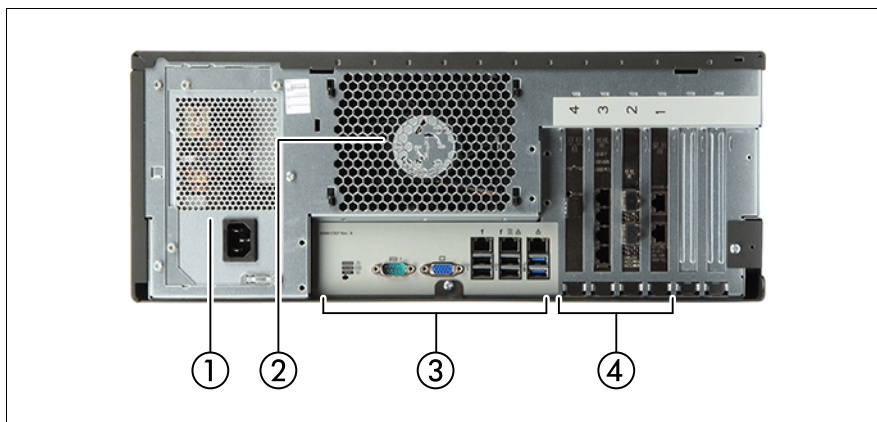


図 321: サーバ背面（例：標準電源）

1	電源ユニット	3	I/O パネル
2	システムファン	4	オプションの拡張カード

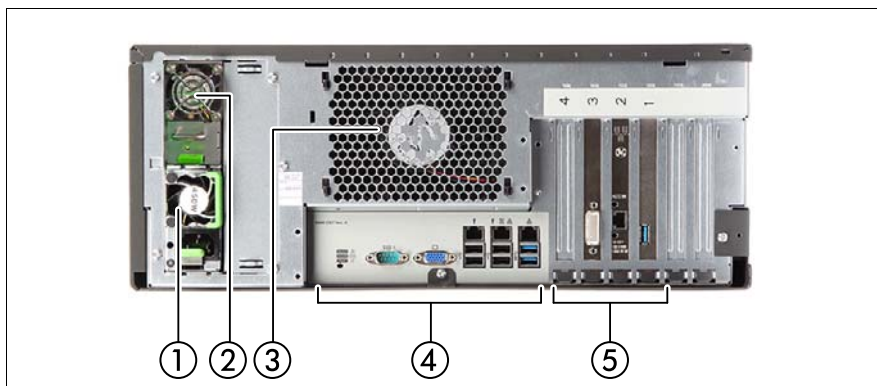


図 322: サーバ背面（例：冗長電源）

1	電源ユニット	4	I/O パネル
2	Fujitsu バッテリーユニット	5	オプションの拡張カード
3	システムファン		

17.1.3 サーバ内部

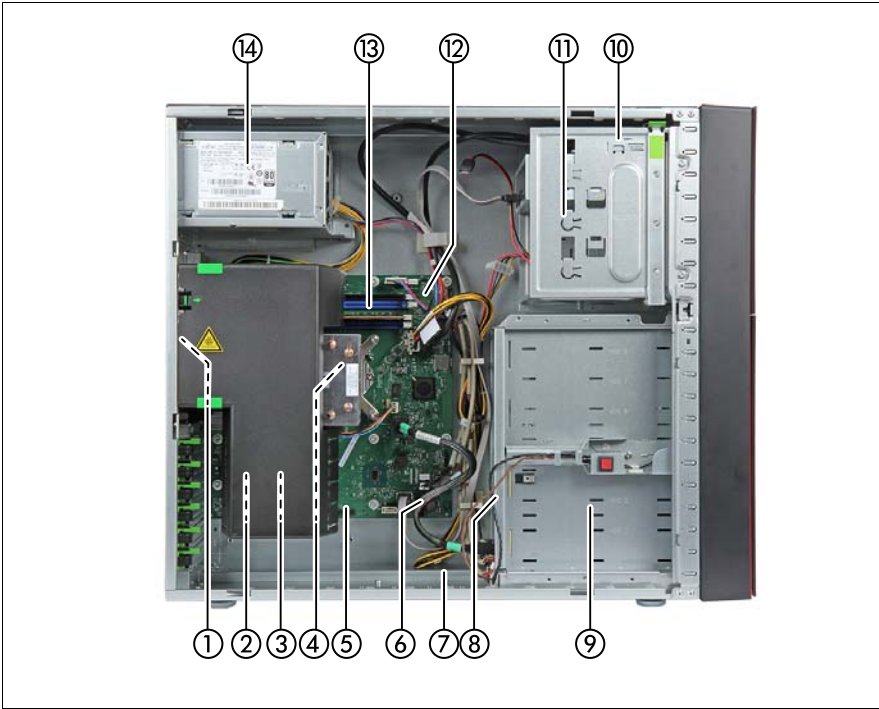


図 323: 内部（例：3.5 インチ HDD モデル、標準電源）

1	システムファン	8	SAS/SATA バックプレーン
2	拡張カードスロット	9	HDD/SSD ドライブベイ
3	CMOS バッテリー	10	フロントパネルモジュールベイ
4	プロセッサ/ヒートシンク	11	アクセス可能なドライブベイ
5	TPM	12	システムボード D3373
6	UFM	13	メモリモジュール
7	FBU	14	標準電源ユニット

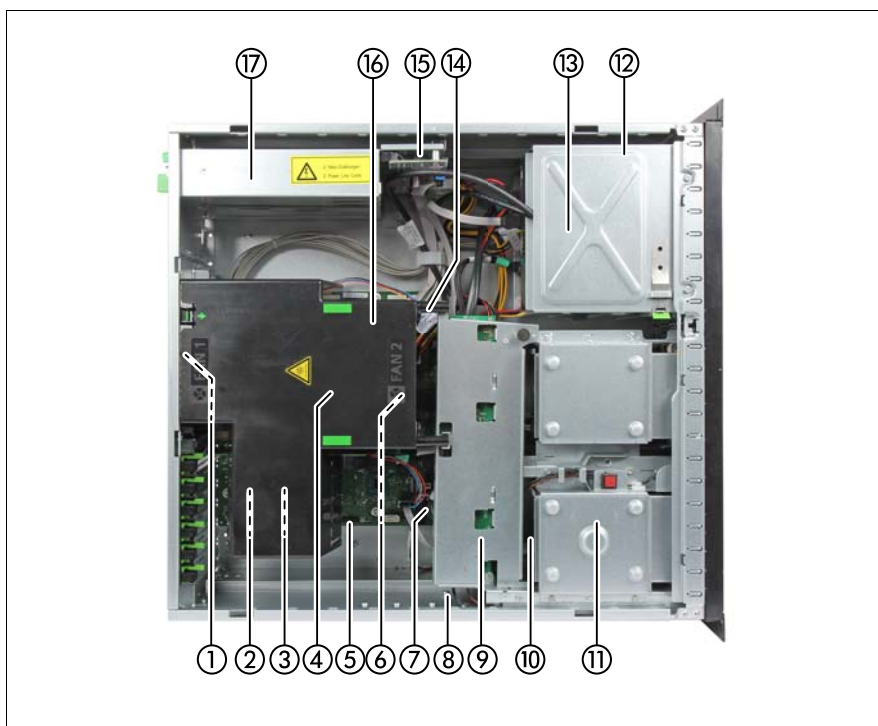


図 324: 内部（例：3.5 インチ HDD モデル、冗長電源）

1	システムファン 1	10	SAS/SATA バックプレーン
2	拡張カードスロット	11	HDD/SSD ドライブベイ
3	CMOS バッテリー	12	フロントパネルモジュールベイ
4	プロセッサ/ヒートシンク	13	アクセス可能なドライブベイ
5	TPM	14	システムボード D3373
6	システムファン 2	15	配電ボード
7	UFM	16	メモリモジュール
8	FBU	17	電源ユニット
9	エキスパンダボード		

17.2 コネクタと表示ランプ

17.2.1 システムボードのコネクタと表示ランプ

17.2.1.1 オンボードのコネクタ

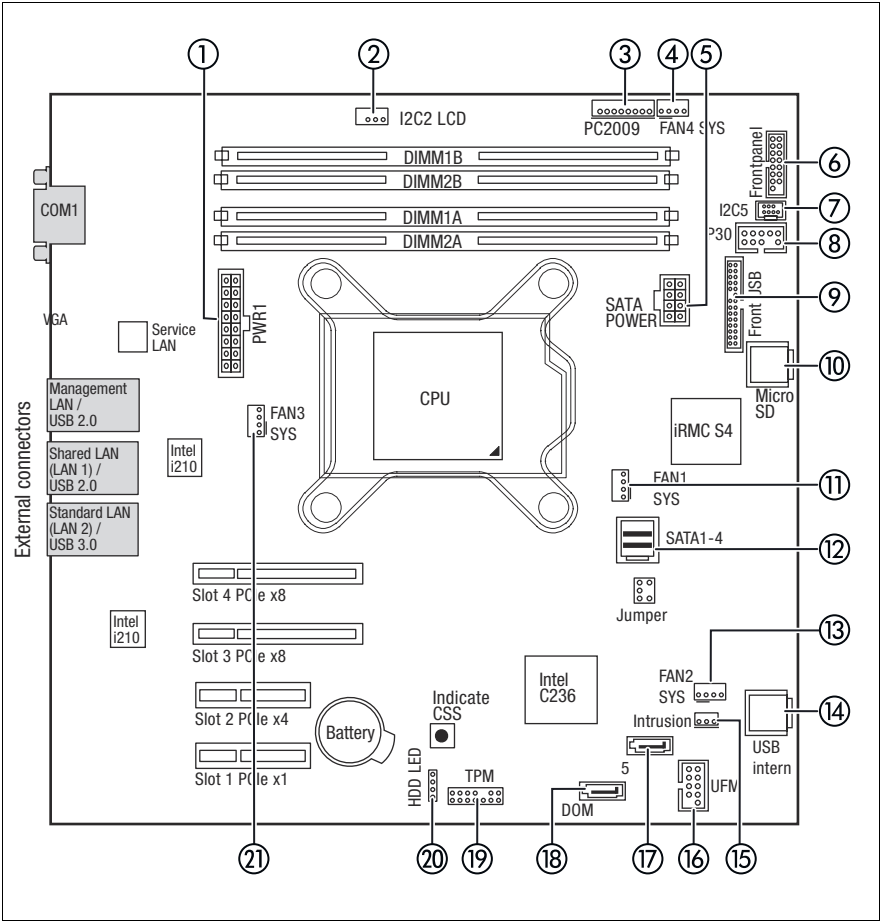


図 325: システムボード D3373 の内部コネクタ

番号	印字	説明
1	PWR1	ATX 電源ユニットコネクタ
2	I2C2 LCD	LSD のコネクタ
3	PC2009	電源管理コネクタ
4	FAN4 SYS	システムファン 1 用電源コネクタ（冗長ファン）
5	SATA POWER	SAS/SATA バックプレーンおよびアクセス可能なドライブの配電
6	FRONTPANEL	フロントパネルコネクタ
7	I2C5	HDD バックプレーン用 OOB（Out of Band）コネクタ
8	P30	電源コネクタ（冗長電源のみ）
9	FRONT USB	前面 USB コネクタ
10	Micro SD	iRMC microSD カード
11	FAN1 SYS	システムファン 1 用電源コネクタ（標準ファン）
12	SATA 1-4	SATA HDD コネクタ
13	FAN2 SYS	システムファン 2 用電源コネクタ（冗長ファン）
14	USB 内蔵	
15	Intrusion	イントリュージョンスイッチケーブルコネクタ
16	UFM	USB Flash Module（UFM）用コネクタ
17	5	
18	DOM	
19	TPM	Trusted Platform Module（TPM）用コネクタ
20	HDD LED	
21	FAN3 SYS	（未使用）

17.2.1.2 オンボード表示ランプおよびコントロール

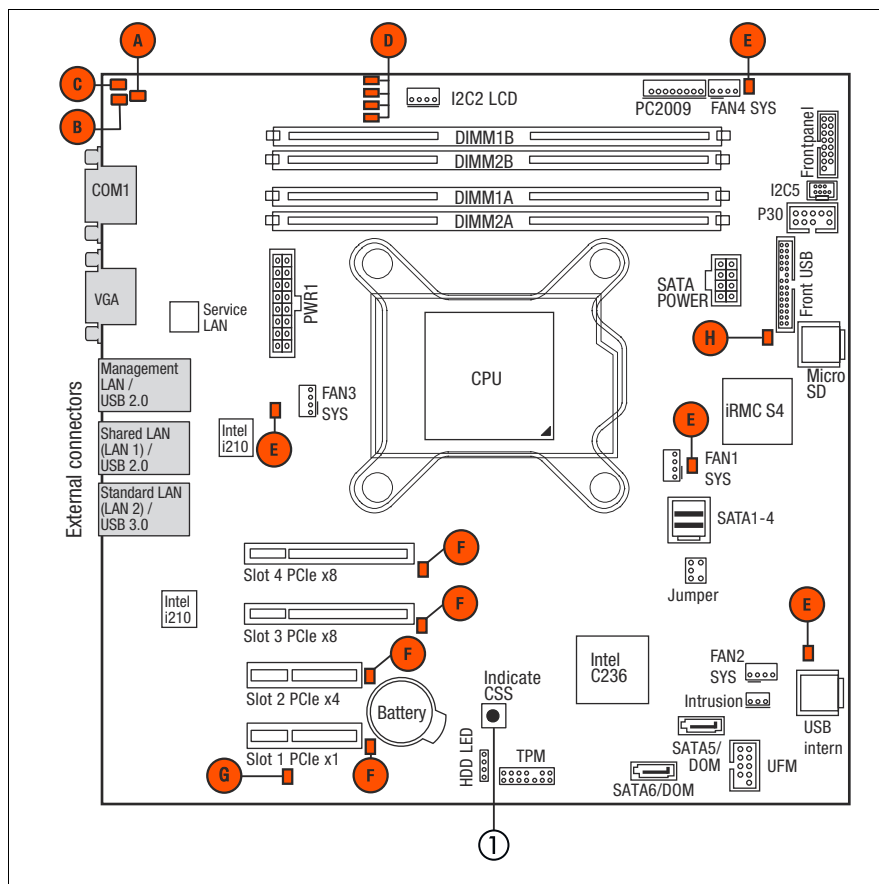


図 326: オンボード表示ランプと CSS ボタン

1	CSS 表示ボタン
---	-----------

コンポーネント LED



LED A、B、C はサーバ背面の外側から確認できます。その他の LED は、サーバのカバーを開けないと確認できません。メモリ LED (D) を使用するには、システムファンモジュールを取り外す必要があります (83 ページの「システムファンモジュールの取り扱い」の項を参照)。

表示ランプ		ステータス	説明
A	GEL (保守ランプ)	オフ	重大なイベントなし (CSS コンポーネント以外)
		オレンジ色の点灯	故障前に予兆を検出した (CSS コンポーネント以外)
		オレンジ色の点滅	CSS コンポーネント以外の故障 考えられる原因： <ul style="list-style-type: none"> – センサーの過熱 – センサーの故障 – CPU エラー – ソフトウェアのエラー
B	CSS (Customer Self Service)	オフ	重大なイベントなし (CSS コンポーネント)
		オレンジ色の点灯	故障前に予兆を検出した (CSS コンポーネント)
		オレンジ色の点滅	CSS コンポーネントの故障
C	Identification	青色の点灯	簡単に識別できるように、フロントパネルの ID ボタンを使用してサーバが強調表示される
		青色の点滅	iRMC (AVR) を使用してローカル VGA がオフの時、簡単に識別できるようにサーバが強調表示される
D	メモリ	オフ	メモリモジュールが動作可能
		オレンジ色の点灯	メモリモジュールの故障

表示ランプ		ステータス	説明
E	システムファン	オフ	ファンが動作中
		オレンジ色の点灯	ファンの故障
F	PCI カード	オフ	PCI カードが動作可能
		オレンジ色の点灯	PCI カード故障
G	AUX 電源	黄色の点灯	AUX 電圧が範囲内
H	iRMC	緑色の点滅	iRMC S4 マネジメントコントローラが動作可能

17.2.1.3 I/O パネルコネクタ

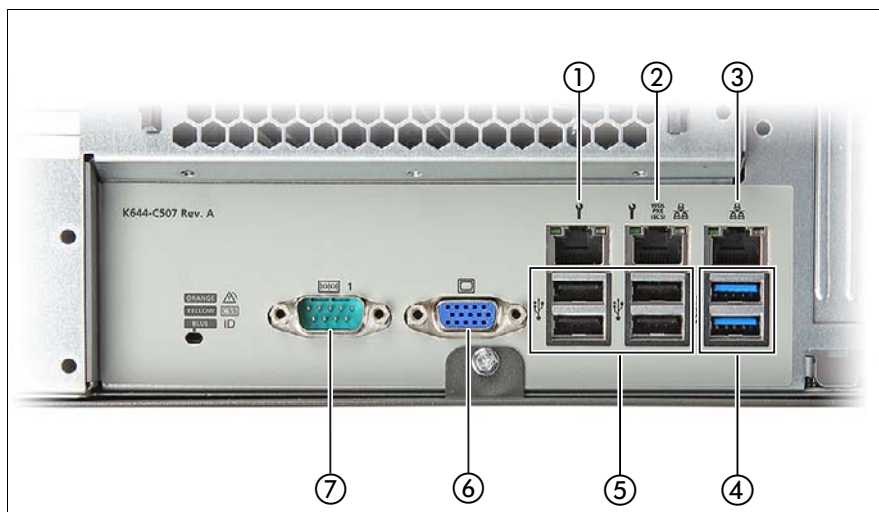


図 327: I/O パネルコネクタ

1	Management LAN コネクタ , iRMC S4 サーバ管理機能用
2	Shared LAN コネクタ (LAN1)
3	Standard LAN コネクタ (LAN2)
4	USB 3.0 コネクタ
5	USB 2.0 コネクタ
6	ビデオコネクタ (VGA)
7	シリアルコネクタ COM1

BIOS 設定によっては、Shared LAN コネクタも Management LAN コネクタとして使用されることがあります。詳細は、対応する BIOS セットアップユーティリティリファレンスマニュアルを参照してください。

シリアルコネクタ COM1 はデフォルトのインターフェースとして、または iRMC S4 との通信に使用できます。

17.2.1.4 I/O パネルの表示ランプ

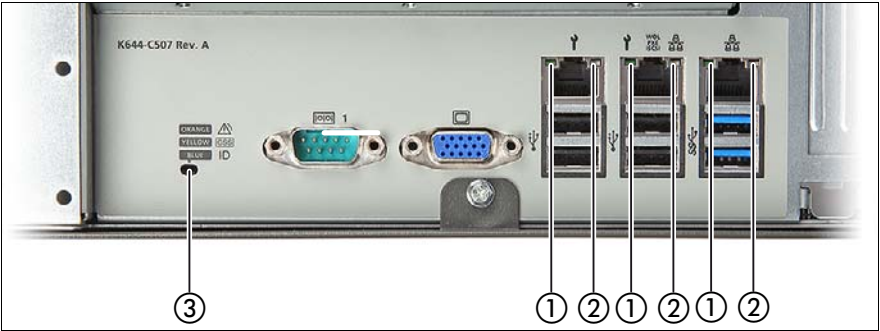


図 328: I/O パネルの表示ランプ

表示ランプ		ステータス	説明
1	LAN リンク / 転送	緑色の点灯	LAN 接続が確立している
		オフ	LAN 接続なし
		緑色の点滅	データ転送中
2	LAN 速度	黄色の点灯	転送速度 1 Gbit/s
		緑色の点灯	転送速度 100 Mbit/s
		オフ	転送速度 10 Mbit/s

表示ランプ		ステータス	説明
3	保守ランプ	オフ	重大なイベントなし（CSS コンポーネント以外）
		オレンジ色の点灯	故障前に予兆を検出した（CSS コンポーネント以外）
		オレンジ色の点滅	CSS コンポーネント以外の故障
	CSS 表示ランプ	オフ	重大なイベントなし（CSS コンポーネント）
		オレンジ色の点灯	故障前に予兆を検出した（CSS コンポーネント）
		オレンジ色の点滅	CSS コンポーネントの故障
	ID ランプ	青色の点灯	簡単に識別できるように、フロントパネルの ID ボタンを使用してサーバが強調表示される
		青色の点滅	iRMC（AVR）を使用してローカル VGA がオフの時、簡単に識別できるようにサーバが強調表示される

17.2.1.5 PSU 表示ランプ（ホットプラグ PSU のみ）

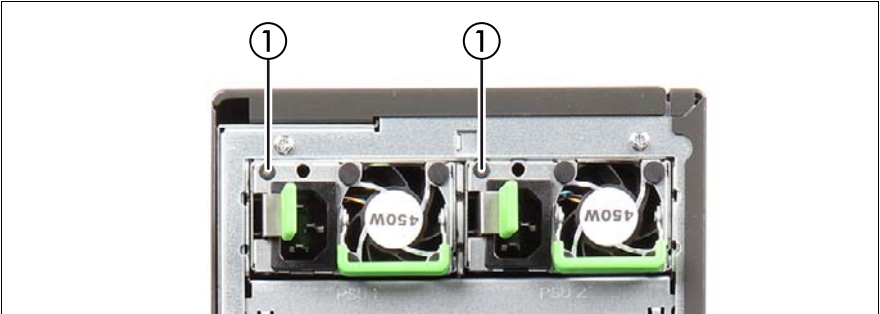


図 329: PSU 表示ランプ

表示ランプ		ステータス	説明
1	PSU の動作 状況	緑色の点灯	サーバの電源が入り、正常に動作している
		緑色の点滅	サーバの電源は切れているが、主電源電圧は存在する（スタンバイモード）
		オレンジ色の点灯	PSU 異常（過電圧または不足電圧、過熱、ファンの異常）
		オレンジ色の点滅	過負荷警告

17.2.1.6 FJBU 表示ランプ (FJBU M2)

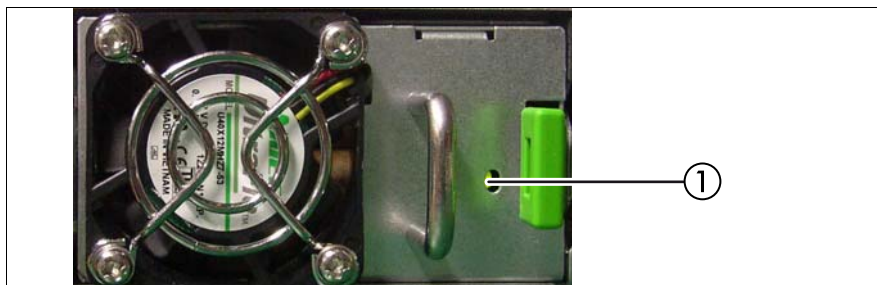


図 330: FJBU 表示ランプ

表示ランプ		ステータス	説明
1	FJBU ステータス	緑色の点滅	バッテリーユニットが充電中
		緑色のゆっくり点滅	バッテリーユニットが放電中
		緑色の点灯	バッテリーユニットが完全充電
		オレンジ色の点滅	容量または温度アラーム
		オレンジ色の点灯	一般的なバッテリー異常

17.2.2 フロントパネルのコネクタと表示ランプ

17.2.2.1 フロントパネルのコントロールと表示ランプ

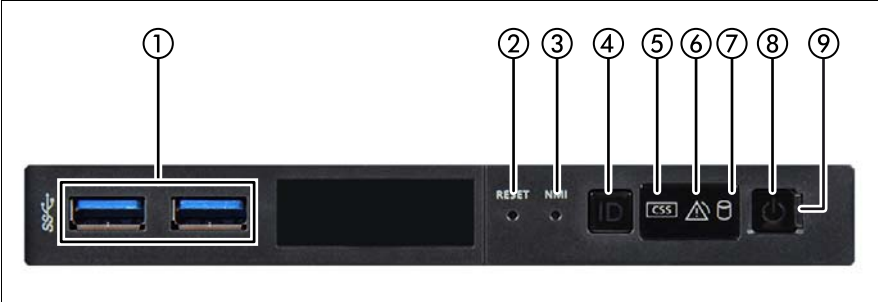



図 331: フロントパネルのコントロールと表示ランプ

1	2x USB 3.0	6	保守ランプ
2	リセットボタン	7	HDD アクセス表示ランプ
3	NMI ボタン	8	電源ボタン / 電源表示ランプ
4	ID ボタン / ID ランプ	9	電源表示ランプ (AC 接続)
5	CSS 表示ランプ		

コントロールパネルの表示ランプ

位置	表示ランプ	ステータス	説明
4	ID ランプ	青色の点灯	簡単に識別できるように、ServerView Operations Manager、iRMC Web フロントエンドまたはフロントパネルの ID ボタンを使用してサーバが強調表示される
		青色の点滅	iRMC (AVR) を使用してローカル VGA がオフの時、簡単に識別できるようにサーバが強調表示される

位置	表示ランプ	ステータス	説明
5	CSS 表示ランプ	オフ	重大なイベントなし (CSS コンポーネント)
		オレンジ色の点灯	故障前に予兆を検出した (CSS コンポーネント)
		オレンジ色の点滅	CSS コンポーネントの故障
6	保守ランプ	オフ	重大なイベントなし (CSS コンポーネント以外)
		オレンジ色の点灯	故障前に予兆を検出した (CSS コンポーネント以外)
		オレンジ色の点滅	CSS コンポーネント以外の故障
7	HDD/SSD アクセス表示ランプ	緑色の点滅	データアクセス中
8	電源表示ランプ	オフ	以下の場合はオフ : – システムの電源がオフで、電源に接続されている (AC 接続)
		緑色の点灯	以下の場合はオン : – システムの電源が投入されていてパワーオンディレーになっている – システムの電源が投入され、通常動作中 (S0)
		ゆっくり点滅 (1/2 Hz)	iRMC S4 の準備が完了していない

位置	表示ランプ	ステータス	説明
9	電源表示ランプ (AC 接続)	緑色の点灯	以下の場合はオン： <ul style="list-style-type: none">システムの電源がオフで、電源に接続されている (AC 接続)システムの電源が投入されていてパワーオンディレーになっている <div> サーバを主電源に接続した後、サーバがスタンバイモードになるまで約 60 秒かかります。</div>
		オフ	以下の場合はオフ： <ul style="list-style-type: none">システムが電源に接続されていないシステムの電源が投入され、通常動作中 (S0)

iRMC 関連のステータス信号

ID ランプ	保守ランプ	説明
青色の点滅	オフ	リモート接続が確立されました。リモートセッション中にローカル VGA 出力が無効にされています。
青色の点滅	オレンジ色の点滅	iRMC ファームウェアの緊急フラッシュが進行中です。




107 ページの「iRMC のアップデートまたはリカバリ」の章を参照してください。

17.2.3 アクセス可能なドライブの表示ランプ / コンポーネント

光ディスクドライブアクセス表示ランプ

ストレージメディアへのアクセス時に、緑色に点灯します。



システム構成によっては、アクセス表示ランプを設置できないことがあります。

ホットプラグ HDD/SSD モジュールの表示ランプ

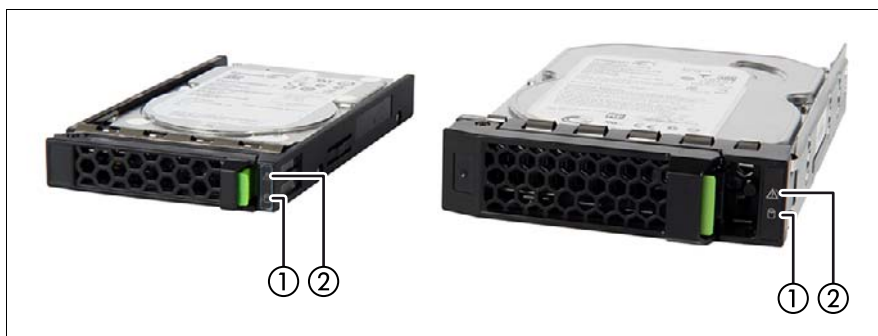


図 332: ホットプラグ HDD/SSD モジュールの表示ランプ

位置	表示ランプ	ステータス	説明
1	HDD/SSD BUSY	オフ	HDD/SSD が非アクティブ
		緑色の点灯	点灯 : HDD / SSD がアクティブ (ドライブがアクティブ、ドライブにアクセス中)
2	HDD/SSD FAULT	オフ	HDD/SSD エラーなし
		オレンジ色の点灯	HDD/SSD 故障またはリビルドの停止 (ドライブ不良のため交換が必要、リビルドプロセスが停止した、または HDD/SSD モジュールが正しく取り付けられていない)
		オレンジ色のゆっくり点滅	HDD / SSD リビルド (ドライブ変更後にデータをリストア中)

17.3 ジャンパ設定

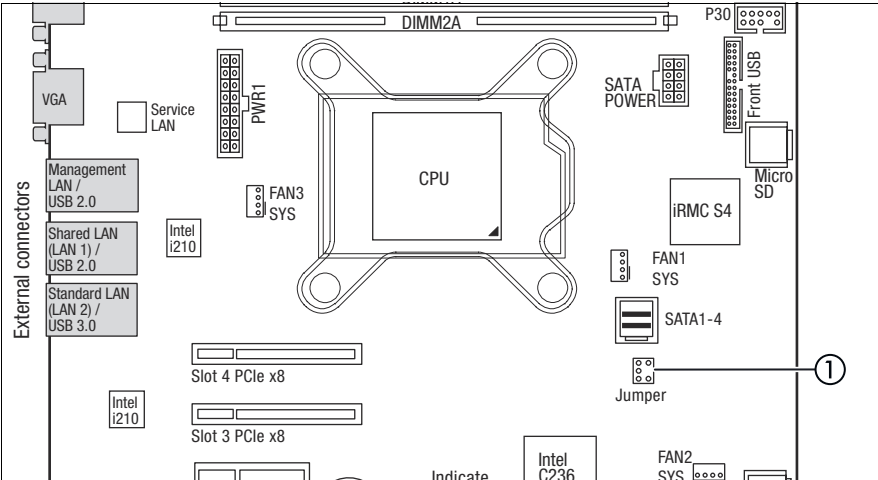





図 333: システムボード D3373 のオンボード設定

設定	ステータス	説明
1	ジャンパ設定	 デフォルト: パスワードの省略とリカバリ BIOS が無効
		 RCVR : リカバリ BIOS が無効
		 PWD-CLR : PWD-CLR : パスワードの削除が有効

17.4 最小起動構成



フィールド交換可能ユニット（FRU）

サーバが起動しなかったり、その他の問題が発生する場合は、故障しているコンポーネントを切り離すために、システムを最も基本的な構成にする必要があります。

最小起動構成は、次のコンポーネントとケーブルから構成されます。

コンポーネント	注記
システムボード	TPM/UFM/ 拡張カードが取り付けられていない
CPU ヒートシンク付き CPU	
メモリモジュール x1	DIMM スロット 1A に取り付けられている
フロントパネルモジュール	
電源ユニット	

表 7: 最小起動構成 - コンポーネント

ケーブル	注記
フロントパネルケーブル	システムボードに接続されています
電源ケーブル	

表 8: 最小起動構成 - ケーブル

- ▶ [54 ページ](#) の「サーバのシャットダウン」
- ▶ [55 ページ](#) の「主電源からサーバの取り外し」
- ▶ システムを最小起動構成にします。
- ▶ [80 ページ](#) の「主電源へのサーバの接続」
- ▶ キーボード、マウス、ディスプレイをサーバに接続します。
- ▶ [82 ページ](#) の「サーバの電源投入」



注意！

ファンモジュールが最小起動構成に含まれていないため、診断プロセスの完了後、直ちにサーバをシャットダウンする必要があります (POST フェーズは通過済み)。

最小起動構成は、保守担当者が診断目的のみに使用するものであり、日々の運用では使用しないでください。